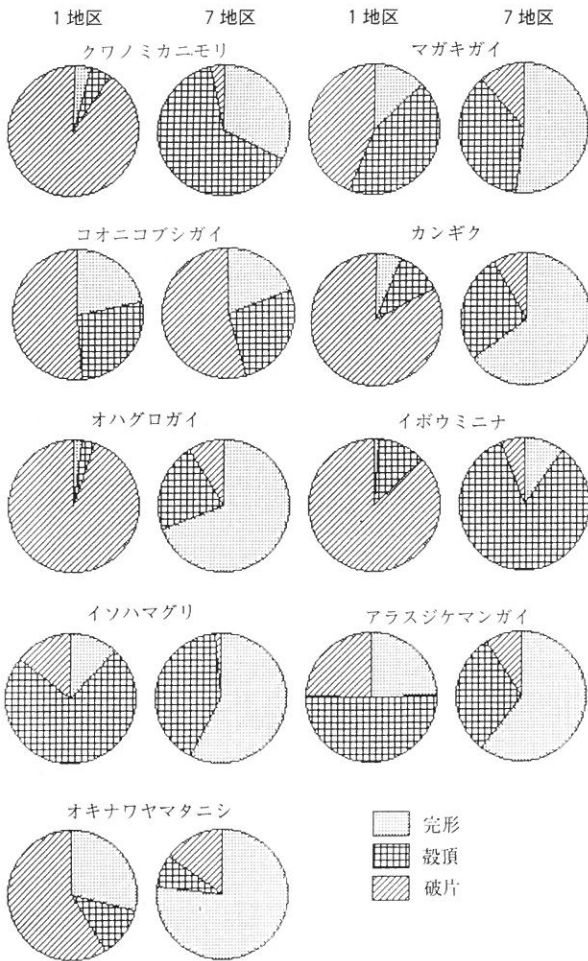


第45表 a 貝類出土状況 (巻貝)

Table with columns for 巻貝名 (Shell Name), 層 (Layer), 出土地 (Excavation Site), 数量 (Quantity), and 体数 (Number of Individuals). Rows include various shell species like 扇貝科 (Pectinidae), 簞形扇貝科 (Spondyliidae), and 双壳貝科 (Bivalvia).

注：シロコトコナリとオオコナリは同種の為オオコナリと統一
* ハナムシロとオオコナリは同種の為オオコナリと統一



第87図 主な貝の破損率（1地区と7地区）

貝製品の素材	貝製品
ヒメゴホウラ	1
ゴホウラ	20
イモガイ(アンボンクロザメ)	20
サラサバテイラ	1
マガキガイ	14
マクラガイ	1
ホラガイ	10
ヤコウガイ	5
ヤツシロガイ	1
ラクダガイ	1
タカラガイ(ホシダカラ)	1
オオツタノハ	15
オオベッコウガサガイ	2
シレナシジミ	10
クロチョウガイ	31
チョウセンハマグリ	34
ミドリアオリガイ	13
ケイトウガイ	1
シラナミ	105
ソメワケグリ	2
ヒメジャコ	279
ヒレジャコ	8
メンガイ	123
リュウキュウサルボウ	324
リュウキュウザルガイ	1
リュウキュウバカガイ	20
リュウキュウマスオガイ	5

第44表 貝製品に使用された貝

7地区Ⅳ層にくらべて破片がかなり多く、発掘中も脆いものが多かったとのことである。結果的に集計表(第44表)のなかでも破片の方が完形より多くなっている。これは地区別は今後の課題である。

小 結

本遺跡の棲息地の特徴をイソハマグリのようなⅠ-Ⅰ-cのような外洋に棲む貝とアラスジケマンガイのようにⅢ-Ⅰ-cのように内湾的な貝の両方採集されている。なお、いずれも山口氏の報文^(註5)によって食用として採集されたと報告されている。

また、貝の大きさをみると7地区Ⅳ層→1地区Ⅱc層→勝連城跡→現代と貝が徐々に小さい。本遺跡のところに棲息していたチョウセンハマグリは^(註2)現在は採集出来ない。これらのことから時代が下るに従って、貝の小型化や乱獲による消滅化が想定される。^(註6)

また、アマモ上に棲息する貝が出土することから動物遺存体で多量に出土しているジュゴンの棲息する場所が近くにあることを裏づける資料ある。

以上の状況から本遺跡では内湾で棲息する貝、外洋・サンゴで棲息する貝が混在して出土する。これにより、遺跡の前縁の海岸のみならず、泡瀬湾一帯で採集活動を行っていたと想定することができる。

本遺跡で出土している貝製品の貝種別に第44表に示した。これによると二枚貝有孔製品のリュウキュウサルボウ、ヒメジャコ、メンガイ類が多い。

オオツタノハ、ゴホウラ、イモガイ類等、自然貝より製品の方が量的に多いことから意図的に貝製品の材料として採集したのと考えられる。

註

註1. 久保弘文・黒住耐二「生態/検索図鑑 沖縄の海の貝・陸の貝」1995年 沖縄出版

註2. 久保弘文氏のご教示による。

註3. 山口正士「サンゴ礁の磯根資源生物(4)シャコガイ類(つづき)『海洋と生物 55』(Vol. 10-No.2) 1988年

註4. 山口正士「サンゴ礁の貝類資源(3)マガキガイ『海洋と生物 91』(Vol.16-No.2) 1994年

註5. 山口正士「サンゴ礁の貝類資源(1)二枚貝類『海洋と生物 72』(Vol.13-No.1) 1991年

註6. 久保氏の御教示によるとジュゴンはアマモを餌とする。

第27節 動物遺体（軟体動物を除く）

金子 浩 昌

1. 序 言

今回調査された平敷屋トウバル遺跡は沖縄新石器後期に属する遺跡であるが、その規模や遺物の内容において、この時期を代表する遺跡であることが判明した。動物遺体においても出土した資料はかつてない程の数量になるものであって、また見るべき標本も少なくなかった。それらはすべて分類整理されて詳細な出土量表にまとめられている。また、そうした遺物の調査地点における出土状況も注意されるが、この点についても出土量表において判明するように表示した。記載本文は種々の制約のために紙数が限られたが、挿図、計測表などを参照されたい。いずれ別稿でまたふれることがあろう。

なお、出土量表において示されている I ~ V の層位は、それぞれ本遺跡における V 層（後期の最古期）、IV 層、II c 層、II 層、攪乱の各期に一致する。

第46表 節足・脊椎動物遺存体種名一覧

A. 節足動物門

I. 甲殻綱

軟甲亜綱

1. 十脚目

2. 短尾亜目

科・属不明

B. 棘皮動物門

I. ウニ綱

1. エキヌス目

a. ナガウニ科

属・種不明

C. 脊椎動物門

I. 軟骨魚綱

1. サメ目

科・属不明

2. エイ目

a. トビエイ科

属・種不明

b. 科・属不明

II. 硬骨魚綱

1. ウナギ目

a. ウツボ科

属・種不明

2. ボラ目

a. カマス科

A. Phylum ARTHROPODA

I. Class Crustacea

Subclass Malacostracea

1. Order Decapoda

2. Suborder Brachyura

Fam. et gen. indet.

B. Phylum ECHINODERMATA

I. Class Echinoidea

1. Order Echinoidea

a. Family Echinometridae

Gen. et sp. indet.

C. Phylum VERTEBRATE

I. Class Chondrichthyes

1. Order Lamniformes

Fam. et gen. indet.

2. Order Rajiformes

a. Family Myliobatidae

Gen. et sp. indet.

b. Fam. et gen. indet.

II. Class Osteichthyes

1. Order Anguilliformes

a. Family Muraenidae

Gen. et sp. indet.

2. Order Mugiliformes

a. Family Sphyraenidae

- カマス属の一種
3. ダツ目
 - a. ダツ科
属・種不明
 4. スズキ目
 - a. スズキ科
属・種不明 (ハタ類)
 - b. イシダイ科
イシダイ属の一種
 - c. フェダイ科
属・種不明
 - d. タイ科
クロダイ属の一種
ヘダイ
 - e. フェフキダイ科
ハマフェフキ
ヨコシマクロダイ
 - f. ベラ科
コブダイ
タキベラ
属・種不明
 - g. ブダイ科
ナガブダイ
イロブダイ
ナンヨウブダイ
属・種不明
 - h. ニザダイ科
属・種不明
 5. フグ目
 - a. モンガラカワハギ科
属・種不明
 - b. フグ科
属・種不明
 - c. ハリセンボン科
属・種不明
 6. カサゴ目
 - a. コチ科
コチ
- Ⅲ. 爬虫綱
1. カメ目

- Sphyræna sp.
3. Order Beloniformes
 - a. Family Bolonidae
Gen.et sp.indet.
 4. Order Perciformes
 - a. Family Serranidae
Gen.et sp.indet.
 - b. Family Oplegnathidae
Oplegnathus sp
 - c. Family Lutjanidae
Gen.et sp.indet.
 - d. Family Sparidae
Acahtlhpagrus sp.
Sparus sarb
 - e. Family Lethrinidae
Lethrinus nebulosus
monotaxis grandculis
 - f. Family Labrdae
Semicossyphus reticulatus
Bodianus perditio
Gen.et sp.indet.
 - g. Family Scaridae
Scarops rubrouiolaceus
Bolbometopom bicolor
Scarus gibbus
Gen.et sp.indet.
 - h. Family Acanthuridae
Gen.et sp.indet.
 5. Order Tetraodontiformes
 - a. Family Balistidae
Gen.et sp.indet.
 - b. Family Tetraodontidae
Gen.et sp.indet.
 - c. Family Diodontiae
Gen.et sp.indet.
 6. Order Scorpaeniformes
 - a. Family Platycephalidae
Platycephalus iudicus
- Ⅲ. Class Reptilia
1. Order Chelania

- a. リクガメ科
リュウキュウヤマガメ
- b. ウミガメ科
アオウミガメ
アカウミガメ
- 2. 有鱗目 (ヘビ亜目)
科・属不明
- IV. 鳥綱
- 1. ミズナギドリ目
 - a. アホウドリ科
アホウドリ属
 - b. ミズナギドリ科
ミズナギドリ属
- 2. ワシ・タカ目
 - a. ワシ・タカ科
属・種不明
- 3. フクロウ目
 - a. フクロウ科
オオコノハズク
- V. 哺乳綱
- 1. 翼手目
 - a. オオコウモリ科
オオコウモリ
- 2. 霊長目
 - a. ヒト科
ヒト
- 3. 齧歯目
 - a. ネズミ科
ケナガネズミ
クマネズミ属の一種
- 4. クジラ目
 - 科・属不明
 - a. イルカ科
バンドウイルカ
属・種不明
- 5. 食肉目
 - a. イヌ科
イヌ
 - b. ネコ科
ネコ

- a. Family Testudinidae
Geoemyda spengleri japonica
- b. Family Cheloniidae
Chelonia mydas
Caretta caretta gigas
- 2. Order Ophidia
Fam.et gen.indet
- IV. Class Aves
- 1. Order Procellariiformes
 - a. Family Diomedidae
Diomedea sp.
 - b. Family Procellariidae
Puffinus sp.
- 2. Order Falconiformes
 - a. Family Accipitridae
Gen.et sp.indet.
- 3. Order Strigiformes
 - a. Family Strigidae
Otus bakkamoena
- V. Class Mammalia
- 1. Order Chiroptera
 - a. Family Pteropodidae
Pteropus dasymallus
- 2. Order Primates
 - a. Family Hominidae
Homo sapiens
- 3. Order Rodentia
 - a. Family Muridae
Diplothrix legatus
Rattus sp.
- 4. Order Cetacea
Fam.et gen.indet.
 - a. Family Delphinidae
Tursiops gilli
Gen.et sp.indet.
- 5. Order Canirora
 - a. Family Canidae
Canis familiaris
 - b. Family Felidae
Felis catus

6. 海牛目
a. ジュゴン科
ジュゴン

7. 偶蹄目
a. イノシシ科
リュウキュウイノシシ
b. ウシ科
ヤギ

6. Order Sirennia
a. Family Dugongidae
Dugong dugong
7. Order Artiodactyla

2. 動物遺体についての概要

A. 節足動物門 Phylum ARTHROPODA

検出された遺骸は少なく、はさみ脚を主とする小さな標本があったのみである。

B. 棘皮動物門 Phylum ECHINODERMATA

殻と棘片が7地区で多量の棘片が出土しているが、ほとんどIV層に集中していた。

C. 脊椎動物門 Phylum VERTEBRATA

I. 軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

サメ目 科・属不明

6、7地区IV層で少数の椎骨が出土しているが、椎体径10mm未満の小型のものである。

エイ目 科・属不明

サメ類と同じ地点でトビエイ類の歯板、椎骨が出土しているが数ははるかにすくない。

II. 硬骨魚綱 Class Osteichthyes

ウツボ科 属・種不明

大型の鋤骨、歯骨が出土しているが、1地区II層での出土が主であるらしい。

カマス属の一種

1地区でのI、II層という上層でのわずかな標本がみられたのみである。

ダツ属の一種

4地区、IV層での前上顎骨、歯骨の出土があった。

スズキ科 属・種不明

ハタ類を含む魚種であるが、量的には多くない。前上顎骨の形態には、A型：咬面は平で、針孔状に開く歯槽が近心に多数並び遠心に向かい急激に減少する。歯骨は近心で狭く括れて広がり、骨体部に平行する狭い溝が延びる。咬面は近心から遠心にかけて平行する針孔型B：咬面の歯列は一系列の大型歯と数列の針孔型の歯。骨体近心近くに夾むように深い括れをもつ。

イシダイ属の一種

5、6地区でまとまった出土をみる。一般に出土例は多くないが、本遺跡では大型の遺体が注目される。前上顎骨、歯骨のエナメル質部の長さ29.0~35.0mm

フエダイ科 属・種不明

種名を特定できる標本はなかった。しかし数種以上が含まれると思われる。前上顎骨、歯骨などの形態に目立った違いのみられる標本をA~Eに分類して表記しておいた。これらの分類学的な意義は今後の課

題である。

マダイ

前頭骨が出土している。1地区Ⅱ層、4地区Ⅳ層からの出土である。沖縄沿海での本種の出土は珍しい。前頭骨の形態はマダイ *Pagrus major* に似る。標本の現長40.0mmである。本種については前上顎骨、歯骨などを検出できなかった。

ヘダイ

タイ科の中ではやや多く出土した。本種は西日本の本州、九州本島の太平洋沿岸域貝塚に多い。しかし、筆者はこの種類が沖縄本島地方の貝塚でも少なからず検出される例のあることを確認している。本遺跡もまたそうした例の一つである。ここでの標本は前上顎骨長30.0mm前後で、この種としてはやや小さい。

クロダイ属の一種

ミナミクロダイといわれる種類かと思われる。クロダイ類の出土はタイ科の中でももっとも多く、全体の魚種の中ではハマフエフキダイ、ベラ類、ブダイ類には及ばないとしてもやや目立つ種類である。前上顎骨長30.0mm前後の標本が多い。

ハマフエフキ

本種はベラ、ブダイ類に次いで多く出土した種類である。6地区のⅡ層、6・7地区のⅣ、Ⅴ層で集中的に出土している。特に7地区の最下層であるⅤ層に多い。前上顎骨長20.0~45.0mmという大小の個体が漁獲されているが、30.0mmよりも大型の標本が多い。

ヨコシマクロダイ

本遺跡での出土は少ない。最大の標本で前上顎骨長55.0mmである。

ベラ科

a. コブダイ

出土地点、層位とも他の主体種と大きく変わらない状況で出土している。個体数も多い。本種がこれ程多くの出土している例は沖縄の各時期の遺跡を通じてはじめ知られることであろう。大小の個体が漁獲されているが、大型の顎骨、咽頭骨をみることが多い。前上顎骨長で25.0mmから最大40.0mm以上になる標本があるが、20.0~30.0mm前後が多い。下咽頭骨幅では60.0mm位になる標本が大型であるが、普通にみられたのは50.0mm前後である。

b. その他のベラ類

咽頭骨から数種のベラ類が知られている。タキベラがもっとも多く、その他の種類は少なく、また小さい。タキベラの下咽頭骨の幅は43.0mmで、コブダイに次いで大きい。

ブダイ科

a. ナガブダイ

もっとも多くの標本が出土している。上記のナンヨウブダイとあまり変わらない数ではないかと考えている。大型の下咽頭骨幅は50.0mm、普通に多いのは下咽頭骨幅25.0mmである。

b. イロブダイ

ブダイの中では少ない方の種類である。大型の下咽頭骨で幅50.0mmである。

c. ナンヨウブダイ

多くの標本を出土している。本種はブダイ科の種類のうち今日でも棲息数の多い種類であり、遺跡での出土例も多い。大小の個体がみられ、大型の下咽頭骨幅50.0mm、小さいのは10.0mm以下5.0mm位のものもある。しかし、こうした小型の標本は少ない。

ニザダイ科 属・種不明

本種に特に発達する尾柄部の大型の楯状の鱗がある。

モンガラカワハギ属の一種

本科に属すると思われる大型個体の第一背鰭棘がある。鰭棘体部の幅10.0mm。前上顎骨、歯骨共に最大長35.0mm前後になる大型の標本がある。なお他にカワハギ類の第一背鰭棘で小さい標本もある。

フグ科 属・種不明

沖縄の遺跡としては多い顎骨の出土である。しかも大型の前上顎骨、歯骨がある。エナメル質部で最大長57.0mm、やや小さいので30.0mm。フグ科トラフグ属の前上顎骨、歯骨の歯部の形態が異なる。別属のモヨウフグ属モヨウフグも体長70cmになる。

ハリセンボン科 属・種不明

やや多くの前上顎骨、歯骨が出土し、大小の標本がある。前上顎骨にはエナメル質部分の幅80.0mmになる標本1点がある。多くは幅40.0mm前後である。

コチ

わずかに1点の歯骨がある。これも沖縄地方貝塚の出土例としては珍しい。

Ⅲ. 爬虫綱 Class Reptilia

リュウキュウヤマガメ

この陸産のカメの遺骸も多く出土した。甲板が大部分で四肢骨は少なかった。

甲板も破損した断片が多く、修復を試みたが一部を復元し得たのみである。

ウミガメ類

多くの遺骸が出土している。その数はこれまで知られたどの遺跡における出土量よりも多いものであった。また遺骸の分布区域は6地区のⅣ、Ⅴ層、7地区のⅡ、Ⅳ、Ⅴ層に集中していた。アオウミガメとアカウミガメが確認されている。歯骨は両種の特徴をよく示すが標本は少ない。背、腹の甲板骨が多数出土しているが、形態、亀甲の痕跡線などからの査定によると、アオウミガメの特徴を見出す標本が多かった。四肢骨は完存する標本が少なかったが、上腕骨などにはアオウミガメを確認している。四肢骨が多かった上腕骨、橈・尺骨は10個体以上があり、特に上腕骨は多く最小32個体になる。なおウミガメ類の遺骸には頭骨、前・後肢などの出土が部位によって、かなり異なるという特徴がある。頭骨は全般に残される率が少なく、判別し易い顎骨なども極端に少なかった。また四肢骨のうち前肢に比べて後肢が極端に少なかった。

四肢骨による個体の大小がよくみられ、上腕骨には全長200.0mmになる大型の標本があるが、150~160mm前後が多く、60mm位の標本が小さいものであった。橈骨で完存する標本は全長130mm、尺骨では115mmが最大である。

甲板骨も多数が出土し、現在までにおよそのかたちを復元できた背甲骨の部分も多い。それには大、小のかたちのものが含まれる。しかし個体数として数え得る標本に限られるのは止む得ないであろう。例えば特定の甲板骨の一つである剣状突起などは左右不明も合わせて27点が確認されているのみである。

ヘビ類

ごく僅かな椎骨が出土しているのみである。

Ⅳ. 鳥綱 Class Aves

アホウドリ属の一種

大型の上腕骨が2点、尺骨、橈骨片が出土している。別の破片も含めるともっとも多く出土している。

骨が大きく発掘で検出し易いこともあると思われる。

ミズナギドリ科の一種

中手骨が一点検出されているのみである。

ワシ・タカ科の一種

これにはやや大・小二種類のタカ類の上腕骨が検出されている。大型の方はミサゴ *Pandion haliaetus* 位の大きさになる。ミサゴは河口、海岸などに現在でも冬季にみられる。当時にも普通にみられた中型のタカ類であったろう。小型の種類はサシバと思われる。この鳥は秋期大群をなして九州南端から琉球列島を南下、マレイ諸島に迄渡る。途中この島々で羽を休めるのである。このような時に捕獲されることは現在でもある。

カラス属の一種

四肢骨がいくつかの部位で残されていた。沖縄地方ではハシブトカラスが数亜種知られている。今回の出土資料には完存する標本がないので詳細を比較できない。しかし尺骨近位部にみられる特徴からハシブトカラス *Corvus macrorhynchus* と査定する可能性はあると思われる。

V. 哺乳綱 Class Mammalia

オキナワオオコウモリ

7地区土壌内で四肢骨が出土している。同一個体の可能性がある。この他には検出することはなかった。捕獲する機会はきわめて少なかったようである。

ネズミ類

クマネズミもしくはドブネズミ

少数の標本があるのみである。

ケナガネズミ

本種も同じ様な出土の状況である。

クジラ目とイルカ科の一種

クジラ類は肋骨などの断片的な骨。骨器の素材であったかも知れない。イルカ類はバンドウイルカの下顎骨が知られたが、椎骨は別の小型のイルカのものである。

イヌ

出土の地点、層位から後期の時期に属する。本遺跡では多くのイノシシの遺骸が出土しているにもかかわらずイヌの骨は下顎骨が5個体分あったのみで、四肢骨はさらに少なかった。断片的な標本であるので骨体の大きさの計測値が示されないが小型である。上顎犬歯の全高29.6mm (IIc層)、M₁の歯冠長15.7mm (IV層)、同幅6.3mm。

ネコ

1地区II層で下顎骨が出土しているが、おそらく新しい時期のものであろう。

ジュゴン

多くの遺骸を出土した。おそらくこれまでに知られたジュゴンの一遺跡からの出土例ではかつてない程の量になるものであろう。これはジュゴンが大型の体躯をもち(出土した骨格のなかには幼獣の個体も含まれていたが)、骨格が特別に頑丈な骨質をもつことから、頭骨、四肢骨、肋骨、椎骨がかなり保存のよい状態で出土した。現在では残されていない貴重な骨格の標本を多数得たのである。

5地区IV、V層、6地区IV、V層、7地区II、IV、V層に集中的に出土していたが、その他の地点でも肋骨だけは、数点あるいはそれ以上10数点といった数が出土していた。

頭蓋：保存の良い側頭骨頬骨突起の数がもっとも多く最小個体13を数えた。前頭骨、頭頂骨、側頭骨は特に重厚な骨質をもちやや多い数が出土している。しかしそれでも最小個体数に及ばないので、頭蓋が別の場所に運ばれていることがあろう。

椎骨：環椎が7個あり、大小の個体のあったことを示している。

肋骨：第一肋骨左3，右5。破片を含めると158点という数になる。左右の判別できるのが2/3あり、ほとんど原形のまま残された肋骨もある。

四肢骨：これまでにはほとんど知られていない保存の良好な標本が上腕骨、橈・尺骨がある。肩甲骨がもっとも多く、左右合わせて6、上腕骨はほぼ完存する標本が左右で3、他に少なくとも3個体分はあるのであろう。橈・尺骨の癒着した大型例が1、幼体の尺骨2例である。推定される個体全体の数からみると四肢骨の保存数は多くはないようである。別の場所に搬出されているのであろう。

リュウキュウイノシシ

多くの遺骸の出土した動物であり、ここに生活した人々の食料の資源としてもっとも重要な位置を占めていたと考えられる。遺骸は解体後に壊され、かたちを残すような標本は頭蓋の一部、幾つかの下顎骨と四肢骨があった程度である。

頭蓋：側頭骨頬骨突起がもっとも多く確認され最少個体20個体である。前頭骨8個、頬骨、頭頂骨5個が確認された数である。頭蓋部は破壊されることが多いのであろう。頭頂骨の脳髓腔と外壁との間にみられる海綿体形成の状況はグスク遺跡から出土するブタ的な形質はみられず、この遺跡から出土するイノシシが野生種であったことをよく示す。なお頭蓋破片は成体の最少個体20個体があったわりには少なく、かなりの頭蓋がここから運び出されていることが考えられる。

椎骨：環椎が24個確認されている。

歯牙：上顎歯。4～7地区Ⅳ、Ⅴ層に集中的に出土。M¹～M³が多く、前臼歯は非常に少ない。破損しているのであろう。dm¹は三分の一に満たない。下顎歯：上顎歯よりも数多く、その三倍に近い。最小個体の推定で68、dm¹をもつ一年までの個体19になる。上下の顎骨の臼歯がM₂まで萌出し、かつ咬耗の進んだ段階にあるものが多数みられることは、この遺跡のイノシシ臼歯にみる特徴である。これは野生イノシシの種々な成育段階の個体が捕獲され、特に成長した大型個体が狙われたことを示すのであろう。グスク期の遺跡から出土するイノシシ属の個体にみる歯の萌出状況がM₂までにしばしば限定されているのは、これが一定の管理下にあったことを推測させる。

四肢骨：上腕骨の遠位骨端が43個、遠位骨端のみ8個、これに対して尺骨骨体は46個と多い。橈骨近位骨端、脛骨遠位骨端、距骨、踵骨などはやや少ないが少なくとも40～50個体近い数があったと考えられる。

ヤギ

5地区Ⅳ層で上顎骨片1点があるが、この時期の飼育にはなお問題がのこる。

3. 平敷屋トウバル遺跡出土の動物遺体について

魚類

ブダイ類、コブダイ、ハマフエフキダイ、クロダイ類の四つの仲間が主体を占めていた。

全体の魚骨の出土は1地区Ⅱ層に分布の中心の一つがくる。この地区は海岸と反対の山寄りであり、ここにも後期系の土器とその他の遺物が分布する。この1地区Ⅱ層での魚骨の出土が多く、おそらくこの

地区がこの遺跡での最終の生活の立地域になったのではないだろうか。ベラ類を例に骨格の大きさを地点と層位によって計測した結果をグラフ化してみると、Ⅱc層での標本が小型になり、量的にはもっとも多くなる。漁労の方法、需要に変化がおきているのであろう。

4地区Ⅳ層、6・7地区のⅣ層に魚骨の主分布がくる。後期の文化層の中心地区である。これらの魚種が併せて多獲されているということは、遺跡近くの水域の環境が多様であったことを示すものである。ブダイ類の主棲息場所になったサンゴ礁域、コブダイの多棲した岩礁域、ハマフエフキダイの主棲息域となった砂底域、クロダイ類の多い河口域があったはずである。これほど恵まれた条件の海岸と沿岸をもつところも稀ではなかろうか。

6・7地区Ⅴ層は後期初頭期層で、魚骨の出土はその後の後期の層に比べて少ない。漁獲の活動が後期になってさらにさかんになっていくのであろう。このことは後期貝塚が現海岸にすぐ近くに立地して、しかも大きな規模の遺跡を形成する例のあることから考えられる。

哺乳類

ジュゴン

海棲獣類として多くの遺骸を出土した。ジュゴンの肋骨は遺跡のどの地点からも出土しているが、おそらくこの動物の肋骨が道具の素材として使おうとしていることを示しているのであろう。しかし、頭骨、四肢骨を含むジュゴンの遺骸がまとまって出土するのは5・6・7地区のⅣ層とその上層のⅡ層で後期の文化層の中心域である。

上記した肋骨の分布域で、特に多い場所はジュゴンの解体区域となる可能性もあり、それが5地区Ⅳ層という海側に近い位置にあった。そこから6・7地区Ⅳ層という海岸に近い地区に主体的に分布し、1～4地区にほとんどみることがなかった。ここが後期文化層の主分布地区であり、ジュゴンとの深い関わりが考えられる。

後期初頭期の文化層であるⅤ層にもジュゴン遺骸が含まれ、埋存率は後期と大きくは変わらないのではないと思われる。ジュゴンとのつながりはピークを迎え以後別のかたちをとっていくのである。

リュウキュウイノシシ

獣骨の中でもっとも多くの遺骸を出土し、重要な食料の資源の一つであったに違いない。その主体的な出土は1地区Ⅱ層、4地区Ⅳ層、Ⅴ層、6・7地区のⅣ、Ⅴ層にみられた。Ⅴ層から次第に増加してしていく傾向をよく示している。後期初頭期の主体は5・6・7地区といった海岸に近接する場所にあるらしく、特に6・7地区Ⅴ層が多い。そして後期Ⅳ層の時期に至って遺骸の包含域が4・5・6地区と分布域をひろめていることも、生活場所の変化を示して興味もたれる。

4. 要 約

魚 類

ブダイ類（ナンヨウブダイがもっとも多く、イロブダイ、ナガブダイの順）、コブダイ、ハマフエフキダイ、クロダイ類が多い。広範囲に出土し、この時期には漁業が積極的であったことを思わせる。現在ではコブダイがこのように漁獲されることはないし、クロダイも少ないと思われる。かつて多棲していた魚種が少なくなるのは、人による多獲と環境の変化もあろう。なお遺跡による違いや共通点もあり、伊江島ナガラ原西貝塚ではクロダイ類は稀で、コブダイは報告されていない。

爬虫類

リュウキュウヤマガメが少数出土している。食料のために特に集中して捕られたと言うほどの数ではないように思われる。

ウミガメ類の遺骸を多く出土した。アオウミガメ、アカウミガメが知られたが、アオウミガメが多かったのではないと思われる。この遺跡の海岸には広い砂浜があったはずであり、こうしたウミガメ類が産卵のために上陸することがあったのであろう。しかし、ウミガメのなかには小さな個体もあり、ウミガメ類には別の方法もあった。解体された甲板には特に火を強く受けたと思われるような痕跡はみられなかった。ヘビ類はごく少なかった。

伊江島ナガラ原西貝塚でもウミガメ類は多く、ここでは歯骨がアオウミガメ、アカウミガメがそれぞれ14点あり、本遺跡よりもはるかに多く、しかも同じ数になる。リュキュウヤマガメも多い。剣状腹板によると6、上腹板では52というのが最少個体数である。両骨の数の開きが大きい、多いことは間違いないのであろう。

鳥類

アホウドリ、ミズナギドリ類、ワシ・タカ類二種、カラス類などが知られ、この地方の鳥類遺骸の特徴をみせていた。すべて海洋や海岸域に棲む鳥で、骨格の出土は少ない。本土側各地の外洋的な多くの貝塚遺跡でこうした海鳥類の少なからず出土するのと対照的である。本土側では捕獲し易い岩礁海岸の地形的な条件があり、また海鳥などは沿岸での各種漁労時に捕獲されることが多かったと考えられている。これには沿岸での魚の集まり方、漁法に違いがあったからであろう。渡りをするサシバなどは、この時期によく捕られたという話が残されており、遺跡からの検出例もあるが、これも中近世に至るまでの間で、この遺骸を特に大量にみるという例はない。

伊江島ナガラ原西貝塚における鳥類遺骸の種類、出土量は傾向として本遺跡例と大きく変わらない。伊江島ナガラ原西貝塚ではウミウがあるが、ワシ・タカ類はない。

哺乳類

陸棲獣類としてリュウキュウイノシシ、海棲獣類としてジュゴンが重要な生活の資源となった。これらの捕獲は本遺跡の基文化層である後期初頭期に既にあった方法がその後も継続的におこなわれていたことを示すのである。ジュゴンの遺骸分布が海岸側寄りの地域に集中するのに対して、イノシシの遺骸が海岸側からさらに内陸側へとひろがる様子のみられることは、より新しい時期になるとイノシシ類に転換していくような傾向にあり、必然的に生活立地もまた海岸域から遠のくことになるのであろう。

沖縄ではグスク期に入るとブタの飼育がおこなわれるようになる。おそらくウシ、ウマなどと共に大陸からの家畜種が輸入されたことによるのであろうが、これには上述したような後期以降のイノシシ類への積極化が基本にあったのではなかろうか。

イノシシ遺骸の出土は伊江島ナガラ原西貝塚でも多く、右側大腿骨171点が最少個体数という。歯牙萌出の詳細は不明であるが、M₃の萌出例が多いと思われる。基本的には同じような条件下にあるイノシシが捕獲されているのであろう。ただ、小さい島のなかでの資源量が限定から本島からの移入もあったかも知れない。

ジュゴンについては伊江島ナガラ原西貝塚と興味ある違いがみられる。伊江島ナガラ原西貝塚でのジュゴンは肋骨片、腰椎など計4点があったのみである。伊江島周辺でジュゴンを捕獲することが難しかったのではないと思われる。おそらく当時の猟法は、ジュゴンが入り江の中などに入って来たときを狙ったのであろう。本島での複雑な地形的条件を利用することによって捕獲が可能になったのであろう。

5. おわりに

沖縄後期に属するこの時期の漁猟の状況を良く知ることのできる遺跡がこれまでに調査されている。伊江島ナガラ原西貝塚、伊江島具志原貝塚、具志川市宇堅貝塚、浦添市嘉門B貝塚はその代表的な遺跡で

あり、発掘調査がおこなわれている。このうち伊江島ナガラ原西貝塚についての報告書は刊行されたが、他の遺跡については未刊である。平敷屋トウバル遺跡はこの時期を代表する遺跡の一つには違いないが、上記各遺跡もまたそれぞれに特徴をもつ。いずれそれらをまとめる機会もあることと思われる。

末筆となったが今回の報告について種々御協力、御世話下さった沖縄県教育委員会文化課の島袋 洋氏、資料整理に当たりその中心的な役割を果たされた島袋春美氏、瑞慶覧尚美氏、そして御協力下さった若狭資料室の皆様は厚く御礼を申し上げたい。

参考文献

長谷川、上野、服部、野刈、小野、山口、松浦：伊江島ナガラ原西貝塚緊急発掘調査報告書－自然遺物編「伊江村文化財調査報告書第8集」 伊江村教育委員会、1979年

沖縄野鳥研究会編：沖縄県の野鳥、1986年

金子浩昌：古我地原貝塚の節足・脊椎動物遺体「石川市古我地原貝塚」 沖縄県文化財調査報告書第84集、1987年

金子浩昌：知場塚原遺跡出土の脊椎動物遺体「知場塚原遺跡発掘調査報告」、本部町文化財調査報告書第5集、沖縄県本部町教育委員会1988年

金子浩昌、島袋春美：チヂフチャー遺跡出土の動物遺体、浦添市文化財調査報告書第12集

第61表 イノシシ計測一覧

Table with columns: 測号 (Measurement No.), 部位 (Part), R/L (Right/Left), 残存部位 (Residual Part), 計測部位 (Measurement Part), 計測版 (Measurement Plate), グリッド (Grid), 層 (Layer), 層備考 (Layer Note).

Table with columns: 測号 (Measurement No.), 部位 (Part), R/L (Right/Left), 残存部位 (Residual Part), 計測部位 (Measurement Part), 計測版 (Measurement Plate), グリッド (Grid), 層 (Layer), 層備考 (Layer Note).

Table with columns: 測号 (Measurement No.), 部位 (Part), R/L (Right/Left), 残存部位 (Residual Part), 計測部位 (Measurement Part), 計測版 (Measurement Plate), グリッド (Grid), 層 (Layer), 層備考 (Layer Note).

Table with columns: 測号 (Measurement No.), 部位 (Part), R/L (Right/Left), 残存部位 (Residual Part), 計測部位 (Measurement Part), 計測版 (Measurement Plate), グリッド (Grid), 層 (Layer), 層備考 (Layer Note).

第62表 イヌ計測一覧

Table with columns: 測号 (Measurement No.), 部位 (Part), R/L (Right/Left), 計測部位 (Measurement Part), 計測版 (Measurement Plate), グリッド (Grid), 層 (Layer), 層備考 (Layer Note).

第63表 ベラ科下咽頭骨大きさ別出土量

Table showing the number of excavated skulls by size and region. Columns include size ranges (e.g., 0-4.9, 5-9.9) and regions (1地区 to 8地区). Total counts are provided at the bottom.

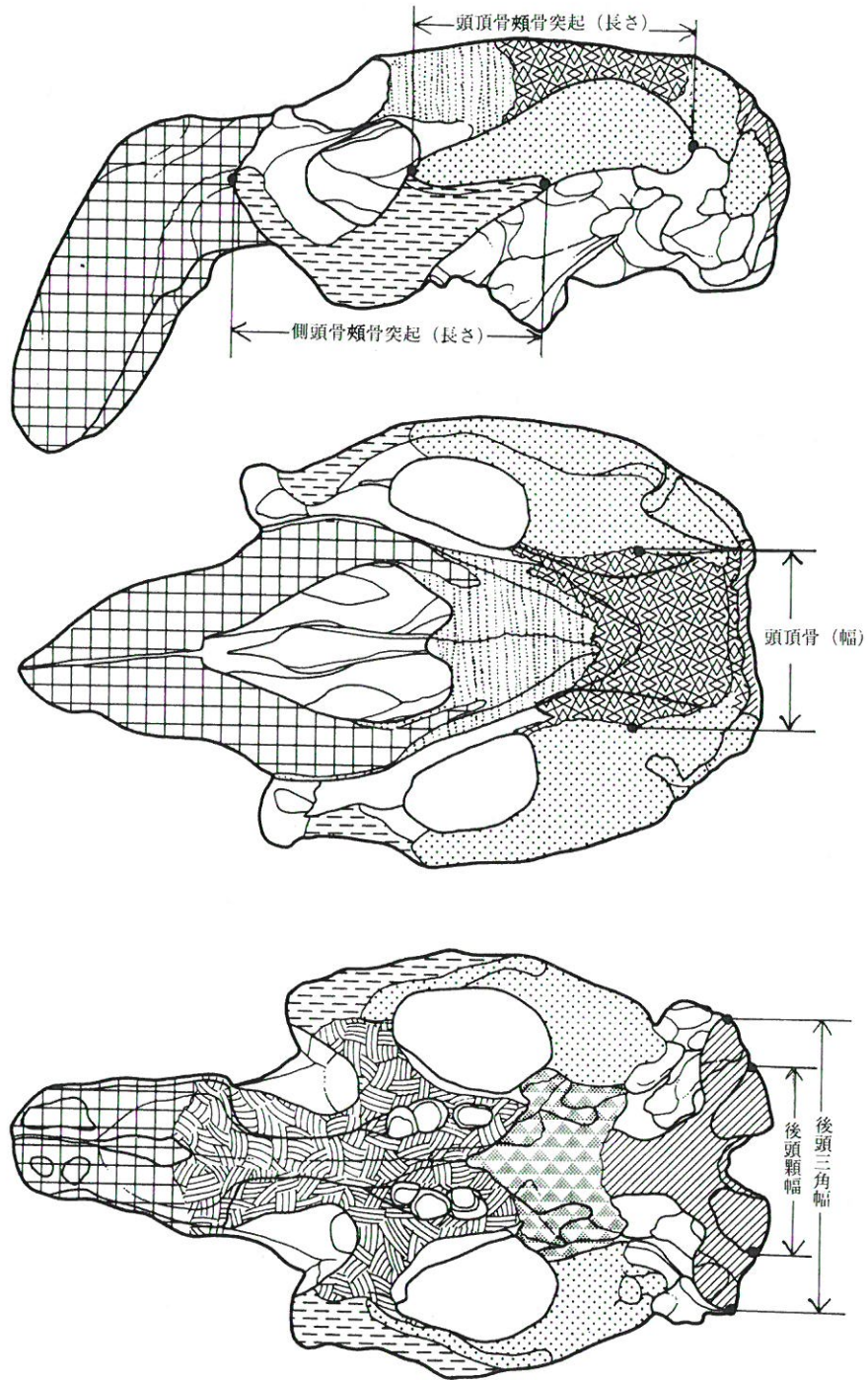
第49表 トリ出土量









部 位	出土地 層序			1 地区			2 地区			4 地区			6 地区			7 地区					8 地区		合 計												
	IIc 層	II 層	III 層	IIc 層	II 層	III 層	IIa 層	II 層	III 層	IV 層	IV 層上	IV 層	IV 層	IV 層	II 層	IV 層	V 層	土壁2	V 層	不明	不明	不明	不明												
アホウドリ								1	1								1																		
ミズナギドリ属		2															2																		
ワシ・タカ科		1																1																	
刀助科(材コハシカ)			1													1																			
カラス属													1																						
種不明		2	3	1			1		1							2	4																		
合 計	0	1	4	1	0	3	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	3	4	1	0	2	3	0	6	2	1	0	0	1	1	0	0	8	7	24

第59表 ヒト出土量

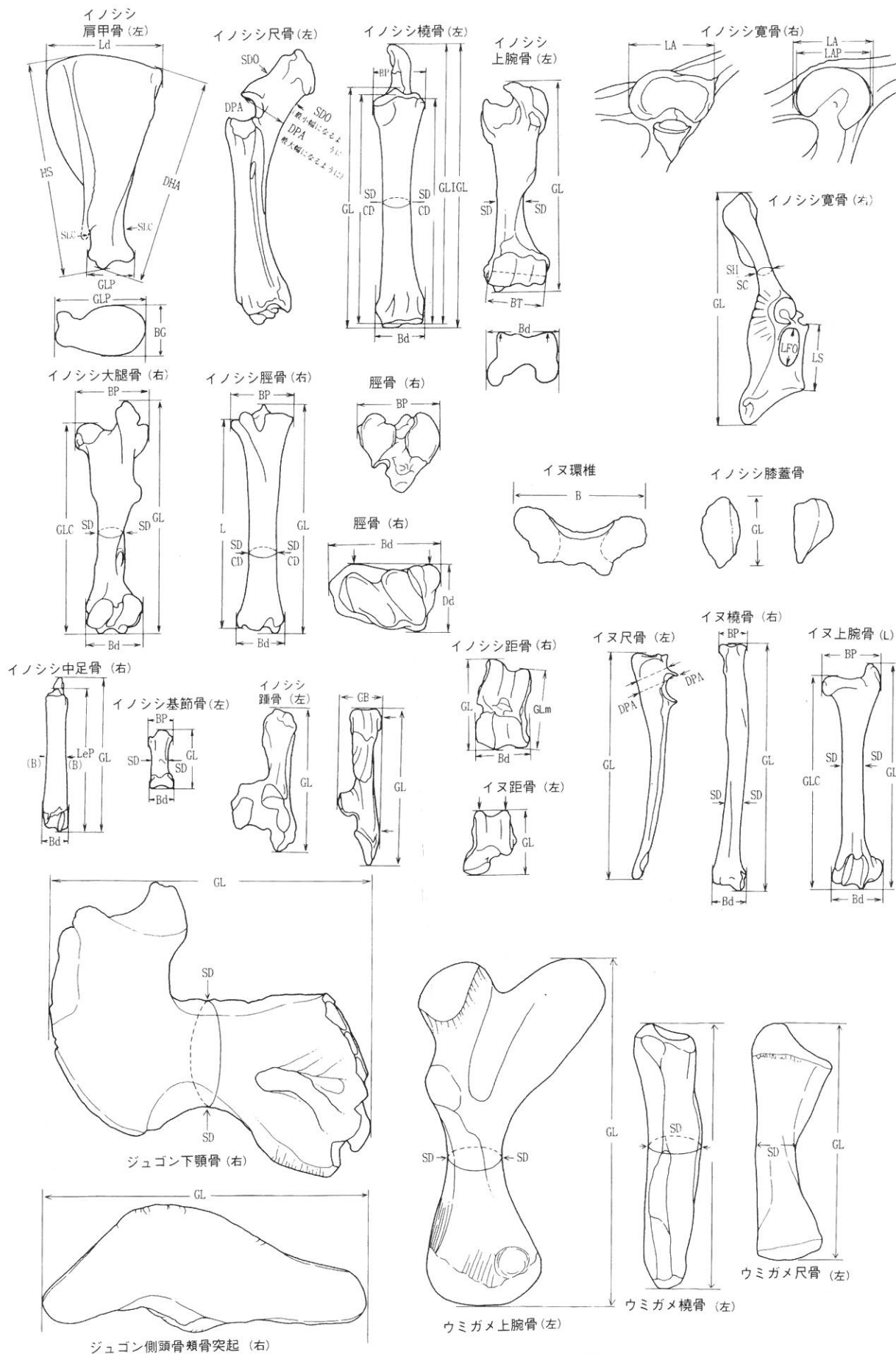
部 位	出土地 層序		1 地区		2 地区		4 地区		5 地区		6 地区		7 地区		8 地区		合 計											
	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層	IIc 層	II 層										
上顎歯			2																									
頭蓋骨(破片)					7	2																						
下顎歯	*1	1				1																						
乳歯			1																									
歯(破片)			6																									
肋骨							1																					
肩甲骨遠位部																												
上腕骨骨体																												
橈骨										1																		
腕骨																												
尺骨														1														
大腿骨近位部~遠位部									1																			
骨片																												
輕骨骨体		2																										
趾骨																												
中足骨第1																												
中手・中足骨																												
指骨																												
破片																												
合 計	0	0	12	1	0	1	8	3	1	0	1	0	1	1	2	4	3	2	4	3	16	10	9	38	4	14	14	96

凡例：*1は貝割りから出土



- (凡例)
- | | | | |
|--|-----|---|----------|
|  | 頭頂骨 |  | 上頰骨 |
|  | 切歯骨 |  | 前頭骨 頬骨突起 |
|  | 前頭骨 |  | 側頭骨 頬骨突起 |
| | |  | 後頭頰 |
| | |  | 後頭底部 |

第89図 ジュゴン頭骨の名称及び計測の位置



第90図 イノシシ、イヌ、ジュゴン、ウミガメの計測位置 (参考例)

第Ⅶ章 総 括

今回の調査成果について前章までに述べてきた。ここでは今一度整理するとともに、若干の課題点についてふれてみたい。

本遺跡は第Ⅰ章で述べたように、米軍基地内（ホワイトビーチ）に計画された倉庫建設に伴う試掘調査により発見された遺跡で、広大な範囲を有すこと、沖縄貝塚時代後期末（高宮暫定編年後期＝第3表）と沖縄貝塚時代前期（高宮暫定編年前Ⅳ期）の2時期の複合遺跡であることが知られている。しかし、第2次調査の際の試掘により前述の2時期のほか沖縄貝塚時代中期（高宮暫定編年前Ⅴ期）およびグスク期の2時期が新に確認され、本遺跡は沖縄前Ⅳ期～グスク時代にかけての複合遺跡であることが判明した。^(註1)^(註2)

これら各時期の居住空間の広がりを見ると、遺跡内において若干の移動（中心部）がみられる。最も古い沖縄前Ⅳ期の中心部は発掘対象区の北東側（1地区）とみられ、沖縄前Ⅴ期には発掘対象区の西側（2・3地区）の方へ移るようである。次の沖縄後期の早い段階には海側の5～8地区の方へ展開し、後半から末にかけては発掘対象区のほぼ全面に広がりを見せ、最も範囲を広げる時期のようである。この時期には1・2地区から3・4地区の北側は粘土層が覆い、南側（海側）は砂層である。異なる地層面を同一平面としている感があり注意されよう。また、グスク期の広がりには北側の1・2地区のようであり、現集落と同じような分布を示す平敷屋古島遺跡^(註3)への動きを連想させる。

今回の調査では沖縄後期とグスク期の2時期の発掘調査を主体に実施し、1～3地区で確認できた下層の古い時期の様相は判然としなない。ただ、試掘グリットや試掘トレンチの結果、沖縄前Ⅳ期の集石の一部検出（1地区）、同Ⅴ期の全形の窺える土器の検出（3地区）などがあり、下層においてもその時期の様子を窺わせる遺構・遺物が検出されるものと推察される。幸いにして、下層の主体部については工事区域から除外され、現地に保存されることになった。将来、そのことが確かめられるときもあろう。^(註4)^(註5)^(註6)

ところで、複合遺跡として知られる伊江島の具志原貝塚、浜崎貝塚、伊平屋島の久里原貝塚、恩納村の伊武部貝塚^(註7)、勝連町の津堅島キガ浜貝塚^(註8)など多くの遺跡が砂丘地に形成されており、遺跡の範囲も広いことが知られている。そのような状況からすると、本遺跡の場合もさらに遺跡の範囲が広がる可能性もあり、遺跡周辺に広がる砂丘地に対しても今後の開発行為に対しては十分な注意が必要とされる。

このような長期間にわたって居住地として利用されてきたことは、本遺跡の立地条件が大きく作用していることが考えられる。勝連町の遺跡分布調査報告書を見ると、本遺跡後方の丘陵部には数ヶ所の井戸がみられ、この地域は比較的水脈に恵まれているようであり、往時の貝塚人達にも潤いを与えたであろう。また、発掘調査（貝塚時代後期）により出土している膨大な量の貝類、獣・魚骨類（いわゆる食料残滓とされるもの）からすると、眼前の中城湾や背後の丘陵は当時の人々の食生活に多大な恩恵を与えていたことを物語っているようである。特に中城湾は食料調達のみでなく、周辺地域との関連でも大きな役割を果たしていたものと考えられる。

次に、今回の調査の主体となった貝塚時代後期およびグスク期の状況についてみる。グスク期を概観すると先述したようにその主体部は1・2地区のようである。特に、2地区では無数のピット群、そのピット群の間を南北に走る溝状遺構が約30mの間隔で東西に2本確認された。集落の様子的一端が窺い知れるのではとみられたが、今後の検討課題としたい。また、注意されることとして、遺物の量的なことがあげられよう。つまり、1・2地区で3000㎡近い面積の調査で、前述のように無数のピット群や溝状遺構などが検出されたにもかかわらず、遺物（南島須恵器、滑石製石鍋片、中国産の陶磁器類、グスク系土器など）の出土量は非常に貧弱であり、どのように解釈すべきかも今後の課題である。

出土遺物をみると南島須恵器、滑石製石鍋片、中国産の陶磁器類、グスク系土器などがあり、この時期の古い要素も認められる。

貝塚時代後期の時期が今回の発掘調査の主体であり、無数のピット群や貝集積遺構などの検出、膨大な量の出土遺物など、豊富な内容となっている。まず、検出された遺構からみてみよう。無数のピット群、土壙、灰集中土壙、イモガイ集積遺構などがある。ピット群は5・6地区の中央付近から北側の方はハチの巣状に検出されたが、それから南側の7・8地区の方へは疎らな状況を呈す。1・3地区ではⅢ層上面、5・6地区ではV層上面およびⅧ層上面でそれぞれ検出された。前者は粘土層で、後者は砂層であるが、形状や大きさ、密度などほぼ同じような状況であった。ただ、出土している土器の特徴からすると、両者の間には若干の違いが認められるものの、今回は細かな検討を行なうことができなかった。今後の課題としたい。

無数に検出されたピット群であるが、プランの窺えるものは5地区で検出されたものだけである(第8図)。4.6×2.6mのほぼ長形状のものが想定される。この時期の平面プランが判明している例をみると伊江島ナガラ原西貝塚^(註9)から報告されているものに類するが、若干長さが短くなっており、全体的な形状も若干異なるようである。また、伊江島ナガラ原西貝塚ではその周辺の床面が硬くなっていたようであるが、本遺跡においては特にそのような状況は見受けられなかった。

土壙、灰集中土壙、イモガイ集積はいずれも5～8地区の砂層において検出されている。特に後2者は注意されよう。灰集中土壙は両側が円形状を呈し、それをつなぐように狭くなった部分がみられ、ダンベル状に検出されたもので(第9図)、灰層や白砂、黒色砂などが互層をなすように堆積していた。深い所で約50cmあり、土器は第26図8に示すような乳房状尖底のものが主体をなし、第81図のガラス小玉なども得られている。全体の状況からすると、前述した名称は適当でないかもしれない。類例遺跡の追加をまって検討したい。

イモガイ集積は8箇所を確認された(第2図)。いずれもアンボンクロザメを主体としたものである。このような貝集積遺構については、県内の集成がなされ、貝種構成などによる分類や時期、また、その意味付けなどについての検討が加えられている^(註10)。その後、追加資料を紹介しながら九州本土との交易に関連させて論じられ^(註11)、現在までのところ九州圏との交易品としてのストックとしての意味付けが大勢を占めているが、集積の状態により別の性格の可能性も考えられている。今後も注目される遺構であり、より多面的な検討が必要となろう。

本遺跡検出のものは殻頂部を下方に向け円錐状に集積したものや比較的雑然と積み重ねられたものが見受けられる^(註12)。前者は伊江島ナガラ原西貝塚や具志原貝塚などの報告例に類似し、後者のものは嘉門貝塚Aや清水貝塚^(註13)などの報告例に近い。先述したように集積の仕方により異なる意味付けができるならば、両方の集積が検出されている本遺跡は注意される遺跡であろう。しかし、今回は詳細な検討を加えることができなかった。今後の課題としたい。

次に出土遺物についてみる。膨大な量が得られ、内容も多岐にわたる。ここでは特に注意されるものとして土器、石器、貝製品、青銅製品についてみていくことにする。最も多量に出土した土器は搬入土器、その影響を受けたとみられる土器、在地土器に大別でき、ほとんどが後者に属するものであった。ただ、細部においては判然としないところもあり、再検討の必要があろうかと考えている。

主体をなす在地土器はこの時期の2大底部形態のひとつである尖底(特に乳房状尖底)が下層(V層)で主体をなし、もうひとつの底部形態であるくびれ平底が上層(Ⅳ層、Ⅱb層)から多量得られており、これまでの尖底→平底の流れを裏付ける出土状況であった。乳房状尖底は多和田真淳氏により「川田原式土器」と命名^(註14)されており、その際に川田原貝塚採集の土器の特徴などにふれ、有孔口縁部の多くでるのは

尖底との関係が考えられるとされている。本遺跡においても同じような状況がみられ、すでに、島弘氏により指摘されているように^(註15)、有孔土器についての詳細な検討が必要となろう。

底部形態では上述のような状況がみられたものの、全体形の窺えるものは僅少で、前記した2つの底部形態を有す土器を口縁部資料で明瞭に分けることはできなかった。大きさ、器種などからミニチュア、小型、壺形、甕・鉢形、有文資料、底部資料に分け、それぞれの概要を記述するだけに止まってしまった。壺形、甕・鉢形をみると器面調整や胎土・混入物などの特徴に数種みられ、本来的には分類すべきものが多々含まれている。例えば第20図1の無頸壺は丁寧なナデ調整が施され、黒色鉱物などの鉱物質の微砂粒を密に含む。それに対し第26図1の長頸壺は器面調整が雑で、粘土の積み跡が隆帯状になり、混入物は目立たず、赤色粒を密に含む。前者は浜屋原式に類する特徴のようである。後者のものはこの種壺形ではじめての全形が窺える資料で、トランプのスペードに似た形状を示しており、注目される資料で、今回の成果のひとつである。長頸壺は眼前の津堅島にある津堅貝塚などから報告されている。

また、第19図に示した小型壺、第20図に示した大型壺はこの時期の壺形の様子を窺わせるものである。いずれも無頸と有頸があり、小型壺では注口を有す1や4・7・8・17・20・21など注意される資料も多く見受けられる。

甕・鉢形の資料では第26図2～11に全形の窺えるものなどを示した。器形的にかなりバリエーションがみられ、特に4は注意される。口径・高さとも30cmを越すような大型のものであるが、底部は底径の小さな(約3cm)やや上げ底状の平底である。底部だけの出土だと小型土器と思うような資料であり、特徴的なものである。今回得られたのを見ると、多くのものが推算口径が30cm前後のもので、当該土器の大きさを示しているものと考えられる。

有文の資料は土器全体量からすると僅かであるが、かなりバリエーションが見受けられた。沈線文と凸帯文および両者を組み合わせるものがあり、沈線文を施すものが多かった。第28図1に示す口縁部内外に曲線文を配すグループは具志堅貝塚などから報告があり、注意されよう。^(註18)凸帯文を配すものは縦方向のものが主流で、第27図33・34に示すりボン状の円形凸帯や逆U字状の凸帯を配すもの(第27図21)は嘉門貝塚などに報告がみられる。大まかな文様の傾向を示しているものと考えられる。

底部は丸底、砲弾形の尖底、乳房状尖底、くびれ平底がみられ、後2者が主体である。それぞれ数種に細分されるものとみられるが、全体的な状況の把握までには至らなかった。注目されるものに第32図52のような底面に粒状の粘土を貼りつけたものや第31図49のように底面の中央部を凹めたくびれ平底があげられる。また、底面に3つの足状のものが付されたもの(第32図79)も注意されよう。

搬入土器およびその影響を受けたとみられるものから注意点をみると、尖底を主体とする他遺跡では弥生中期の山ノ口式が多く報告されているが、本遺跡では成川式系とみられるものが得られていることである。他遺跡を参考にすればこの成川式系の土器はくびれ平底に伴うものとみられる。池畑耕一氏により編年試案が提示されているが、本遺跡の資料がどの時期になるか判然としない。ただ、成川遺跡、^(註19)麦之浦貝塚、^(註20)萩原遺跡などの報告中に類例が見いだせる。また、第16図11、13・18、第17図27・29などの資料も注意されよう。また、第17図31・32は成川式期の埴形土器を模したものとみられる。^(註21)

第16図4の凸帯文の胴部資料は土器の項では成川式の範疇で扱ったが、弥生中期の山ノ口式系とみられるもののようである。それからすると2時期の搬入土器が出土していることになる。本遺跡出土の土器はいわゆる沖縄後期の土器様相を解明していくうえで大きな示唆を与えるものと考えられる。今回は資料紹介の感が拭えず、詳細な検討を継続して行い、あらためて報告する機会を得たい。

石器では磨製石鏃の出土が注目される。無頸のもの(第35図1)と有頸のもの(第35図2)が得られている。県内の弥生相当期における磨製石鏃の出土は牧港貝塚、野国貝塚群B地点、具志堅貝塚などから^(註22)^(註23)^(註24)^(註18)

報告されており、本遺跡出土の無頸のものは具志堅貝塚のものに近い。V層の出土であり乳房状尖底に伴うものとみられる。有頸のものは同じ地点のIV層から出土しており、無頸のものよりは時期的に新しくなるようである。前述の3遺跡のものと形態的に異なり、県内では初めての出土のようで、注意される資料のひとつである。

石鏃の他にクガニイシが注意されよう。出土地点や層位からすると沖縄前V期に属すようである。白木原和美氏により論じられており、県内では高嶺遺跡や渡喜仁浜原貝塚などの報告にみられ、清水貝塚などからも報告されている。^(註25)^(註26)^(註27)^(註13)

貝製品は比較的豊富で、利器・装飾品に大別される。それぞれ内容も多岐にわたる。利器では貝包丁様製品が注目されよう。クロチョウガイやミドリアオリガイの縁部に付刃するもので、盛本勲・比嘉優子両氏による論考がある。^(註28) 今後とも注意されるものであろう。貝匙や貝皿、普遍的に出土する二枚貝有孔製品(貝錘)などが注意される。第55図5に示すヤコウガイ製のものは備瀬貝塚でアコヤガイとのセットで報告されているものと似ており、注意される。装飾品では多くの貝種を利用した貝輪とイモガイを利用した貝札が注目されよう。特に、前者のものは完成品と未製品がみられ、どのような状況を示唆しているのかが興味深い。イモガイ製貝輪の場合、集積遺構との関連はどうか今後の課題である。貝札はいずれもイモガイを縦切りにしたもので、第61図53は長めの、他は方形状のものである。前者は蝶形をイメージさせるもので注意されよう。

青銅製品では太刀の鐔(第77図1)、貨銭(第80図)が注意される。前者は県内では報告例をほとんど聞かないもので、その形状などから平安～鎌倉時代のものようで、特徴的な資料であり注意される。貨銭はほとんどが開元通宝である。IIc層、IV層を主体とした出土であり、ひとつの時期を示しているものと考えられる。^(註30)^(註31) 近年、安里嗣淳氏の論考や高宮廣衛氏の論考があり、スポットをあびようとしている遺物のひとつである。後述のラジオ・カーボン測定による年代からすると、それほど違和感を受けない。

その他、灰集中土壌から出土したガラス小玉(第81図)や土玉製品(第63図)なども報告例の多くない資料であり、注意されよう。また、貝類、獣・魚骨類などの自然遺物の出土状況をみると、IIc層にイノシシやアラスジケマンガイが多く、砂層のIV・V層ではジュゴンやイソハマグリが目立つなど特徴的な出土状況を示しており、当該時期の生活の様子を窺うには注意しておく必要がある。

最後に、本遺跡の年代についてはIV層を中心とした資料の放射性炭素測定により下記のような結果が得られている。IV層の年代についてはほぼ妥当な線かと考えられる。

註

- 註1. 勝連町教育委員会「勝連町の遺跡」『勝連町の文化財第17集』 1993年3月。
- 註2. 上原 静・島袋 洋「平敷屋トウバル遺跡第2次調査の概要について」『沖縄考古学会研究発表要旨』 1994年6月26日
於：糸満市立中央公民館
- 註3. 勝連町教育委員会「平敷屋古島遺跡」『勝連町の文化財第13集』 1991年3月。
- 註4. 沖縄県教育委員会「伊江島具志原貝塚の概要」『沖縄県文化財調査報告書第61集』 1985年。
- 註5. 伊江村教育委員会「浜崎貝塚」『伊江村文化財調査報告書第9集』 1980年3月。
- 註6. 伊平屋村教育委員会「久里原貝塚」『伊平屋村文化財調査報告書第1集』 1981年3月。
- 註7. 沖縄県教育委員会「伊武部貝塚」
- 註8. 沖縄県教育委員会「津堅島キガ浜貝塚発掘調査報告書」『沖縄県文化財調査報告書第17集』 1978年3月。
- 註9. 伊江村教育委員会「伊江島ナガラ原西貝塚」『伊江村文化財調査報告書第8集』 1979年3月。
- 註10. 岸本義彦・島 弘「沖縄における貝の集積遺構—ゴホウラ・イモガイを中心に—」『紀要』 第2号 沖縄県教育委員会文化

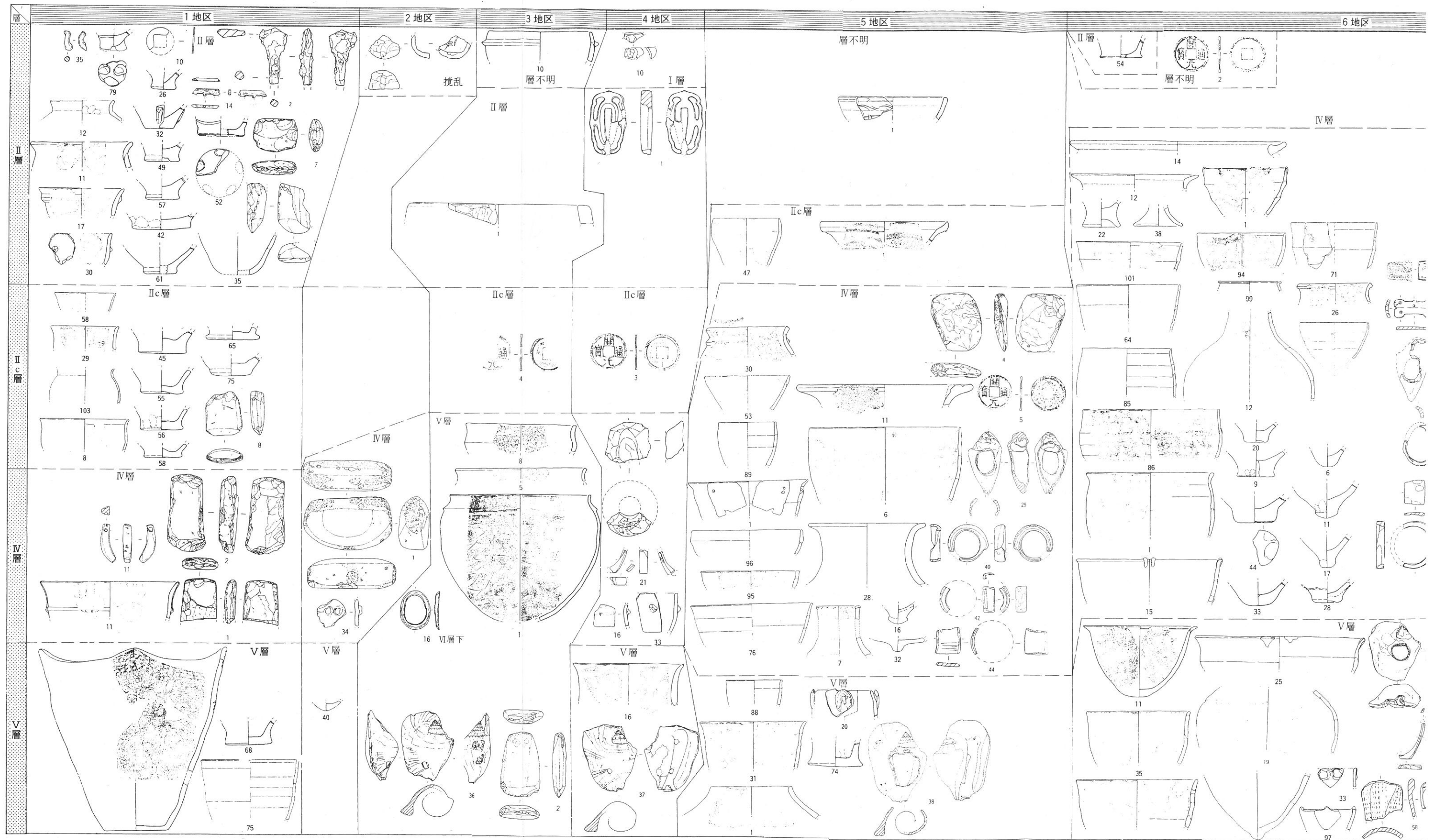
課 1985年。

- 註11. 島袋春美「南島からみた貝の交易…弥生時代を中心に…」『特集 貝の交流くシェルロード』 考古学ジャーナル No31 1989年。
- 註12. 浦添市教育委員会「嘉門貝塚 A」『浦添市文化財調査報告書第18集』 1991年3月。
- 註13. 具志川村教育委員会「清水貝塚発掘調査報告書」『具志川村文化財調査報告書第1集』 1989年3月。
- 註14. 多和田眞淳「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」 監修 沖縄県教育委員会 1956年。
- 註15. 島 弘『『有孔土器』について』『南島考古だより』 第38号 沖縄考古学会 1988年6月。
- 註16. 沖縄国際大学考古学研究会『島嶼の考古』 創刊号
- 註17. 嵩元政秀「津堅貝塚発掘概報」 監修 沖縄県教育委員会 1961年。
- 註18. 本部町教育委員会「具志堅貝塚」『本部町文化財調査報告書第3集』 1986年3月。
- 註19. 鹿児島県考古学会「鹿児島考古」 第14号 1980年6月。
- 註20. 鹿児島県教育委員会「成川遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書24』 1983年3月。
- 註21. 川内市土地開発公社「麦之浦貝塚」『本川地区造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1987年9月。
- 註22. 始良町教育委員会「萩原遺跡(Ⅱ)」『始良町都市計画事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』 1980年3月。
- 註23. 沖縄県教育委員会「牧港貝塚・真久原遺跡」『沖縄県文化財調査報告書 第65集』 1985年3月。
- 註24. 沖縄県教育委員会「野国貝塚群 B 地点発掘調査報告」『沖縄県文化財調査報告書 第57集』 1984年3月。
- 註25. 白木原和美「クガニイシ」『法文論叢』 第四十一号 熊本大学法文学会 1978年。
- 註26. 沖縄県教育委員会「宮城島遺跡分布調査報告」『沖縄県文化財調査報告書 第92集』 1989年3月。
- 註27. 今帰仁村教育委員会「渡喜仁浜原貝塚 調査報告書(Ⅰ)」『今帰仁村文化財調査報告 第1集』 1977年3月。
- 註28. 盛本 勲・比嘉優子「貝包丁様製品」『南島考古』 第15号 沖縄考古学会 1994年。
- 註29. 本部町教育委員会「備瀬貝塚」『本部町文化財調査報告書第4集』 1986年3月。
- 註30. 安里嗣淳「中国唐代貨銭『開元通寶』と琉球圏の形成」『文化課紀要』 第7号 沖縄県教育委員会文化課 1991年3月。
- 註31. 高宮廣衛「開元通宝から見た先史終末期の沖縄」『王朝の考古学 大川清博士古稀記念論文集』 雄山閣 1995年。

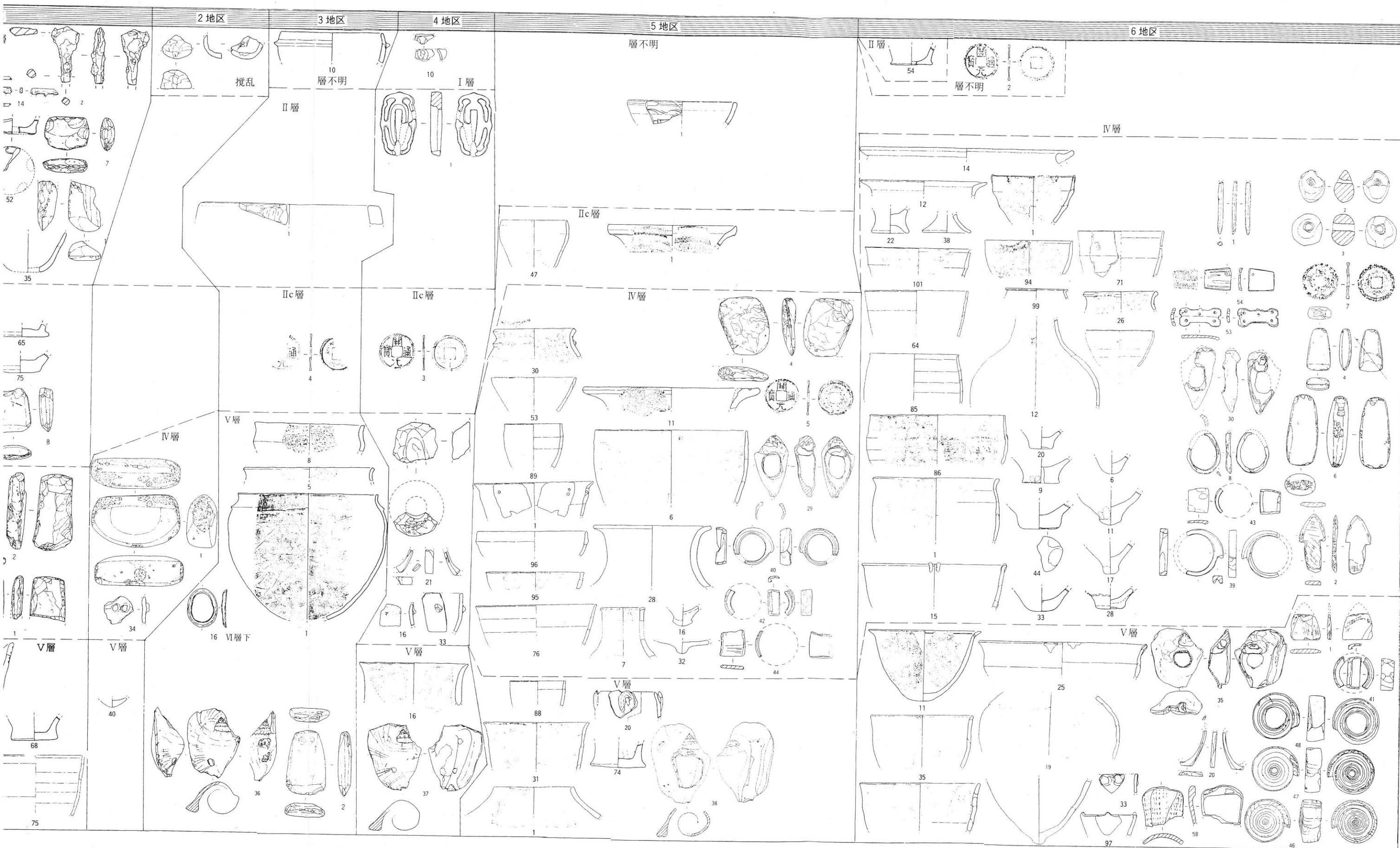
1. 試料：試料は、平敷屋トウバル遺跡から採取された試料9点である(第66表)。
2. 測定：測定は、学習院大学放射性炭素年代測定室が行った。
3. 結果：結果は、表1に示した。なお、半減期は LIBBY の半減期5570年を使用した。

第66表 ^{14}C 年代測定結果

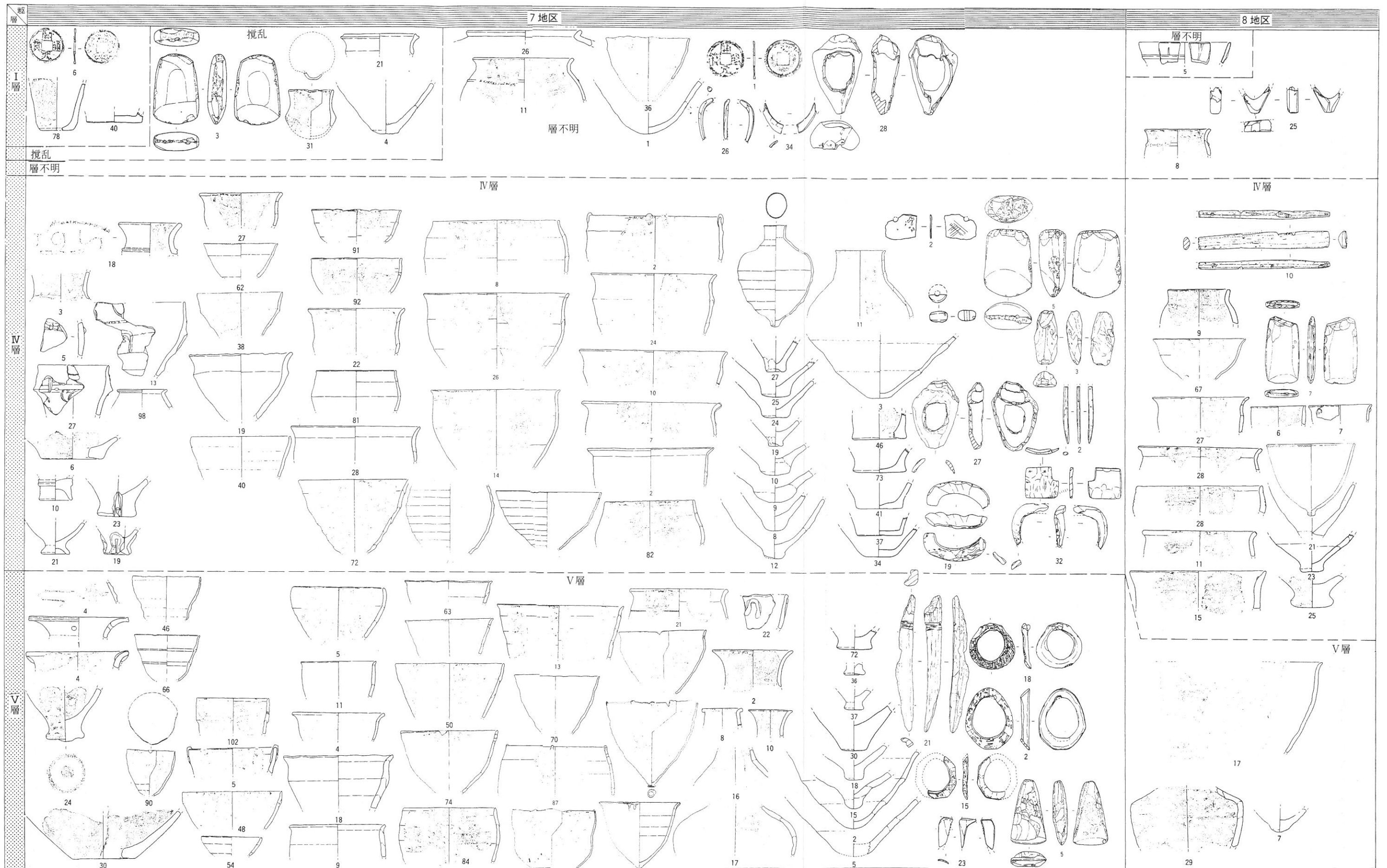
番号	出土グリッド	出土層	質	Code No	年代 (1950年よりの年数)
1	W.B. R-21	Ⅳ層上	炭化物	Gak-17948	1240±80y. B.P. A. D. 710
2	W.B. Z-20	Ⅳ層上	炭化物	Gak-17949	2070±90y. B.P. 120 B. C
3	W.B. R-14 (第-4)	Ⅳ層上 堅穴状遺構	炭化物	Gak-17950	1100±100y. B.P. A. D. 850
4	W.B. O-22	Ⅳ層上	貝	Gak-17951	1160±70y. B.P. A. D. 790
5	W.B. Y-16	Ⅳ層	貝	Gak-17952	2830±80y. B.P. 880 B. C.
6	W.B. う-18	Ⅳ層	貝	Gak-17953	580±100y. B.P. A. D. 1370
7	W.B. W-17	Ⅳ層	炭化物	Gak-17954	1280±80y. B.P. A. D. 670
8	W.B. T-26	V層上面検出 Pit中出土	炭化物	Gak-17955	1190±90y. B.P. A. D. 760
9	W.B. Q-22	V層下P-1	炭化物	Gak-17956	1300±80y. B.P. A. D. 650



第91図a 主な出土遺物の地区別、層別出土一覧



別出土一覽

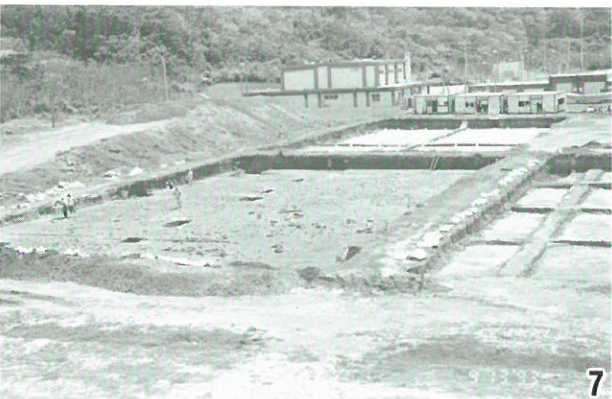
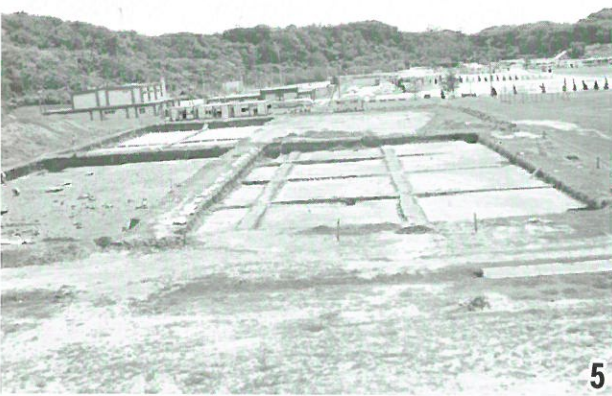
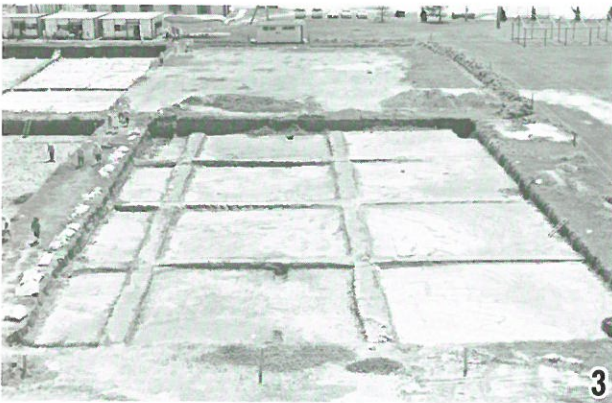
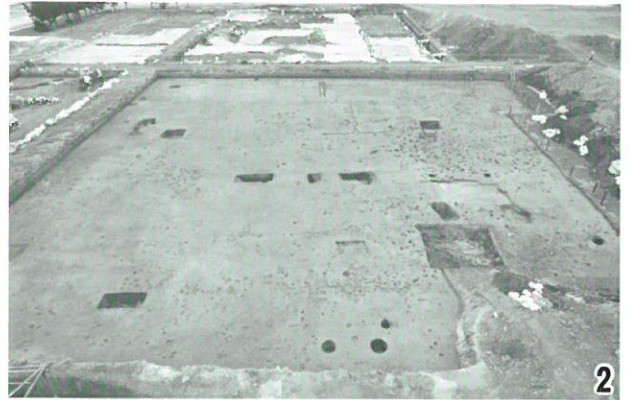


第91図b 主な出土遺物の地区別、層別出土一覧

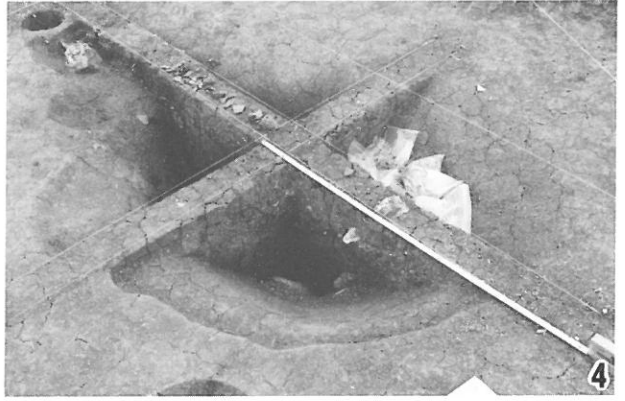
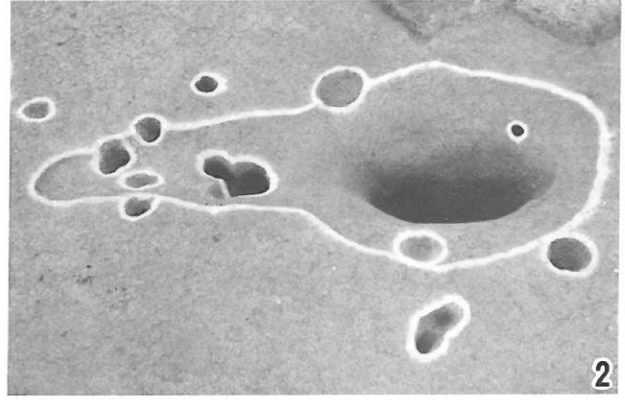
圖 版



図版 1 遺跡遠景



図版2 各地区の状況 1～4地区（左列）、5～8地区（右列）



図版3 遺構検出状況 1地区溝状遺構(1)、1地区溝状遺構貝溜り(3)、7地区溝状遺構(7)、4地区土境(2・4)、7地区灰集中土境(5・8)



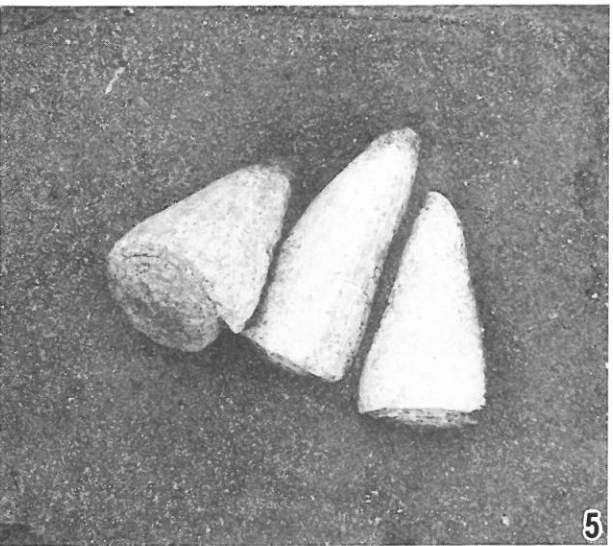
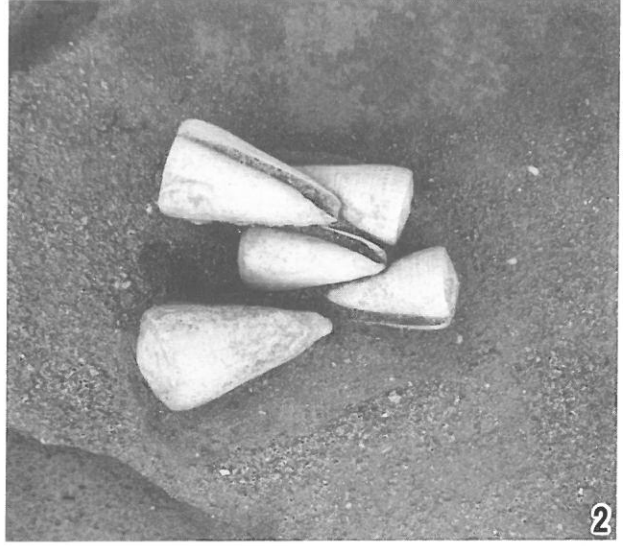
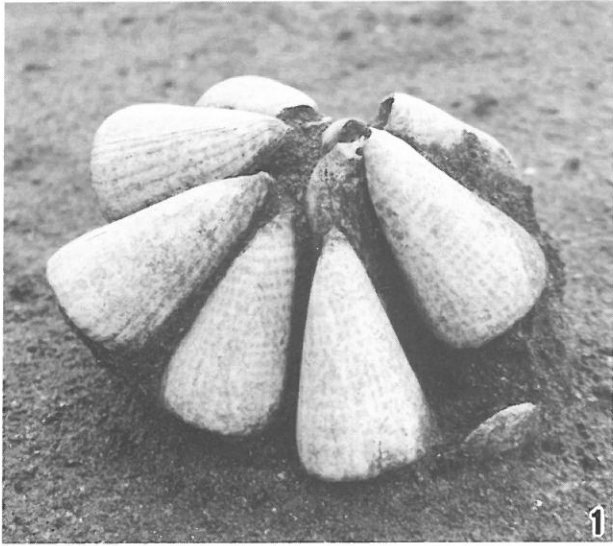
图版4 上：7地区V層面、下：灰集中土壤(7地区)



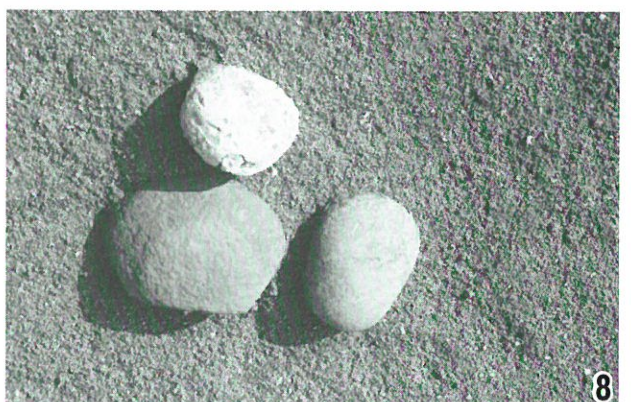
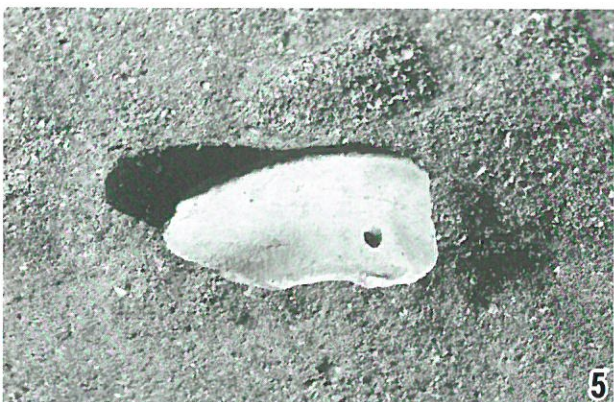
図版5 柱穴検出状況 1地区Ⅱ層面(1・6)、2地区Ⅱ層面(3・5・8)、3地区Ⅲ層面(7)
4・5地区(2)、6・7地区(2)



図版 6 発掘状況



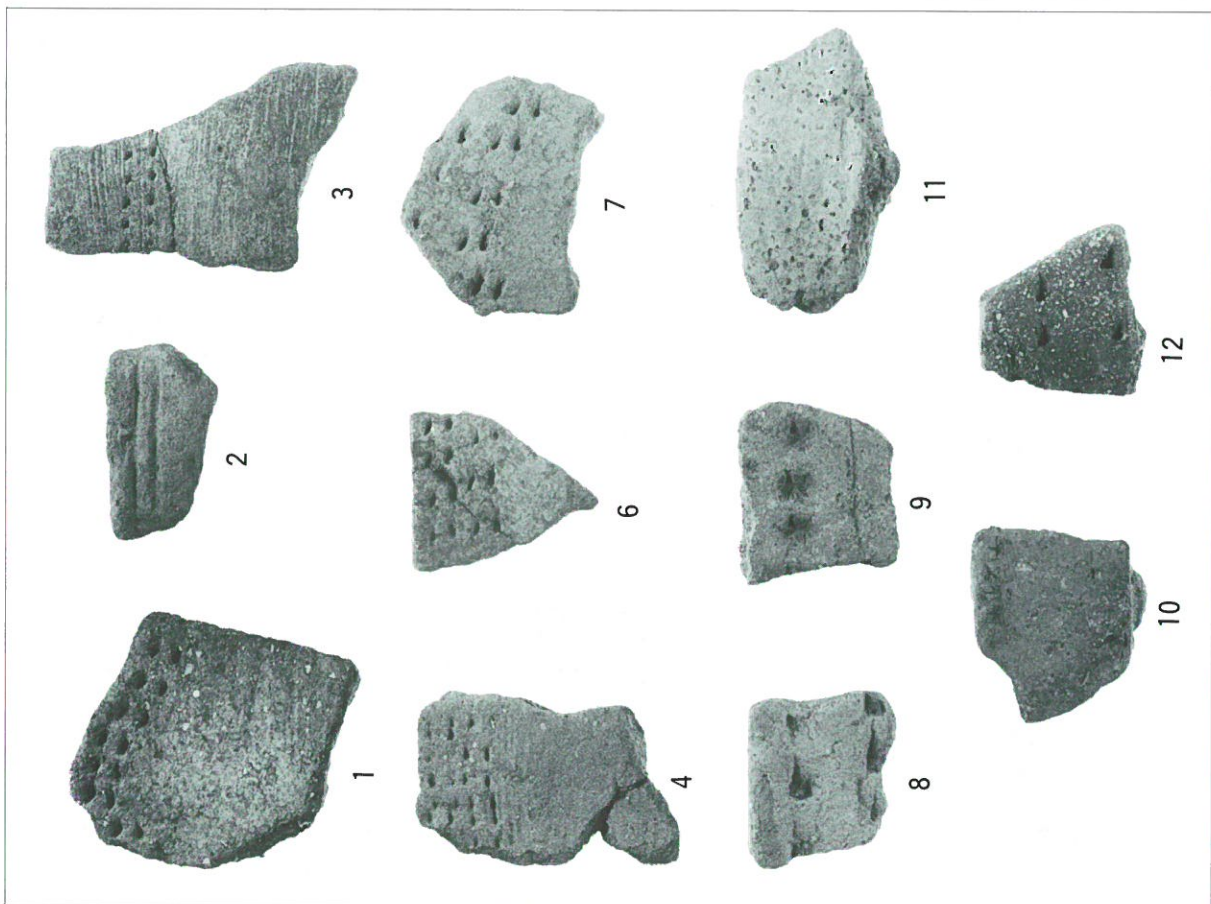
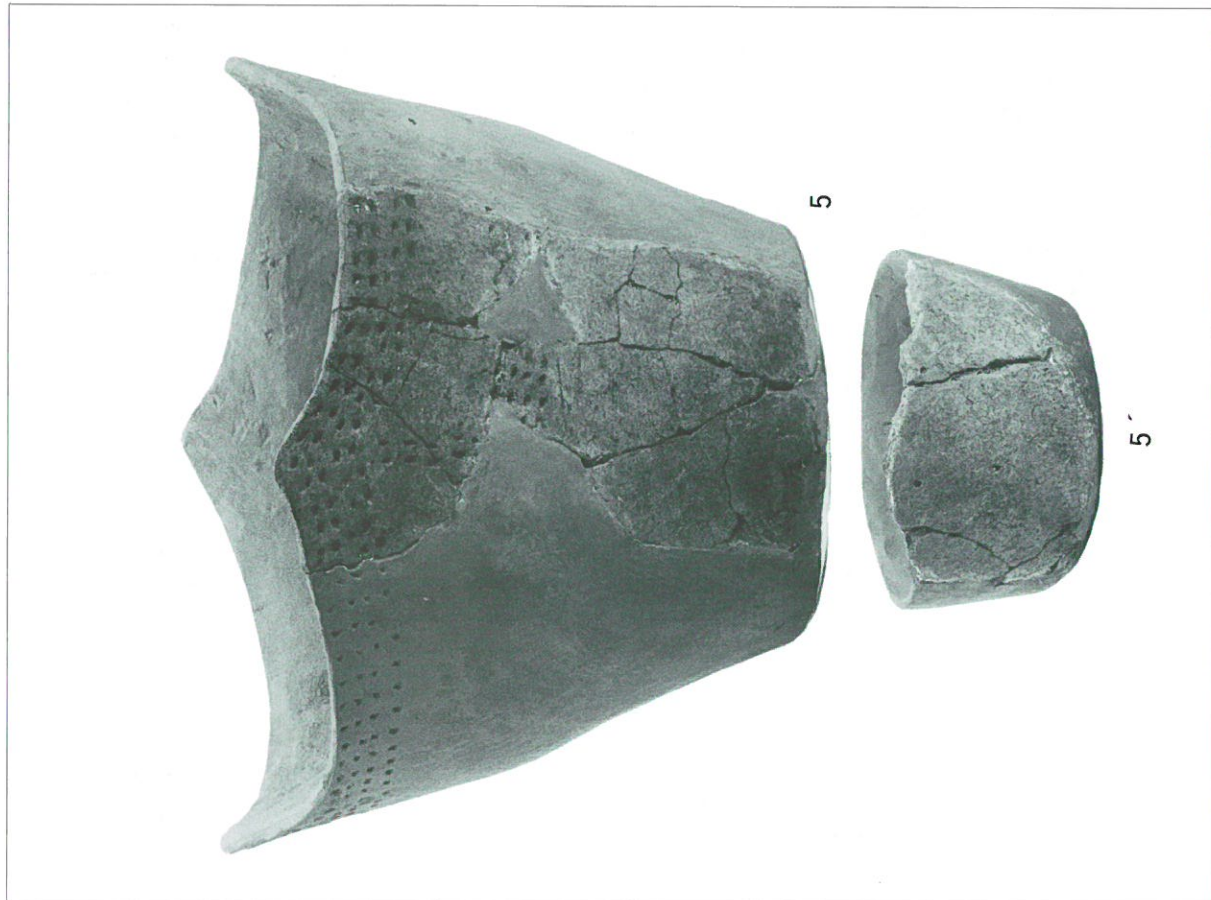
図版7 イモガイ集積とイモガイ製貝輪



図版 8 遺物検出状況①



図版9 遺物検出状況② ゴホウラ製貝輪 (1)、ホラガイ製品 (3)、土玉製品 (6)、開元通宝 (7)、イノシシ下顎骨 (2)、ジュゴン肋骨 (4)、ジュゴン頭骨 (5)、貝殻集中 (8)



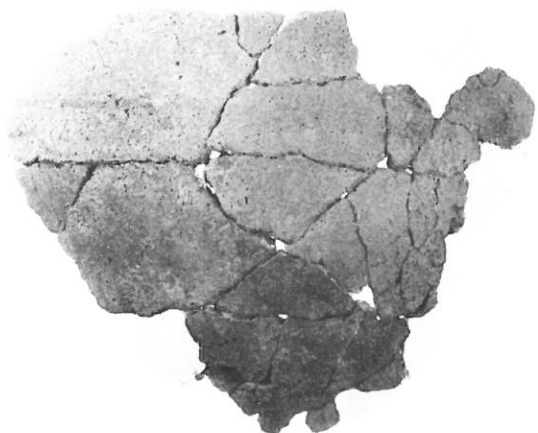
図版10 第1群 神野E式(1~3) 伊波式(4~7) 大山式(8・9) 室川式(10~12)



1



2



3



4



5



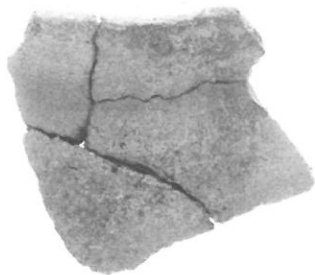
6



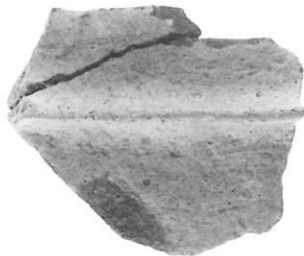
7



8



9

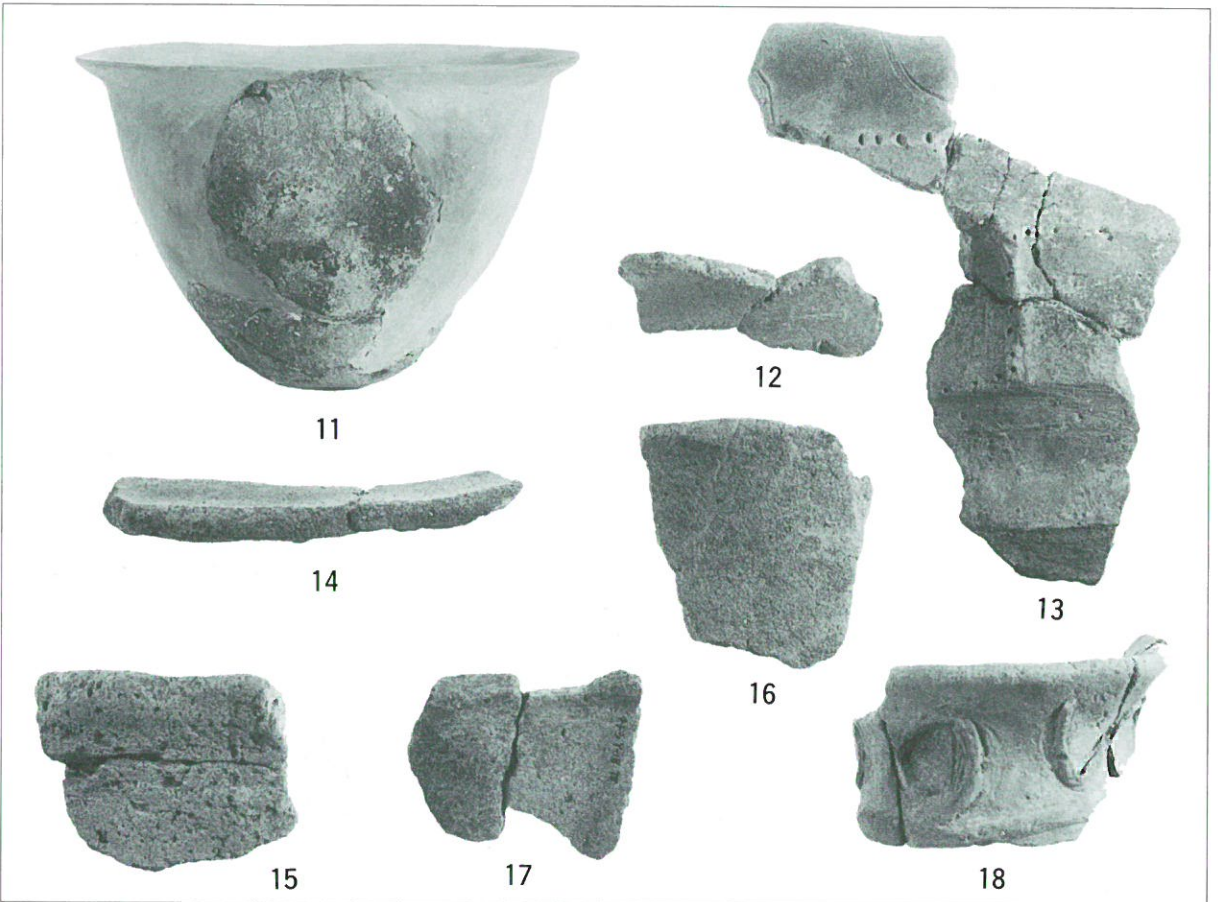
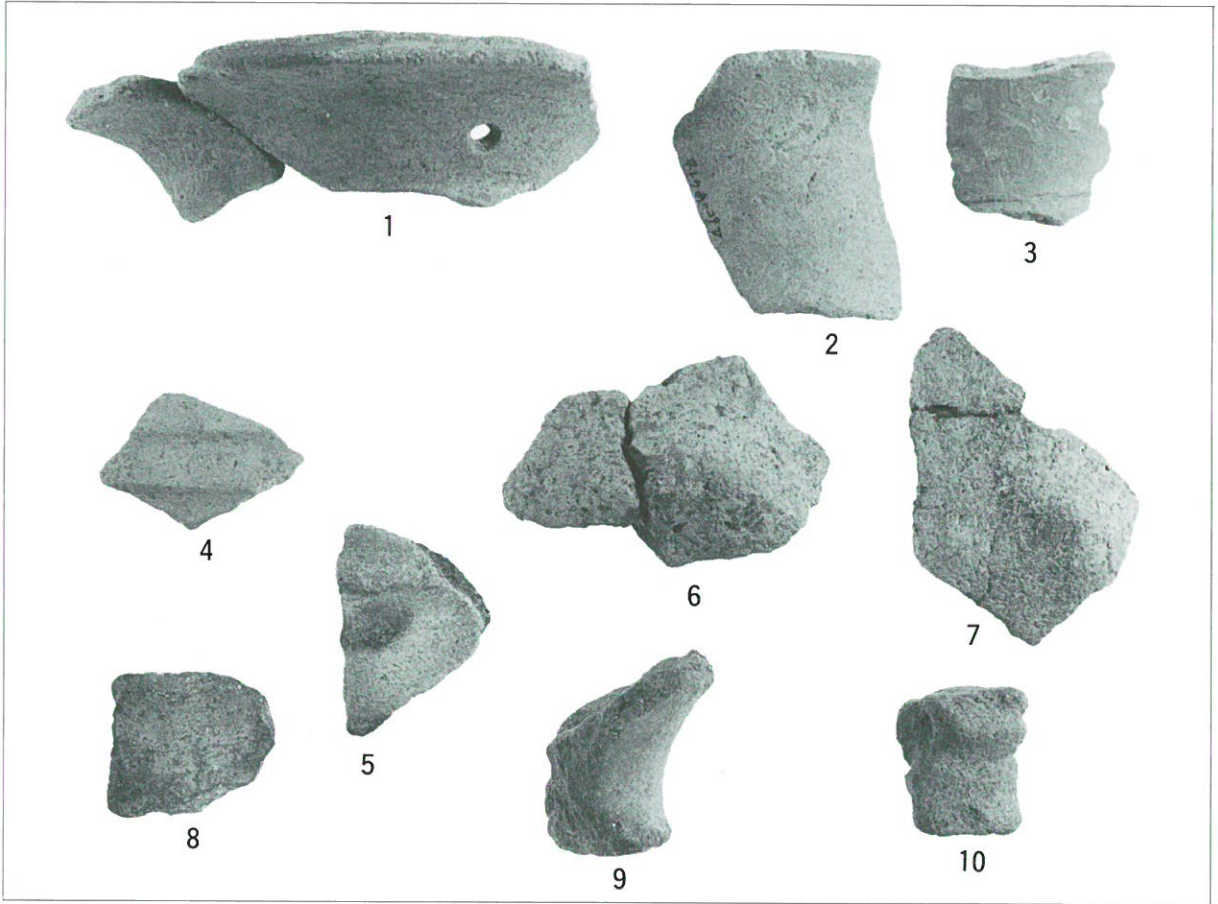


10

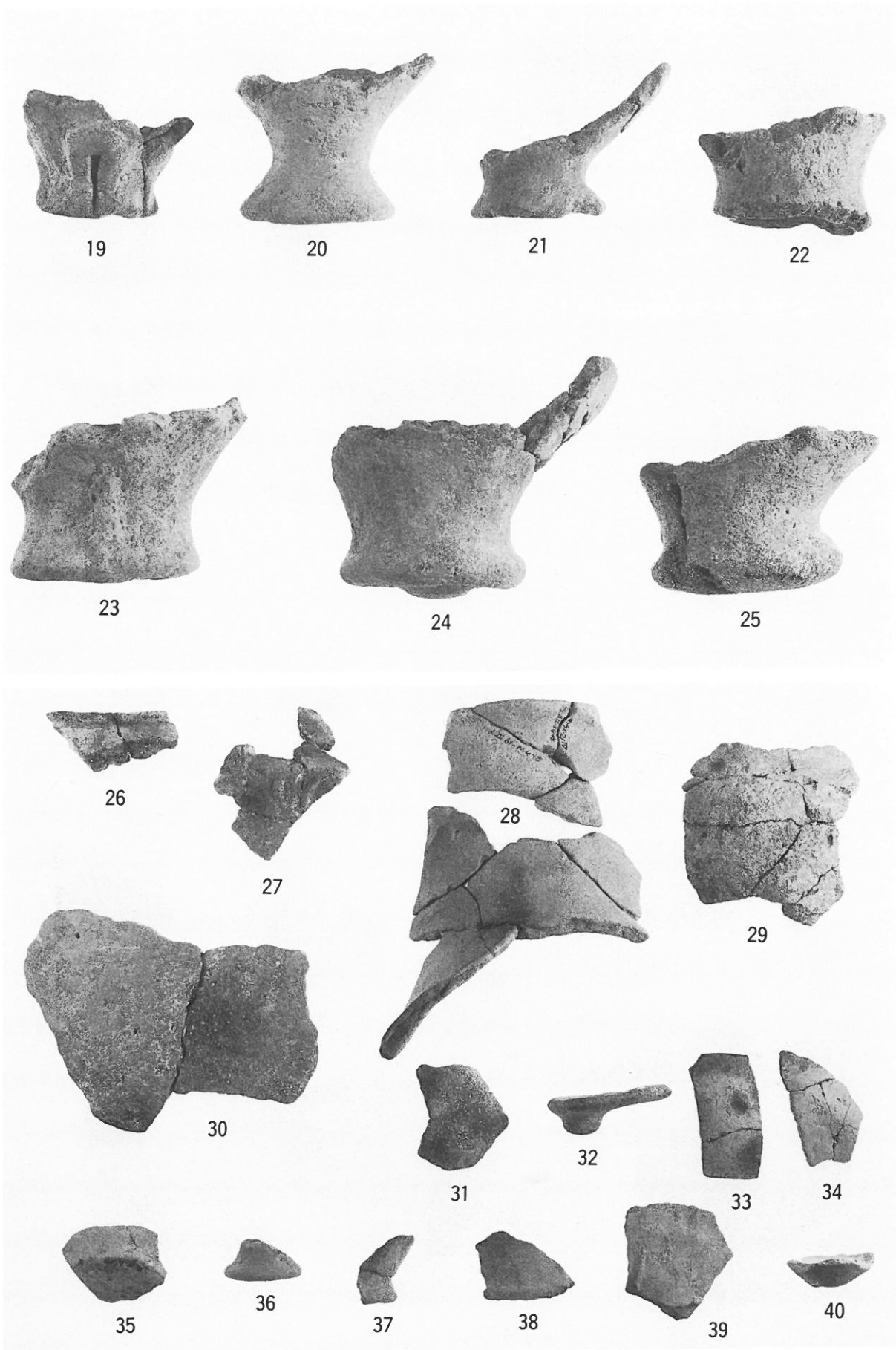


11

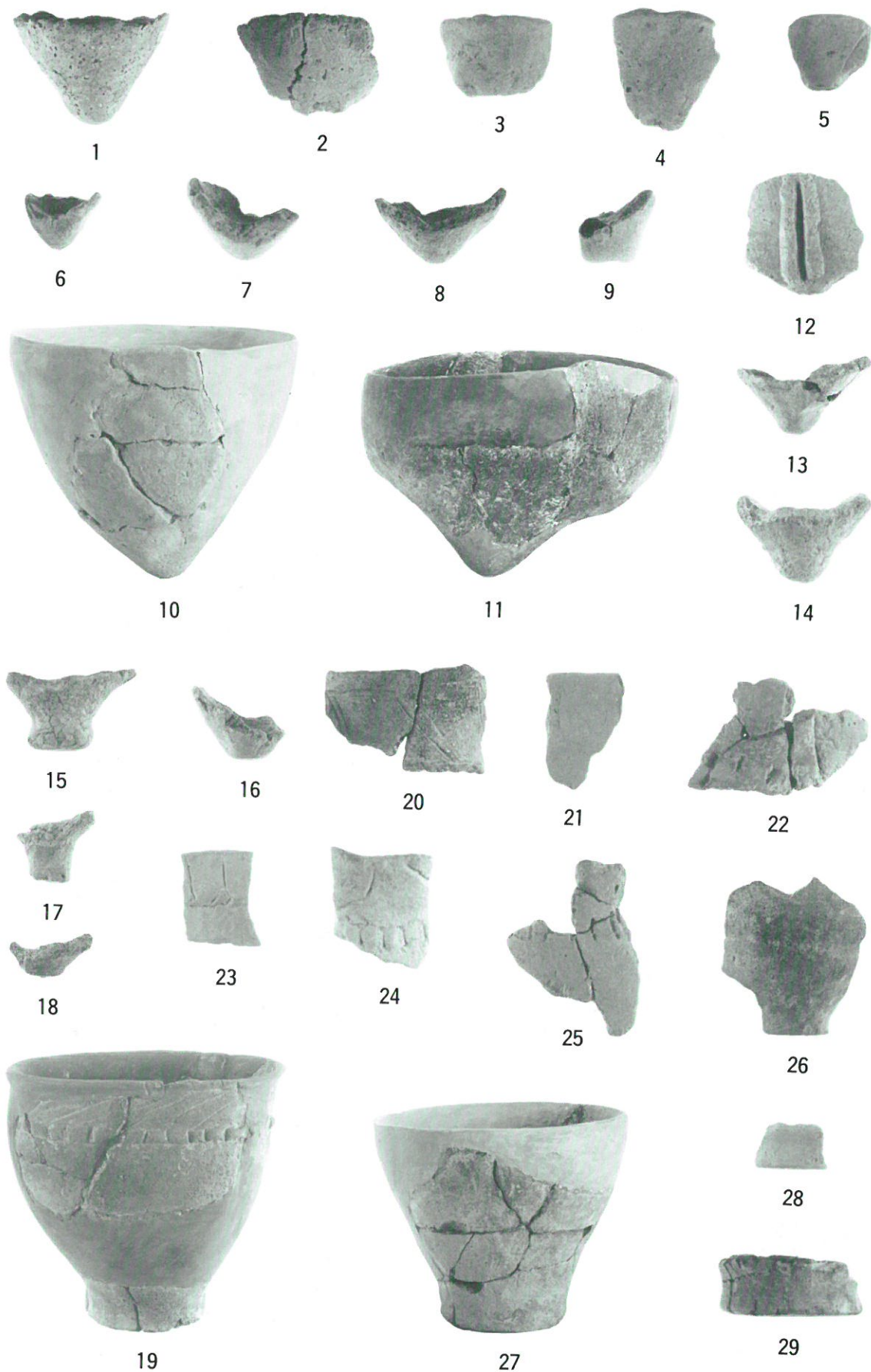
图版11 第2群



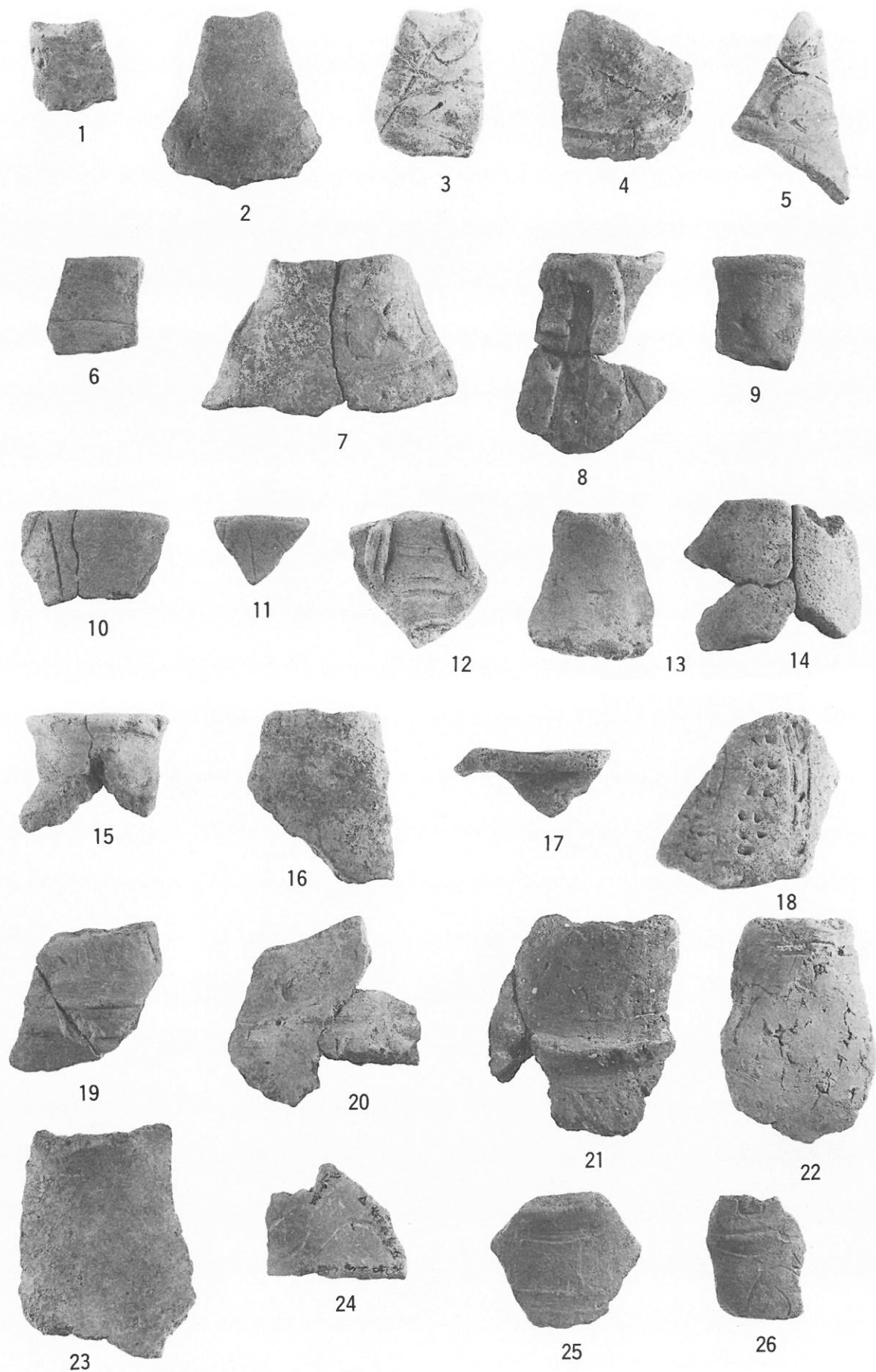
図版12 第3群 第1類 (1~10)、第2類 (11~18)



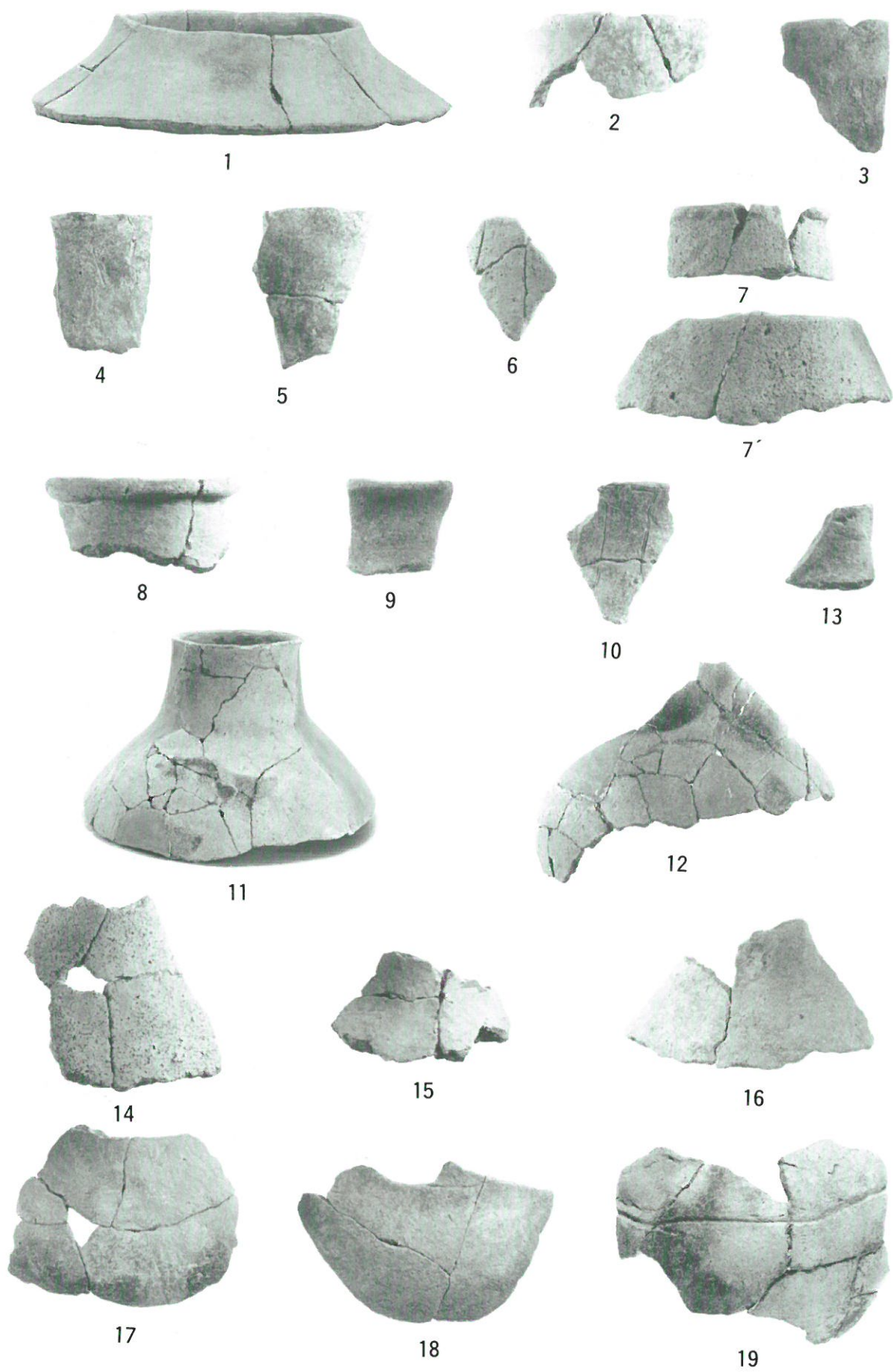
图版13 第3群 第2類



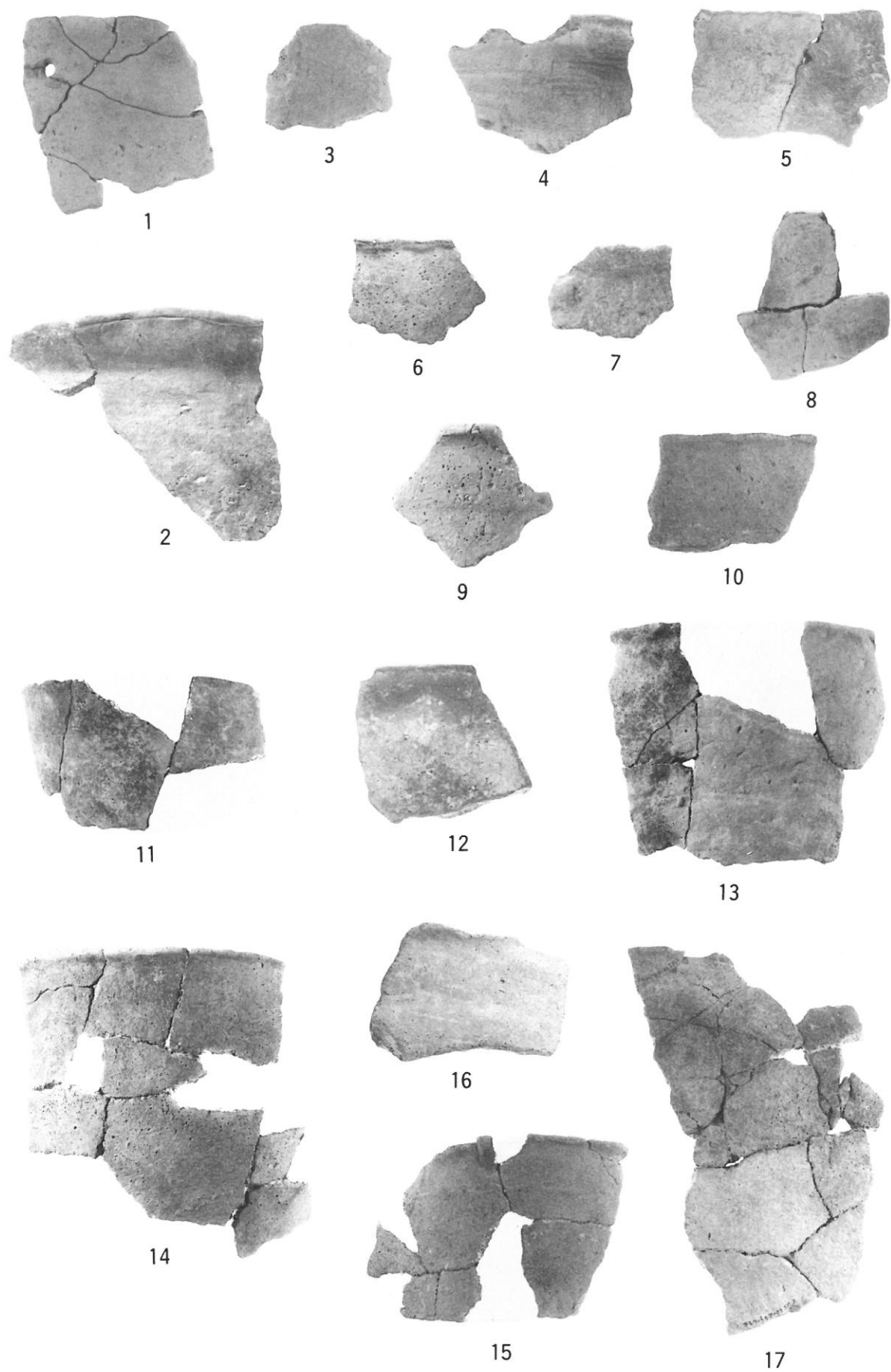
図版14 第3群 第3類 ミニチュア土器 (1~9)、小型 (10~29)



图版15 第3群 第3類 壺①小型



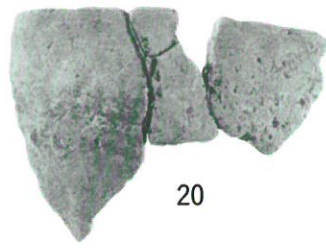
図版16 第3群 第3類 壺②大型



図版17 第3群 第3類 甕・鉢形(1)



18



20



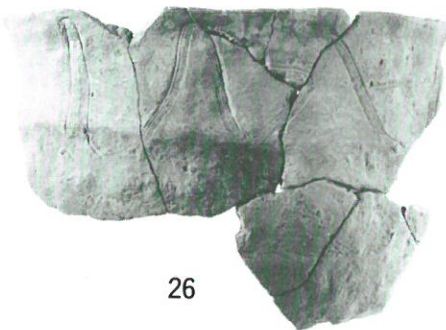
22



19



24



26



21



23



25



28



27

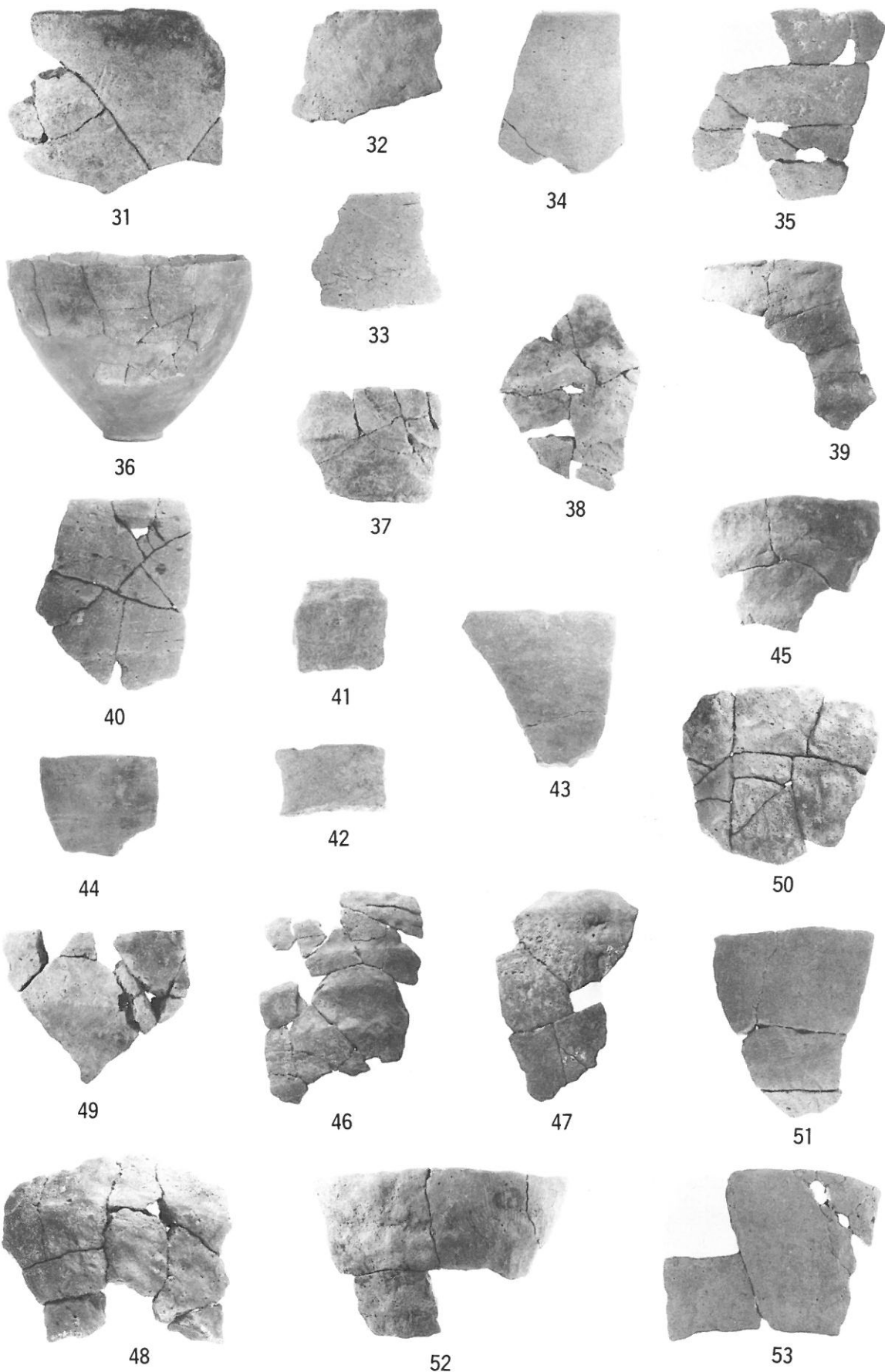


29

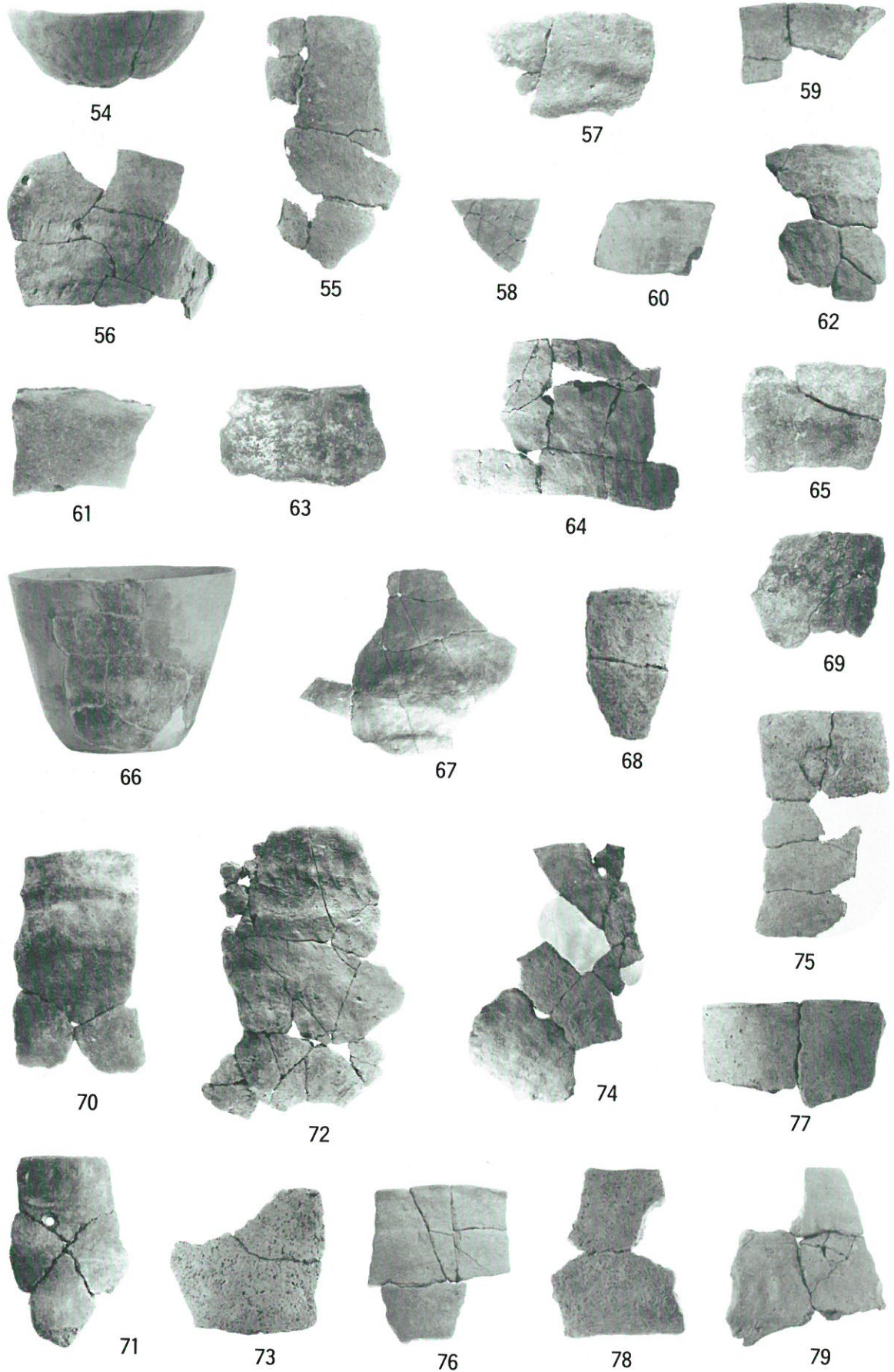


30

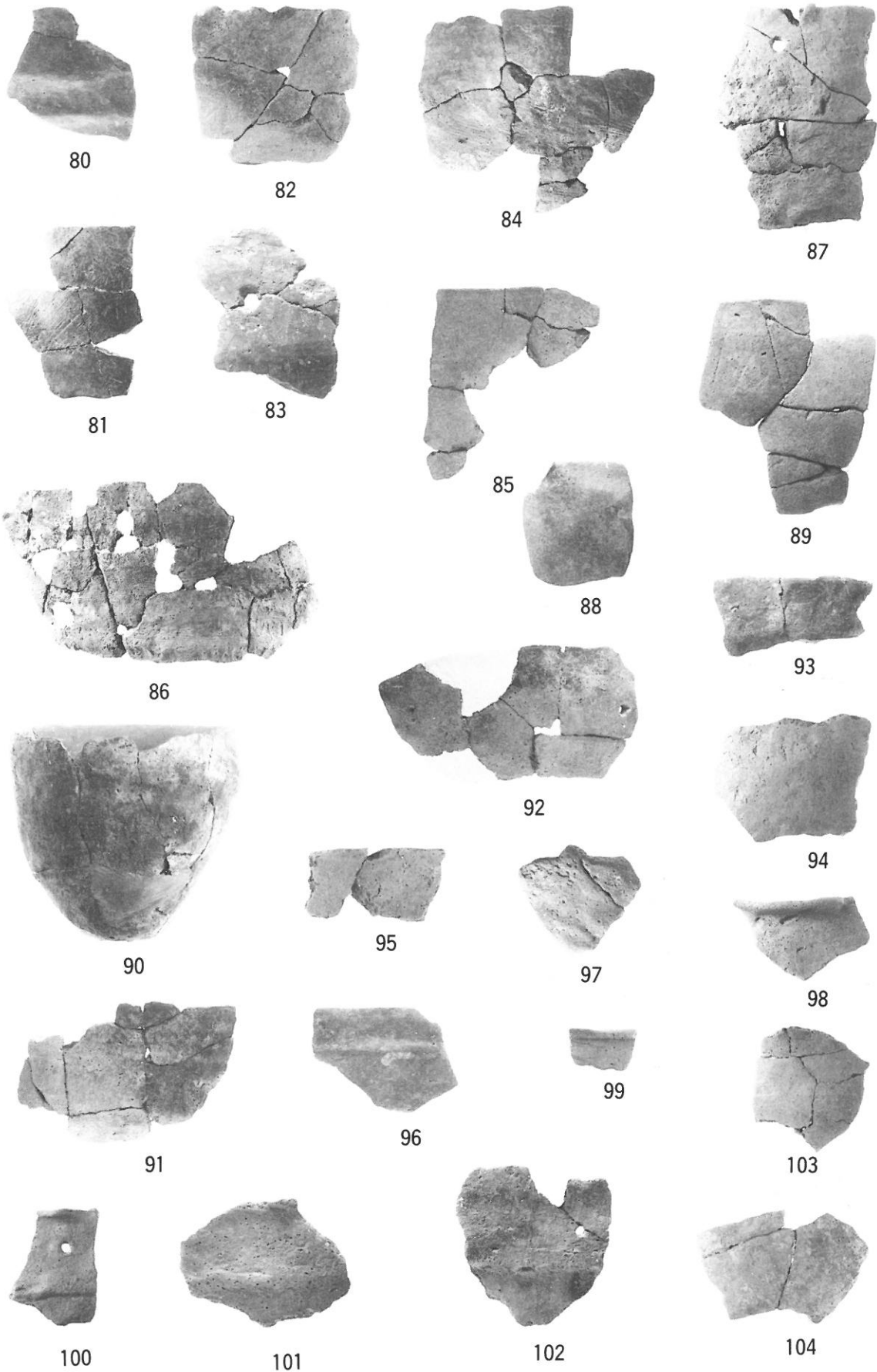
図版18 第3群 第3類 甕・鉢形(2)



図版19 第3群 第3類 甕・鉢形 (3)



図版20 第3群 第3類 甕・鉢形 (4)



图版21 第3群 第3類 甕・鉢形 (5)



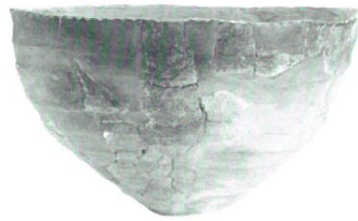
1



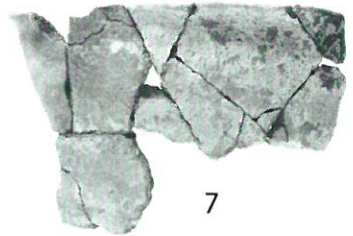
2



3



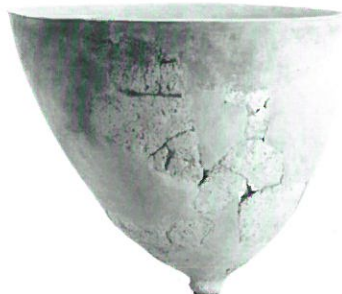
5



7



4



6



8



9

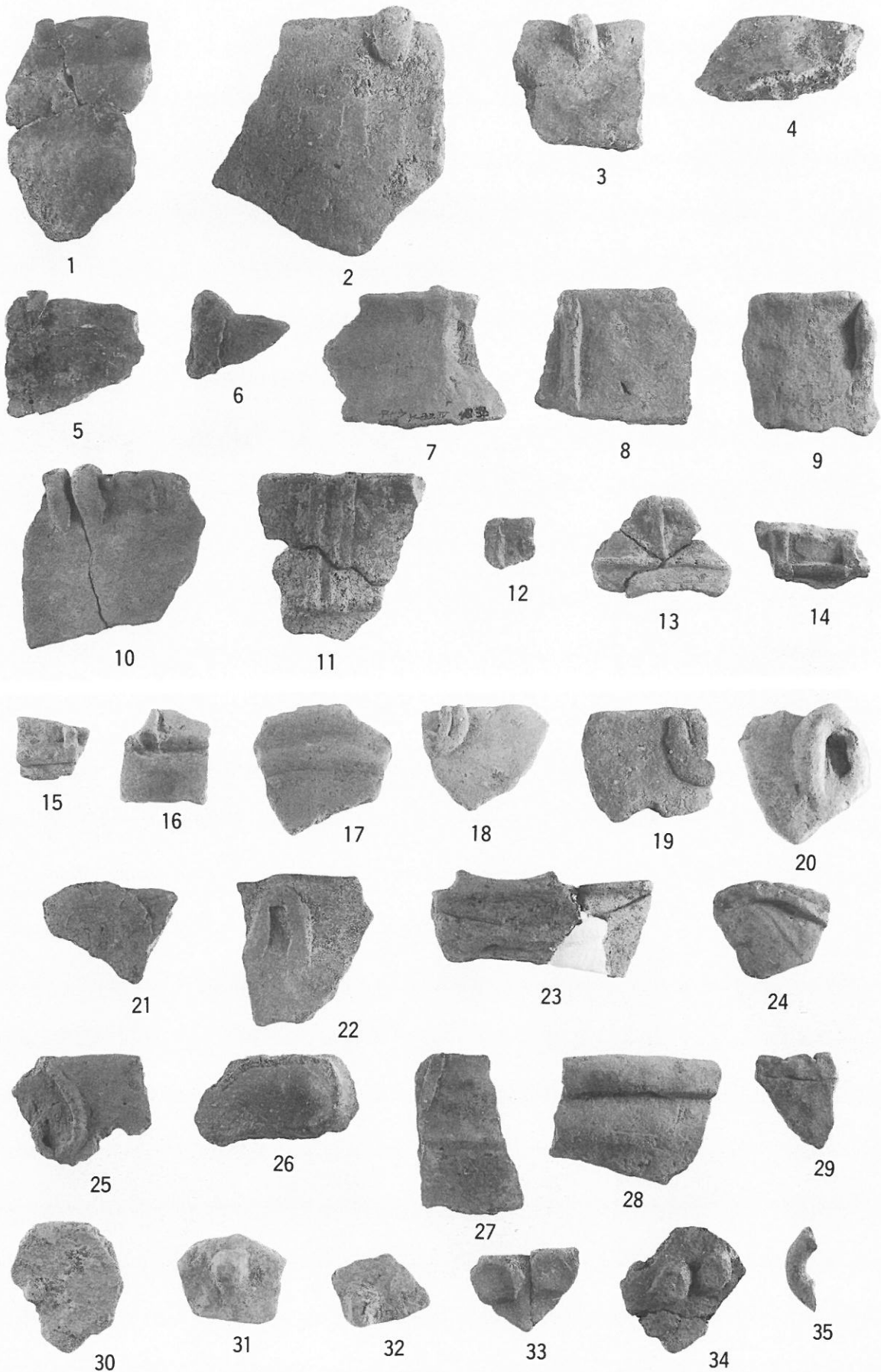


10

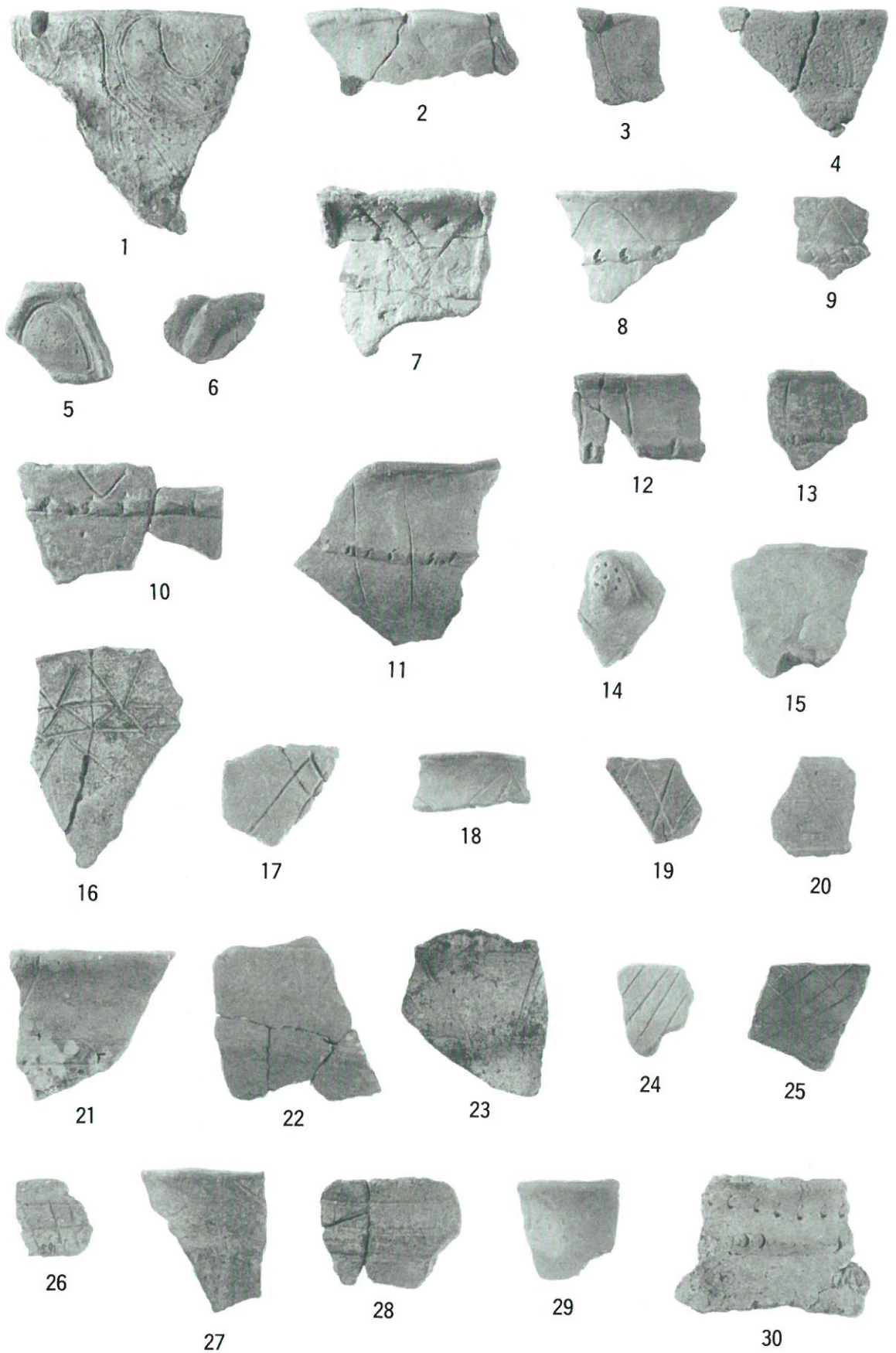


11

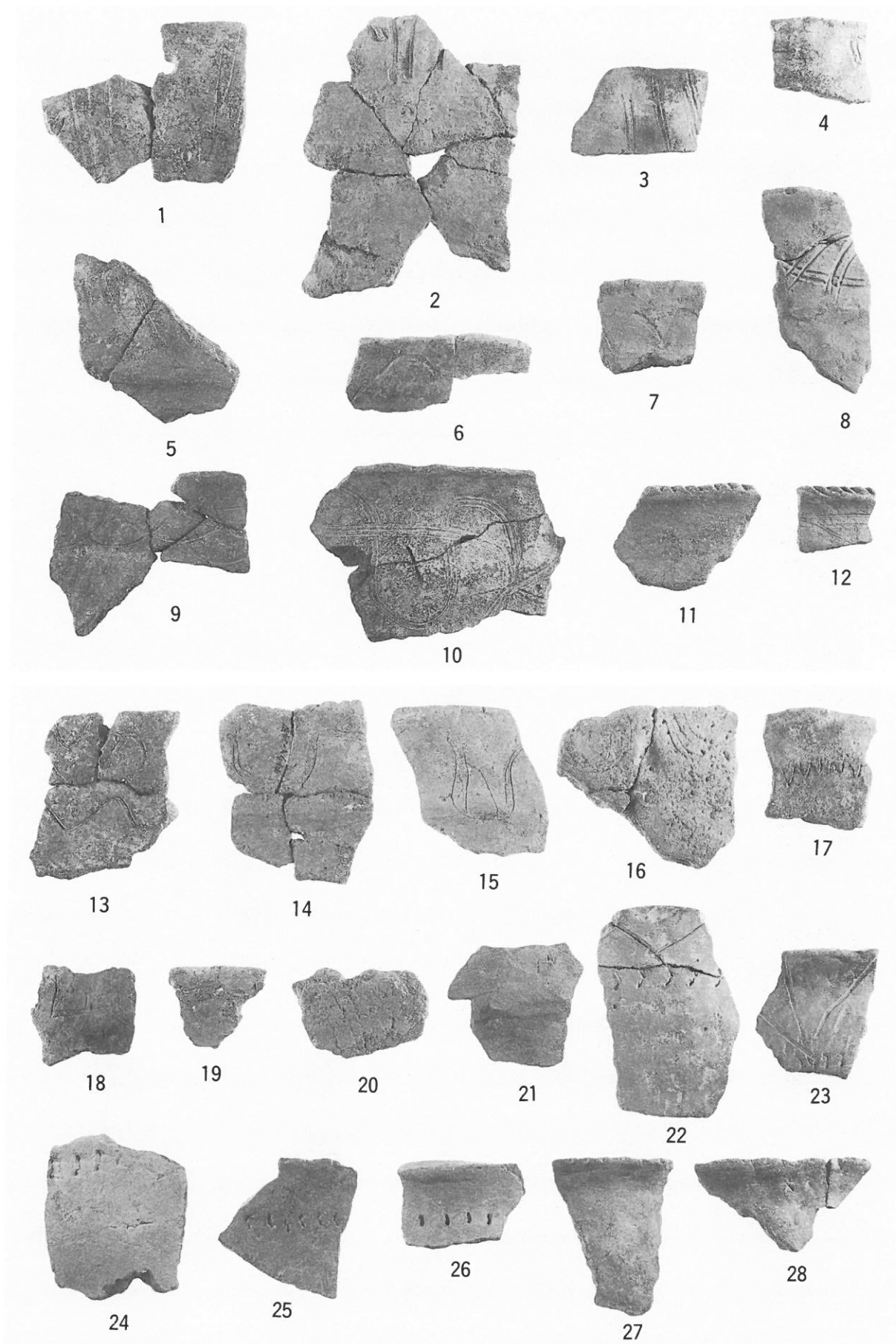
图版22 第3群 第3类 大型土器



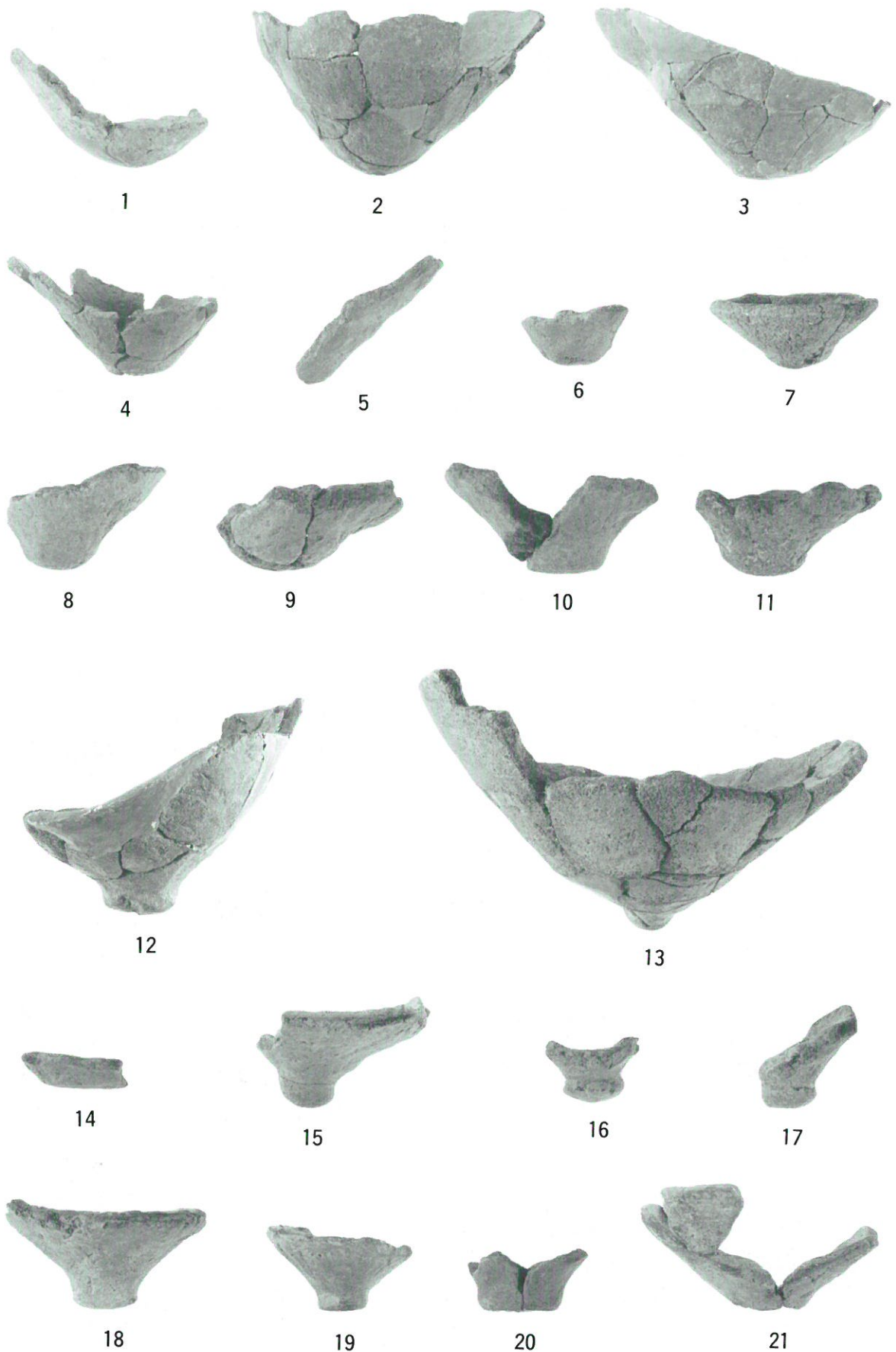
図版23 有文第1類 凸帯



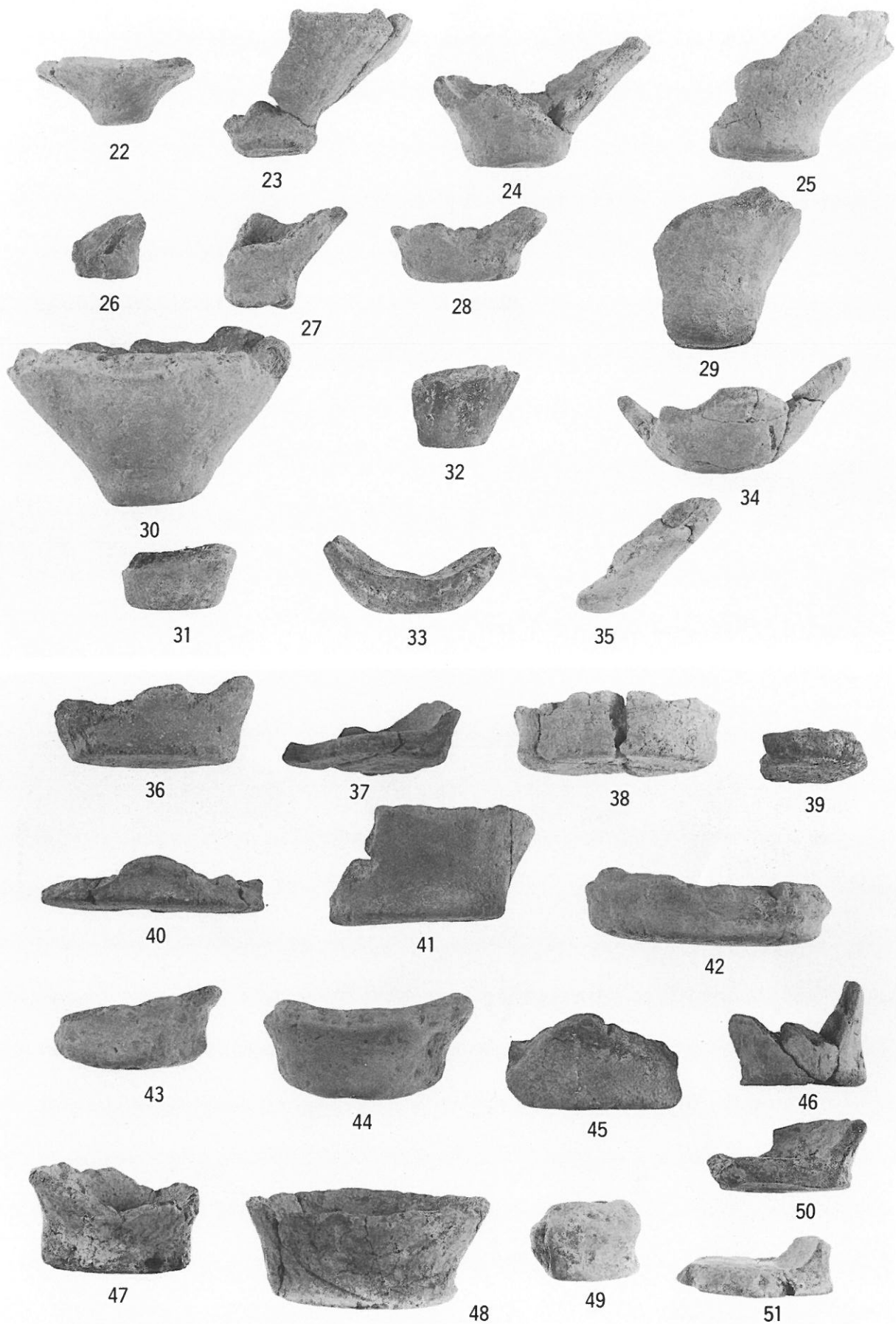
图版24 有文第2類 凸帶十沈文



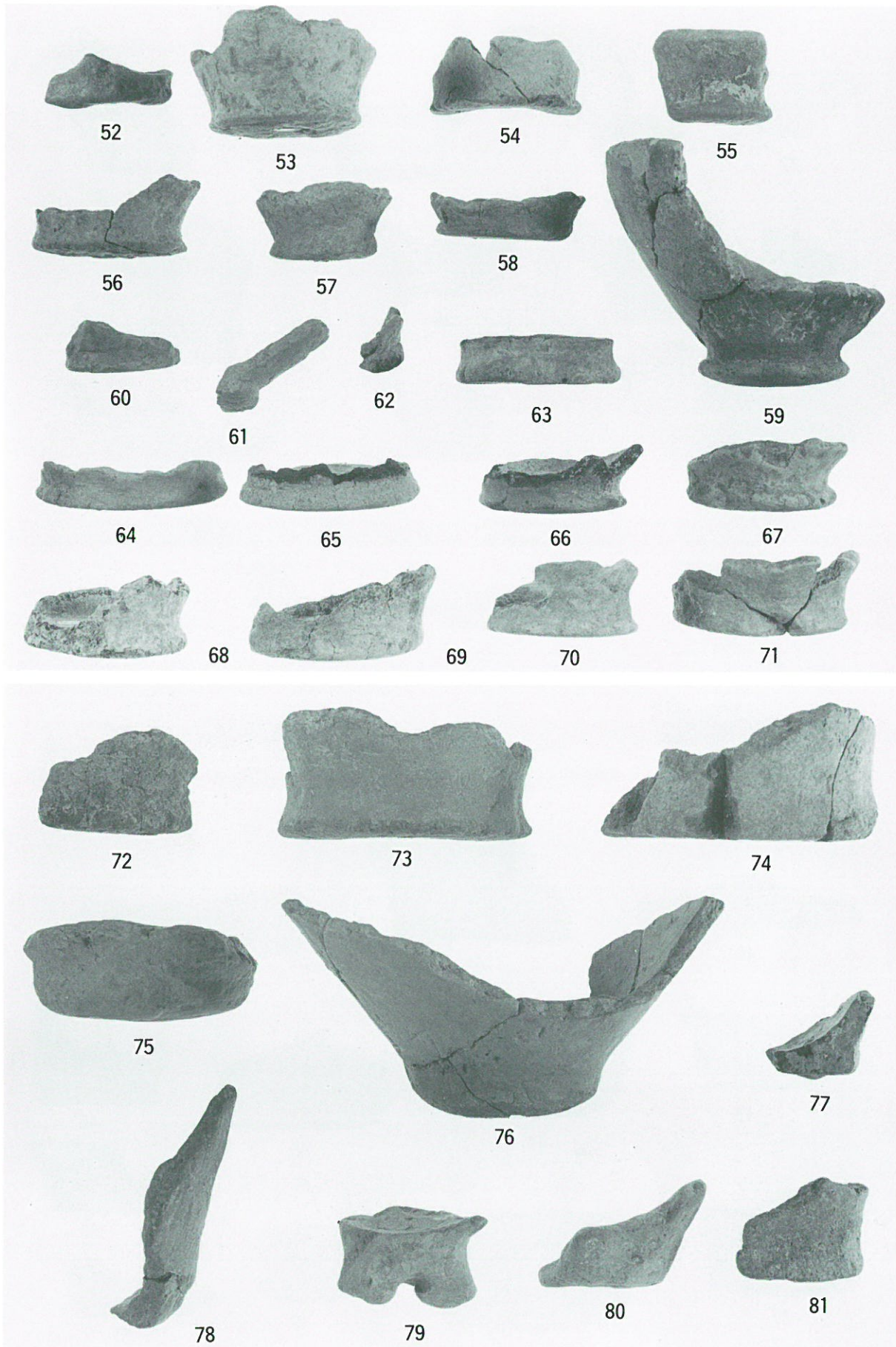
図版25 有文第3類 沈線



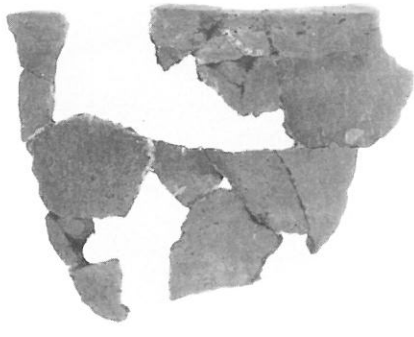
图版26 底部 (1) 第1種 (1)、第2種 (2~7·9)、第3種 (8·10~21)



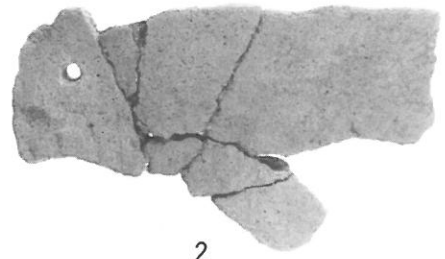
図版27 底部 (2) 第3種 (22~32)、第4種 (33~51)



図版28 底部 (3) 第4種 (52~73)、第5種 (74~81)



1



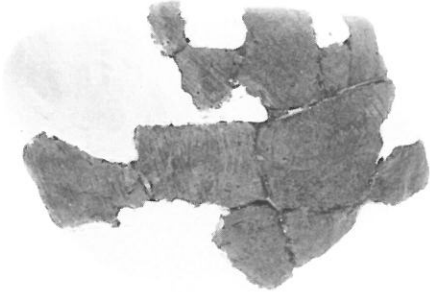
2



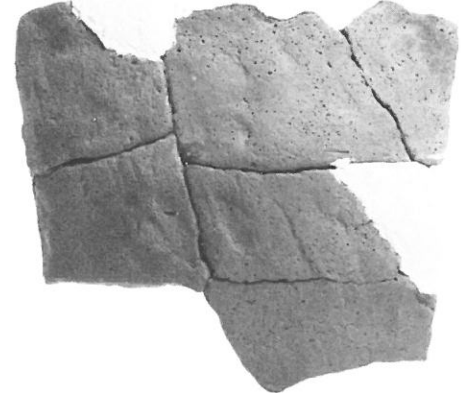
3



4



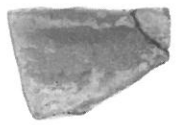
5



6



7



9



10



12



8

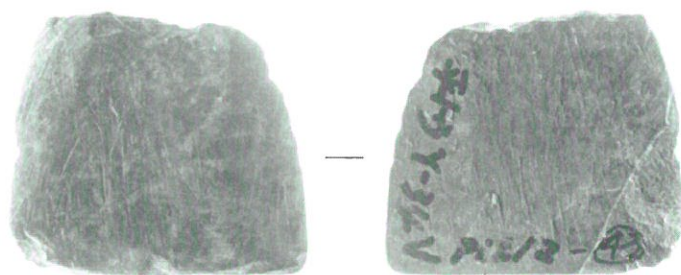


11

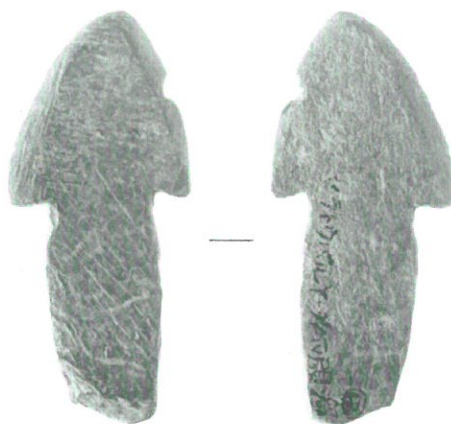


13

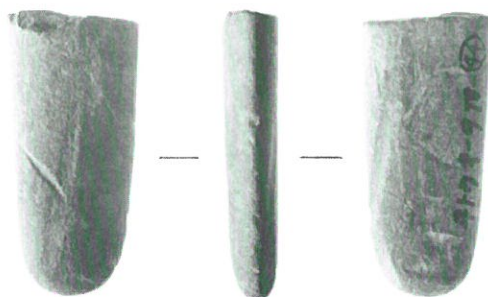
図版29 第3群 第3種 (1~9) 第4群 (10~13)



1

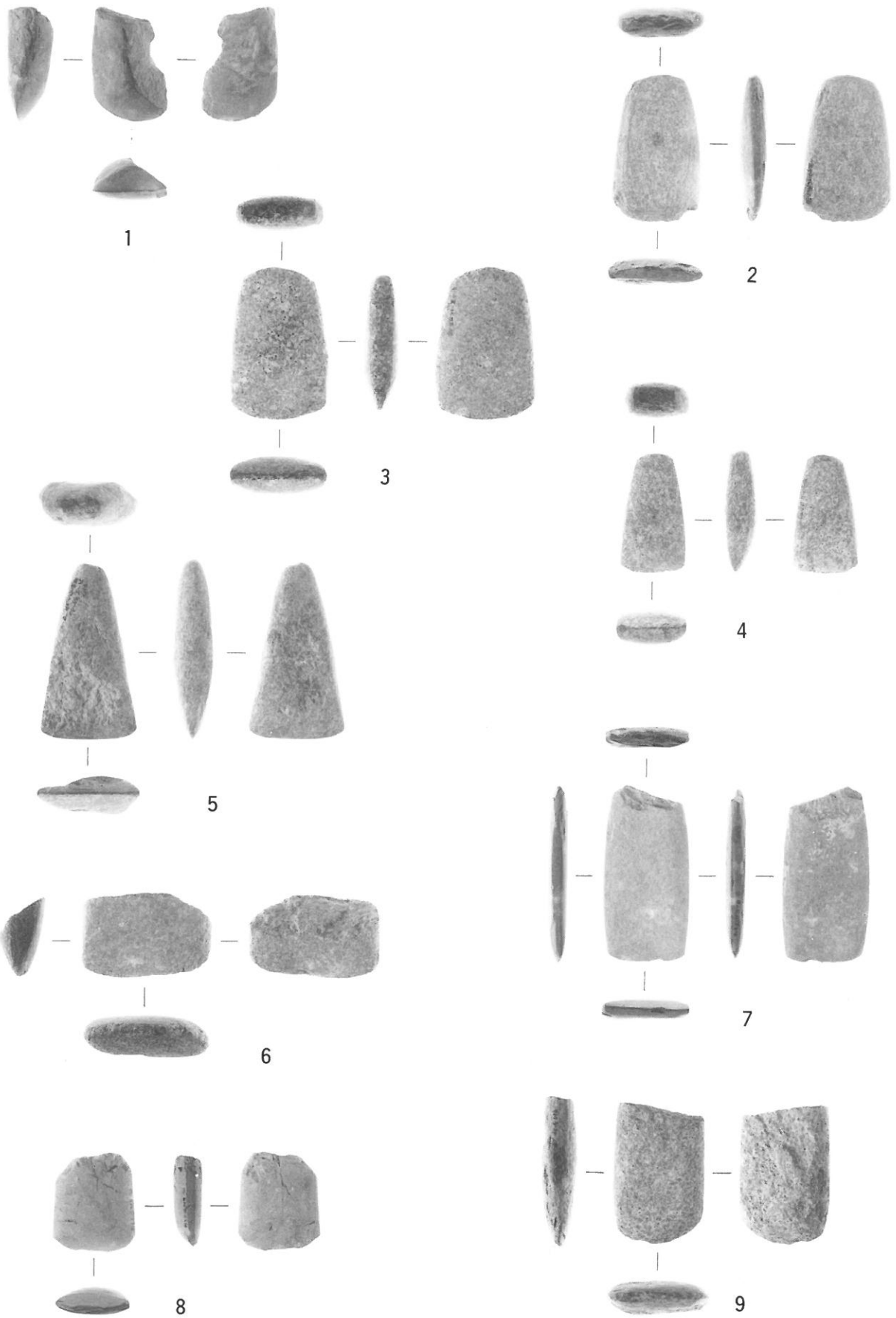


2

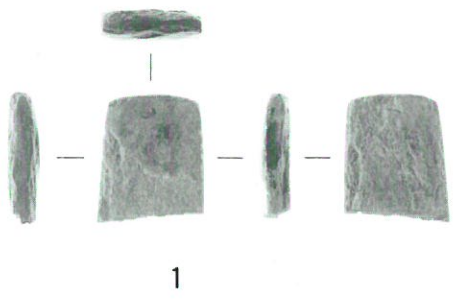


3

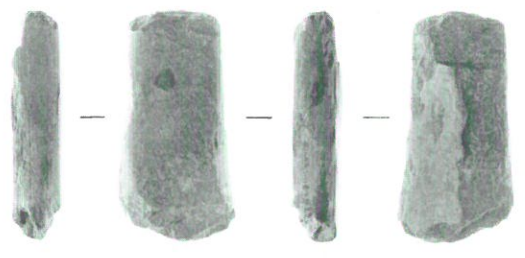
图版30 石鍬 (1·2) 石製品 (3)



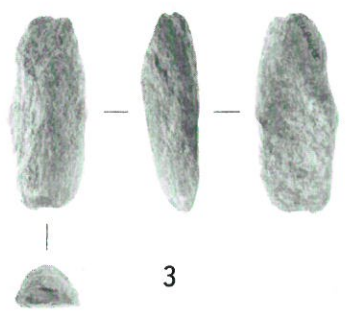
图版31 石斧①



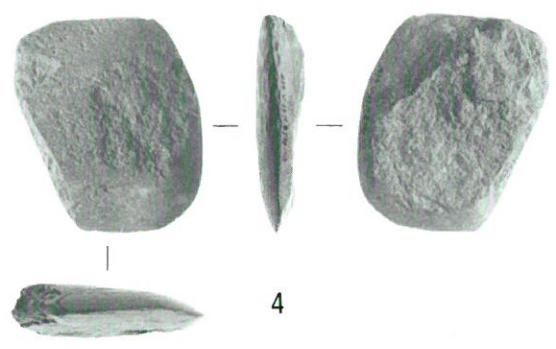
1



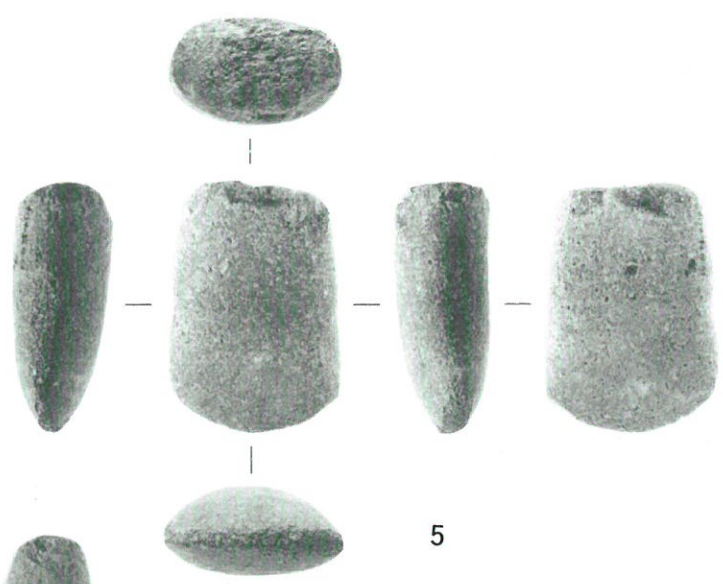
2



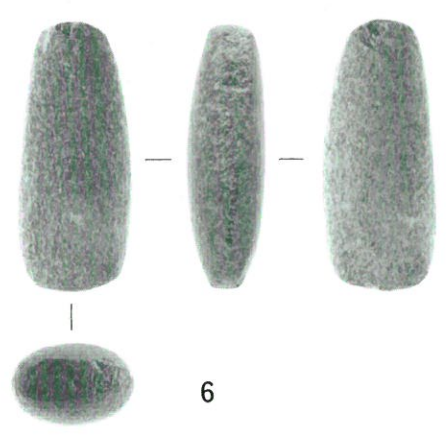
3



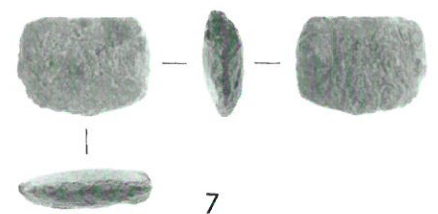
4



5

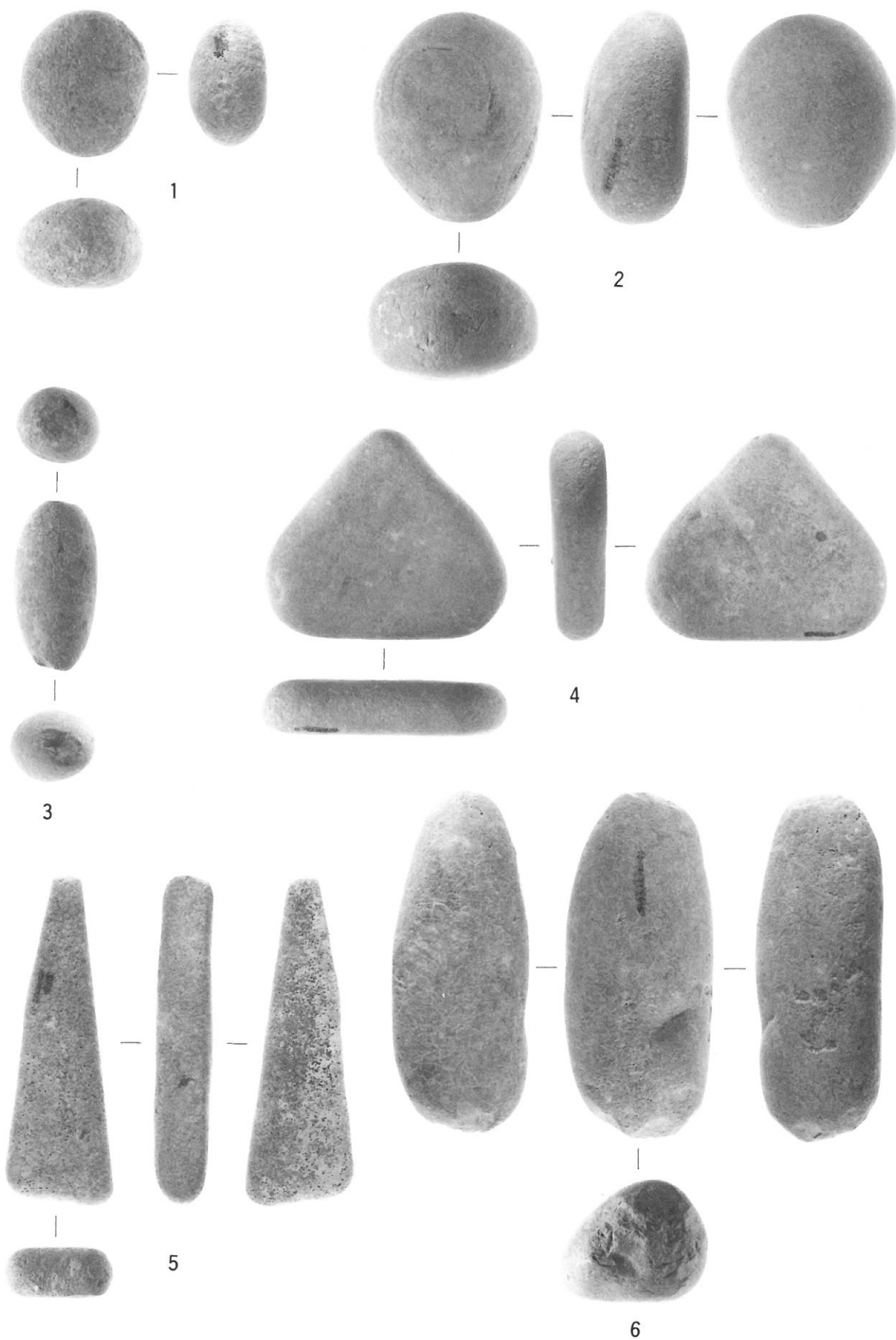


6

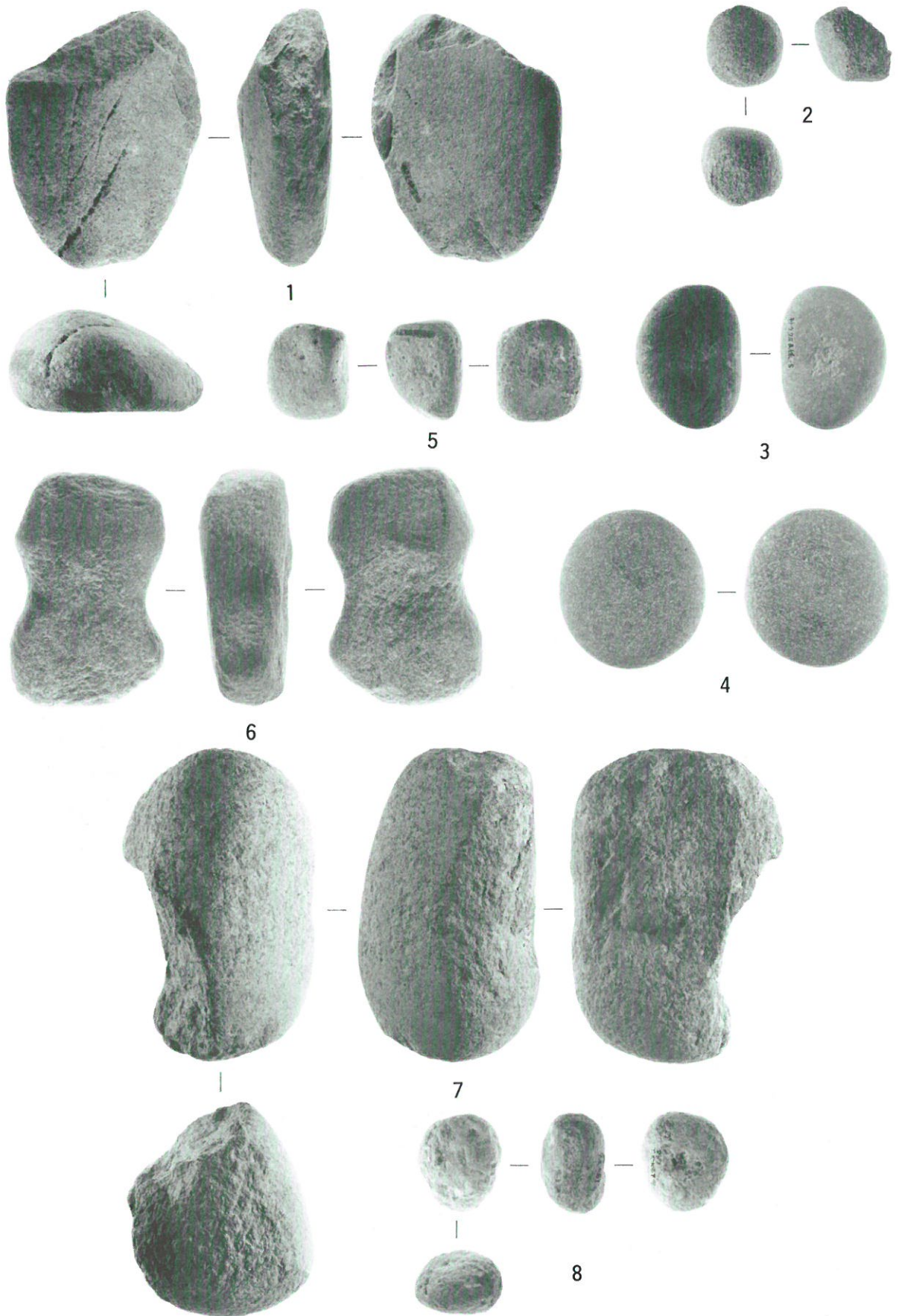


7

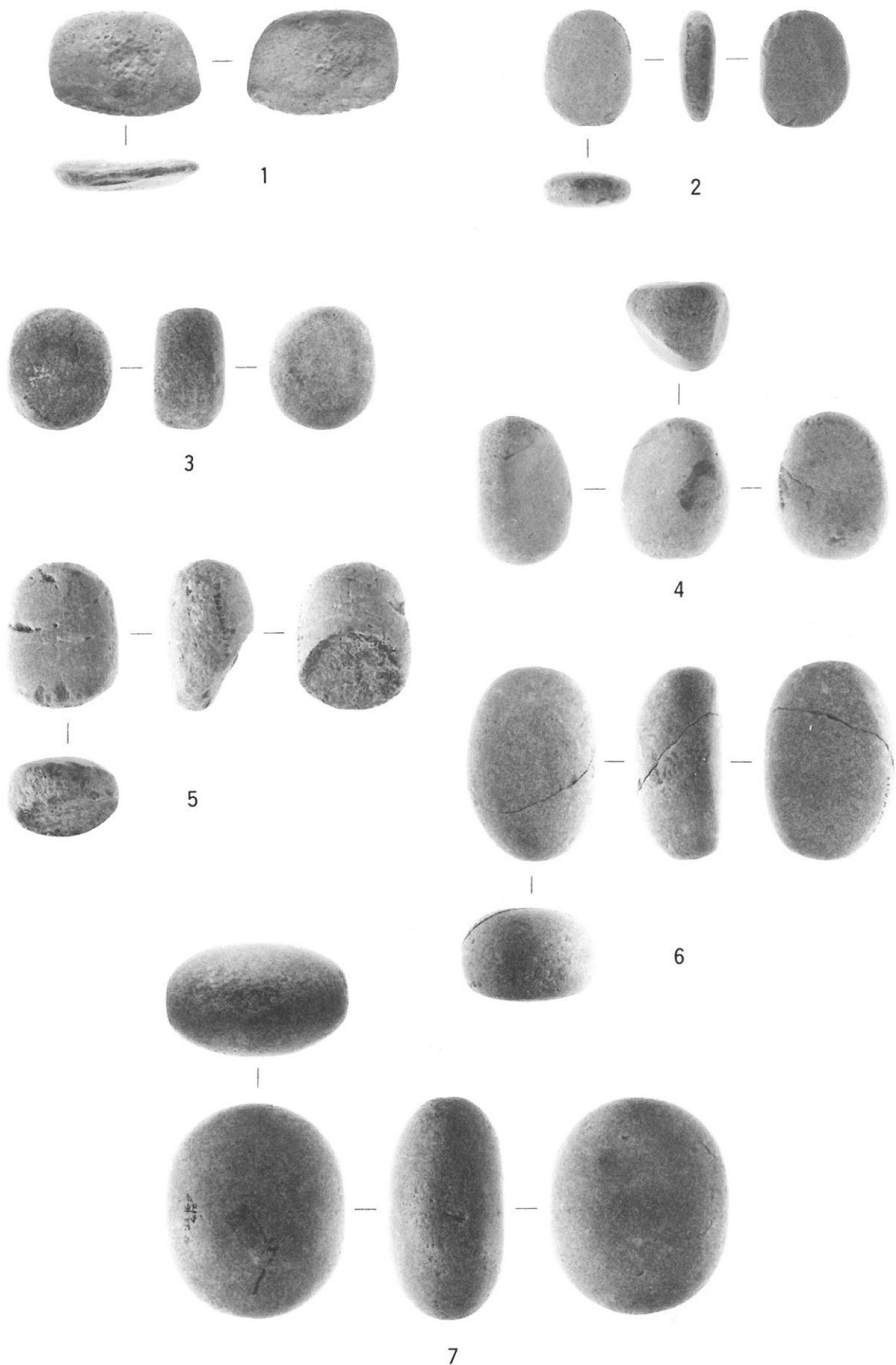
図版32 石斧② 石斧 (1・4) 石斧未製品 (2) 局部磨製石斧 (3) 石斧転用品 (5~7)



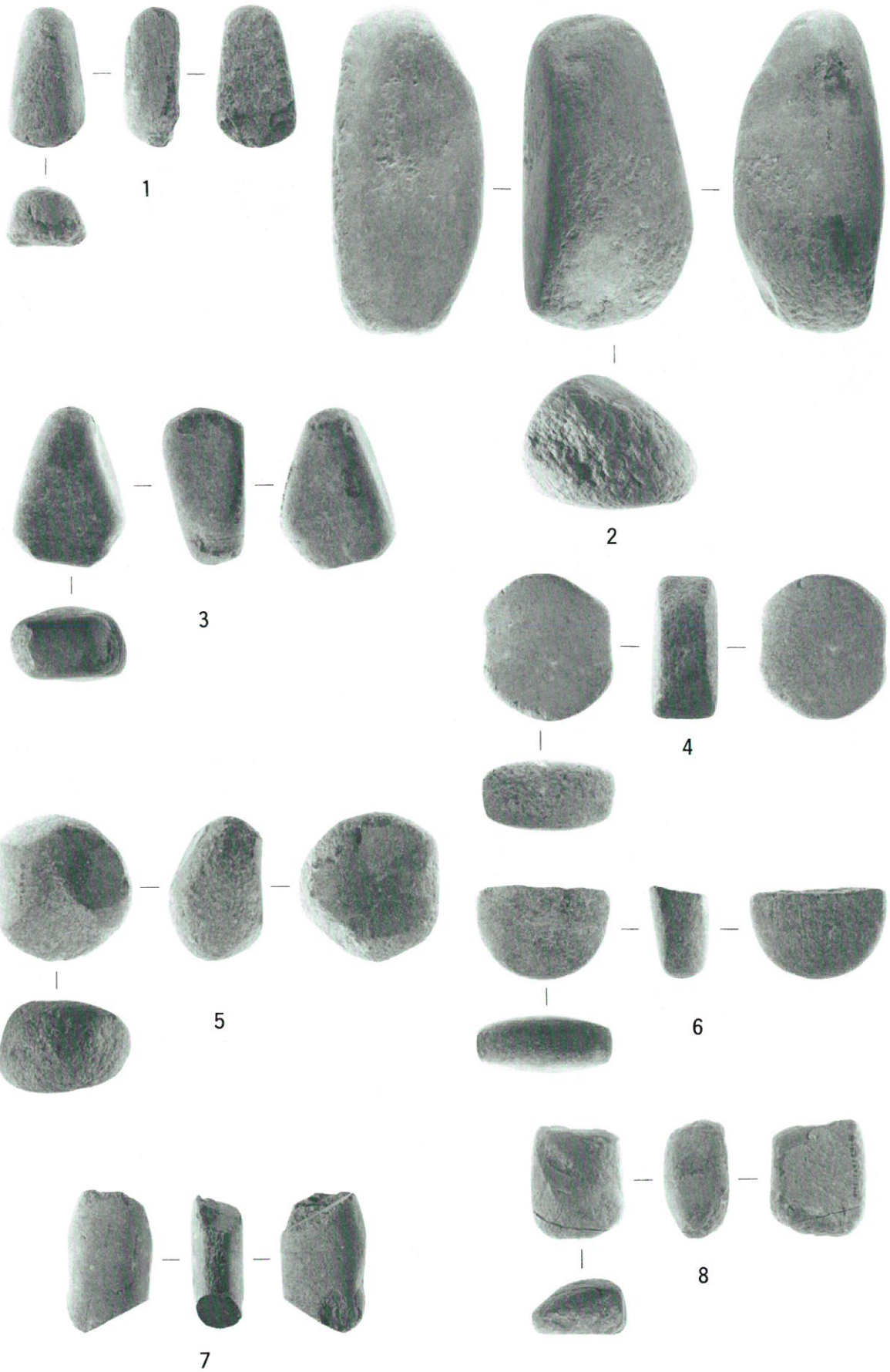
図版33 敲石・磨石類① A類



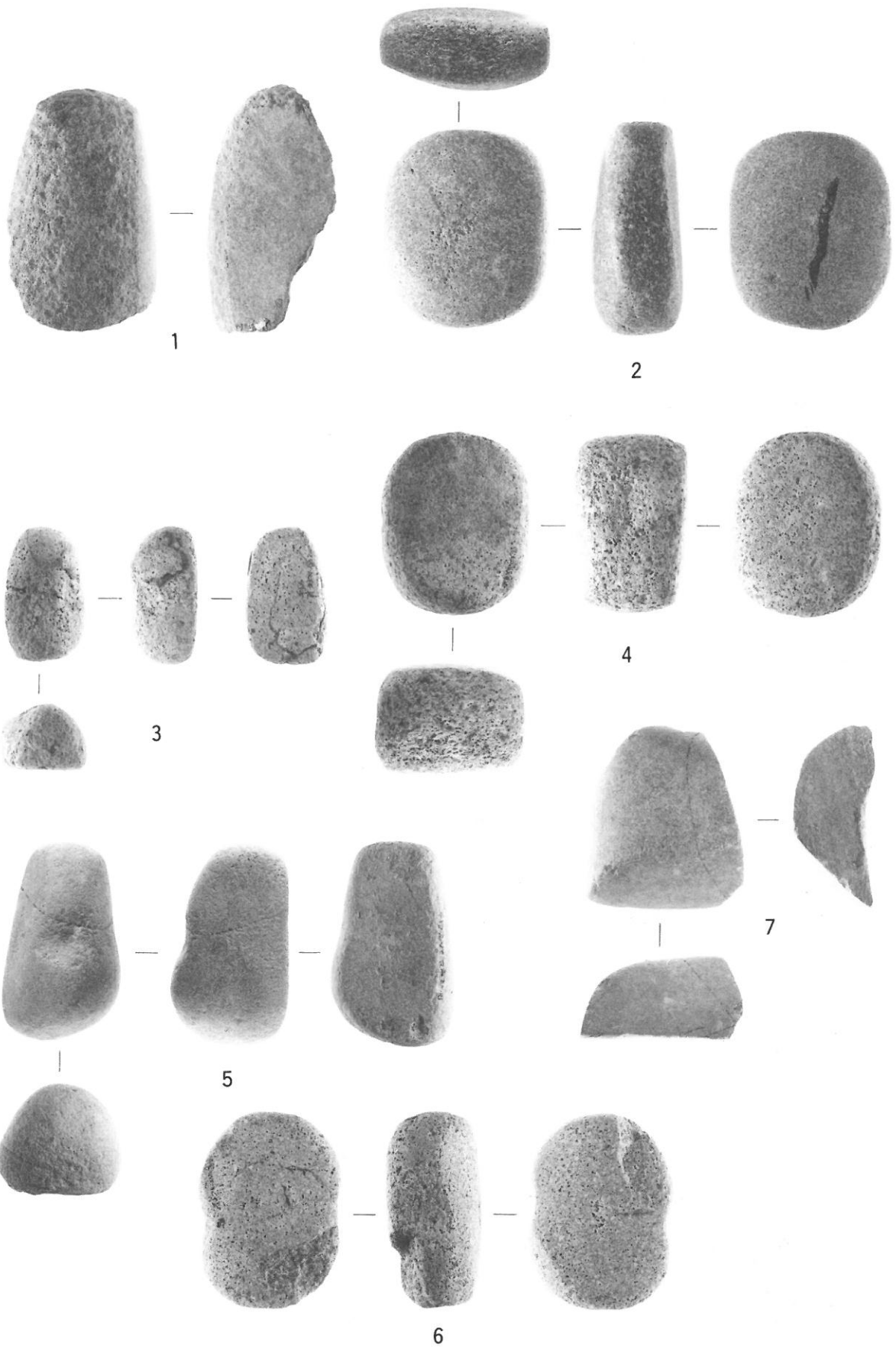
図版34 敲石・磨石類② A類 (1・2) B類 (3) C類 (4) D類 (5~8)



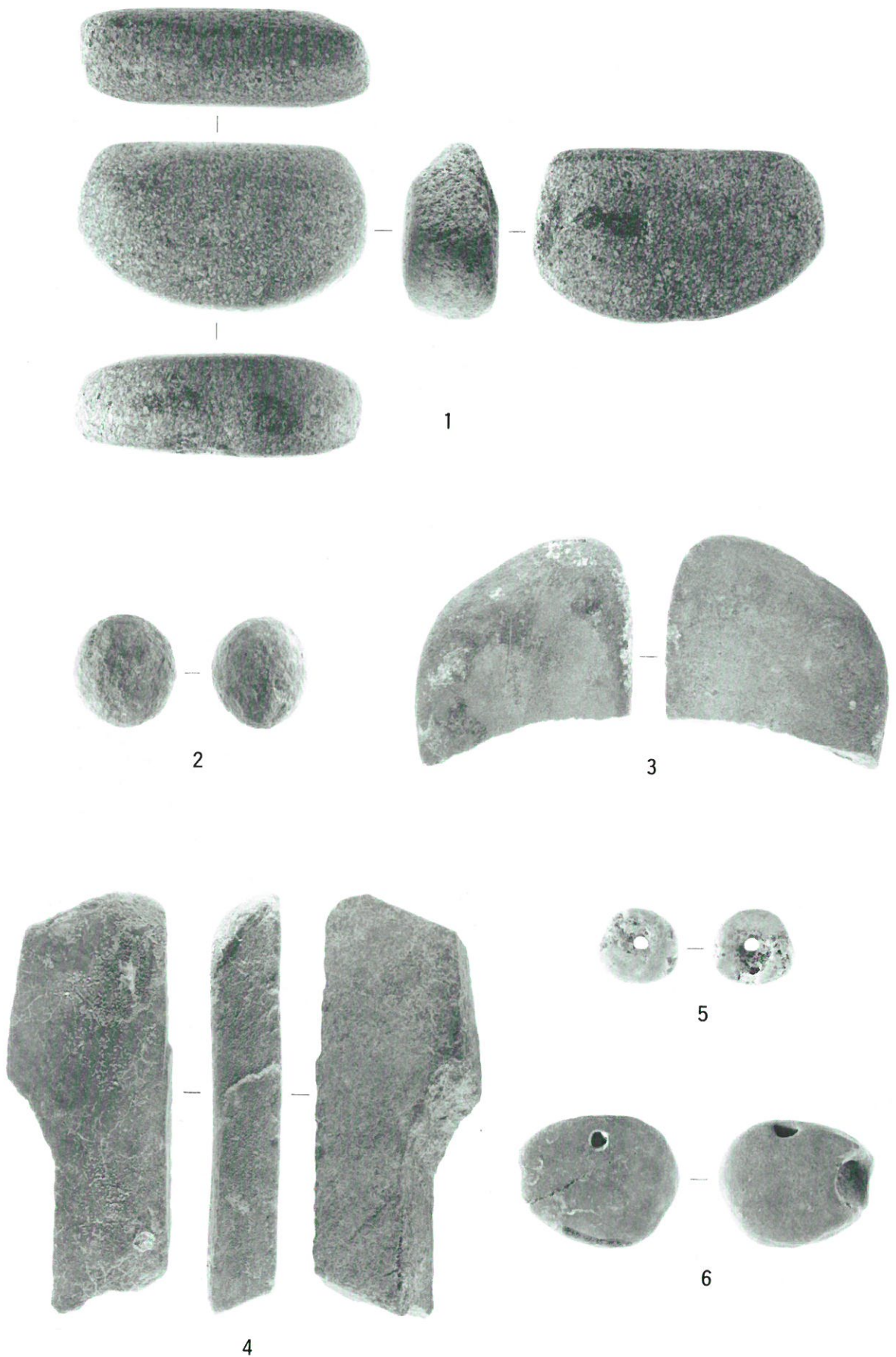
図版35 敲石・磨石類③ D類 (1) E類 (2~7)



図版36 敲石・磨石類④ E類



図版37 敲石・磨石類⑤ E類(1) F類(2~7)



図版38 クガニイシ (1) 球状石器 (2) 砥石 (3・4) 有孔製品 (5・6)

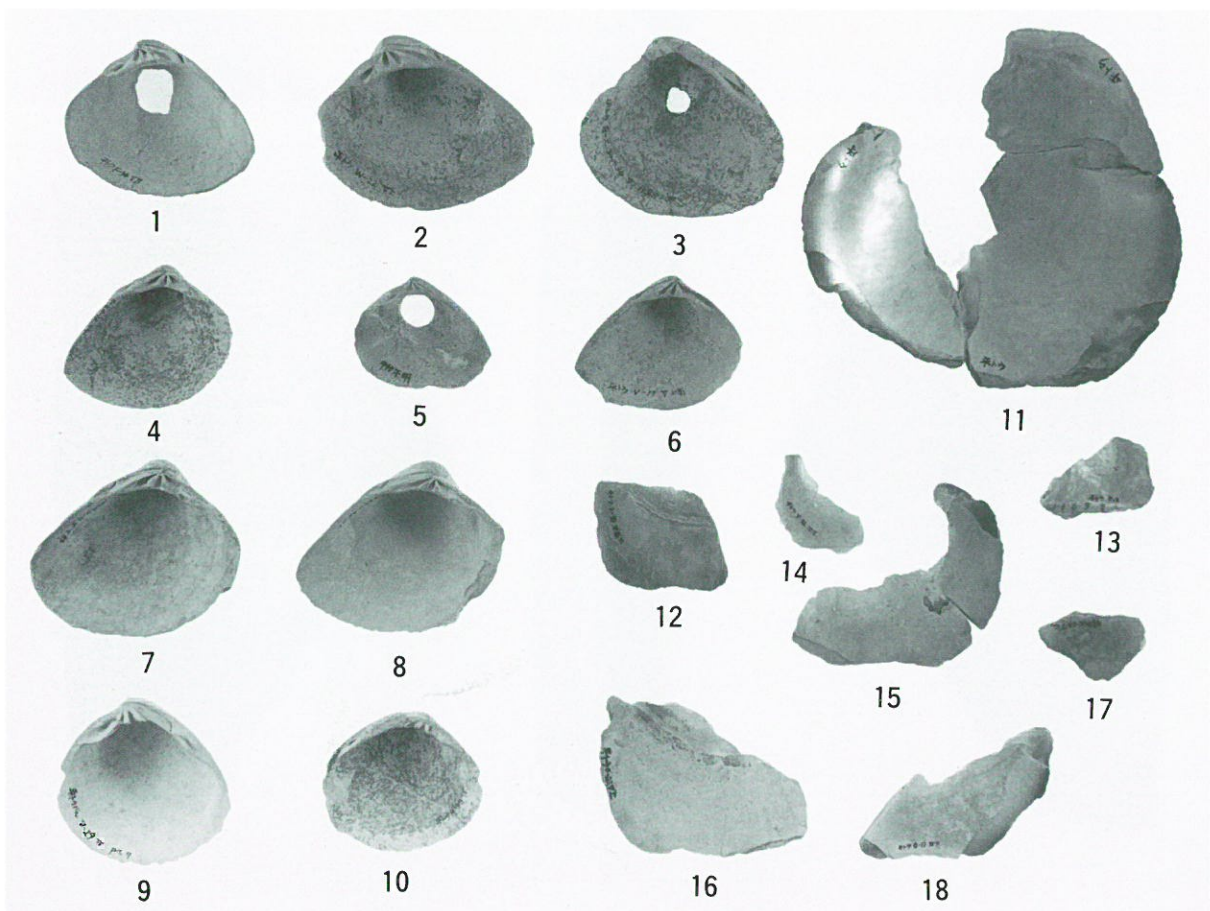
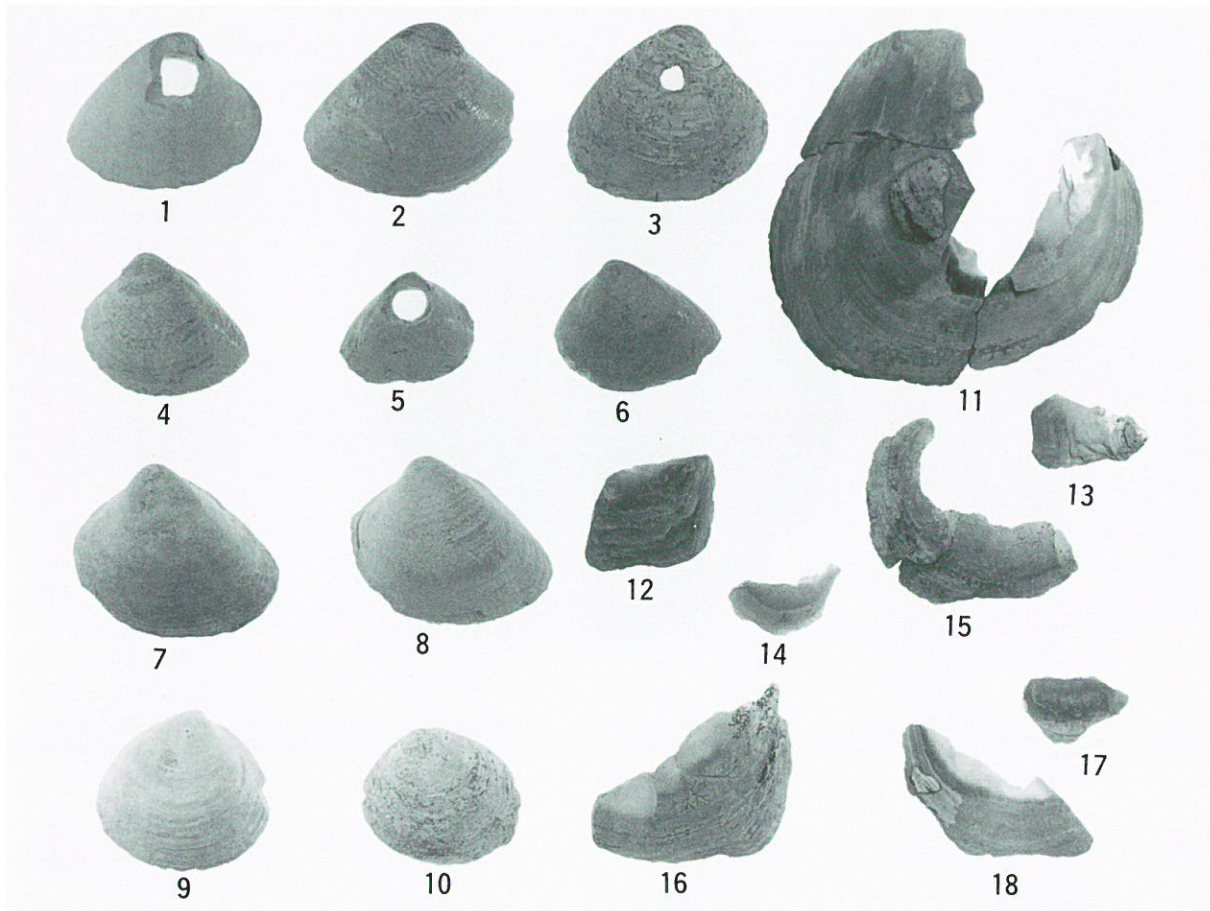


1

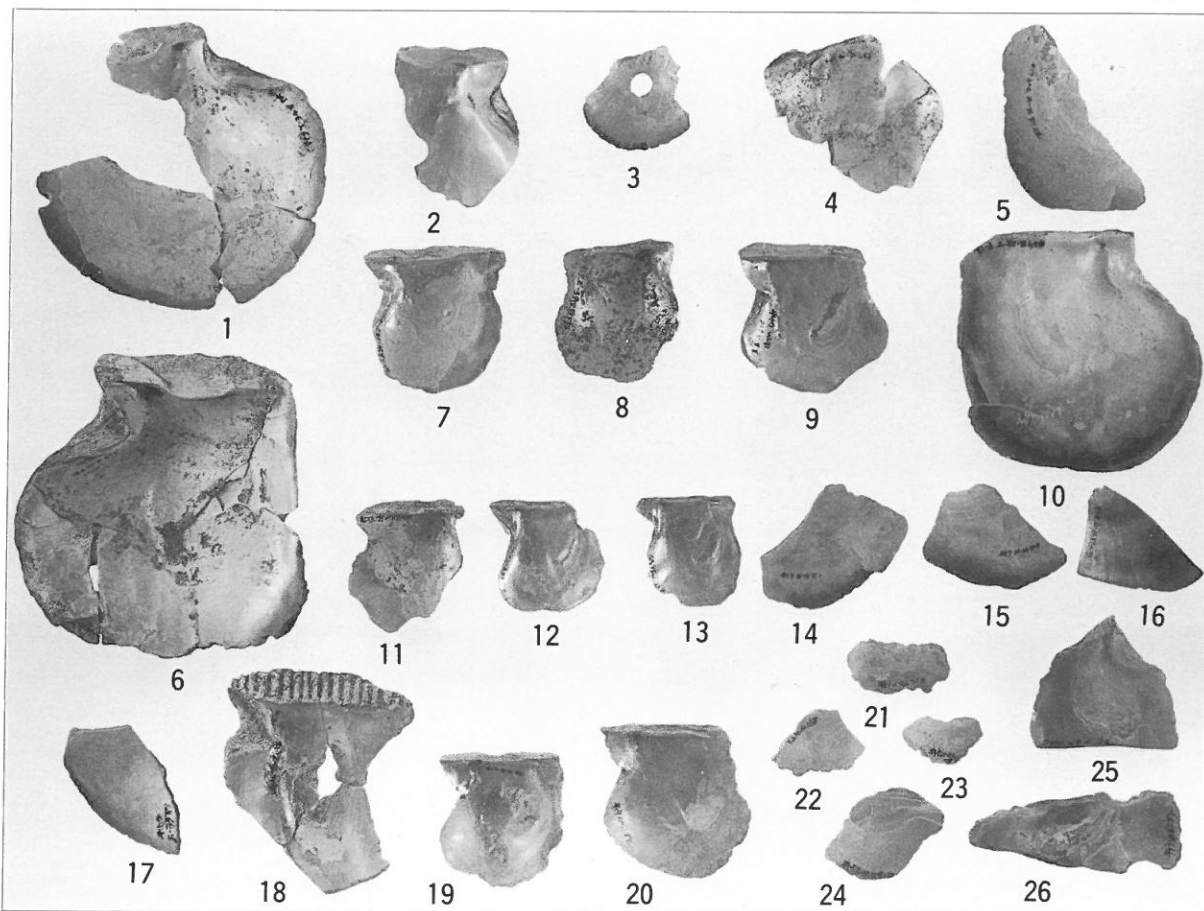
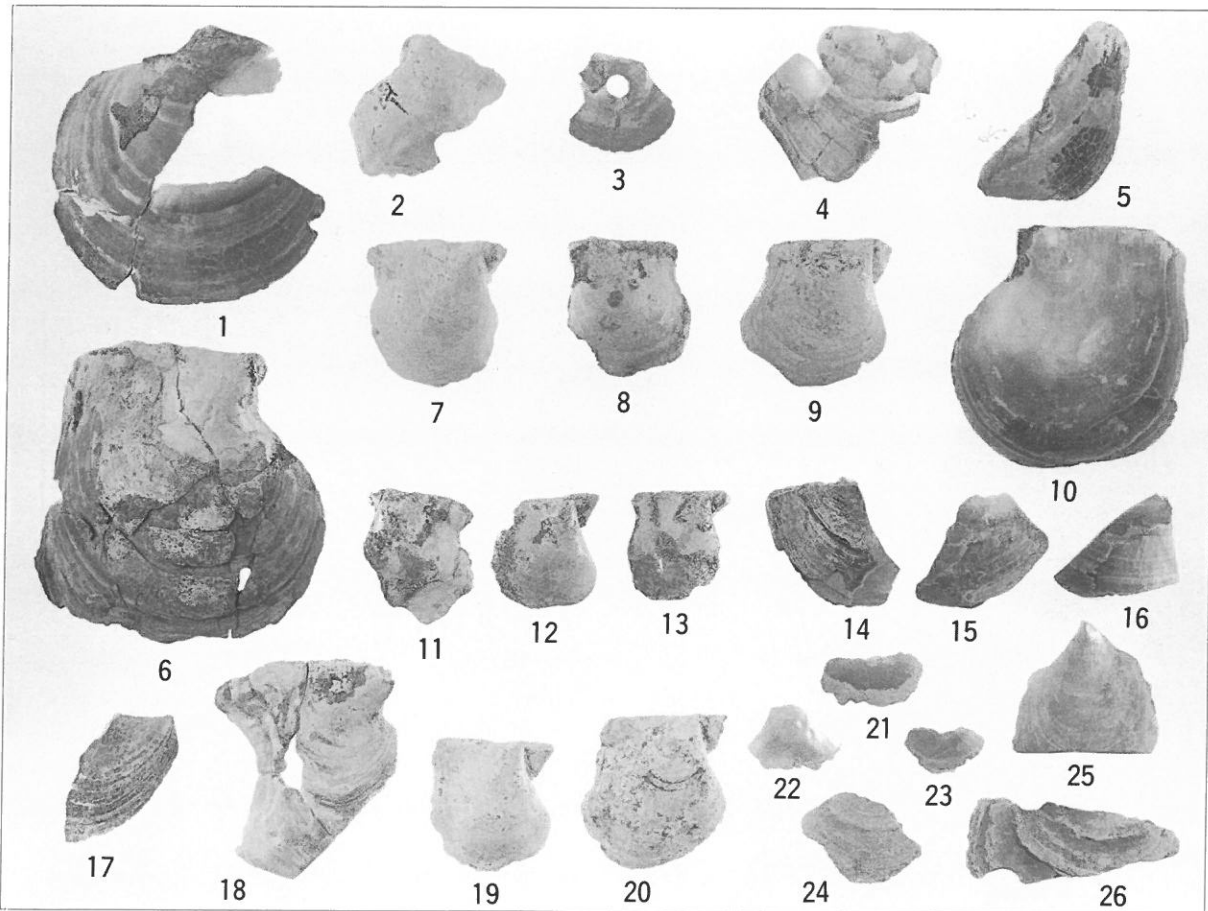


2

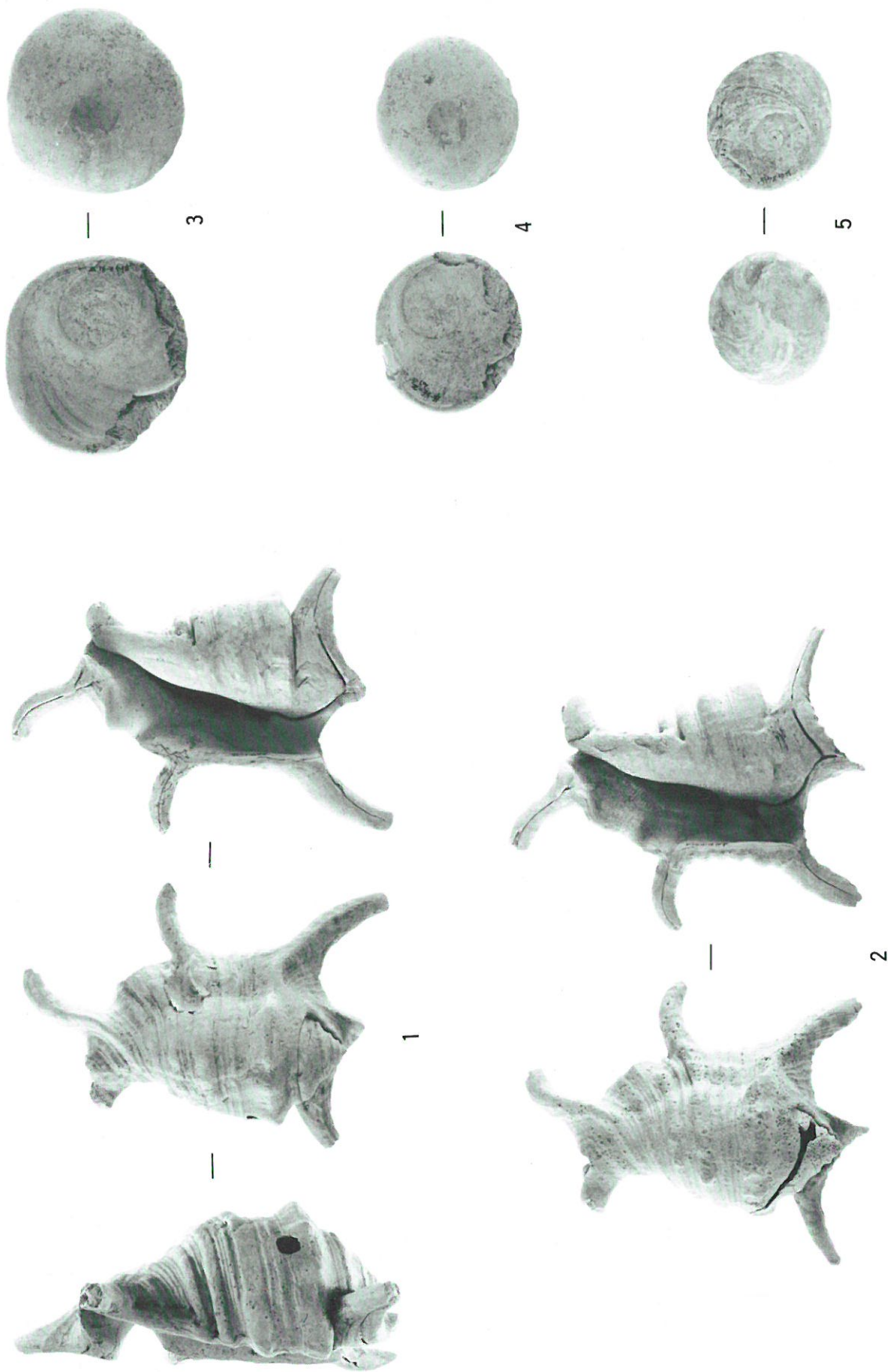
图版39 石皿



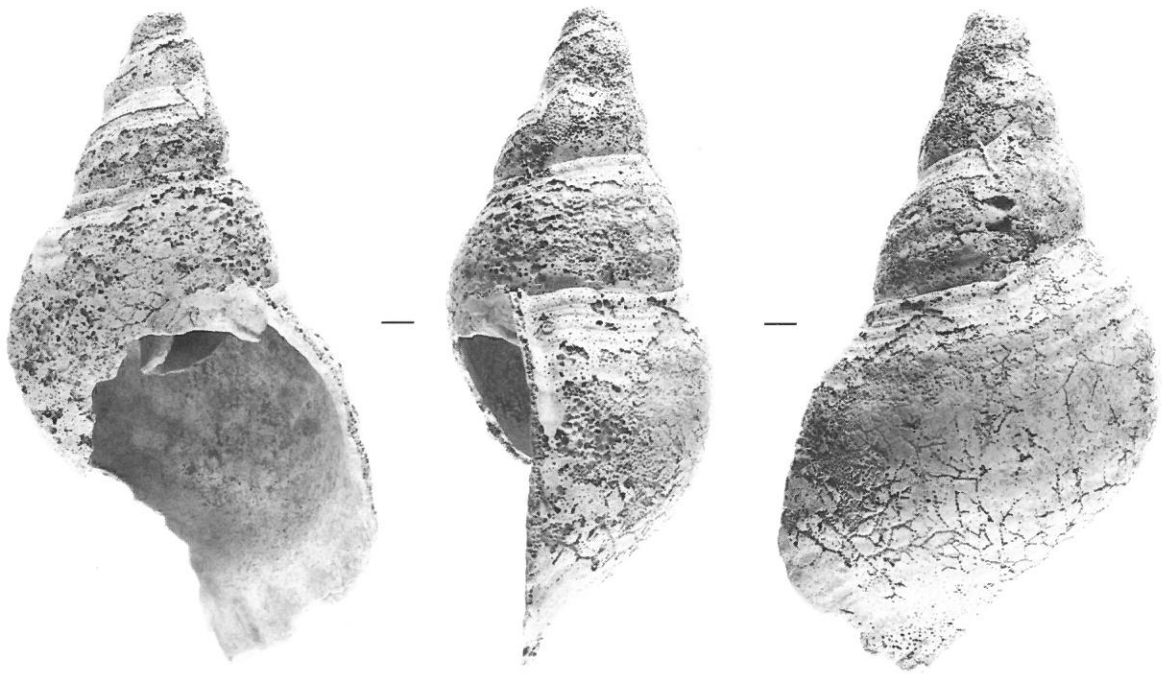
図版40 貝刃 (1~11)、貝包丁様製品 (12~18)



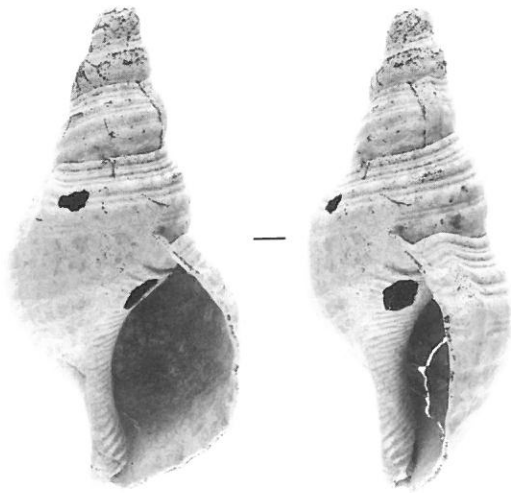
図版41 貝包丁様製品（上：表面、下：裏面）



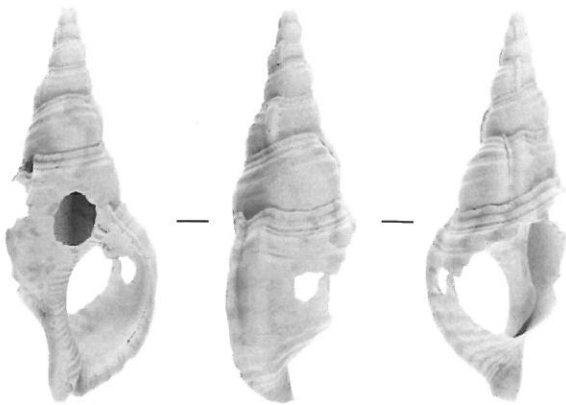
図版42 スイジガイ製利器 (1・2)、螺蓋製貝斧 (3～5)



1



2

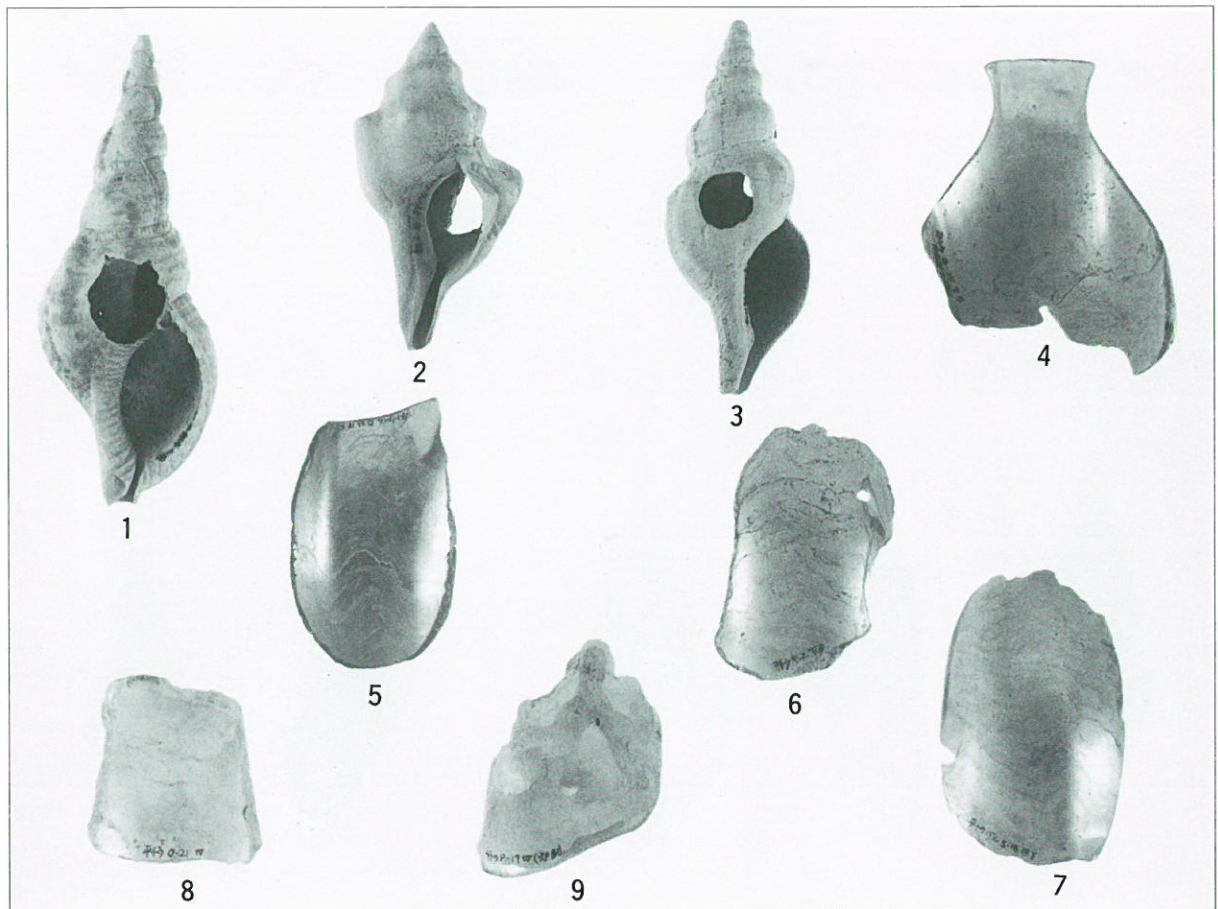
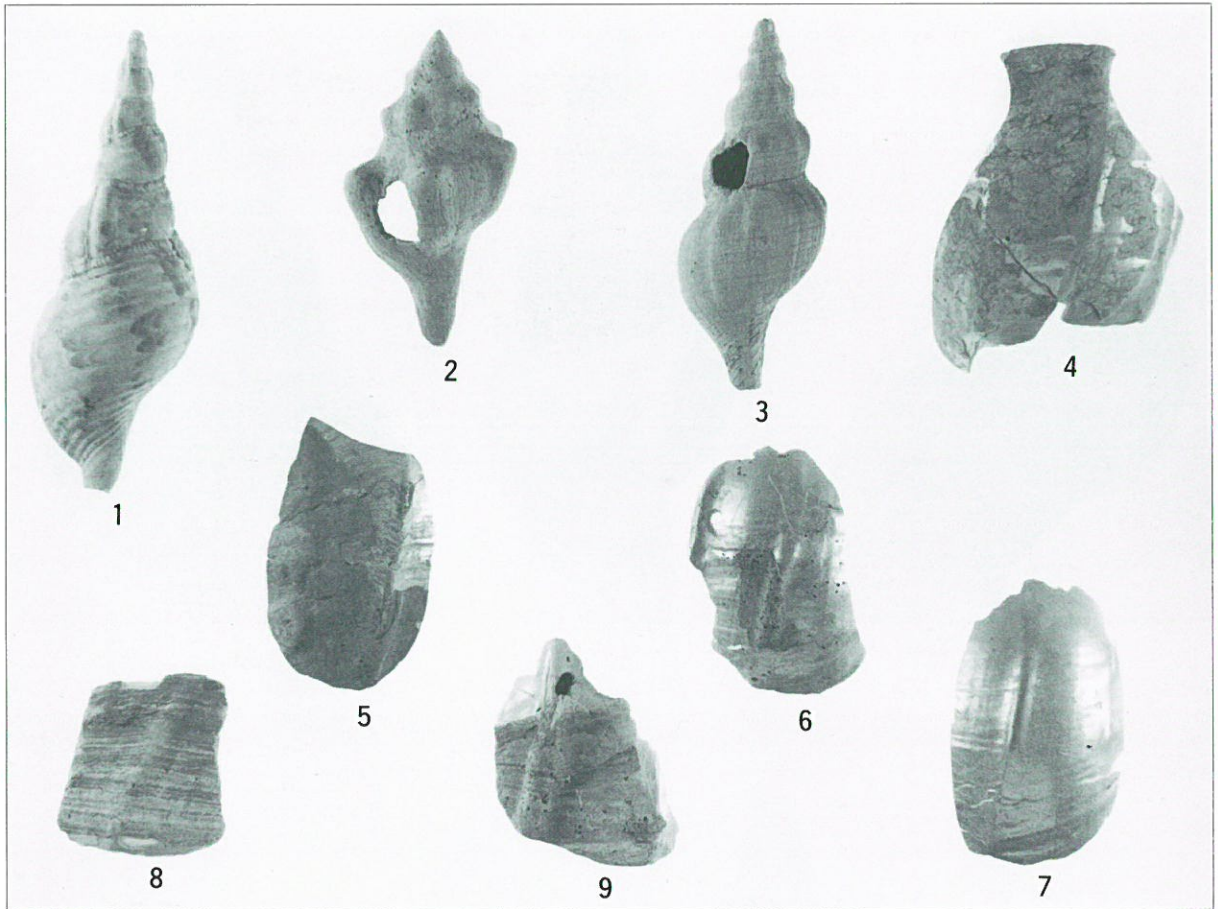


3

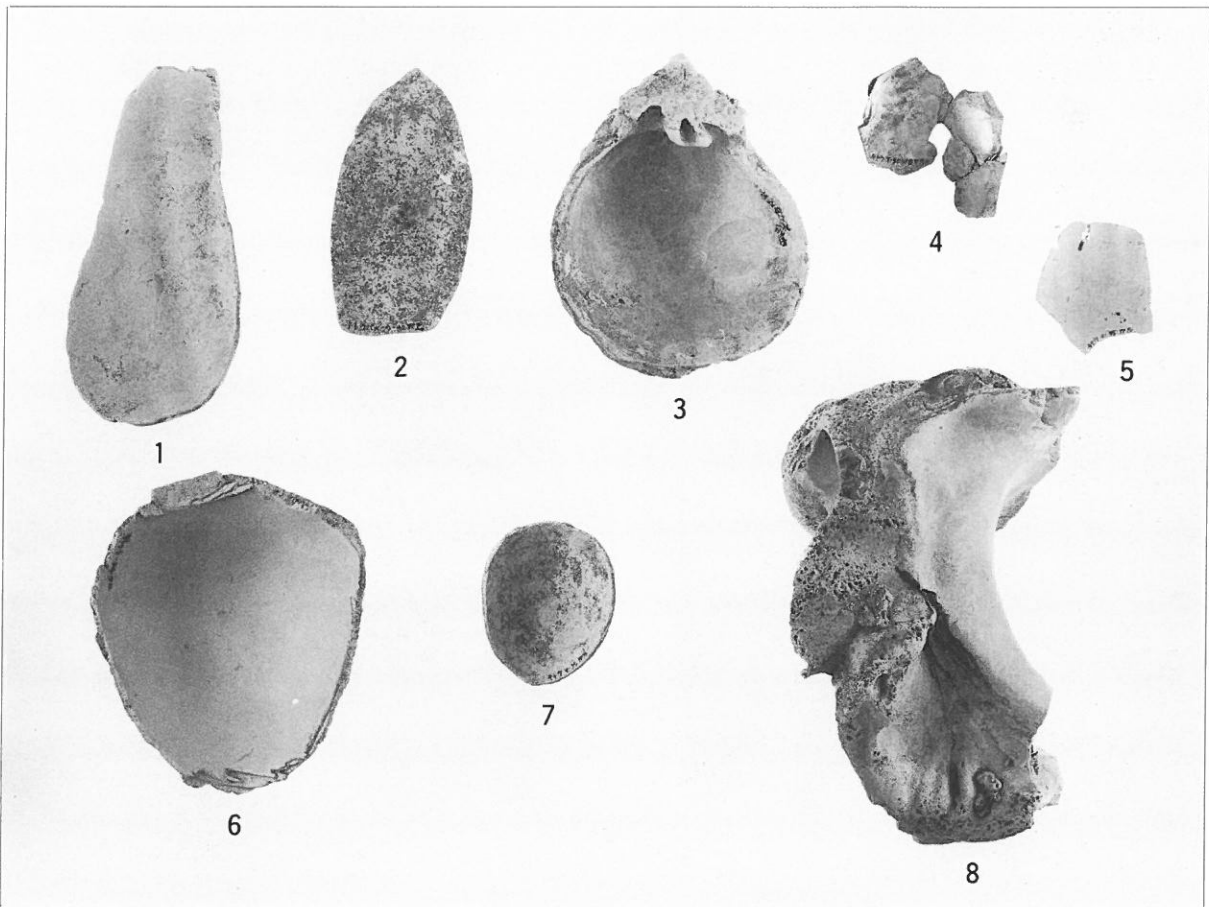
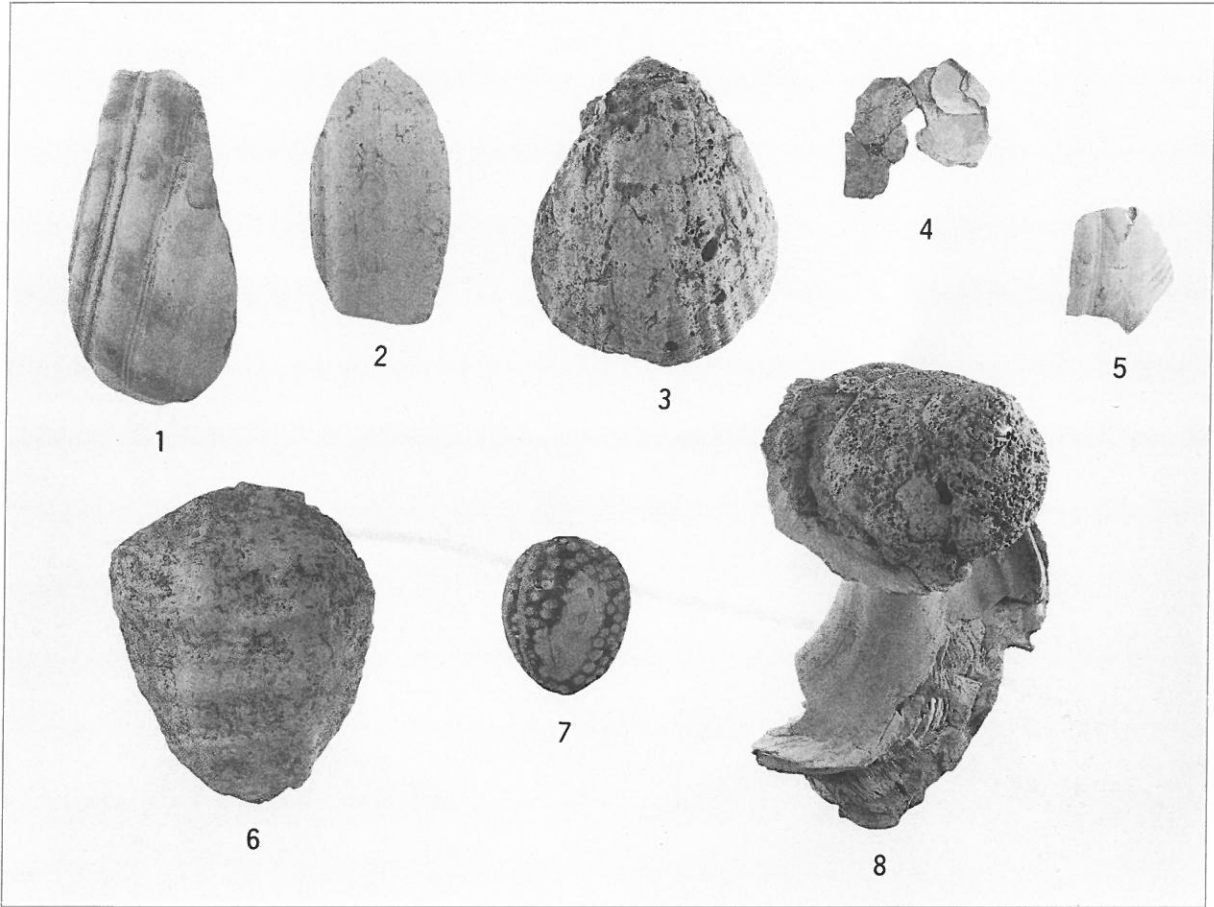


4

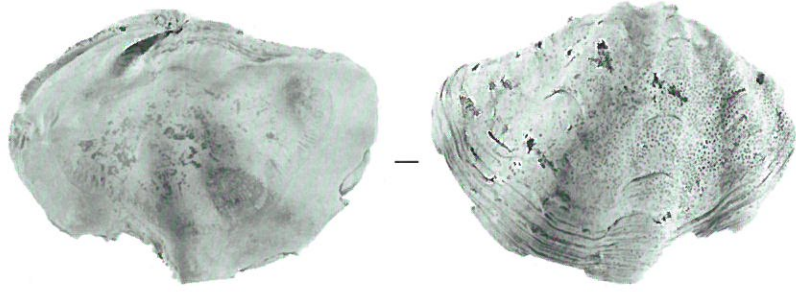
図版43 ホラガイ製品



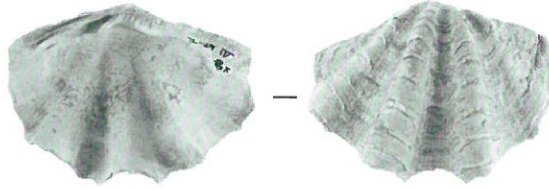
図版44 巻貝有孔製品 (1~3)、貝匙 (4~9)



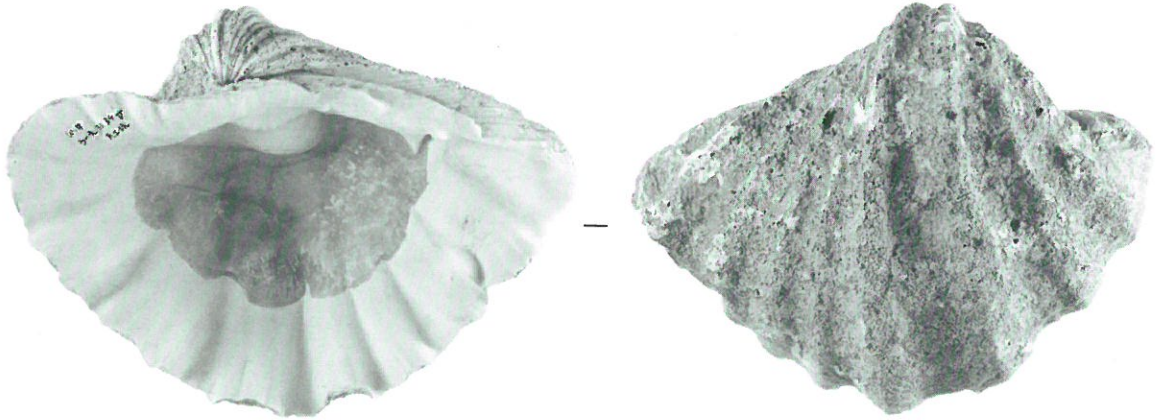
図版45 貝匙（1～7）、夜光貝の殻（製品加工の残欠資料）（8）



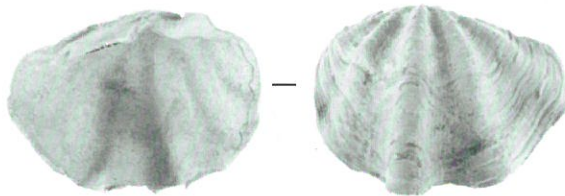
1



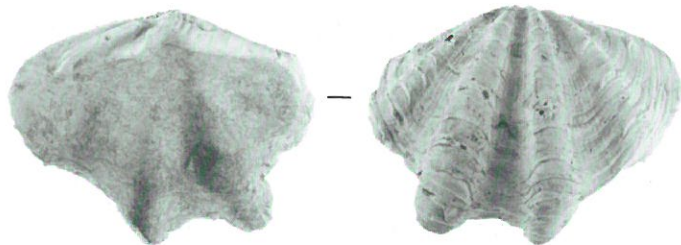
2



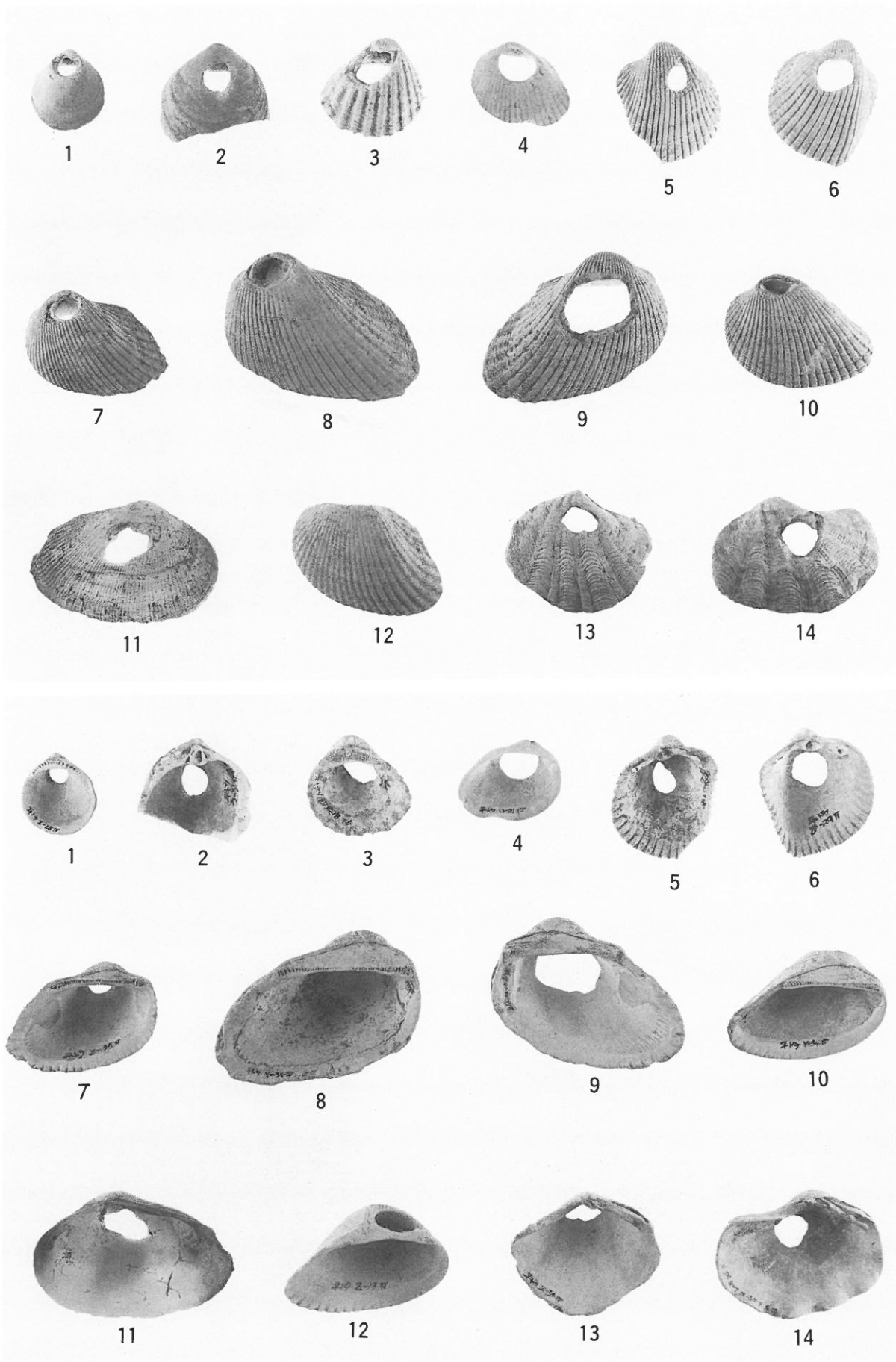
3



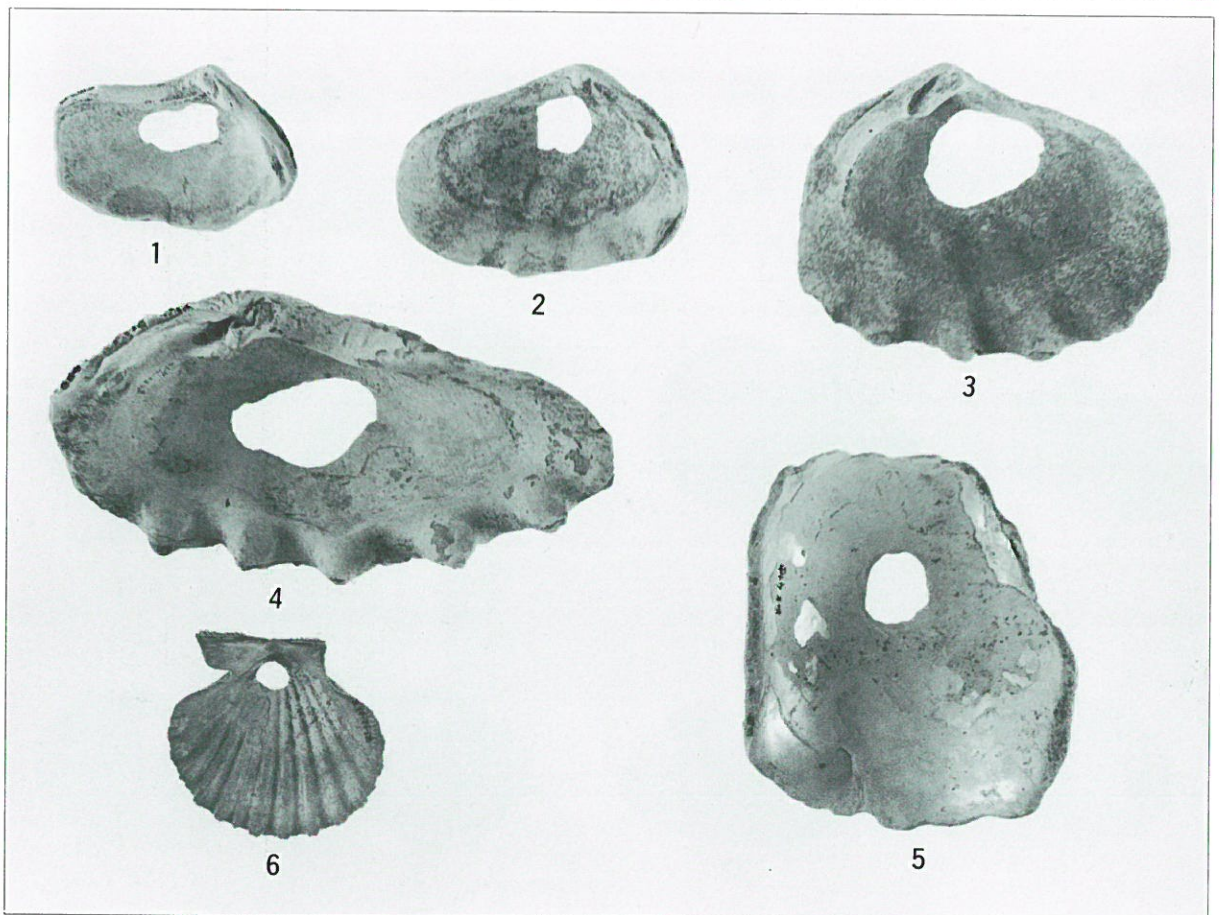
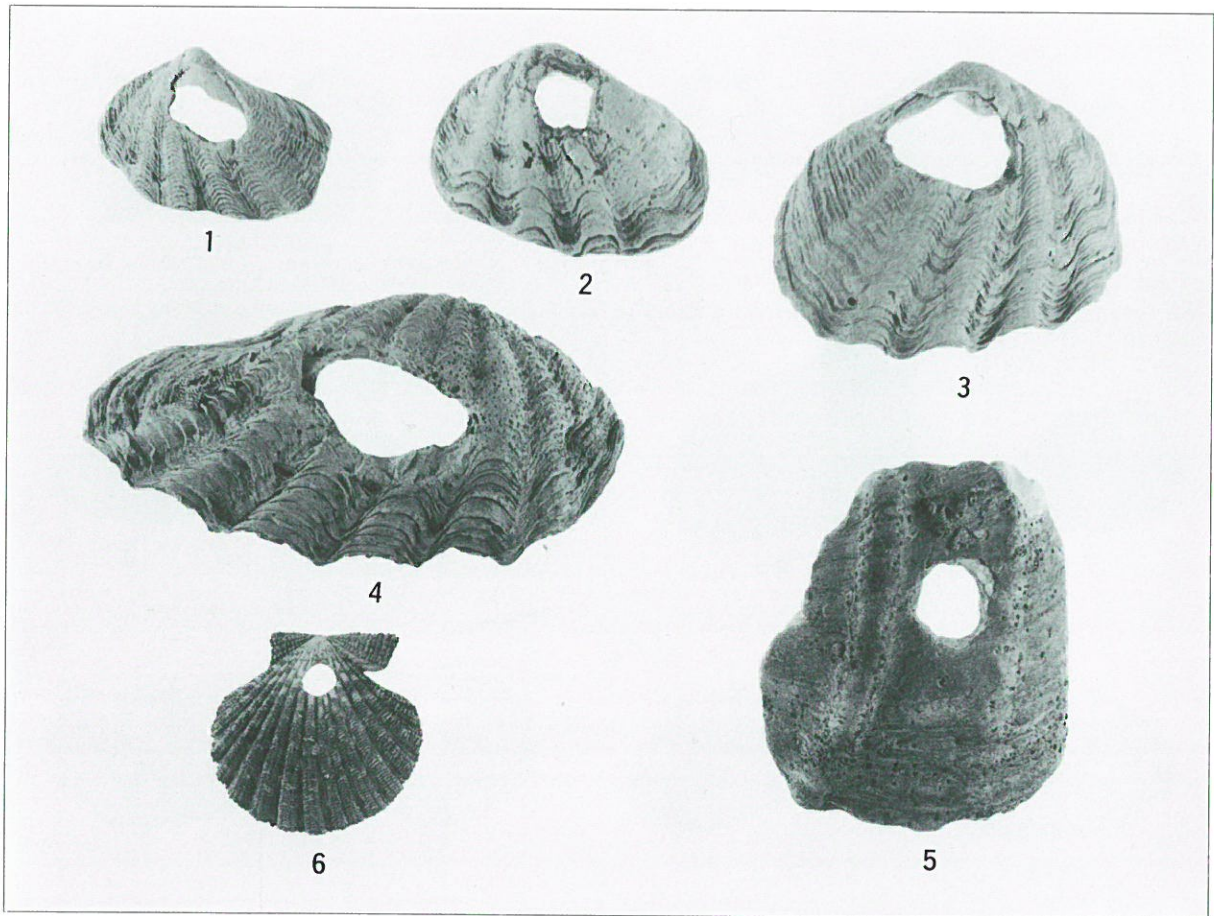
4



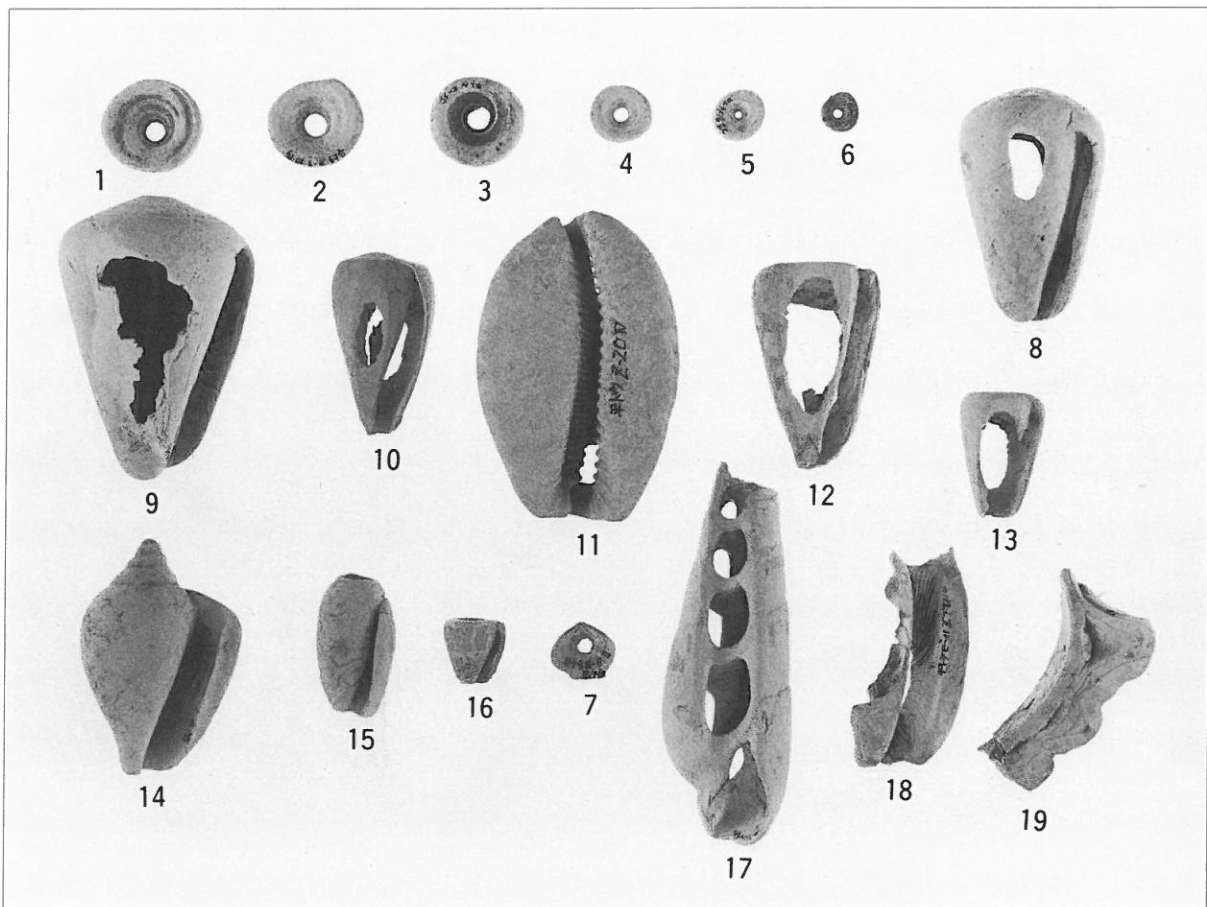
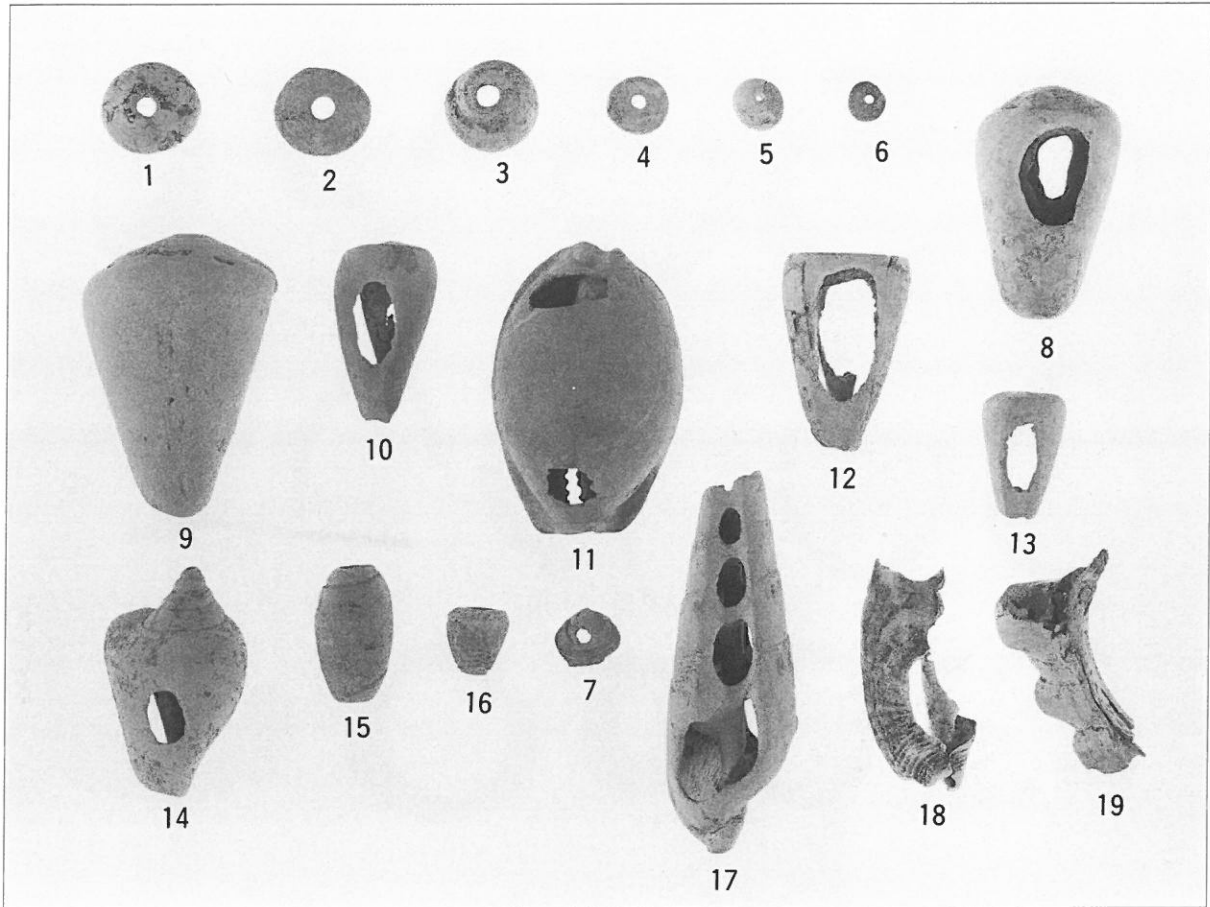
5



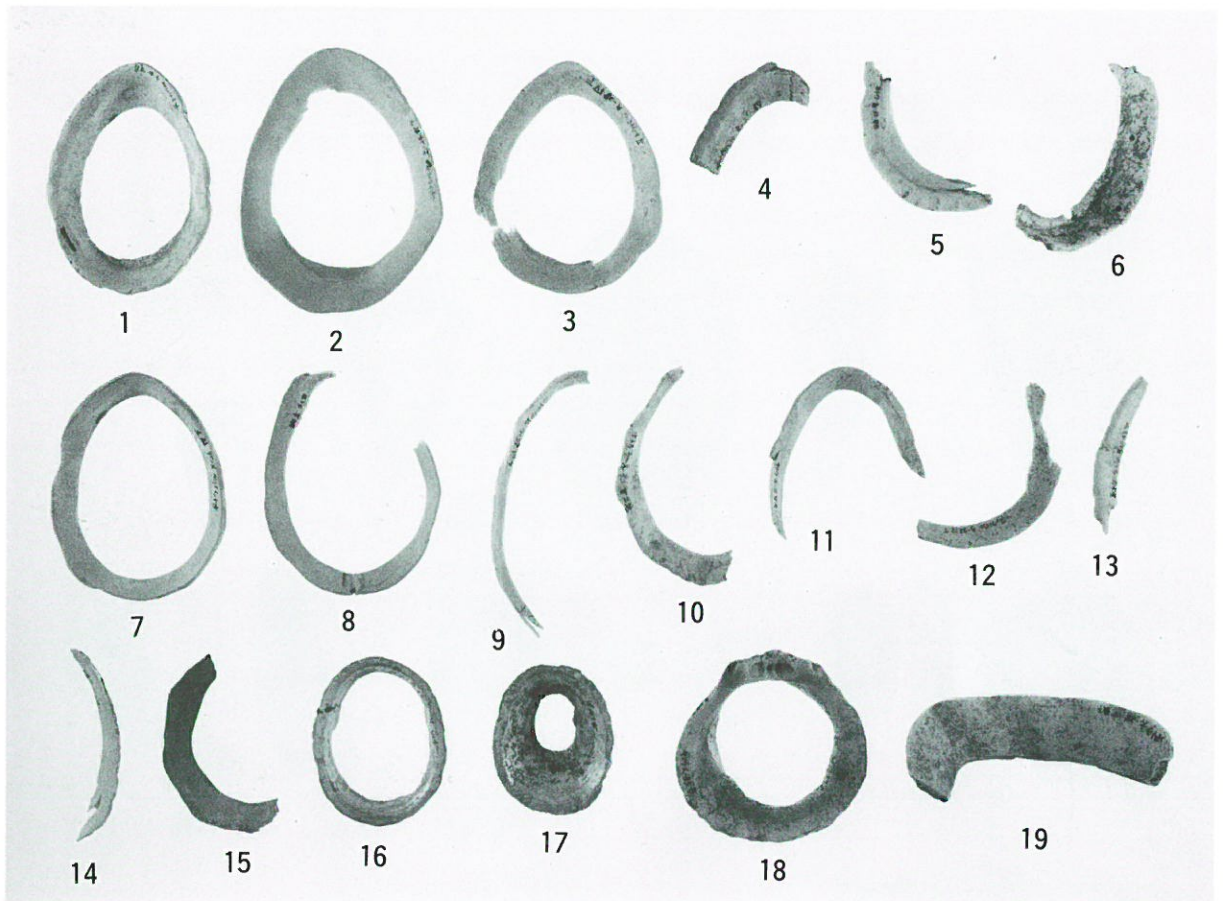
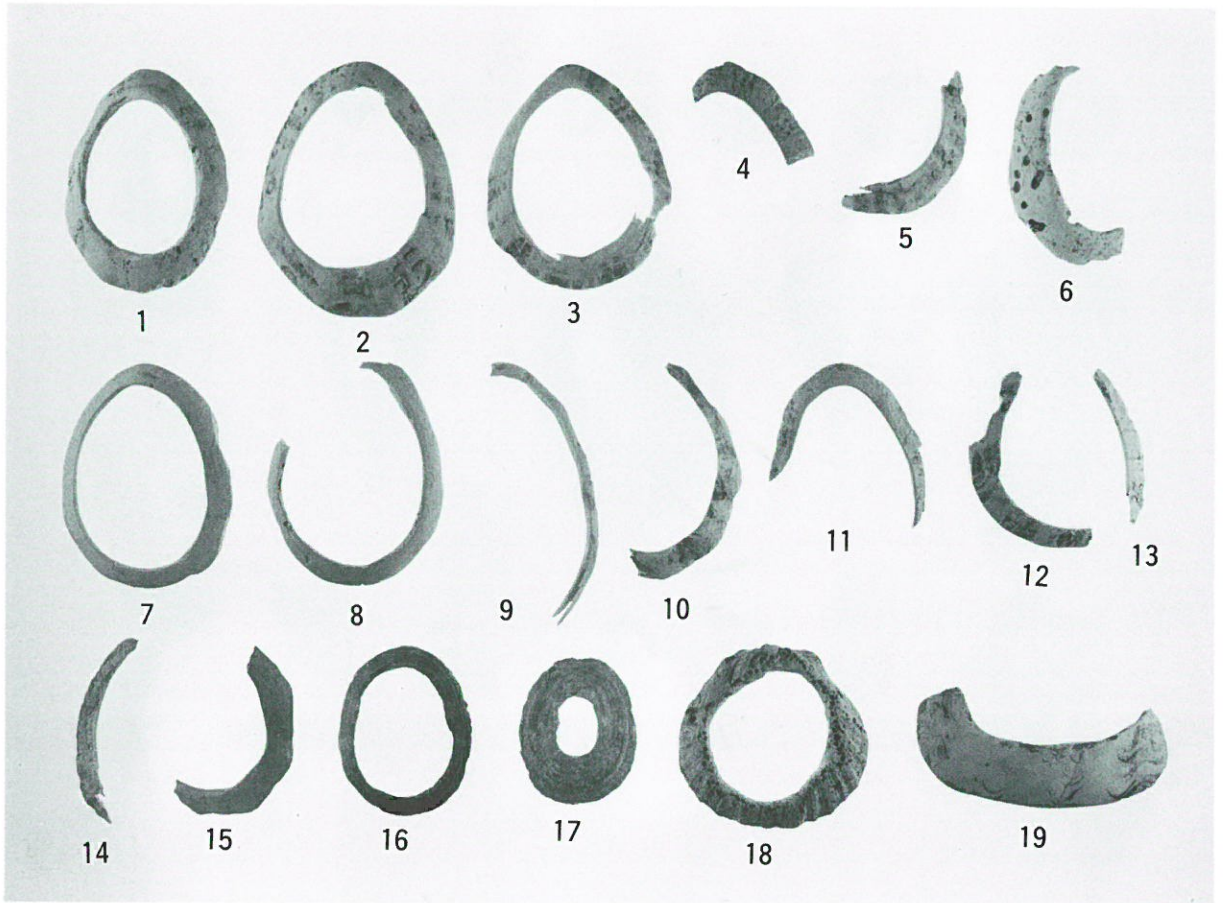
図版47 二枚貝有孔貝製品 (上:表面、下:裏面) ソメワケグリ (1)、シレナジミ (2)、ハイガイ (3)、
カワラガイ (5・6) リュウキュウサルボウ (7~10・12)、リュウキュウマスオガイ (11)、ヒメジャコ (13・14)



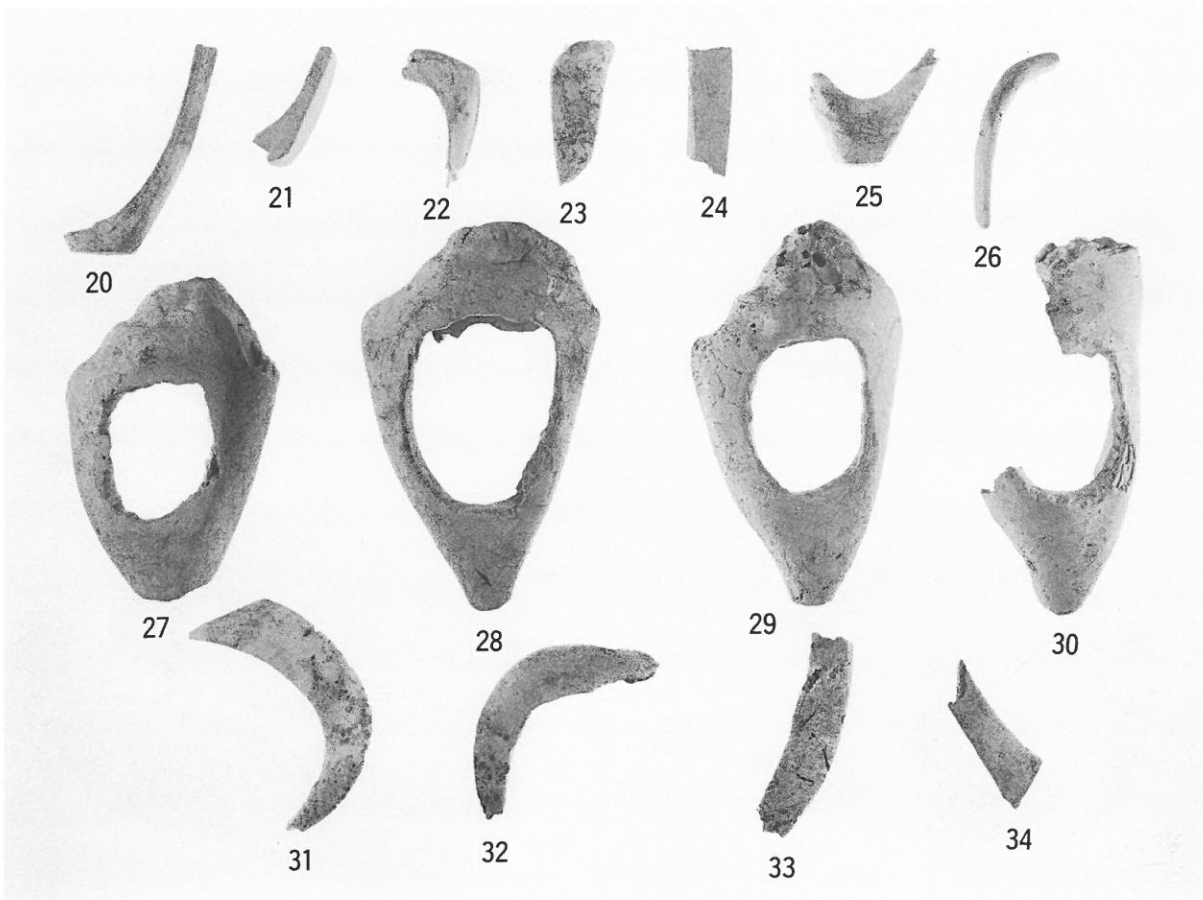
図版48 二枚貝有孔貝製品（上：表面、下：裏面） ヒメジャコ（1～3）、シラナミ（4）、夜光貝（5）、オオギガイ（6）



図版49 卷貝有孔貝製品（上：表面、下：裏面）



図版50 オオツタノハ、オオベッコウガサガイ、メンガイ、シャコガイ製貝輪



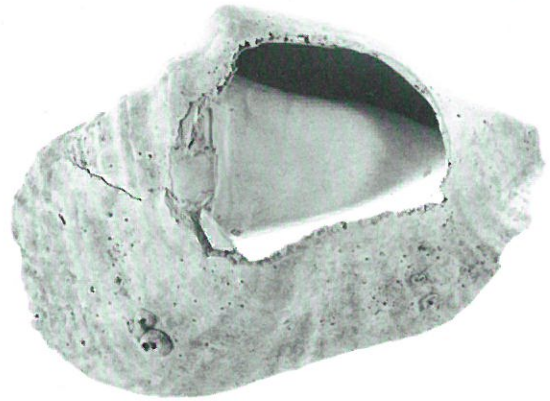
図版51 ゴホウラ製貝輪（上：表面、下：裏面）



36



38



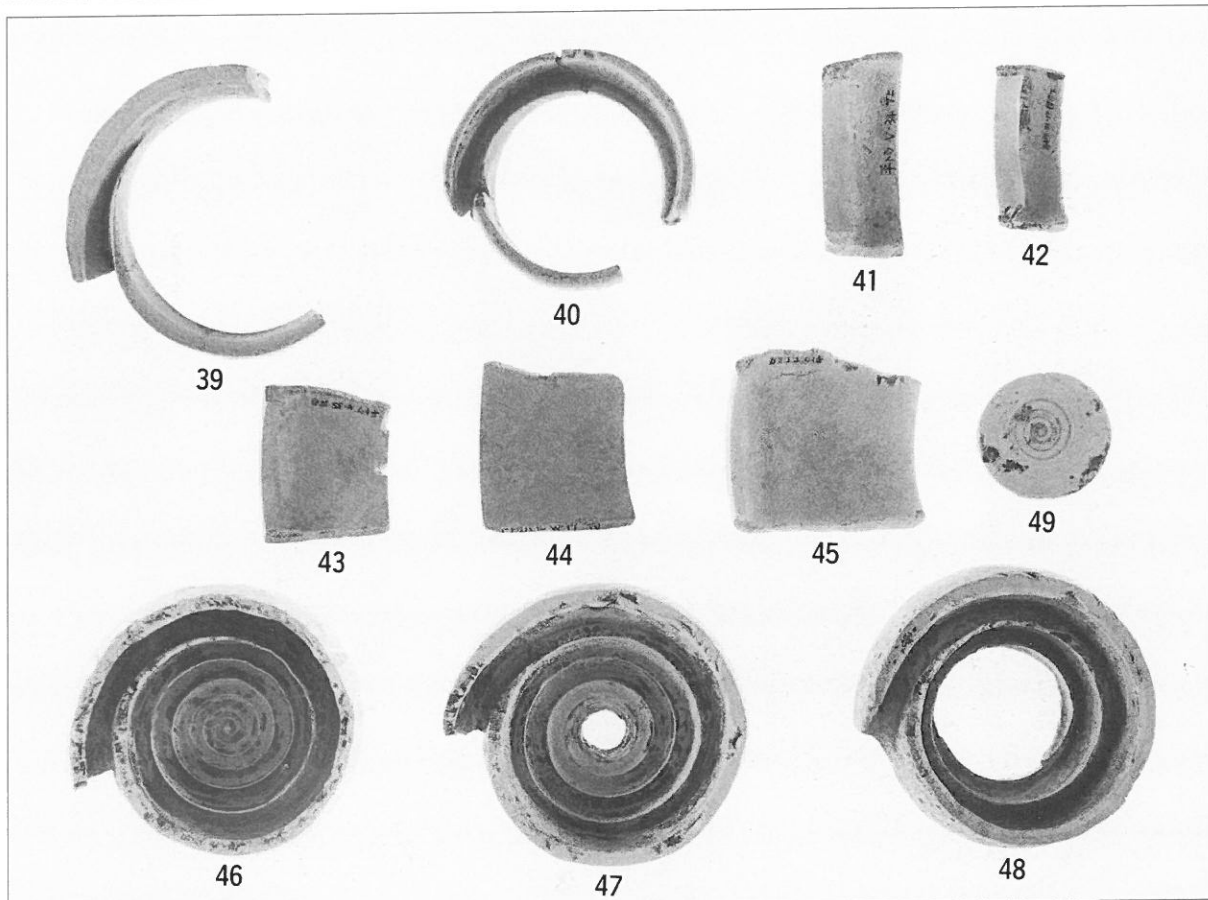
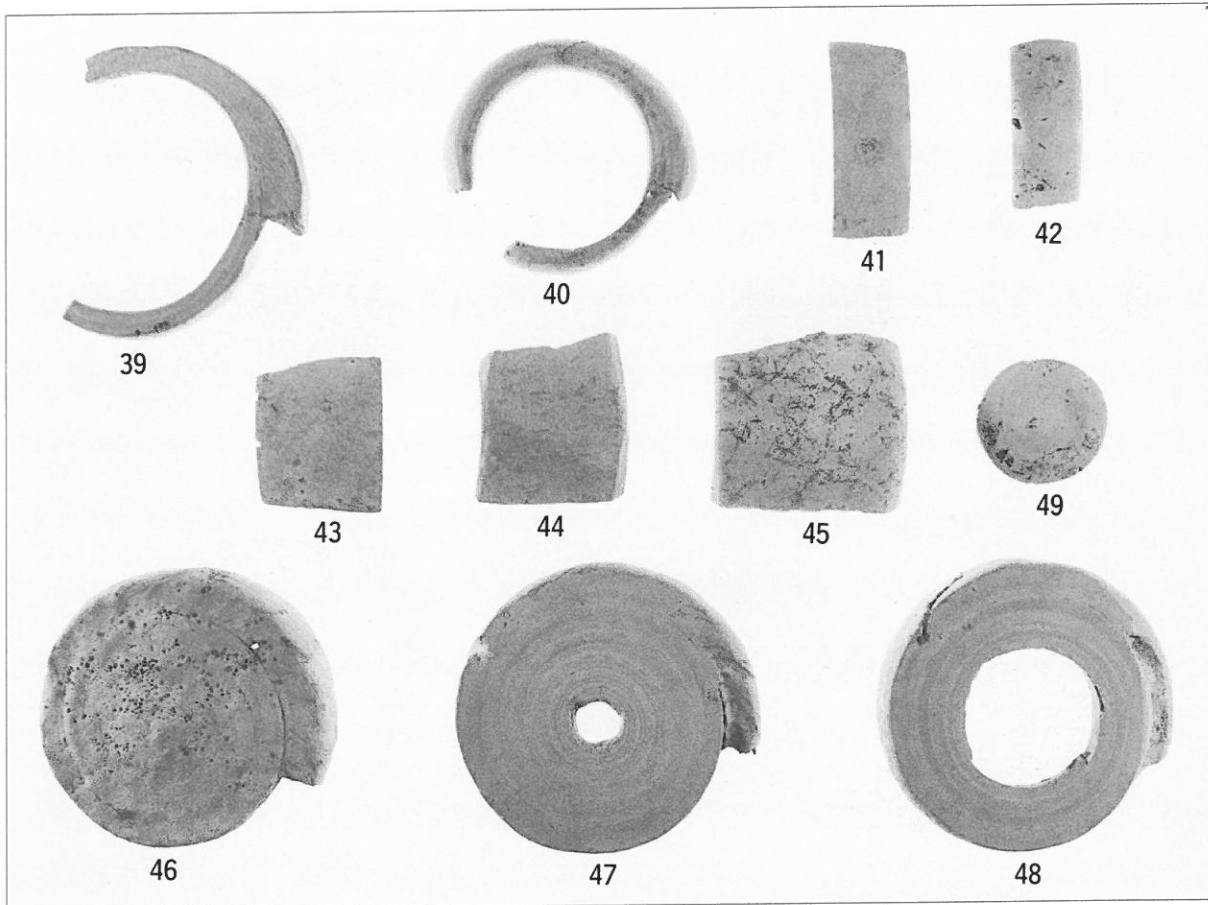
35



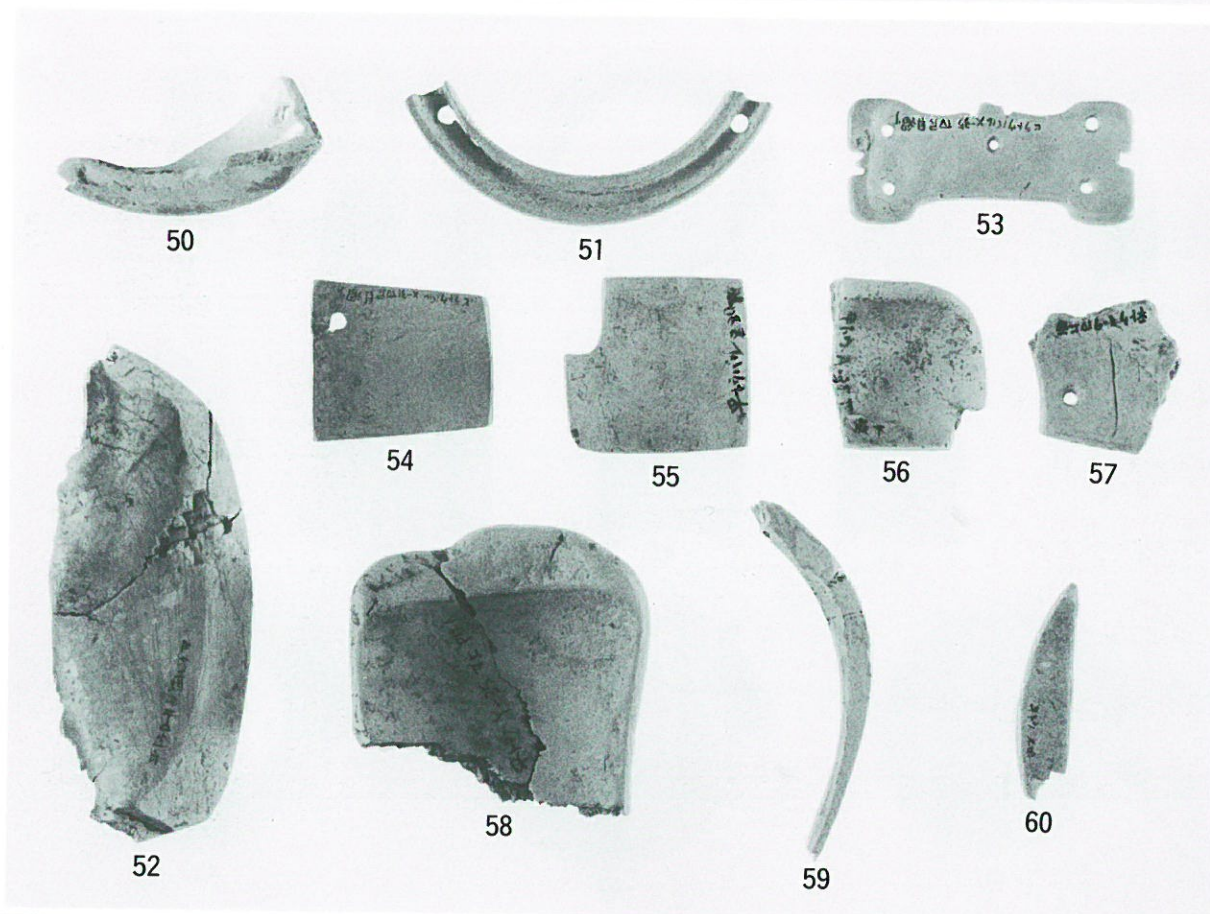
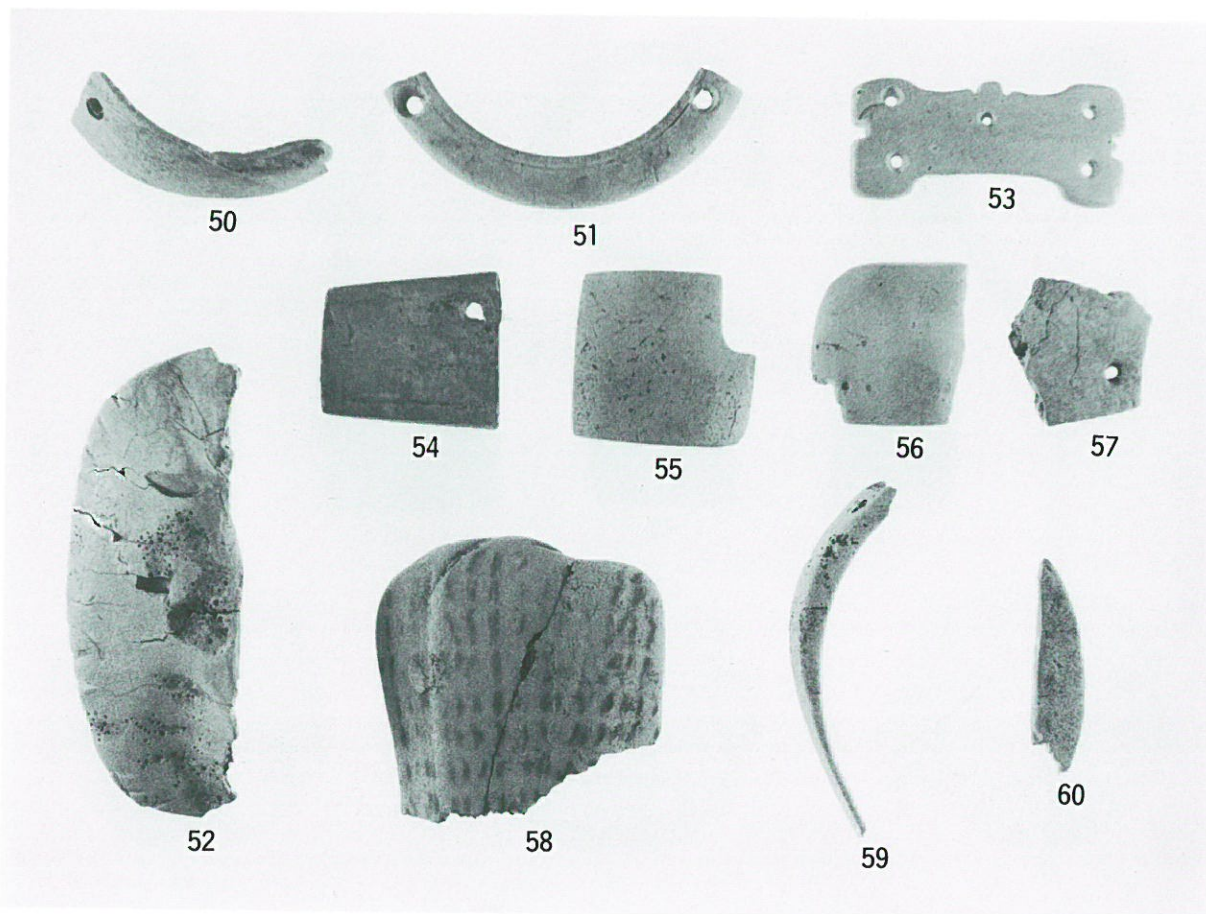
37



図版52 ゴホウラ未製品



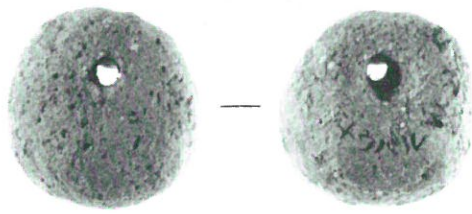
図版53 イモガイ製貝輪



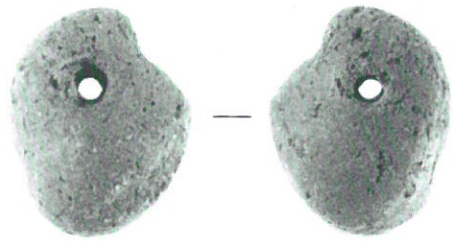
図版54 イモガイ製品



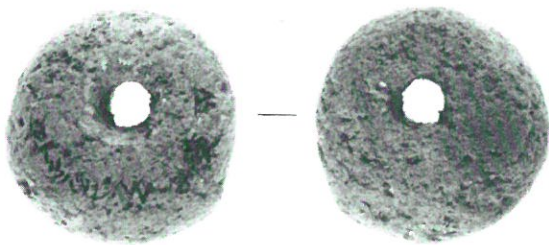
图版55 骨製品



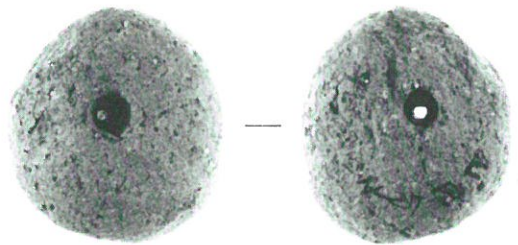
1



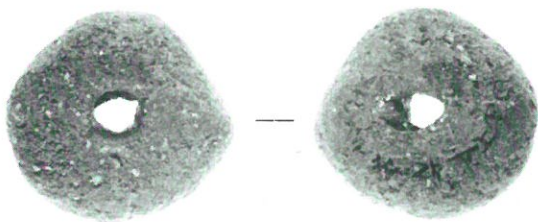
2



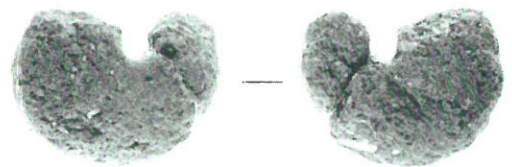
3



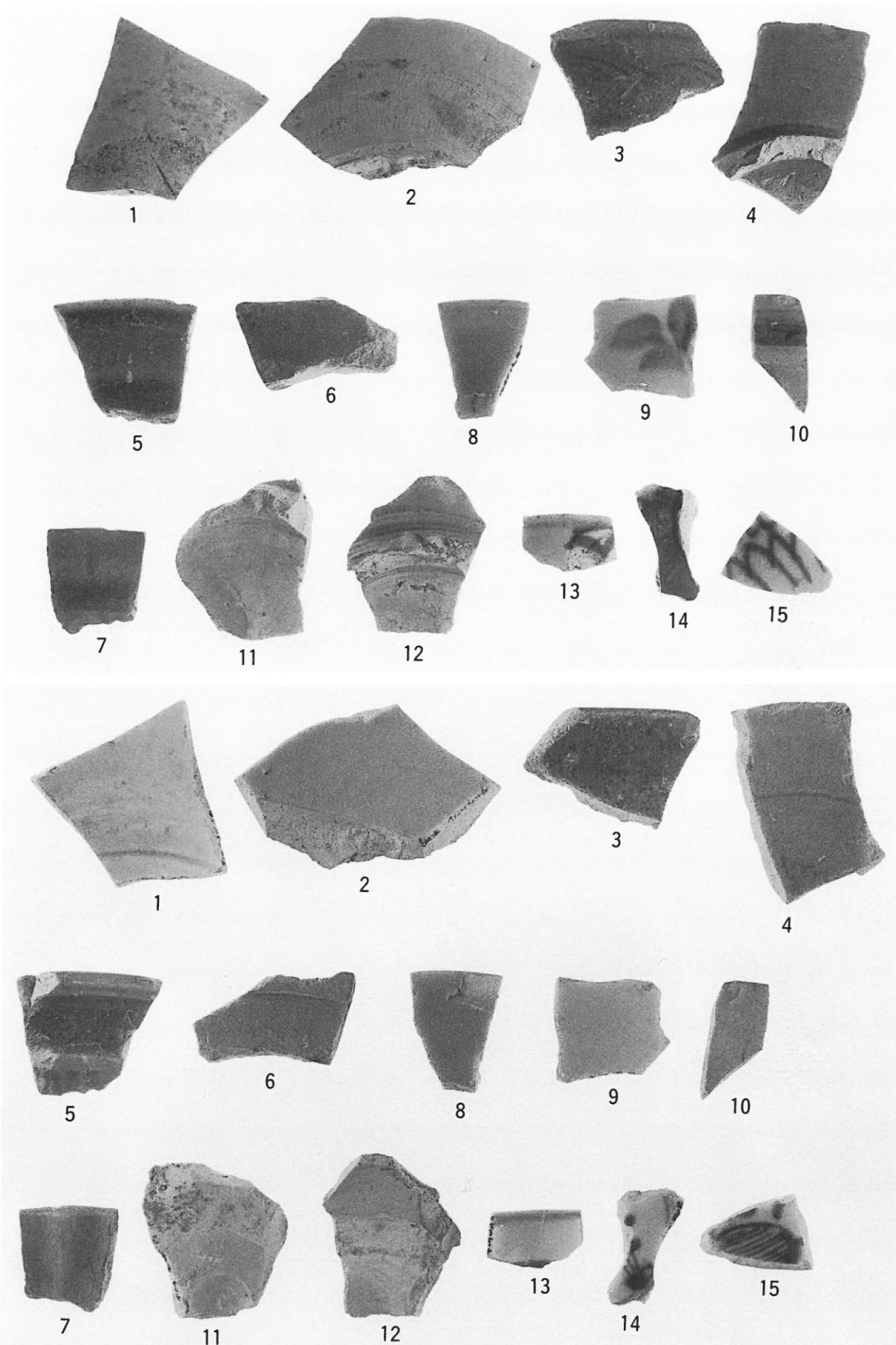
4



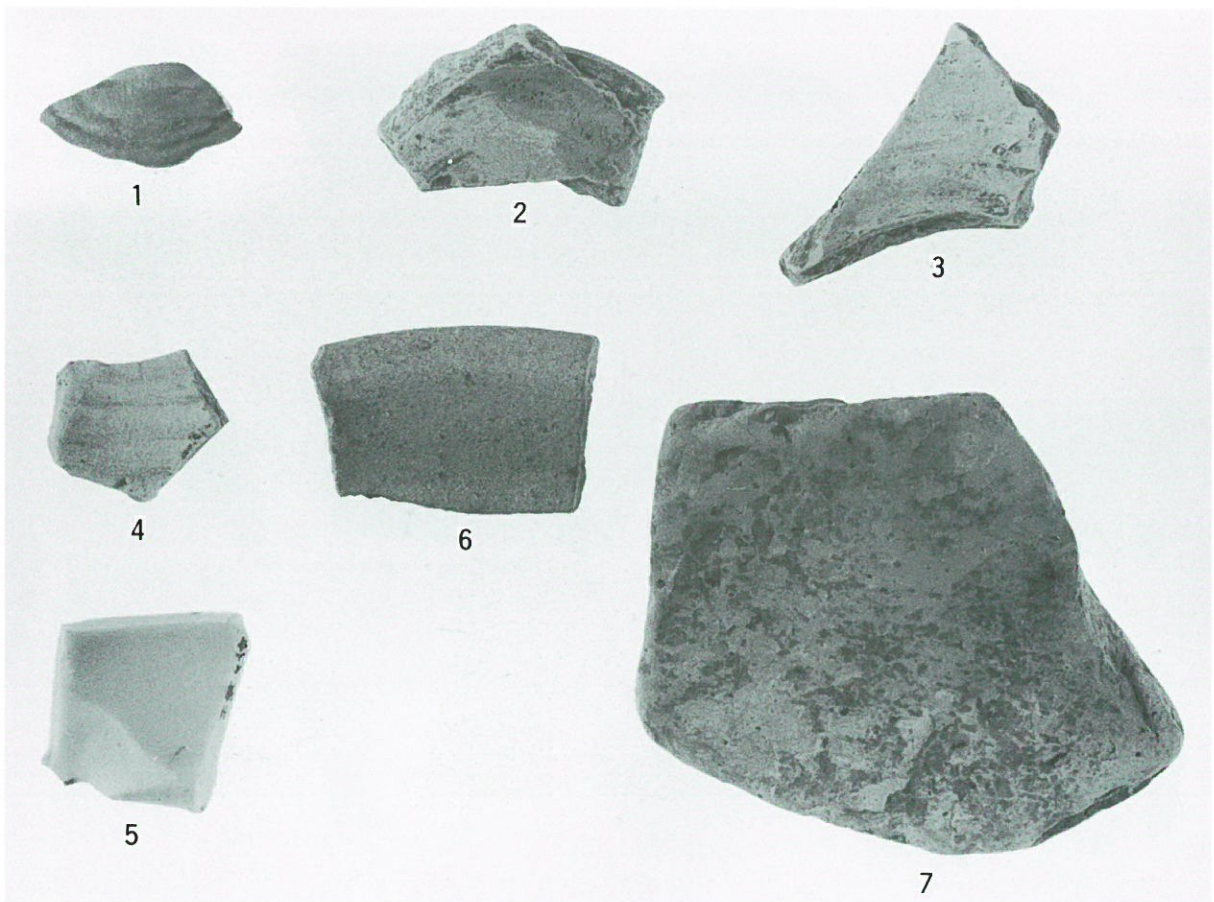
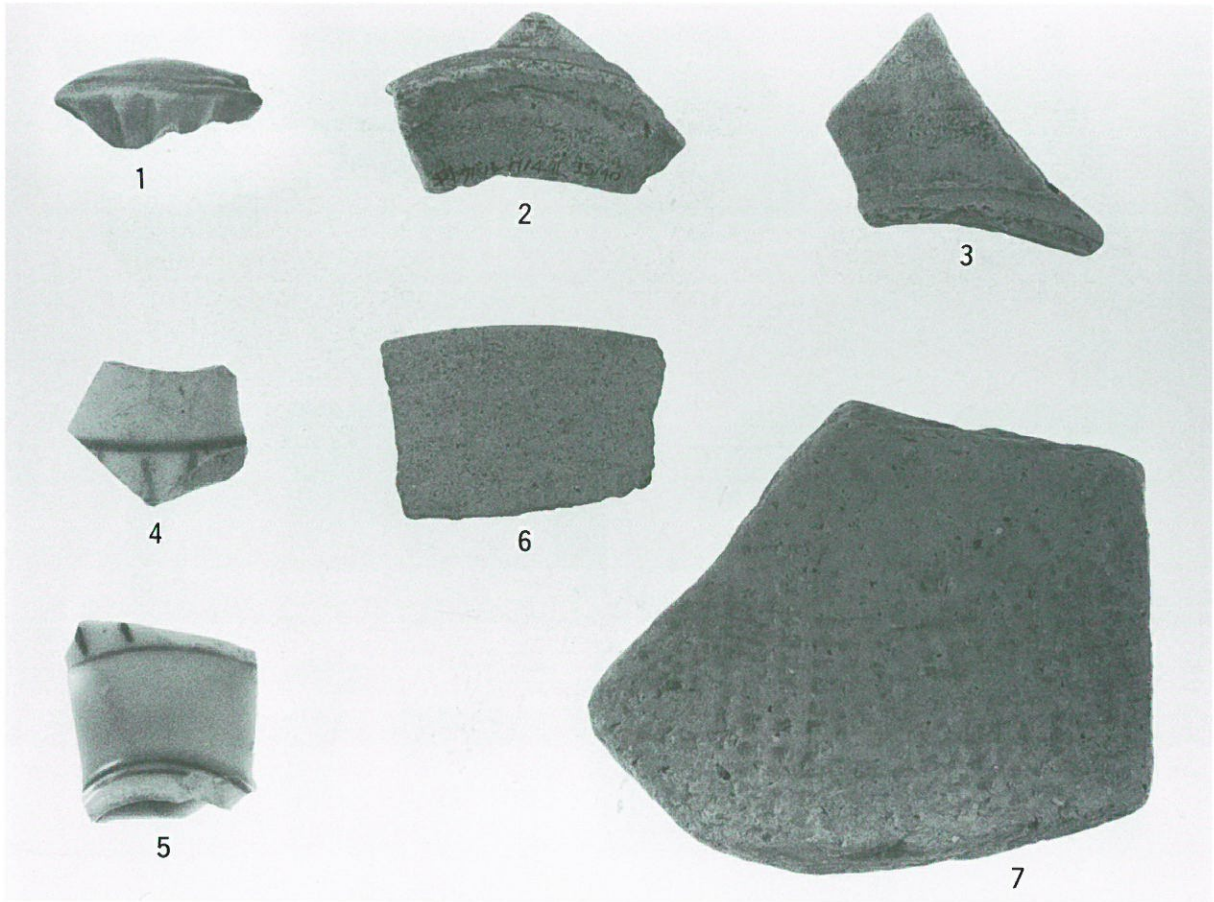
5



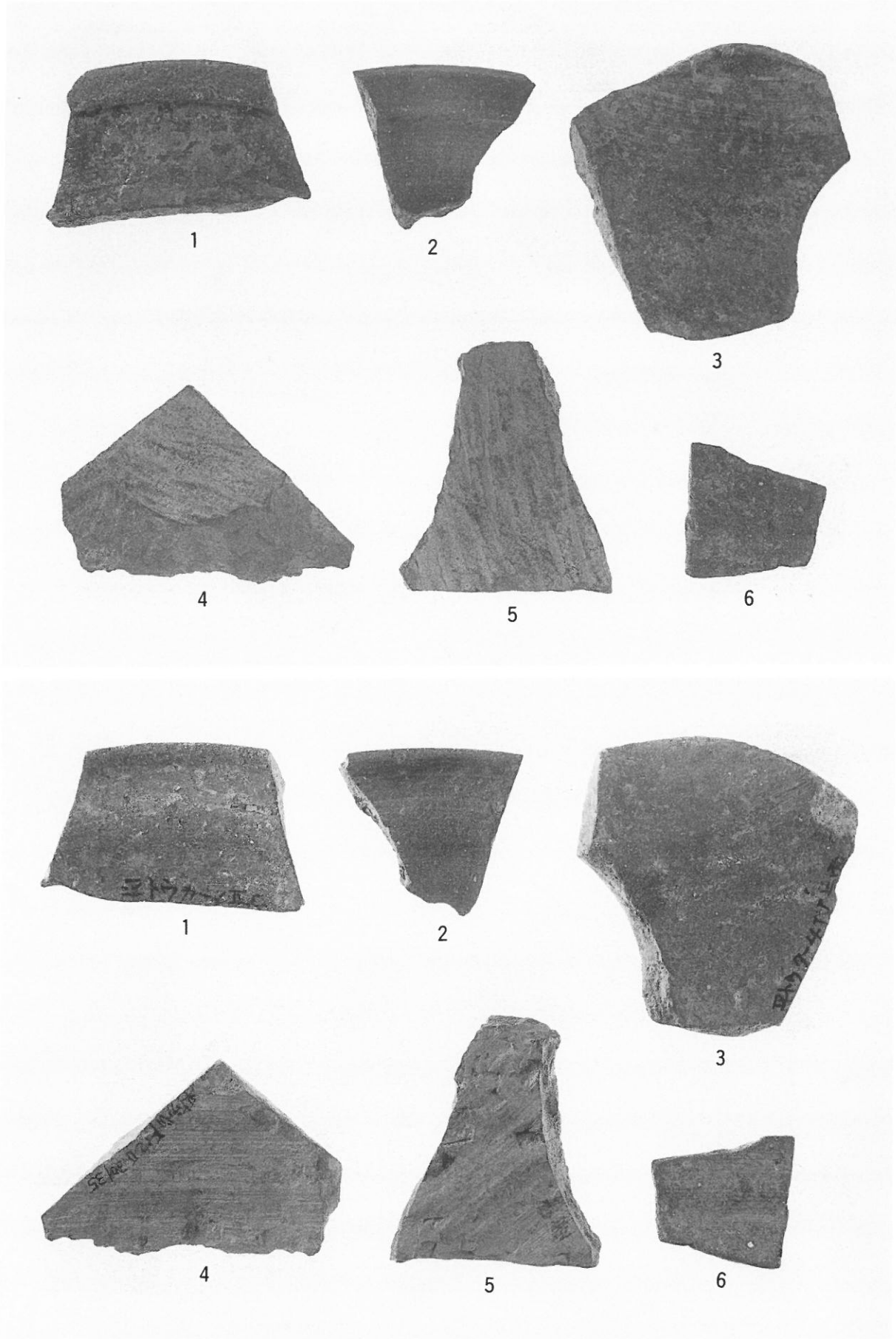
6



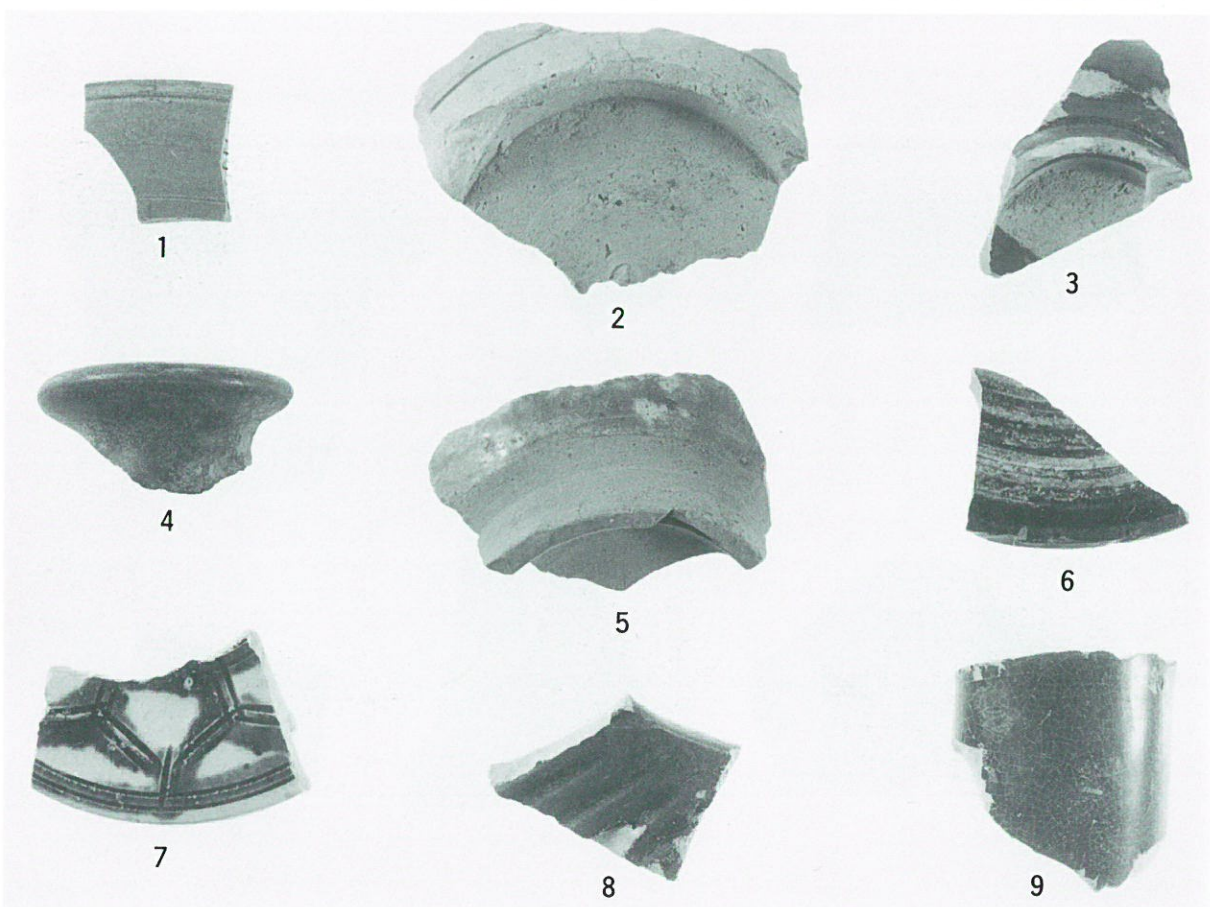
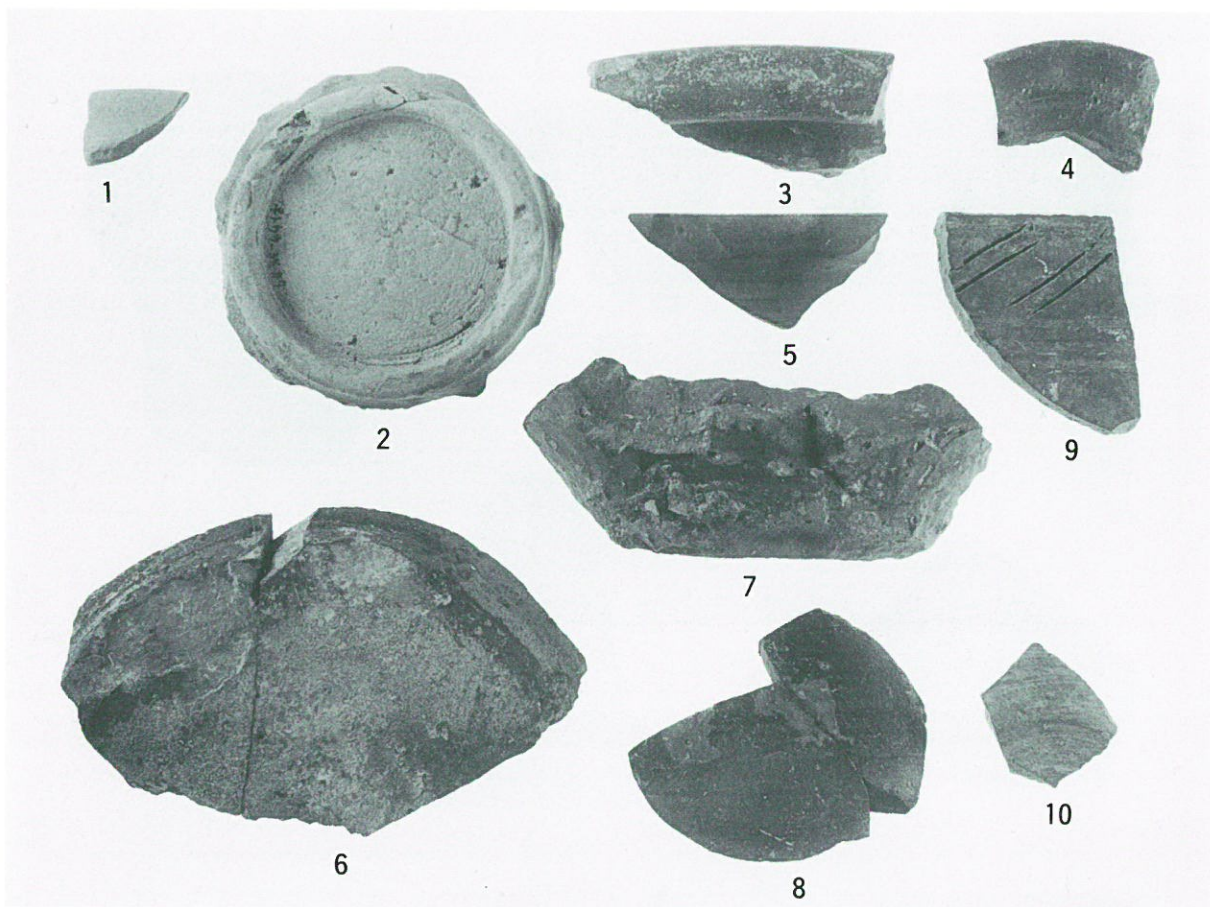
図版57 白磁 (1・2)、青磁 (3~8)、染付 (9~15)



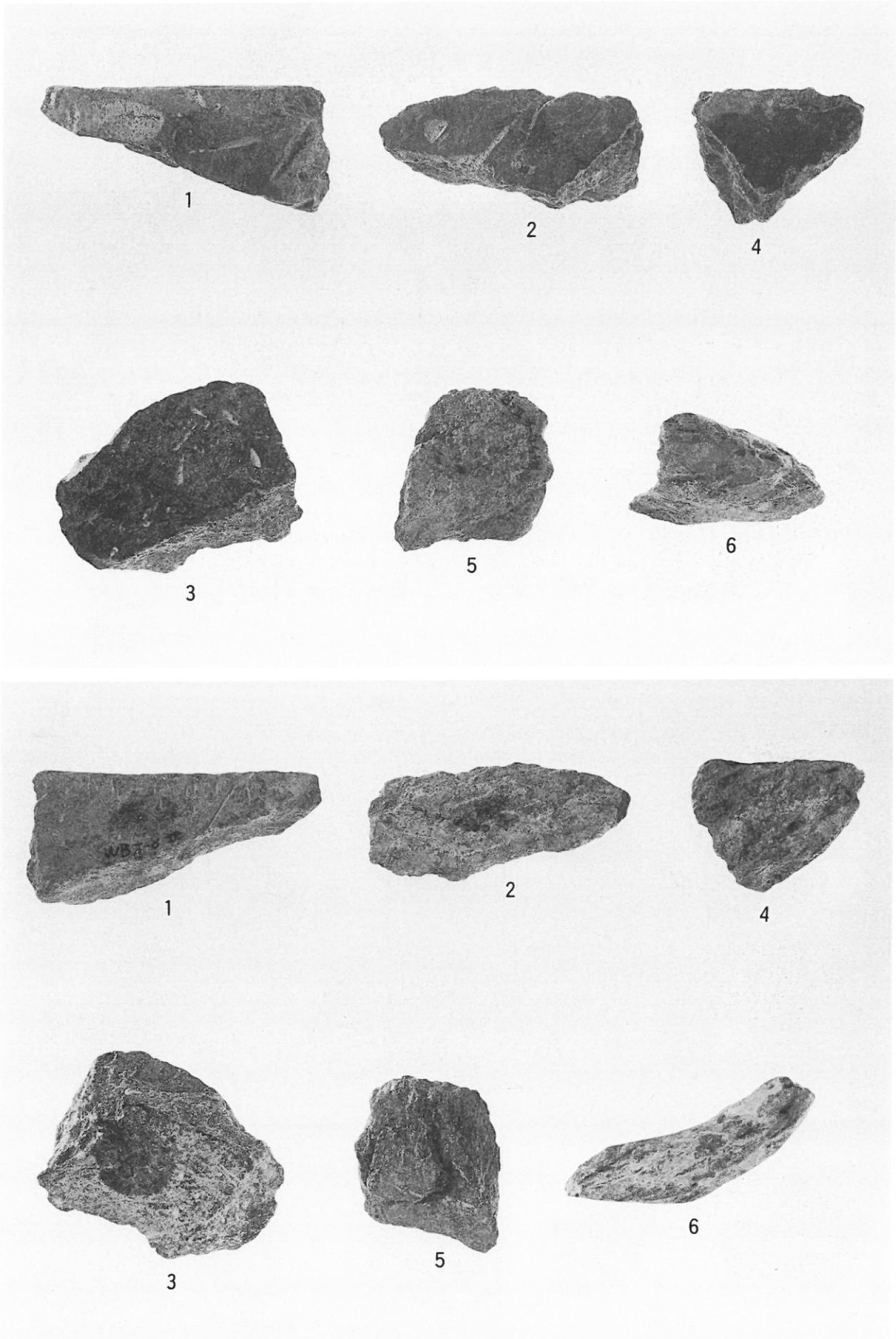
図版58 緑釉陶器 (1)、黄釉陶器 (2、3) 本土産陶磁器 (4、5)、その他の陶器 (6)
瓦質土器 (7)



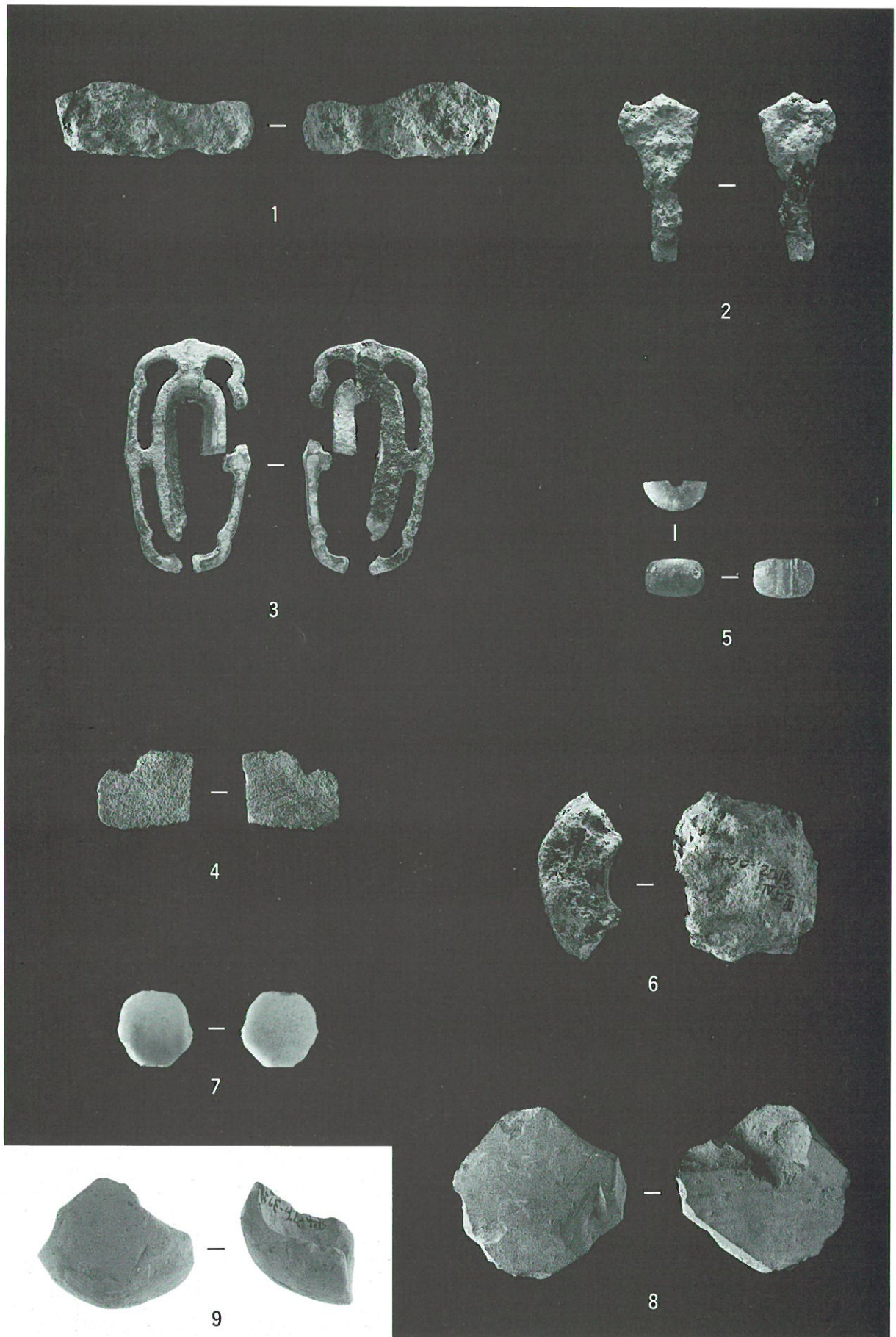
图版59 須惠器



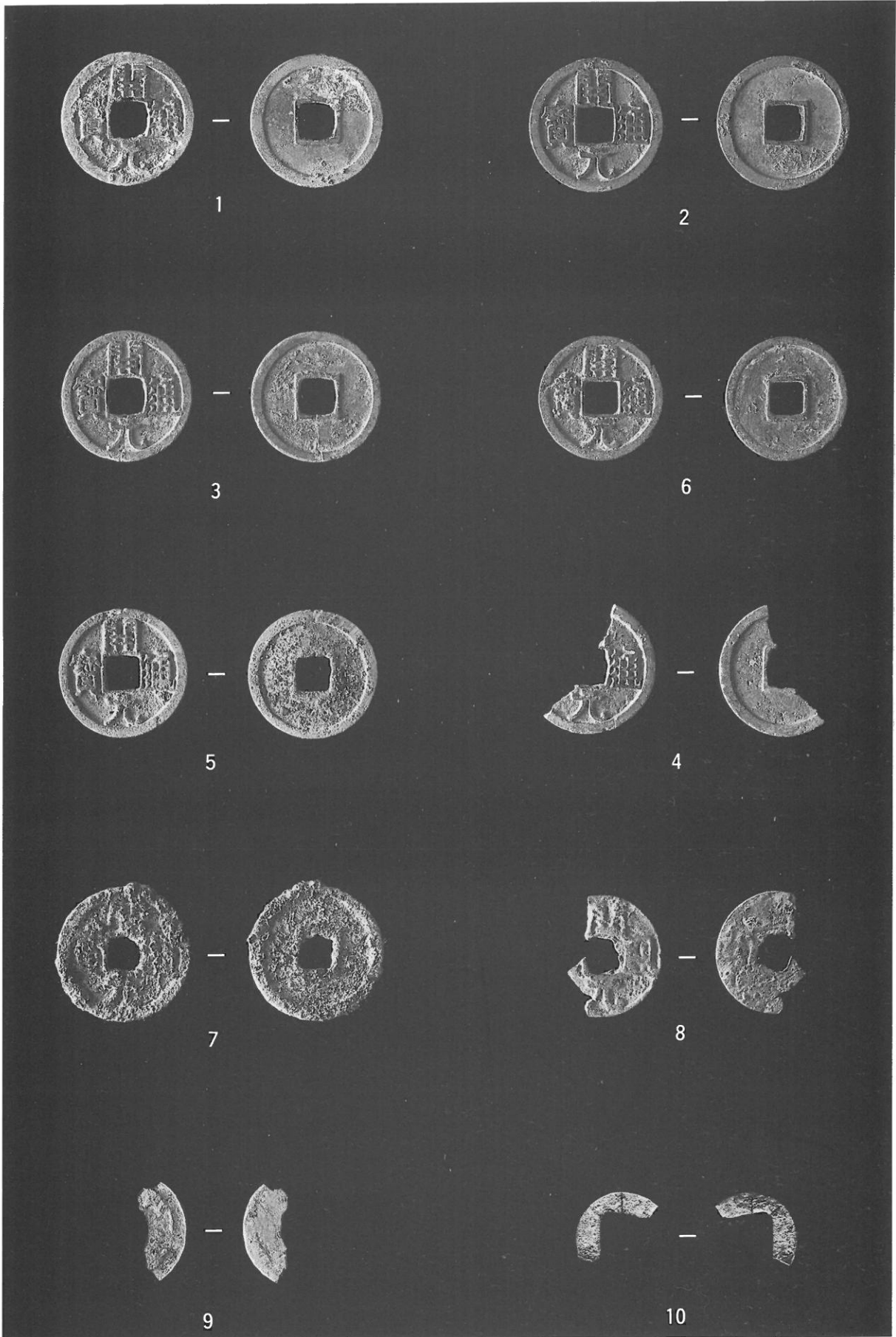
図版60 上：沖縄産無釉陶器、下：沖縄産施釉陶器



図版61 滑石製石鍋（上：表面、下：裏面）



図版62 鉄製品 (1・2) 青銅製品 (3・4) 玉 (5) 羽口 (6) 円盤状製品 (7・8) 土製品 (9)



図版63 貨錢 開元通寶 (1~8)、不明錢 (9)、無文錢 (10)

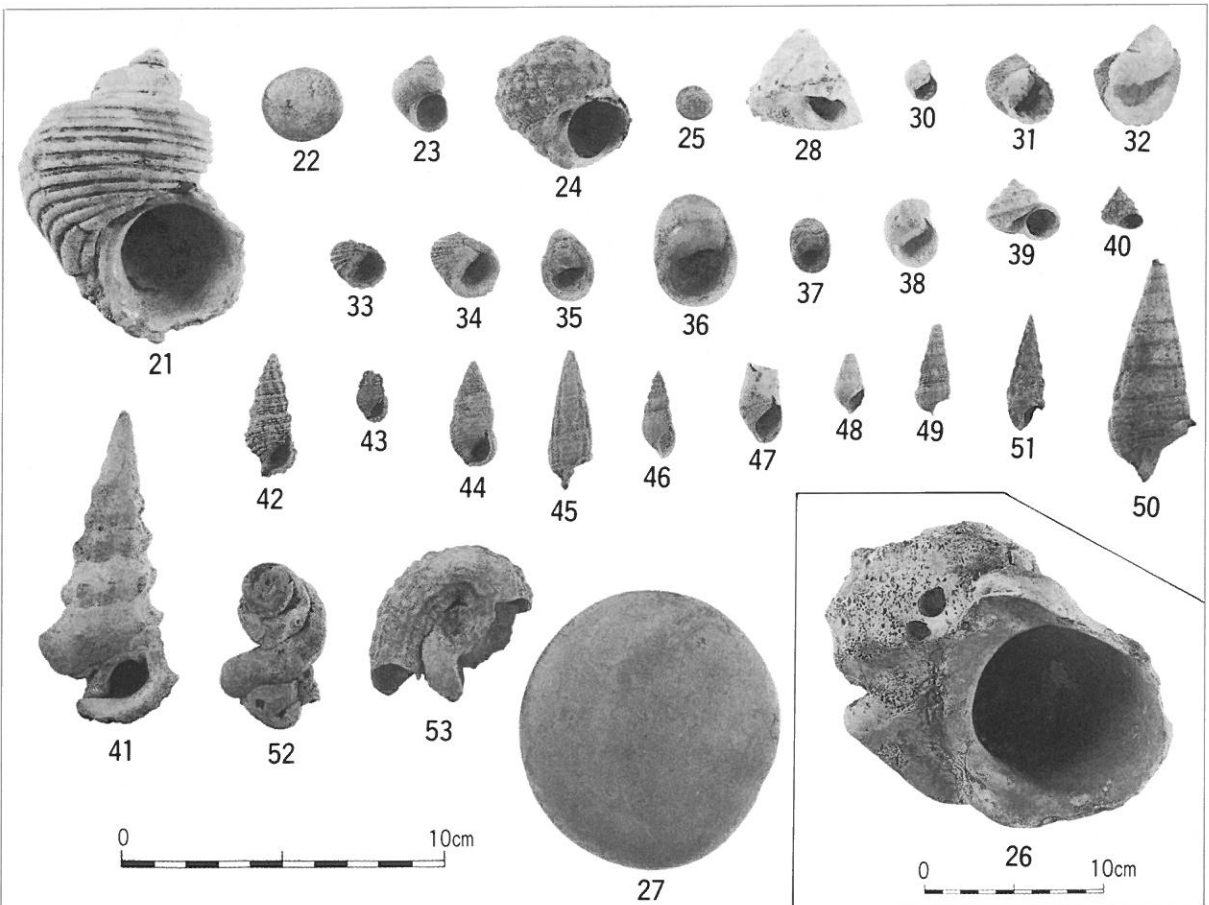
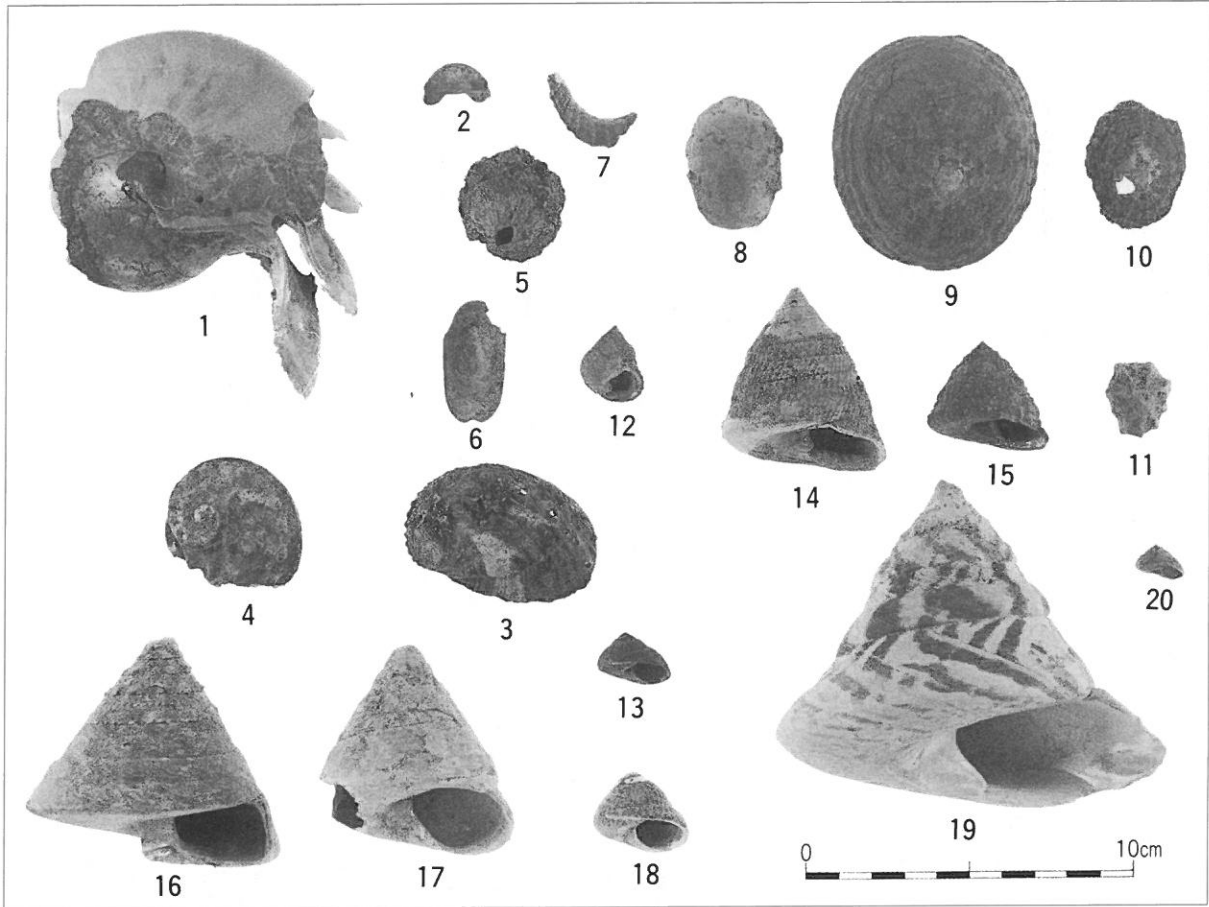
図版64 貝類①

上

1. オウムガイ
2. ヒザラガイ
5. フジツボ
7. オオツタノハガイ?
8. ベッコウガサ
9. オオベッコウガサガイ
10. ヨメガカサガイ
11. リュウキュウウノアシ
4. マアナゴウ
3. イボアナゴウ
6. オトメガサ
12. オキナワイシダタミ
13. クマノコガイ
14. ニシキウズ
15. ムラサキウズ
16. ギンタカハマ
17. ベニシリタカ
18. ヒメクボガイ
19. サラサバテイラ
20. ヘソゴマ

下

21. チョウセンサザエ
22. チョウセンサザエの蓋
23. コシダカサザエ
24. カンギク
25. カンギクの蓋
26. ヤコウガイ
27. ヤコウガイの蓋
28. オオウラウズ
30. イシダタミアマオブネ
31. キバアマガイ
32. フトスジアマガイ
33. マルアマオブネ
34. オオマルアマオブネ
35. アマオブネ
36. ニシキアマオブネ
37. リュウキュウアマガイ
38. カノコガイ
39. オキナワヤマタニシ
40. コンペイトウガイ
41. オニノツノガイ
42. コオニノツノガイ
43. アラレカニモリ
44. クワノミカニモリ
45. ヨコワカニモリ
46. トウガタカワニナ
47. スグカワニナ
48. カワニナ
49. イトカケヘナタリ
50. キバウミニナ
51. イボウミニナ
52. ヘビガイの一種
53. リュウキュウヘビガイ



図版64 貝類①

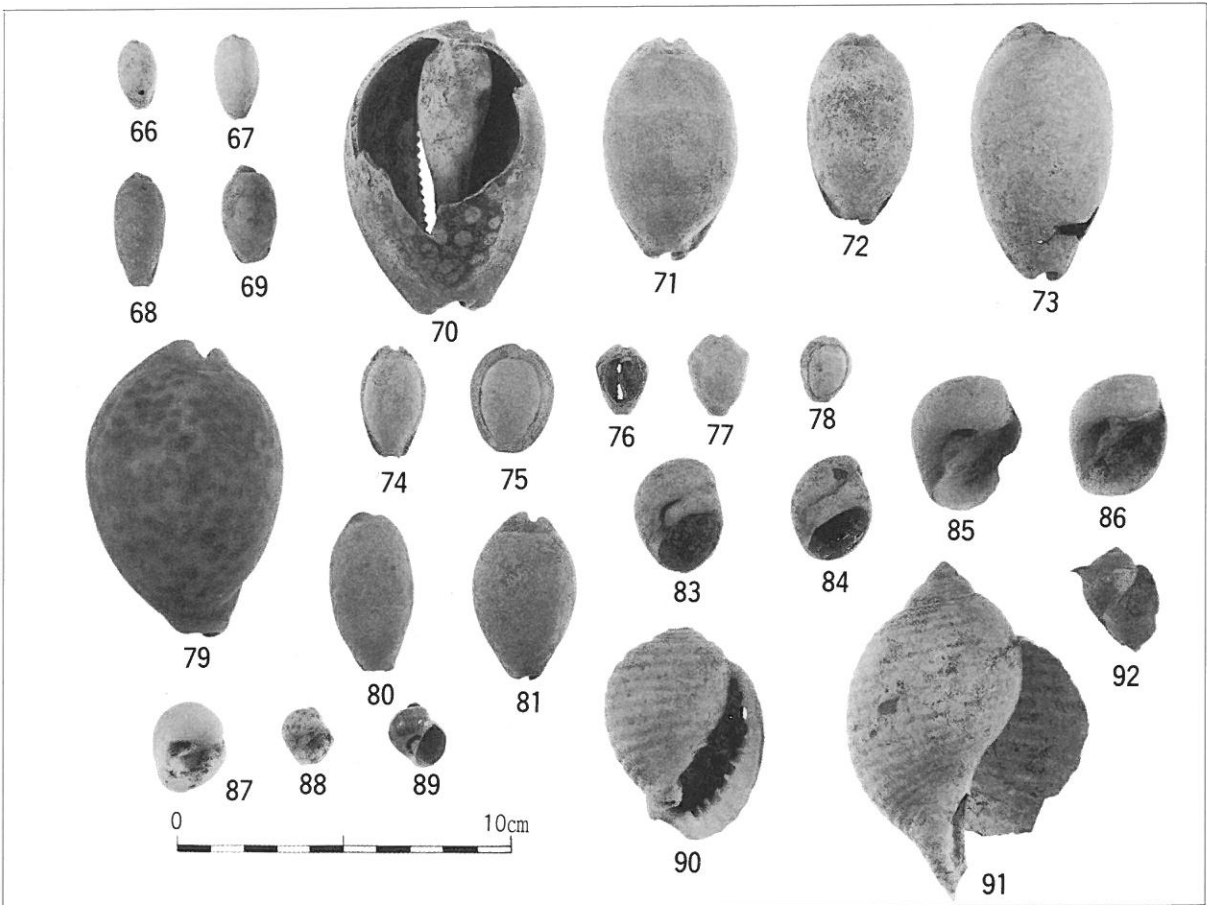
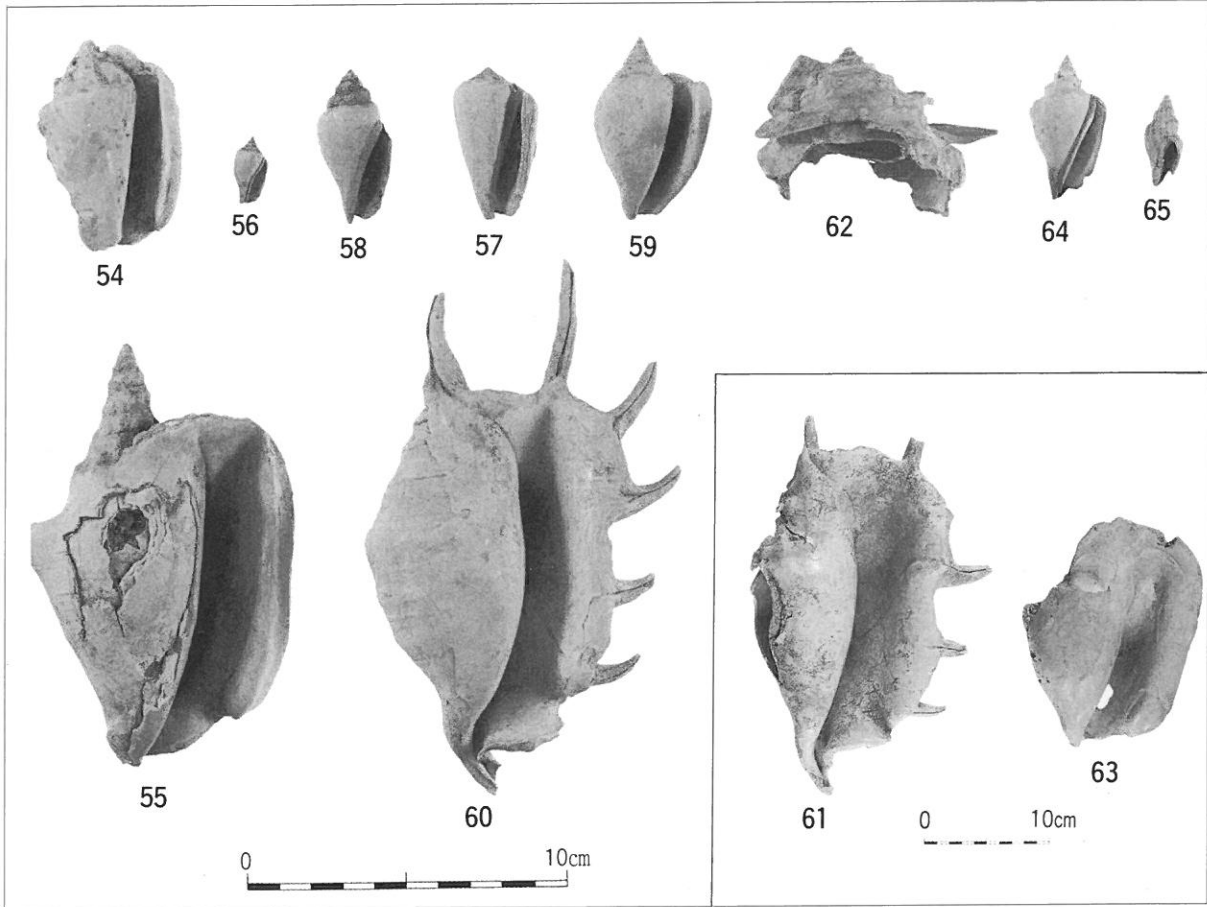
図版65 貝類②

上

- | | |
|--------------|------------|
| 54. イボソデガイ | 60. クモガイ |
| 55. アツソデガイ | 61. ラクダガイ |
| 56. ムカシタモトガイ | 62. スイジガイ |
| 57. マガキガイ | 63. ゴホウラ |
| 58. ネジマガキガイ | 64. オハグロガイ |
| 59. スイショウガイ | 65. ヒダトリガイ |

下

- | | |
|-------------------|---------------|
| 66. ナツメダカラ | 79. ホシダカラ |
| 67. ナツメモドキ | 80. ヒメホシダカラ |
| 68. ヒロクチダカラ | 81. ホシキヌタ |
| 69. スソヨツメダカラ | 83. ヘソアキトミガイ |
| 70. ハチジョウダカラ | 84. トミガイ |
| 71. ヤクジマダカラ | 85. キネズミガイ |
| 72. ホソヤクジマダカラ | 86. リスガイ |
| 73. タルダカラ | 87. トラダマ |
| 74. コモンダカラ | 88. アラゴマフダマ |
| 75. ハナマルユキ | 89. ホウシュノタマガイ |
| 76. キイロダカラ | 90. イワカワトキワガイ |
| 77. キイロダカラ (フジダカ) | 91. ウズラガイ |
| 78. ハナビラダカラ | 92. スクミウズラガイ |



図版65 貝類②

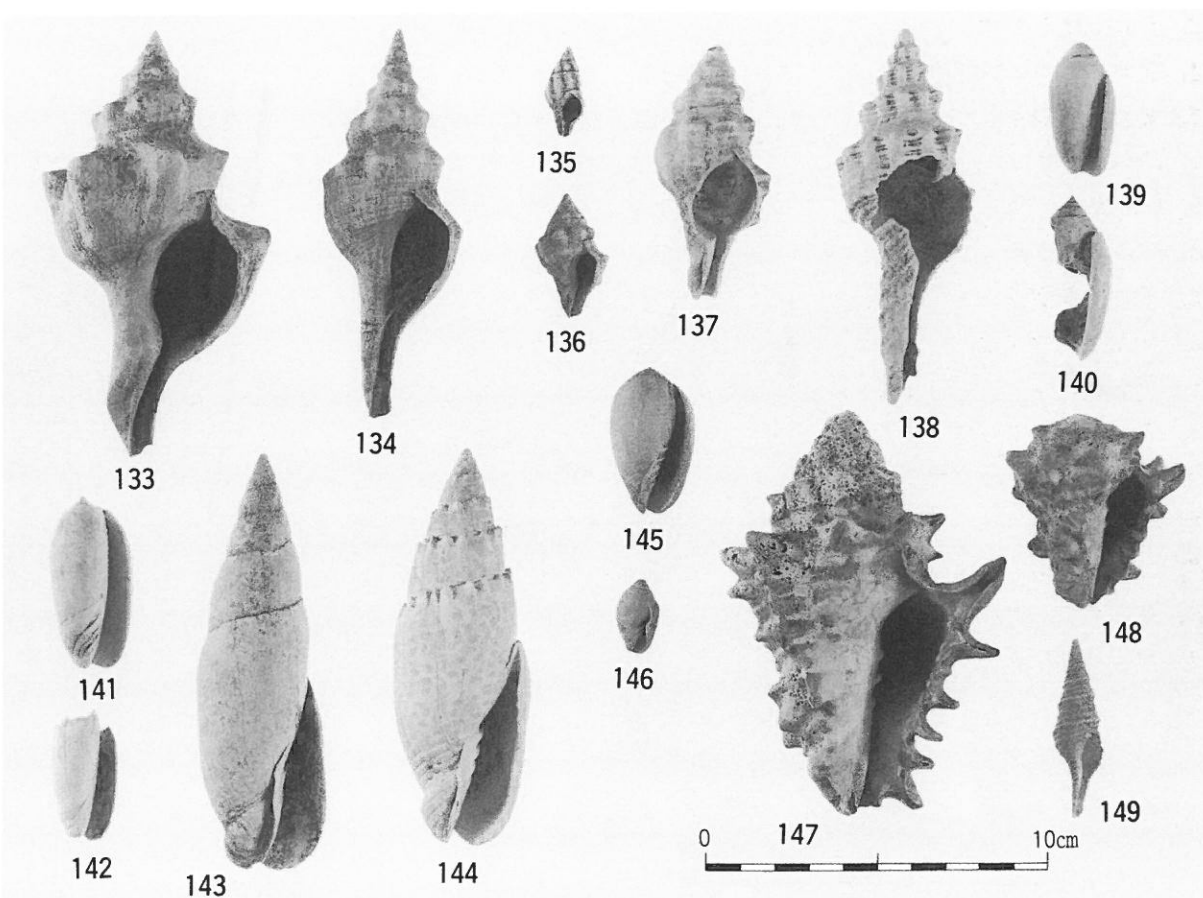
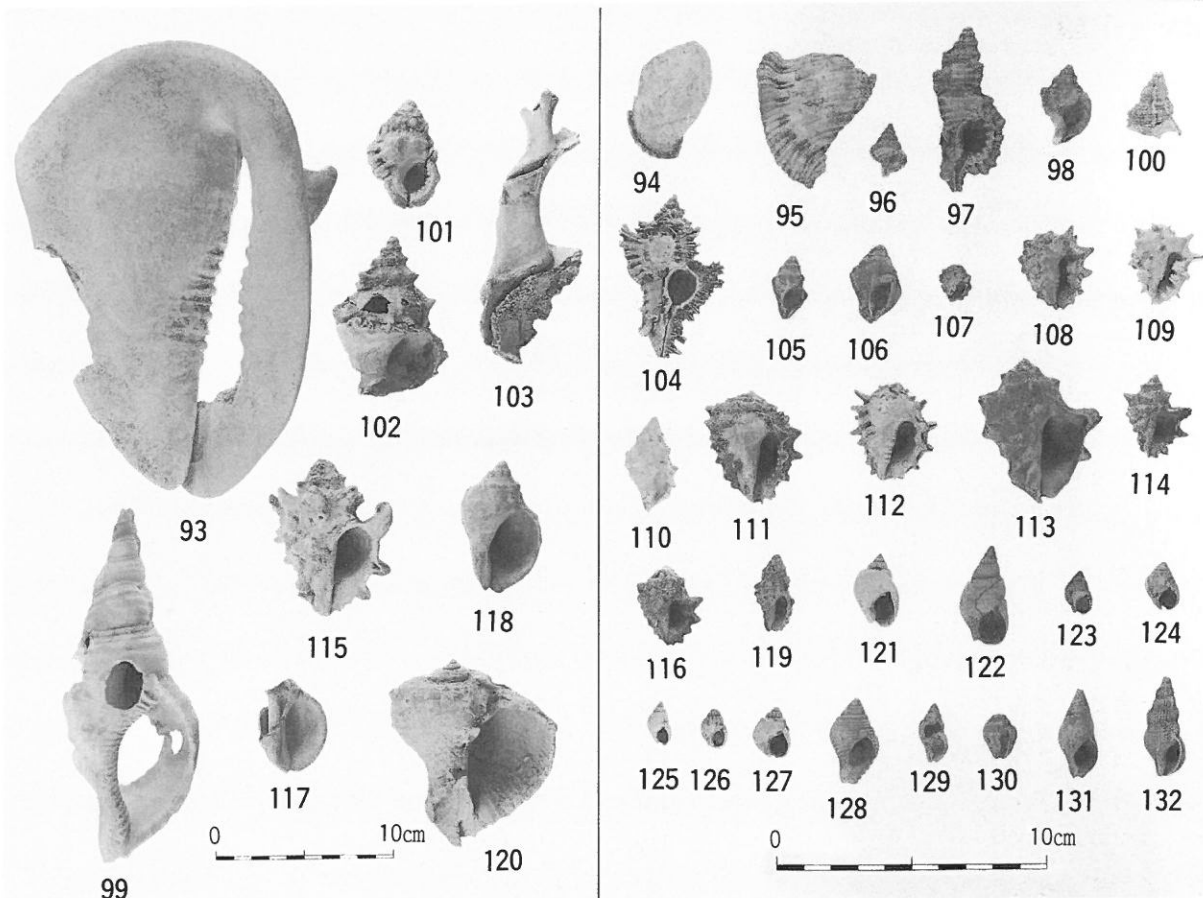
図版66 貝類③

上

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 93. トウカムリ | 113. ツノレイシ |
| 94. ヒナヅル | 114. ツノテツレイシ |
| 95. シノマキ | 115. シラクモガイ |
| 96. シマアラレボラ | 116. テツレイシ |
| 97. ミツカドボラ | 117. ホソスジテツボラ |
| 98. シオボラ | 118. テツボラ |
| 99. ホラガイ | 119. クチベニレイシダマシ |
| 100. イワカワウネボラ | 120. シロニシ |
| 101. オキニシ | 121. イボヨフバイ |
| 102. オオナルトボラ | 122. ミナミキンシバイ |
| 103. テングガイ | 123. アワムシロ |
| 104. ガンゼキボラ | 124. アツムシロ |
| 105. ウネレイシダマシ | 125. ヒメヨフバイ |
| 106. ヒロウネレイシダマシ | 126. オキナワハナムシロ |
| 107. レイシダマシ | 127. オリイレヨフバイ |
| 108. ムラサキイガレイシ | 128. スジグロホラダマシ |
| 109. キマダライガレイシ | 129. ホラダマシ |
| 110. シロレイシダマシ | 130. ノシガイ |
| 111. アカイガレエシ | 131. シマベッコウバイ |
| 112. ヒロクチレイシ | 132. セコバイ |

下

- | | |
|-------------------|----------------|
| 133. イトマキボラ | 142. マクラガイ科不明 |
| 134. ナガイトマキボラ | 143. チョウセンフデガイ |
| 135. ハシグロツノマタモドキ | 144. オニキバフデガイ |
| 136. アヤツノマタガイモドキ | 145. イモフデガイ |
| 137. リュウキュウツノマタガイ | 146. フトコロヤタテ |
| 138. チトセボラ | 147. オニコブシガイ |
| 139. サツマビナ | 148. コオニコブシガイ |
| 140. タカサゴビナ | 149. クダボラ |
| 141. ジュドウマクラ | |



図版66 貝類③

図版67 貝類④

上

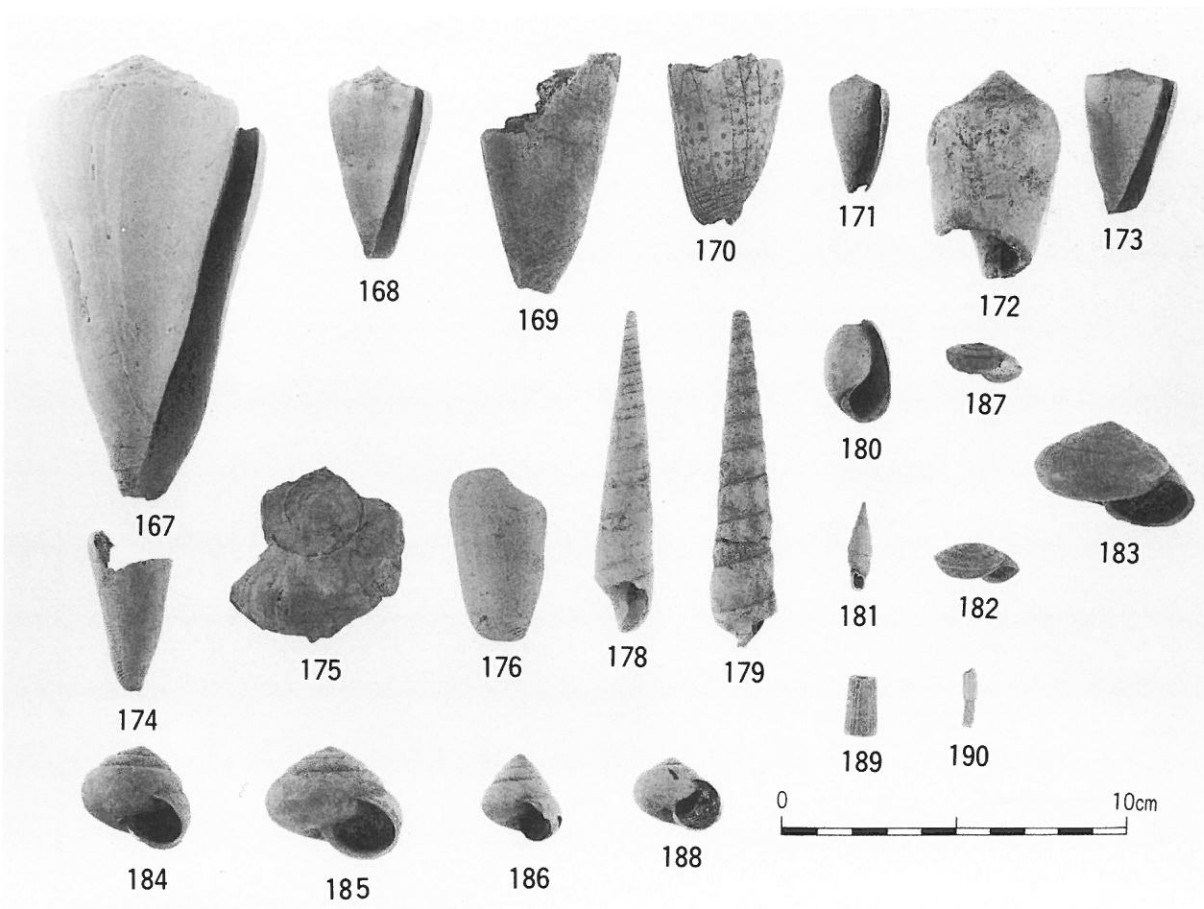
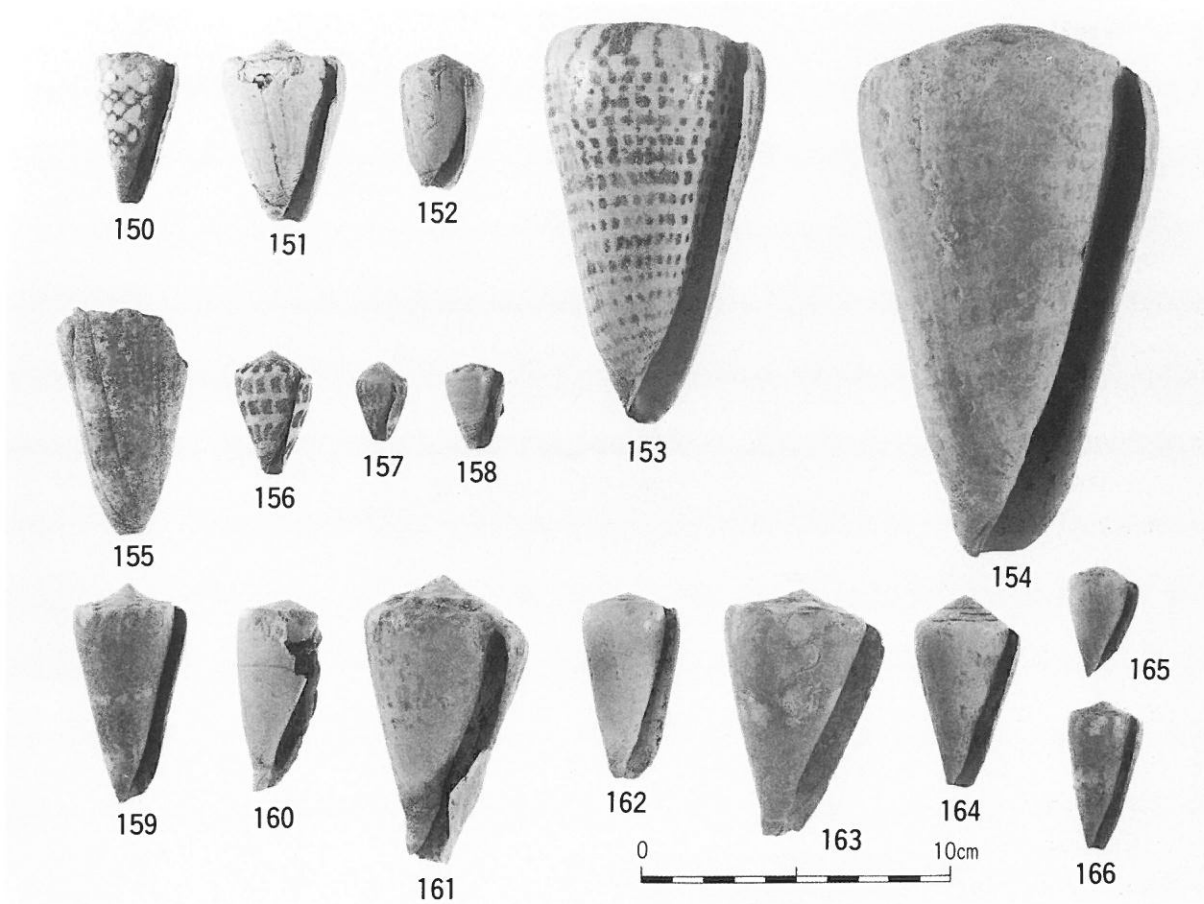
- 150. クロミナシガイ
- 151. クロザメモドキ
- 152. コモンイモ
- 153. アンボンクロザメ
- 154. クロフモドキ
- 155. ミカドミナシ
- 156. マダライモ
- 157. コマダライモ
- 158. サヤガタイモ

- 159. アカシマミナシ
- 160. ヒラマキイモ
- 161. サラサミナシ
- 162. ヤキイモ
- 163. カバミナシ
- 164. ヤナギシボリイモ
- 165. ハイイロミナシ
- 166. サラサミナシモドキ

下

- 167. イボカバイモ
- 168. イボシマイモ
- 169. ニシキミナシ
- 170. ゴマフイモ
- 171. アジロイモ
- 172. タガヤサンミナシ
- 173. キヌカツギ
- 174. ヤセイモ
- 175. アンボイナ
- 176. *Conus* sp.
- 178. ベニタケガイ
- 179. タケノコガイ

- 180. ナツメガイ
- 181. ツヤギセル
- 182. イトマンマイマイ
- 183. シュリマイマイ
- 184. カツレンマイマイ
- 185. ヤンバルマイマイ
- 186. オキナワヤマタカマイマイ
- 187. パンダナマイマイ
- 188. オキナワウスカワマイマイ
- 189. マルツノガイ
- 190. ツノガイ



図版67 貝類④

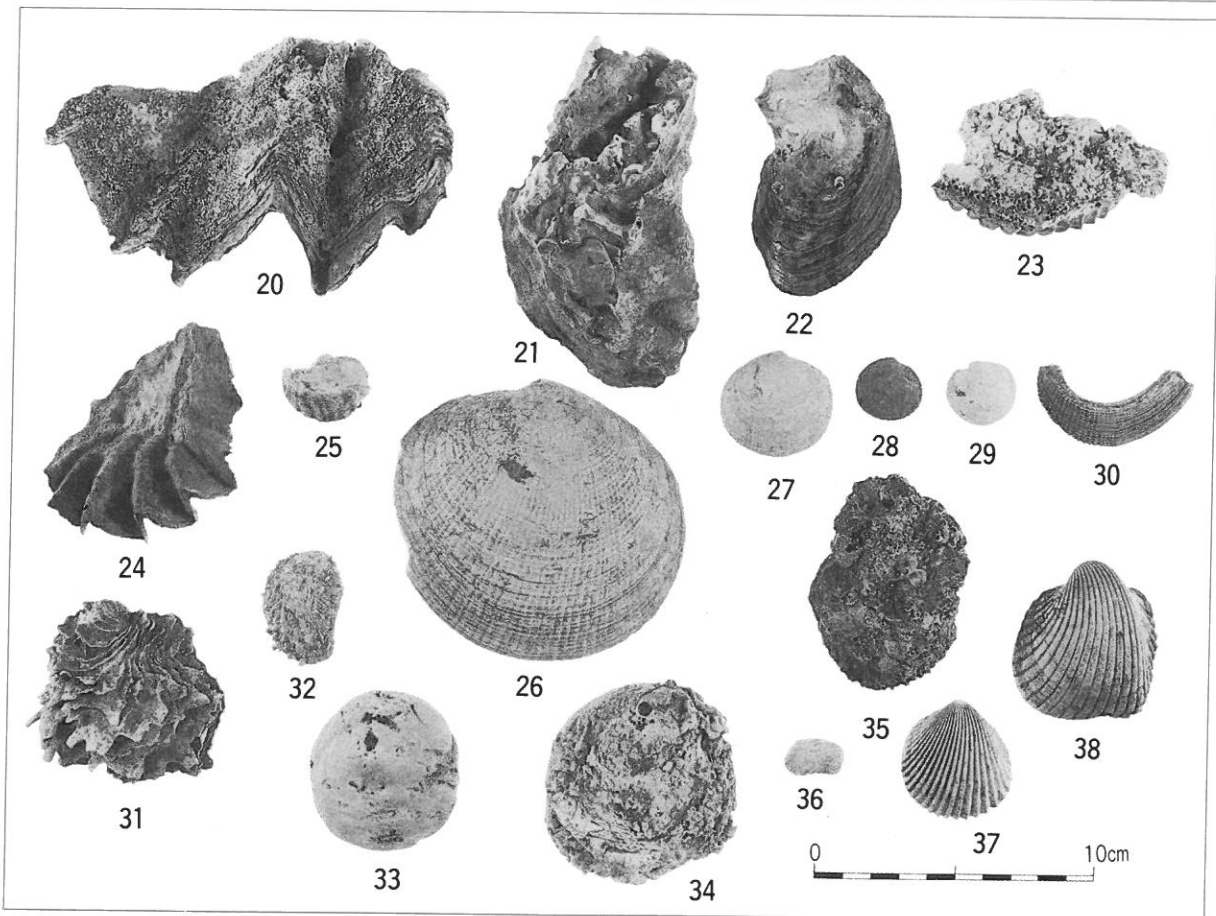
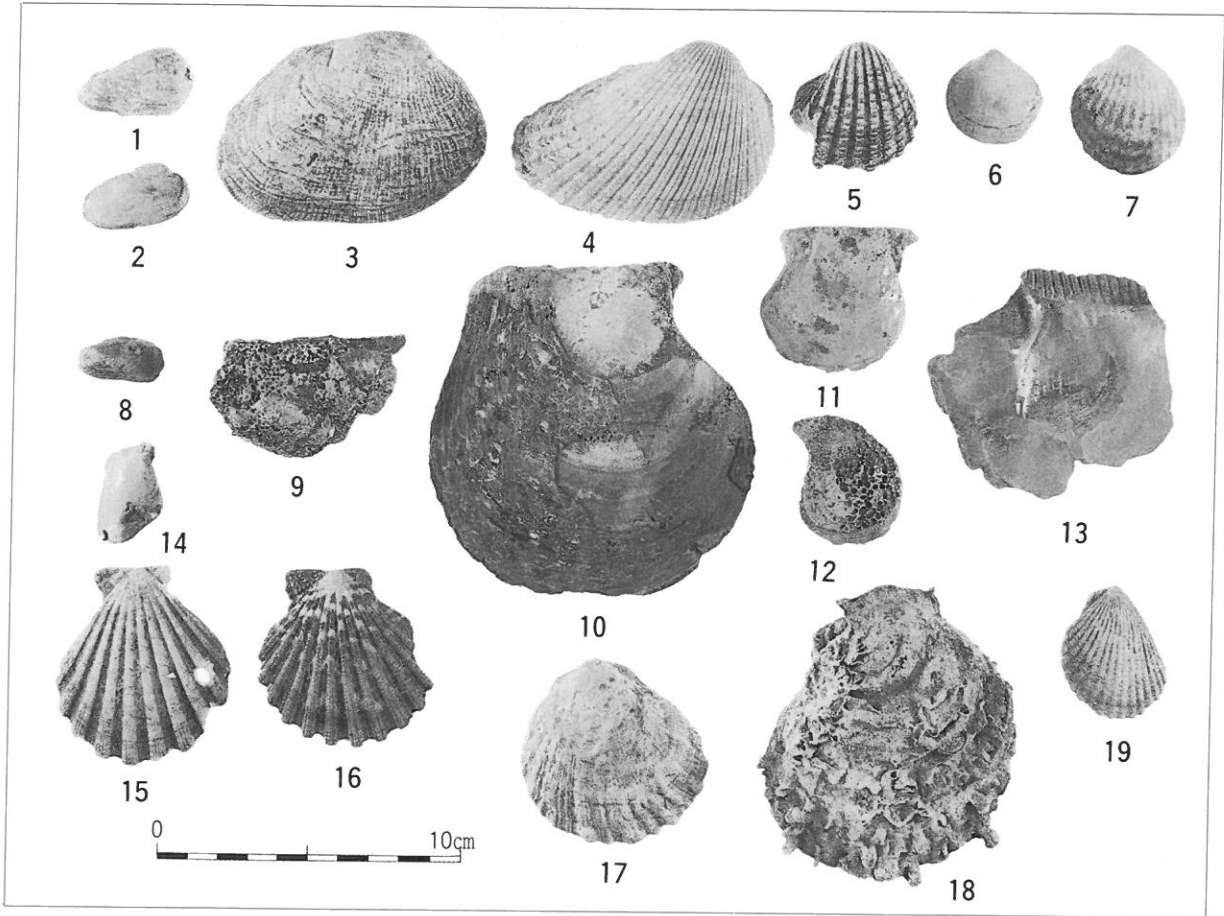
図版68 貝類⑤

上

1. オオタカノハガイ
2. ベニエガイ
3. オオカリガネエガイ
4. リュウキュウサルボウ
5. ハイガイ
6. ソメワケグリ
7. ウチワガイ
8. リュウキュウヒバリ
9. マベガイ
10. クロチョウガイ
11. ミドリアオリ
12. マクガイ
13. カイシアオリ
14. ヘリトリアオリガイ
15. イタヤガイ
16. チサラガイ
17. メンガイ
18. メンガイの一種
19. ミノガイ

下

20. シャコガキ
21. マガキ?
22. ニセマガキ?
23. オハクロガキ
24. トサカガキ
25. ノコギリガキ
26. ツキガイ
27. ウラキツキガイ
28. ヒメツキガイ
29. カブラツキガイ
30. カゴガイ
31. ヒレインコ
32. ケイトウガイ
33. シロザル
34. キクザル
35. カネツケザル
36. クロフトマヤガイ
37. リュウキュウザルガイ
38. カワラガイ



图版68 貝類⑤

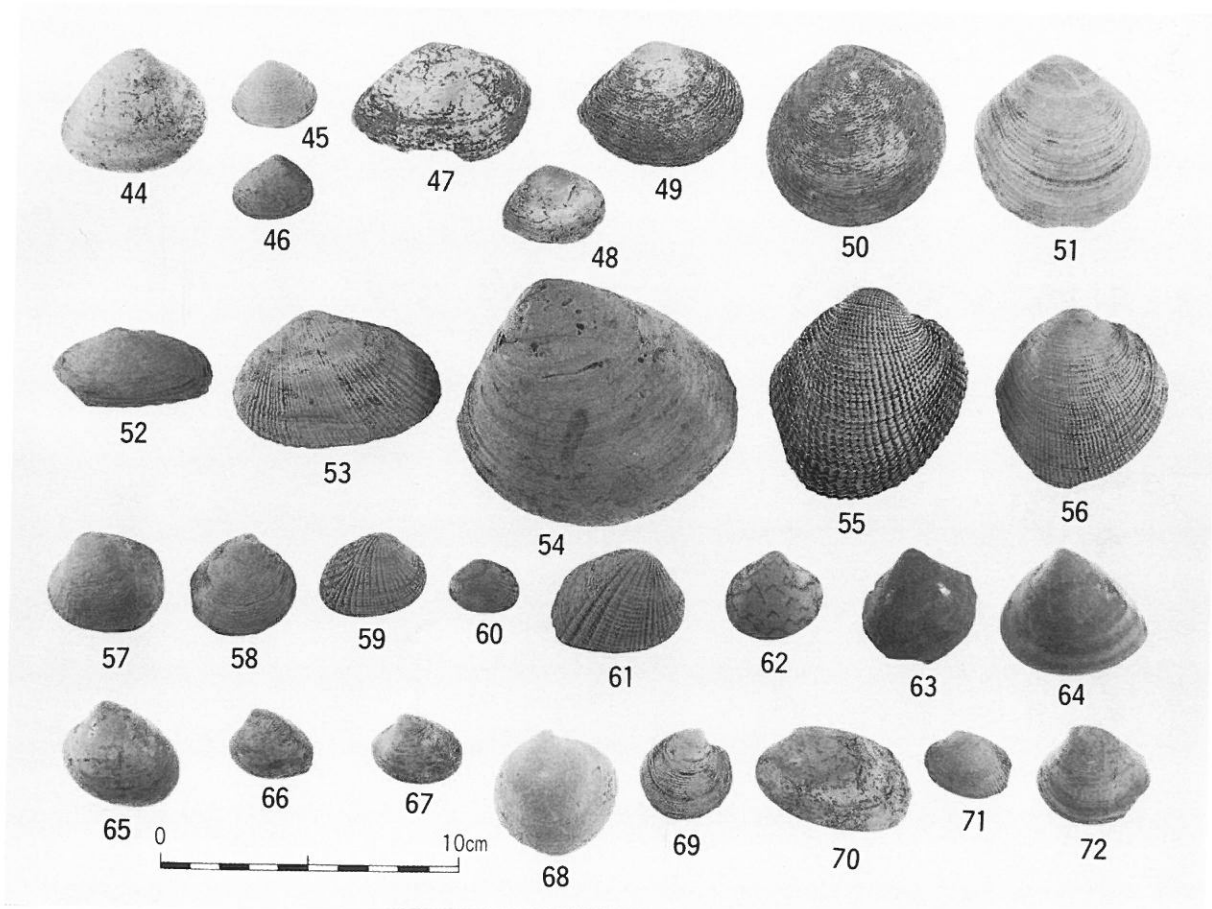
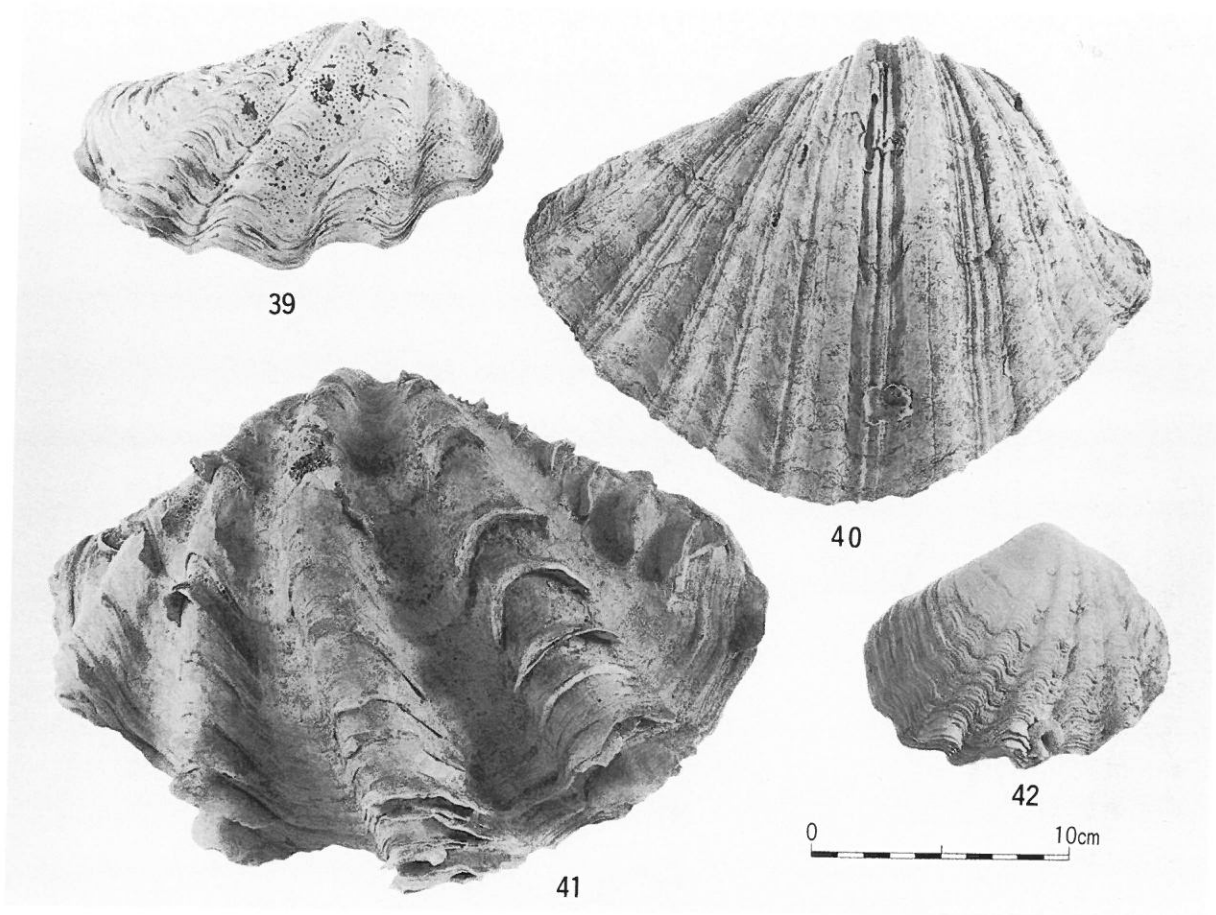
図版69 貝類⑥

上

- 39. シラナミ
- 40. シャゴウ
- 41. ヒレジャコ
- 42. ヒメジャコ

下

- 44. リュウキュウバカガイ
- 45. イソハマグリ
- 46. リュウキュウナミノコ
- 47. ニッコウガイ
- 48. コニッコウガイ
- 49. リュウキュウシラトリ
- 50. サメザラ
- 51. モチヅキザラ
- 52. マスオガイ
- 53. リュウキュウマスオガイ
- 54. シレナシジミ
- 55. アラスノメガイ
- 56. ヌノメガイ
- 57. ジュズカケヌノメガイ
- 58. シラオガイ
- 59. ホソスジイナミガイ
- 60. ヒメイナミガイ
- 61. アラスジケマンガイ
- 62. マルオミナエシ
- 63. ハマグリ
- 64. チョウセンハマグリ
- 65. ユウカゲハグリ
- 66. オトコエシハマグリ
- 67. イオウハマグリ
- 68. オキシジミ
- 69. オイノカガミ
- 70. リュウキュウアサリ
- 71. ヒメアサリ
- 72. スダレハマグリ



図版69 貝類⑥

図版70

サカナ (1)

上

(トビエイ科)

1. 歯板
- ウツボ科
2. 右 歯骨
3. 鋤骨
- カマス科
4. 右 歯骨
- ダツ科
5. 左 前上顎骨
6. 左 歯骨
- スズキ科 (ハタ類)
7. 左 前上顎骨 (A)
8. 左 歯骨 (A)
9. 右 前上顎骨 (B)
10. 左 歯骨 (B)
11. 鋤骨
12. 右 方骨
13. 右 前鰓蓋骨
14. 左 角骨

(イシダイ科)

15. 右 前上顎骨
16. 右 歯骨
- フエダイ科
17. 右 前上顎骨 (A)
18. 右 歯骨 (A)
19. 左 前上顎骨 (B)
20. 左 歯骨 (B)
21. 右 前上顎骨 (C)
22. 左 歯骨 (C)
23. 左 前上顎骨 (D)
24. 左 前上顎骨 (E)
25. 左 舌顎
- タイ科
26. 右 前上顎骨 (クロダイ)
27. 左 歯骨 (♫)
28. 右 主上顎骨 (♫)
29. 右 前上顎骨 (ヘダイ)
30. 左 歯骨 (♫)
31. 前頭骨 (マダイ)

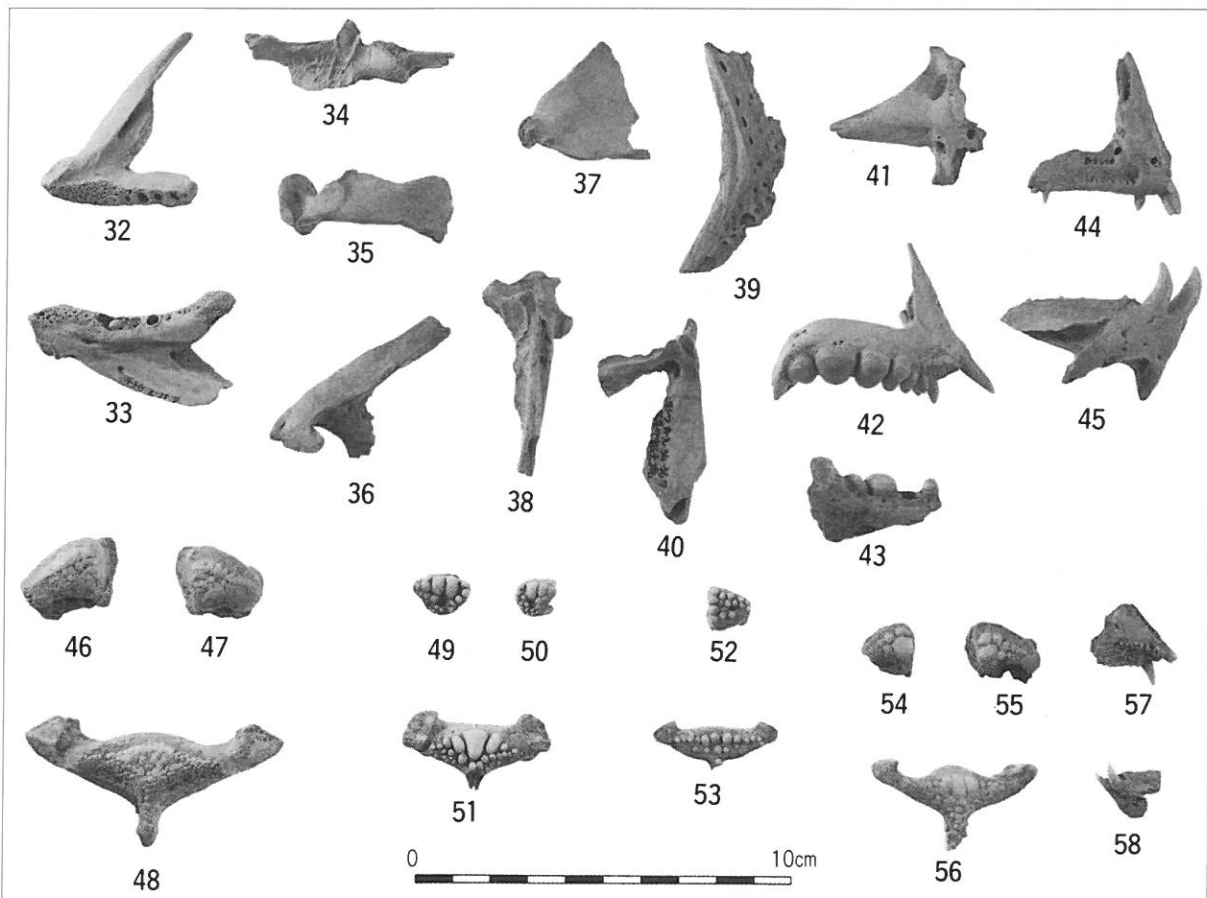
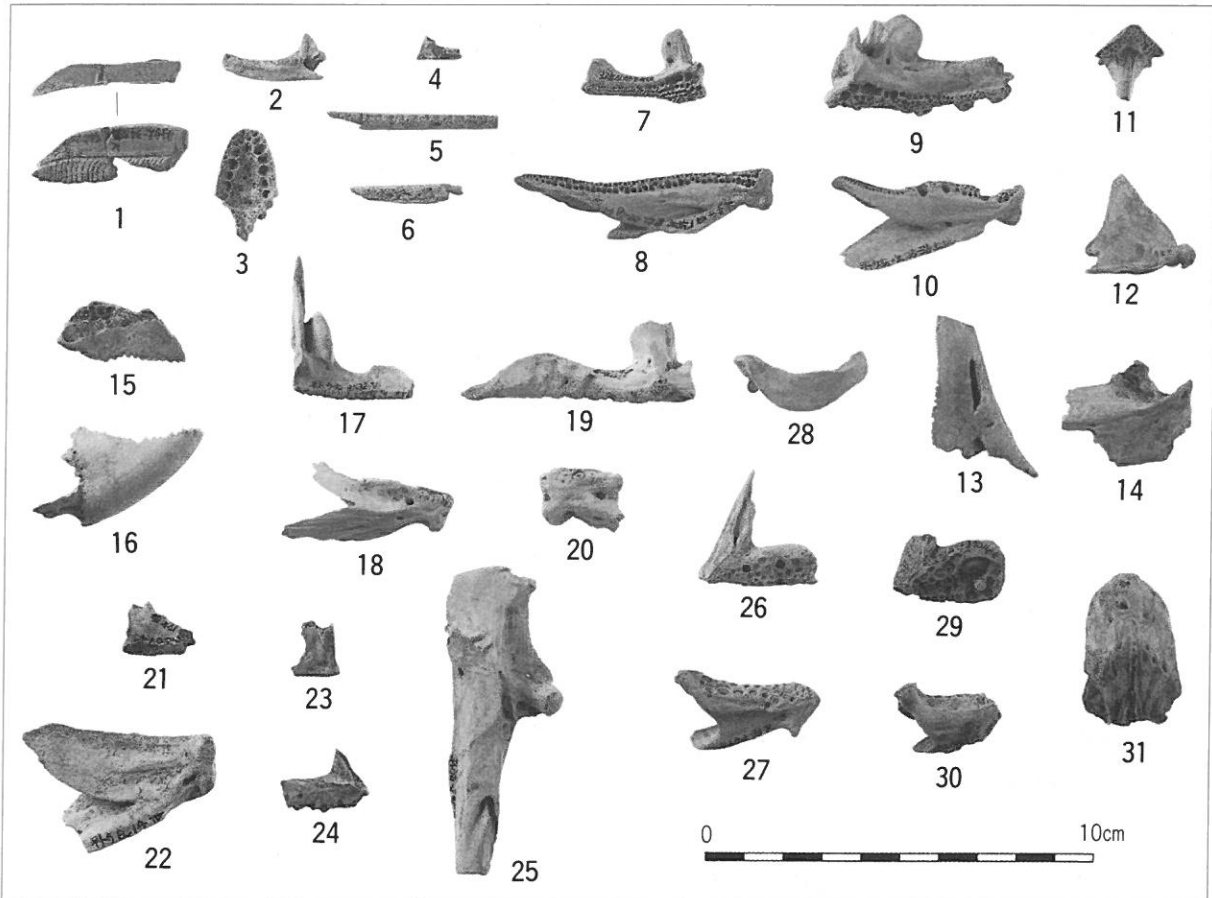
下

(フエフキダイ科)

32. 右 前上顎骨 (ハマフエフキ)
33. 右 歯骨 (♫)
34. 副楔骨 (♫)
35. 左 主上顎骨 (♫)
36. 左 口蓋 (♫)
37. 左 方骨 (♫)
38. 左 舌顎 (♫)
39. 左 前鰓蓋骨 (♫)
40. 左 主鰓蓋骨 (♫)
41. 左 角骨 (♫)
42. 右 前上顎骨 (ヨコシマクロダイ)
43. 右 歯骨 (♫)
- ベラ科
44. 左 前上顎骨 (コブダイ)
45. 右 歯骨 (♫)

(ベラ科)

46. 右 上咽頭骨 (コブダイ)
47. 左 上咽頭骨 (♫)
48. 下咽頭骨 (♫)
49. 右 上咽頭骨 (タキベラ)
50. 左 上咽頭骨 (♫)
51. 下咽頭骨 (♫)
52. 右 上咽頭骨 (A)
53. 下咽頭骨 (A)
54. 右 上咽頭骨 (B)
55. 左 上咽頭骨 (B)
56. 下咽頭骨 (B)
57. 左 前上顎骨 (C)
58. 左 歯骨 (C)



図版70 サカナ (1)

図版71

サカナ (2)

上

(ブダイ科)

- 59. 右 上咽頭骨 (ナガブダイ)
- 60. 右 下咽頭骨 (ク)
- 61. 右 前上顎骨 (イロブダイ)
- 62. 右 歯骨 (ク)
- 63. 右 上咽頭骨 (ク)
- 64. 下咽頭骨 (ク)
- 65. 左 上咽頭骨 (ナンヨウブダイ)
- 66. 下咽頭骨 (ク)
- 67. 右 歯骨 (A)
- 68. 左 歯骨 (A)
- 69. 右 前上顎骨 (B)
- 70. 左 歯骨 (B)

(ニザダイ科)

- 71. 鱗
- 72. 尾部鱗 (ニザダイ類)

(モンガラカワハギ科)

- 73. 右 上顎骨
 - 74. 左 歯骨
 - 75. 背鰭棘 (カワハギ類)
フグ科 (フグ類)
 - 76. 左 前上顎骨
 - 77. 右 歯骨
(ハリセンボン科)
 - 78. 上顎骨
 - 79. 歯骨
 - 80. 棘
(コチ科) (コチ)
 - 81. 左 歯骨
- 種不明
- 82. 右 歯骨

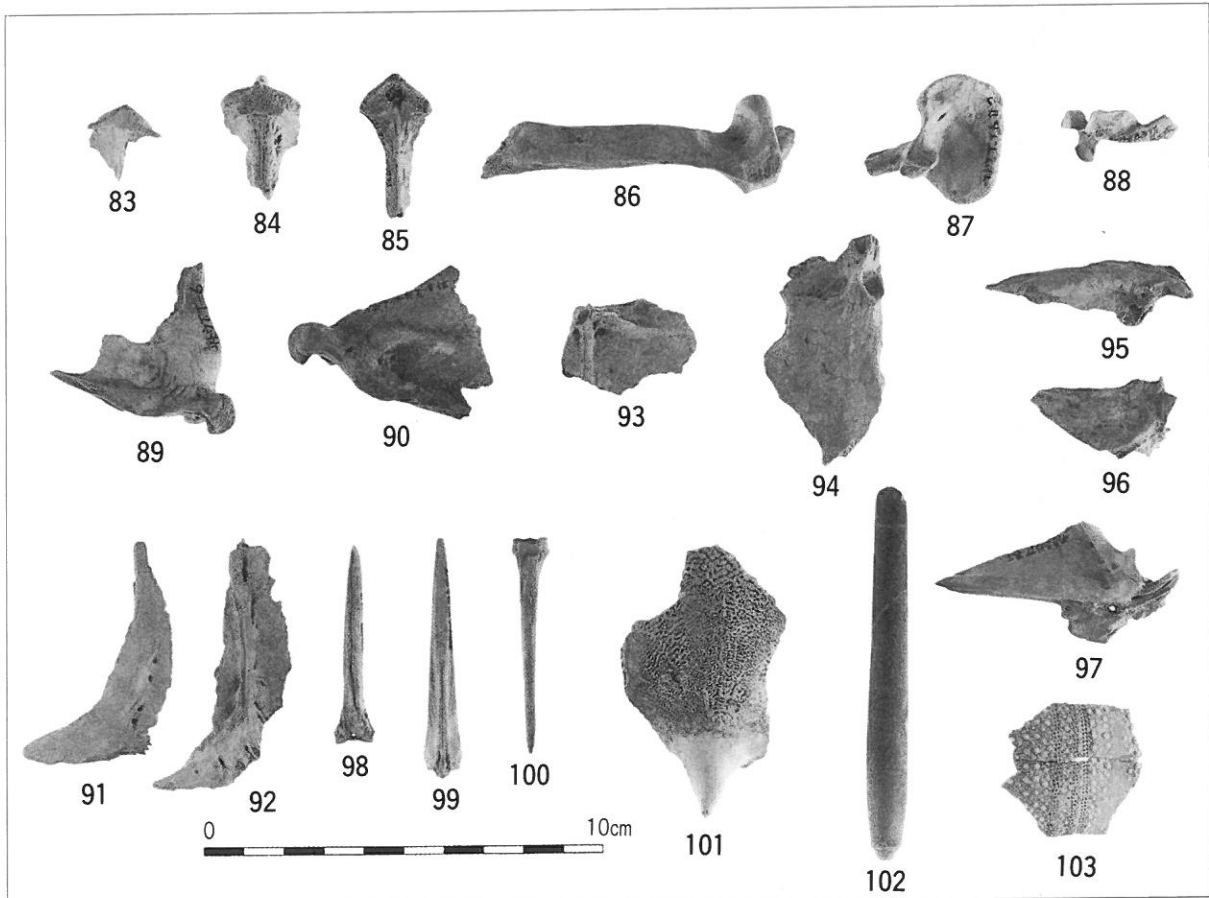
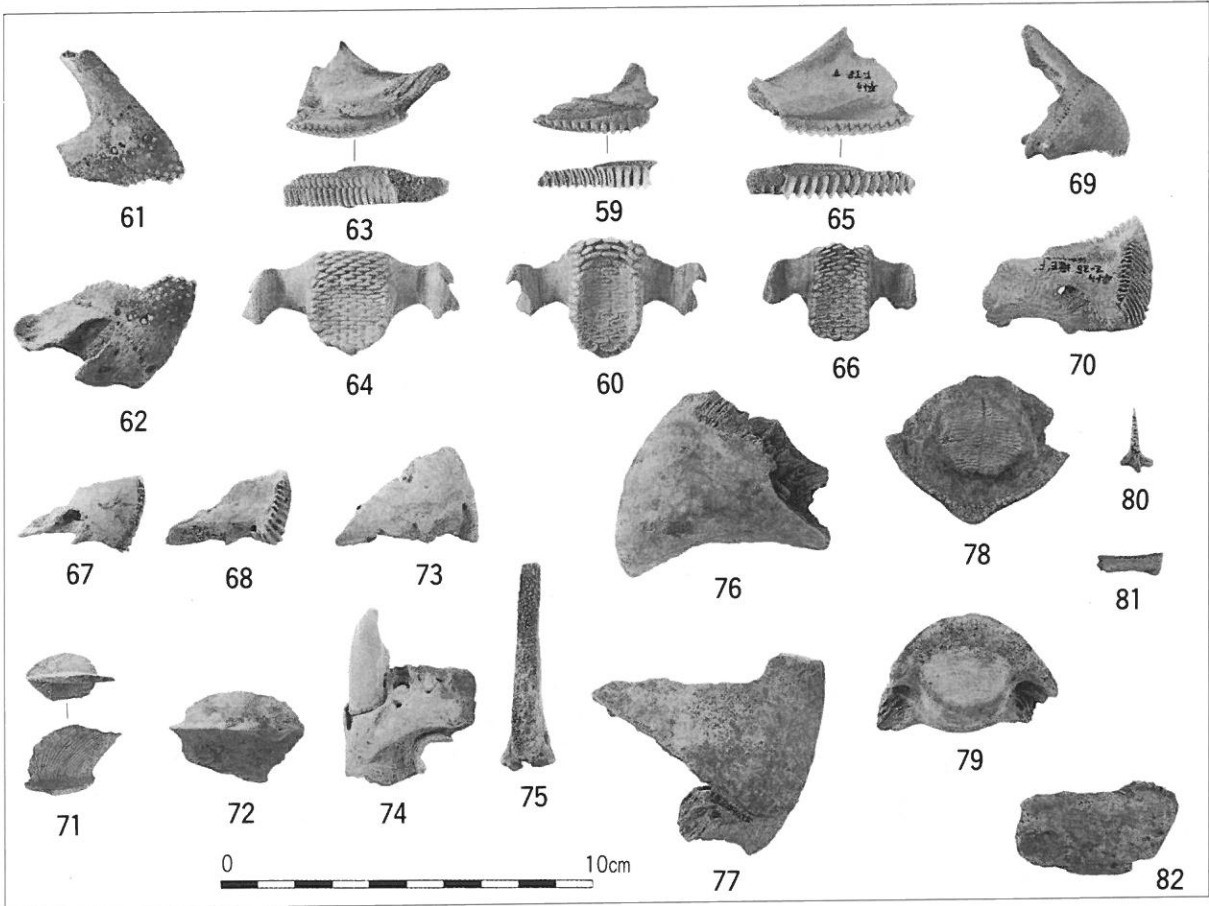
下

種不明

- 83. 鋤骨 (A)
- 84. 鋤骨 (B)
- 85. 鋤骨 (C)
- 86. 右 主上顎骨 (イサキ科コロダイ)
- 87. 左 主上顎骨 (B)
- 88. 左 主上顎骨 (C)
- 89. 右 方骨 (A)
- 90. 左 方骨 (B)
- 91. 左 前鰓蓋骨 (フエダイ科)
- 92. 左 前鰓蓋骨 (フエダイ科)

種不明

- 93. 右 主鰓蓋骨 (A)
- 94. 左 主鰓蓋骨 (B)
- 95. 右 角骨 (A)
- 96. 左 角骨 (B)
- 97. 左 角骨 (C)
- 98. 背鰭棘 (第1 or 2)
- 99. 臀鰭血管間棘
- 100. 第2臀鰭棘
- 101. イカ
- 102. パイプウニ
- 103. ウニ



図版71 サカナ (2)

図版72

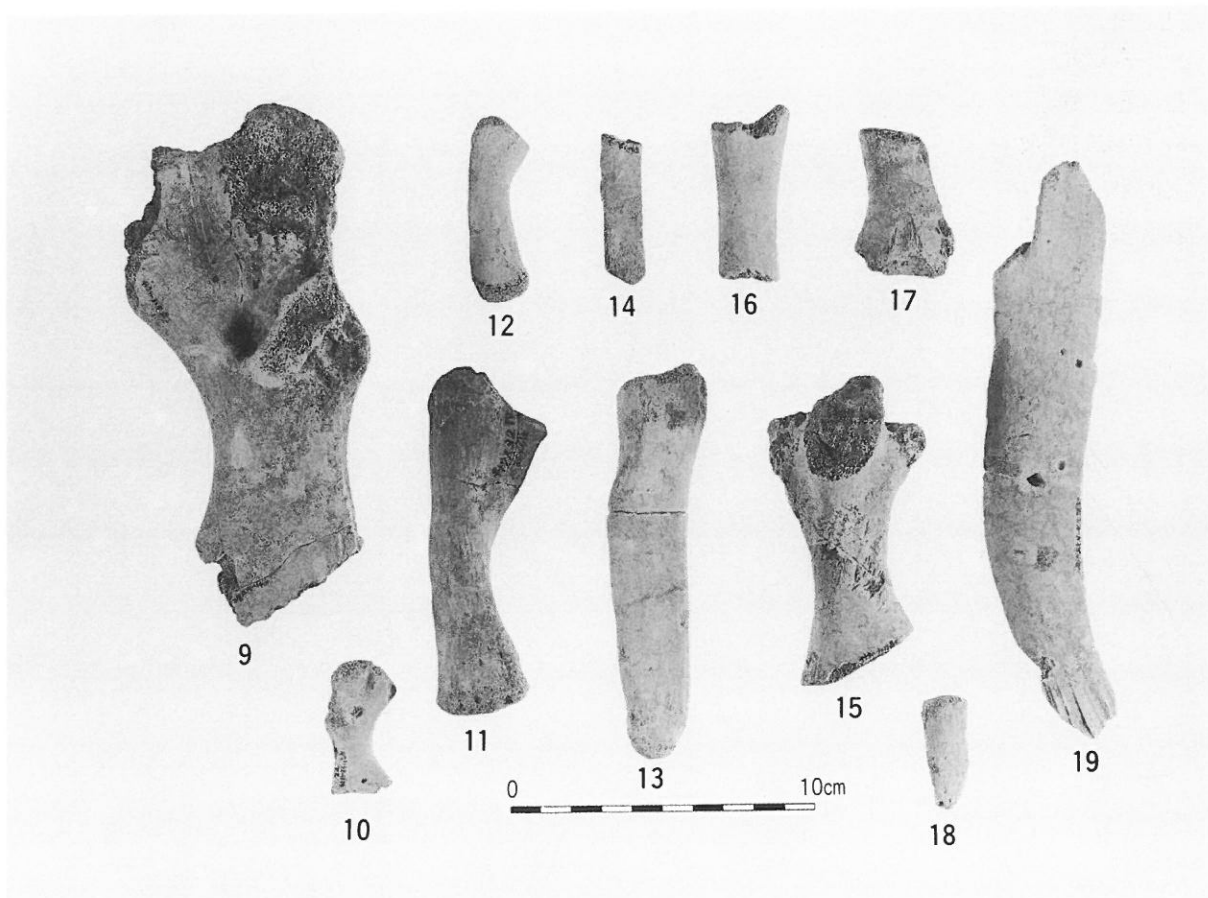
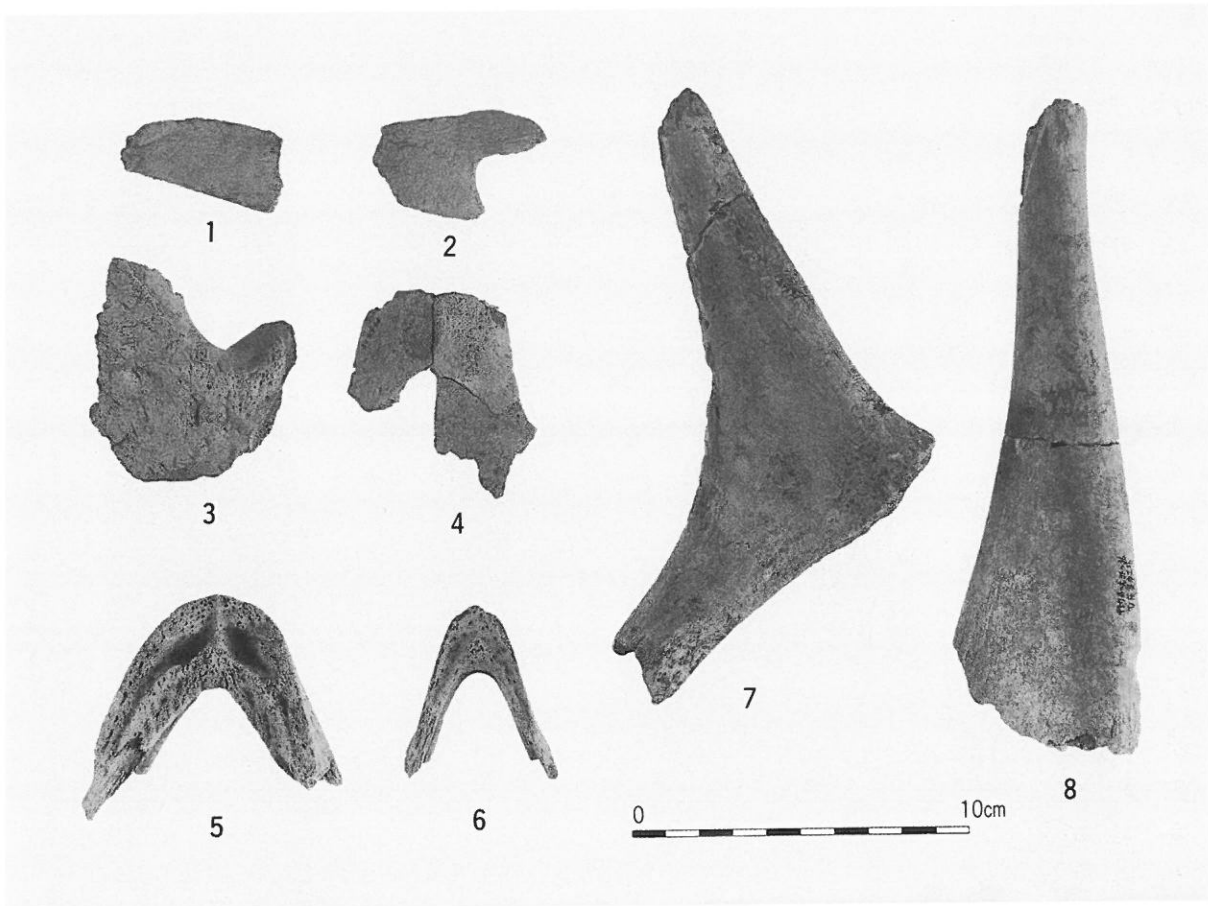
ウミガメ (1)

上

1. 右 頭頂骨
2. 右 後眼窩
3. 右 側後頭骨
4. 左右 鼻骨、右 前頭
5. 左右 齒骨 (アオウミガメ)
6. 左右 齒骨 (アカウミガメ)
7. 左 烏口肩甲骨
8. 右 前烏口骨

下

9. 右 上腕骨
10. 左 上腕骨
11. 左 尺 骨
12. 左 尺 骨
13. 右 橈 骨
14. 右 橈 骨
15. 右 大腿骨
16. 左 脛 骨
17. 右 中足骨 (第1)
18. 末節骨
19. 右 剣状突起



図版72 ウミガメ (1)

図版73

アオウミガメ (2)

上

20. 右 中・下腹板

21. 左 中・下腹板

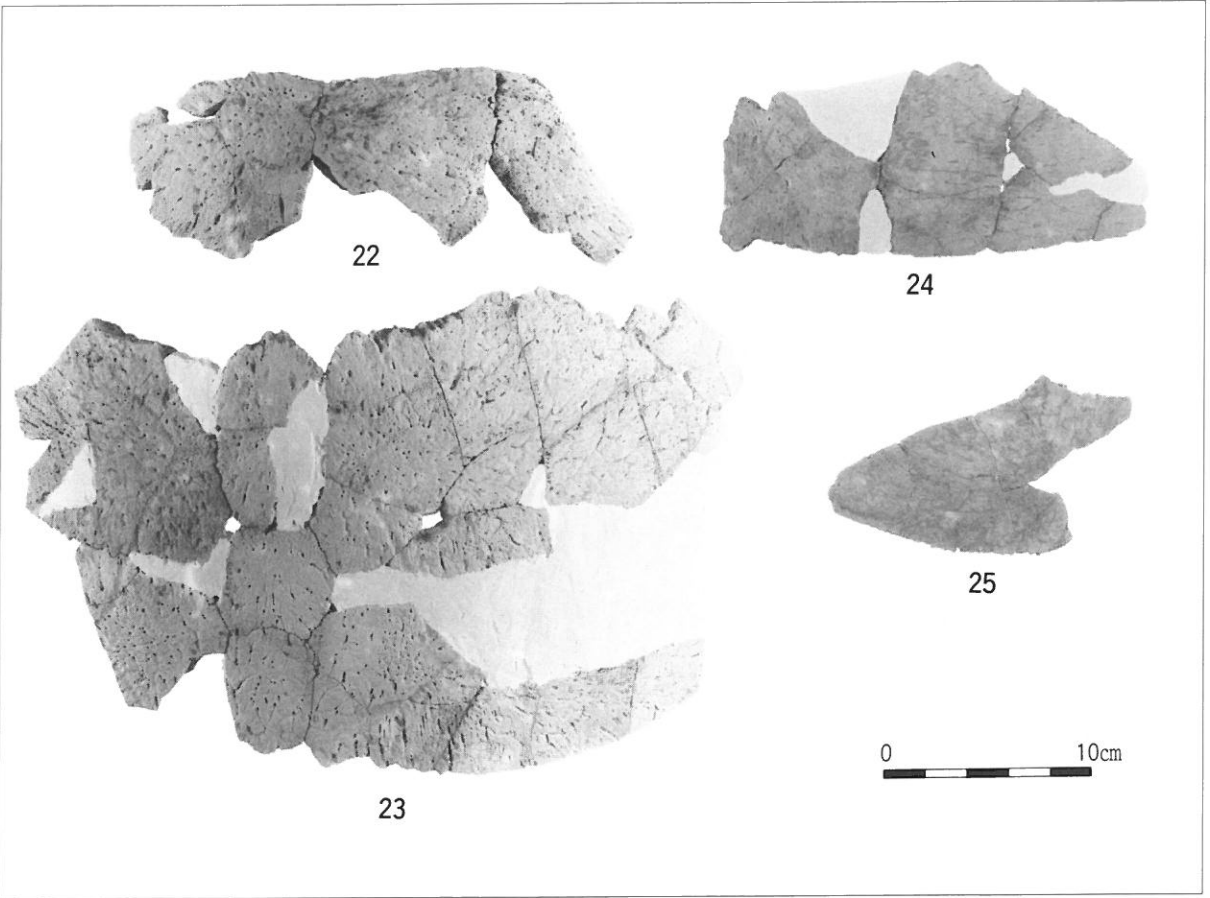
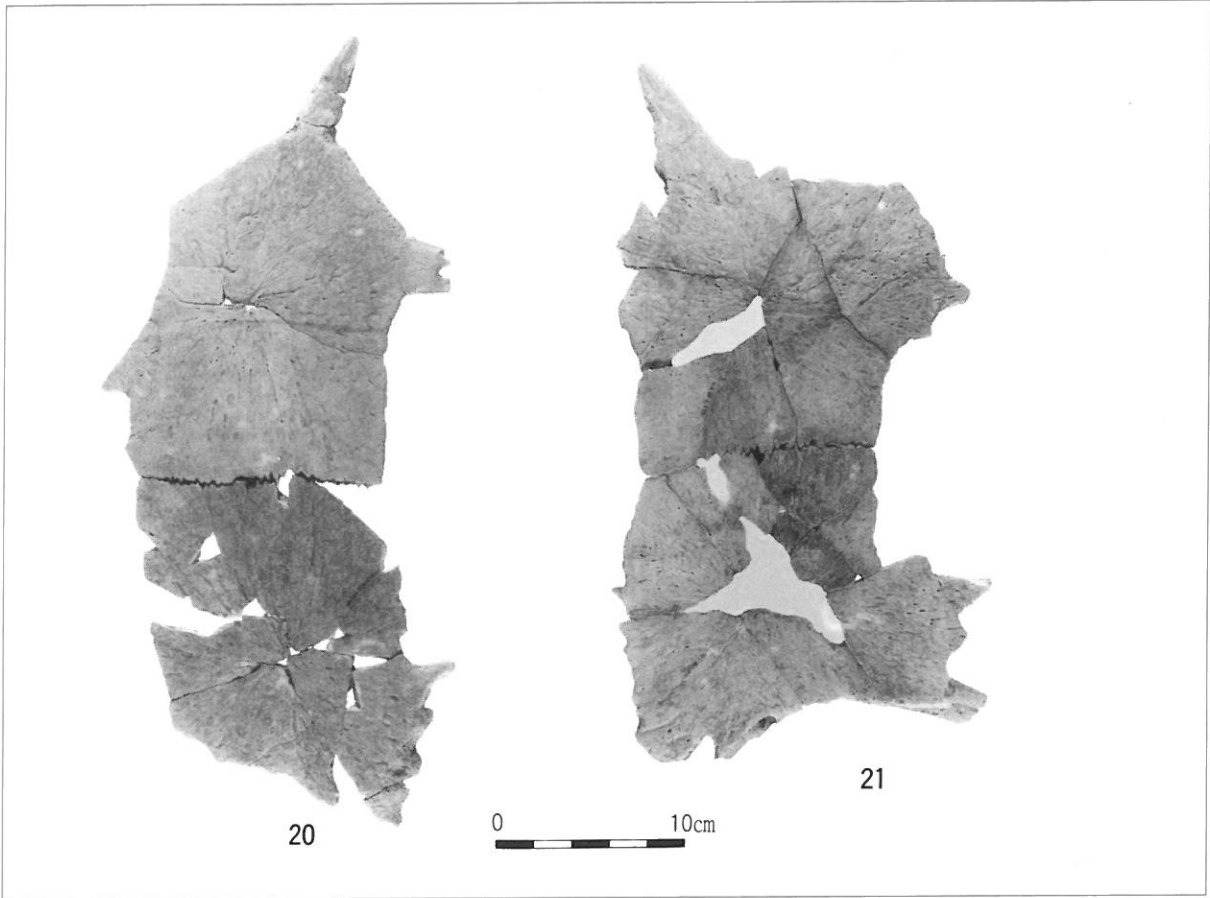
下

22. 頂骨板

23. 右 肋骨板 第1、2 椎骨板 第1、2

24. 右 肋骨板 第1

25. 左 肋骨板 第1



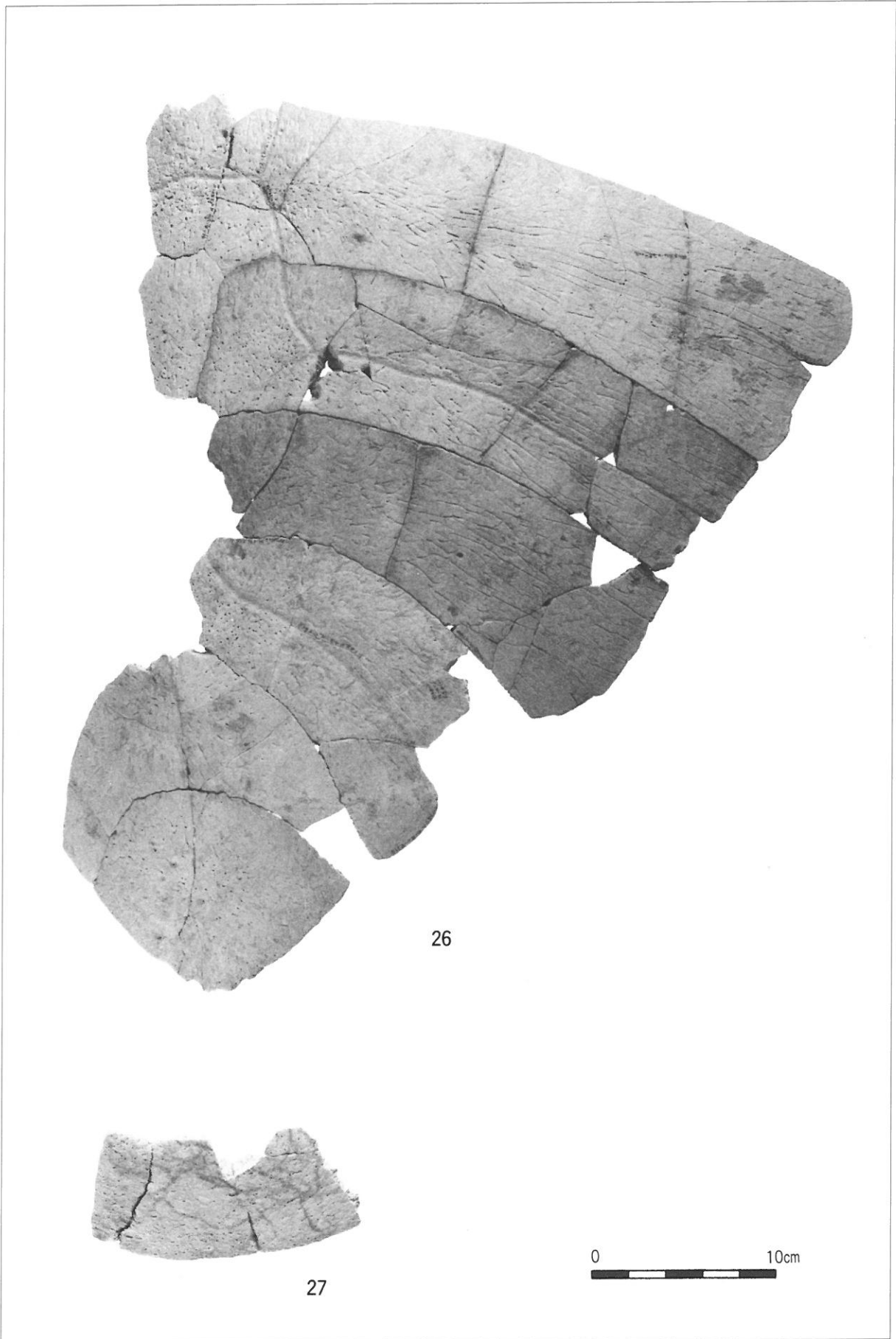
図版73 アオウミガメ (2)

図版74

ウミガメ (3)

26. 右 肋骨板 第5~10 (アオウミガメ)

27. 臀骨縁骨板



図版74 ウミガメ (3)

図版75

上

リュウキュウヤマガメ

- 1 背甲板・頂骨板
- 2 左 上腹板
- 3 右 上腹板・中腹板
- 4 右 中腹板・剣状突起
- 5 左 剣状突起

ヘビ類

- 6 脊椎骨

オオコウモリ

- 7 左 上顎骨
- 8 左右不明 上腕骨 骨体
- 9 左? 尺 骨 近位端

ケナガネズミ

- 10 右 上顎骨 第1切歯
- 11 左 下顎骨
- 12 右 上顎骨 完存
- 13 右 大腿骨 遠位端
- 14 右 脛 骨 近位端～遠位部

クマネズミ属の一種

- 15 左 脛 骨 完存

下

アホウドリ

- 1 左 上腕骨 骨 体～遠位端
- 2 右 上腕骨 遠位部
- 3 左 尺 骨 近位端
- 4 左 橈 骨 近位端～骨体

ミズナギドリ属

- 5 左 上腕骨 近位部
- 6 左 尺 骨 遠位端
- 7 右 中手骨 完存

ワシ・タカ類

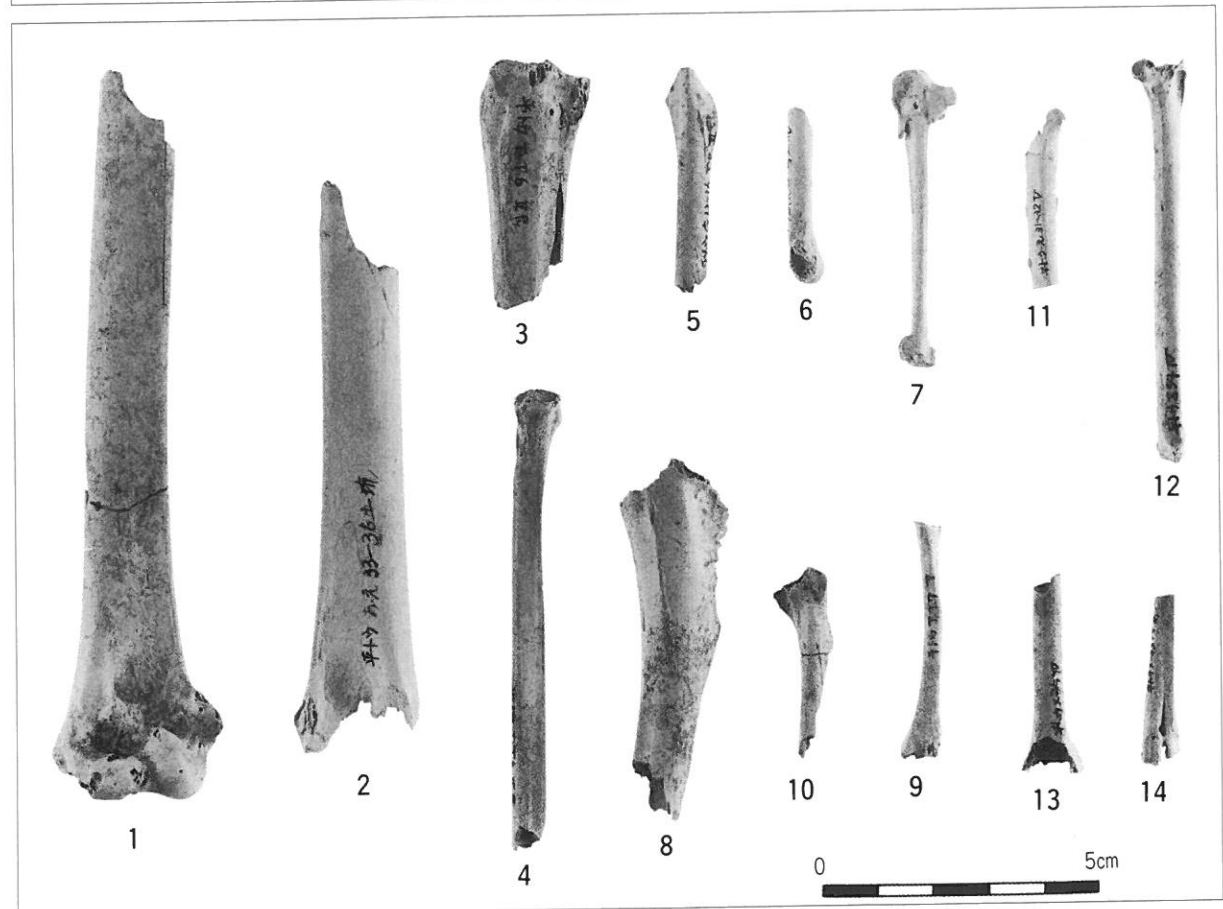
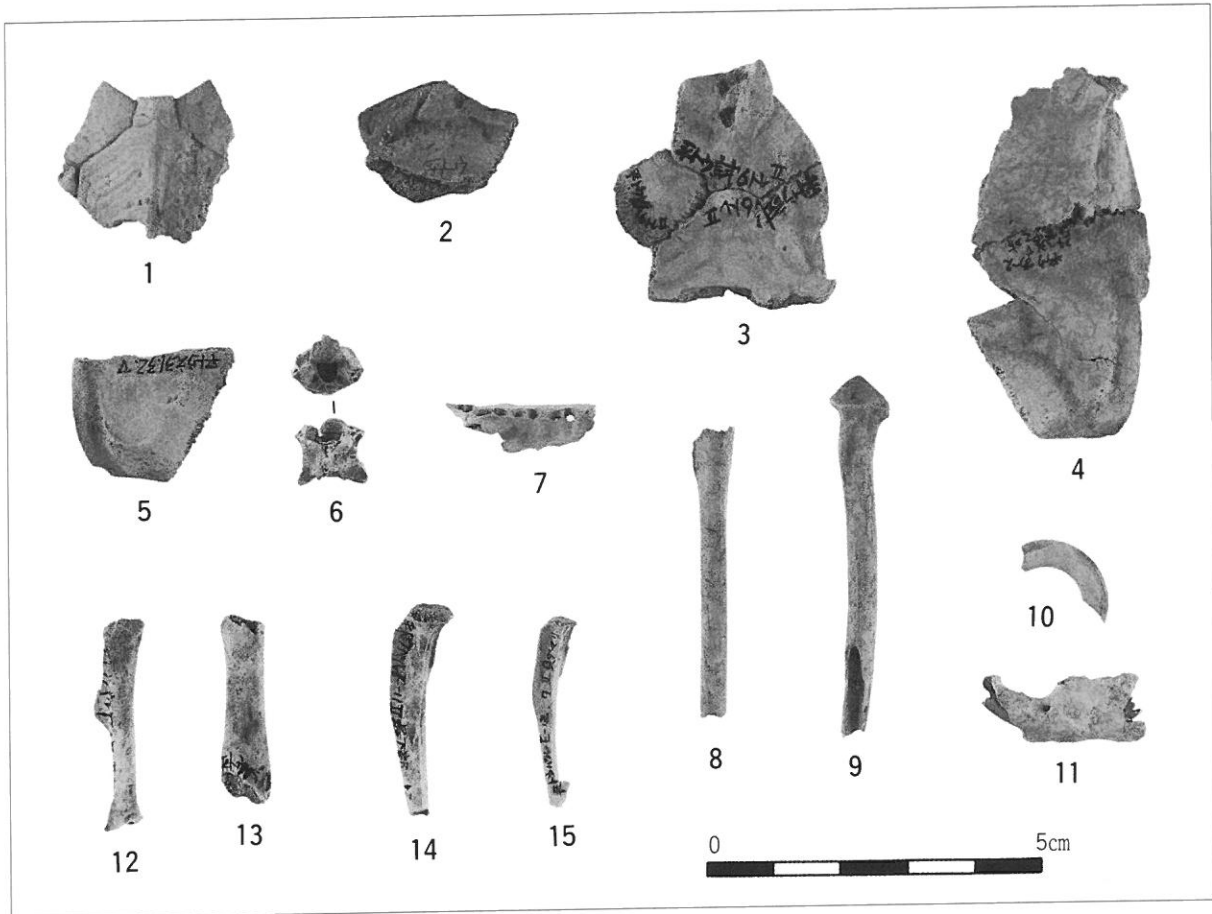
- 8 右 上腕骨 近位部
- 9 右 上腕骨 近位部～遠位端

オオコノハズク(フクロウ科)

- 10 右 上腕骨 近位部

カラス属

- 11 右 尺 骨 近位部
- 12 右 尺 骨 近位部～遠位部
- 13 左 大腿骨 遠位部
- 14 左 中足骨 遠位端



図版75 上：リクガメ、ヘビ、コウモリ、ネズミ
 下：アホウドリ、ミズナギドリ、ワシ・タカ、フクロウ

図版76

クジラ

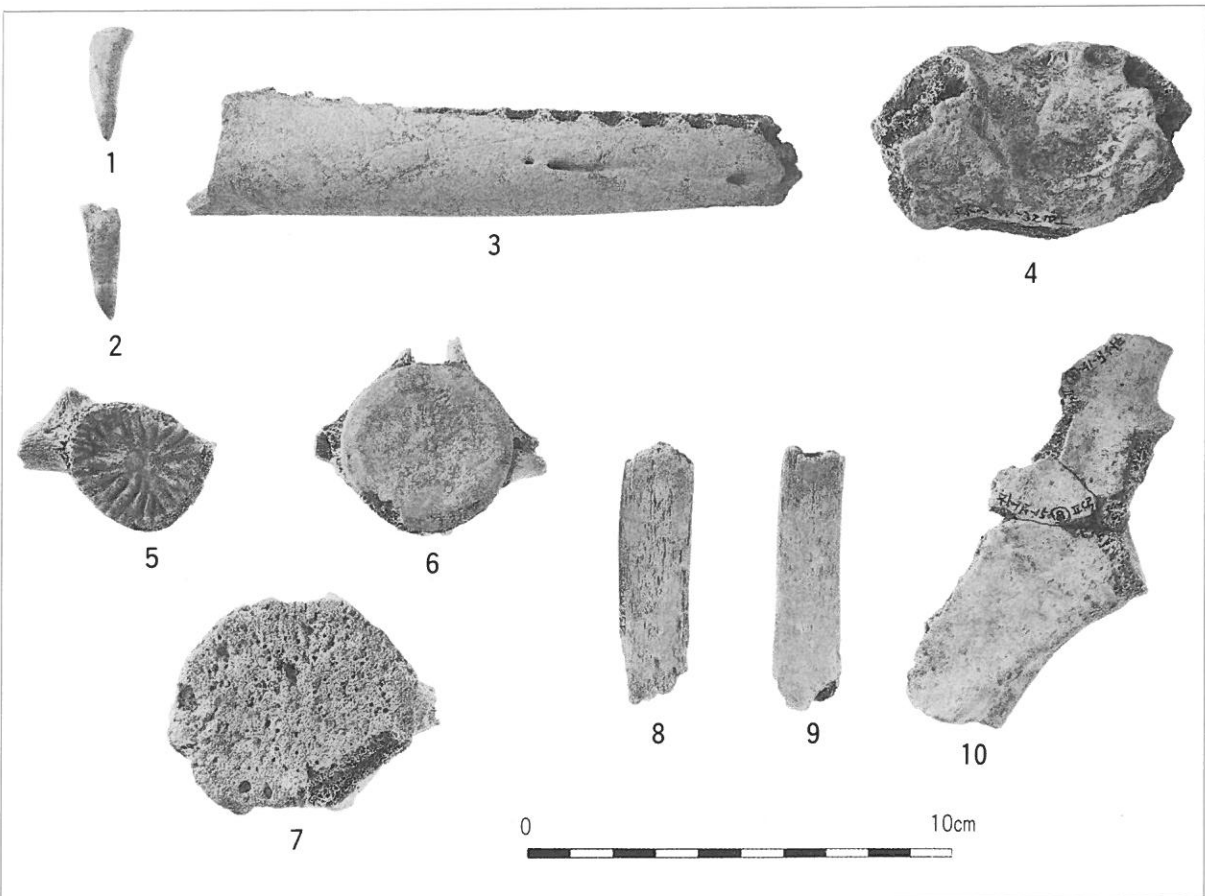
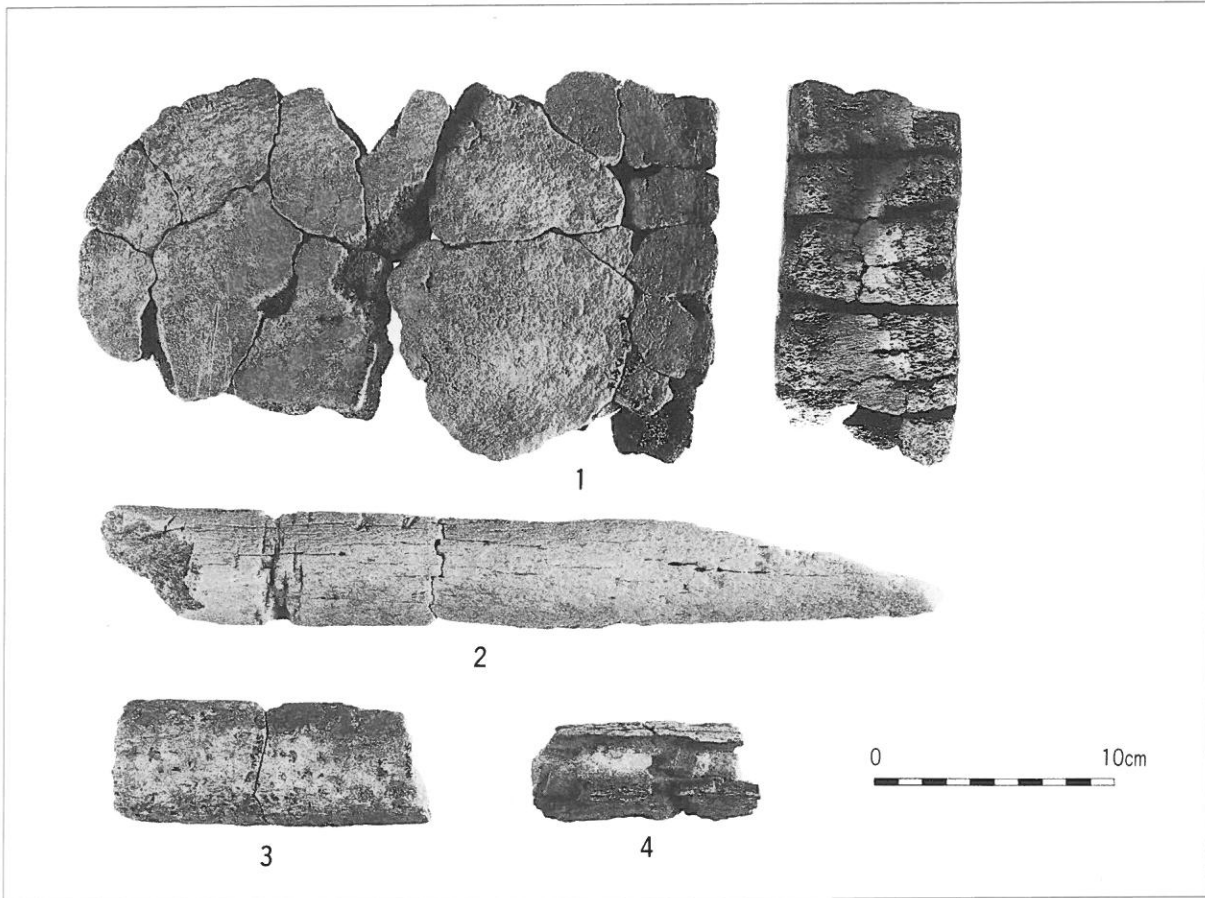
上

1. 椎 体
2. 肋 骨
3. 肋 骨
4. 肋 骨

イルカ

下

1. 上顎歯 (バンドウイルカ)
2. 上顎歯? (バンドウイルカ)
3. 右 下顎骨 (バンドウイルカ)
4. 環 椎
5. 胸 椎
6. 腰 椎
7. 腰 椎
8. 肋 骨
9. 肋 骨
10. 右 肩甲骨



図版76 上：クジラ、下：イルカ

図版77

ジュゴン (1)

1. 頭蓋骨
 2. 右 下顎骨
 3. 左 下顎骨
- } 対



図版77 ジュゴン (1)

図版78

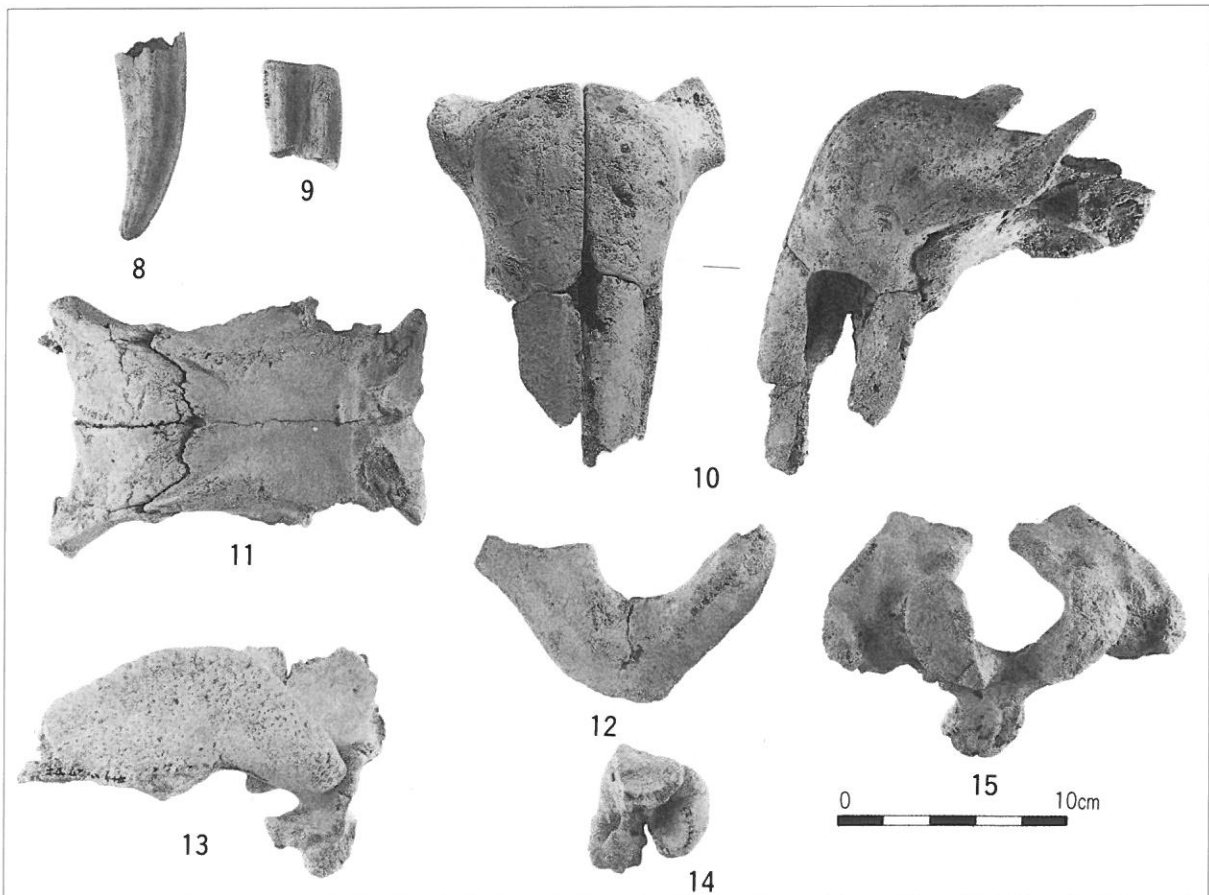
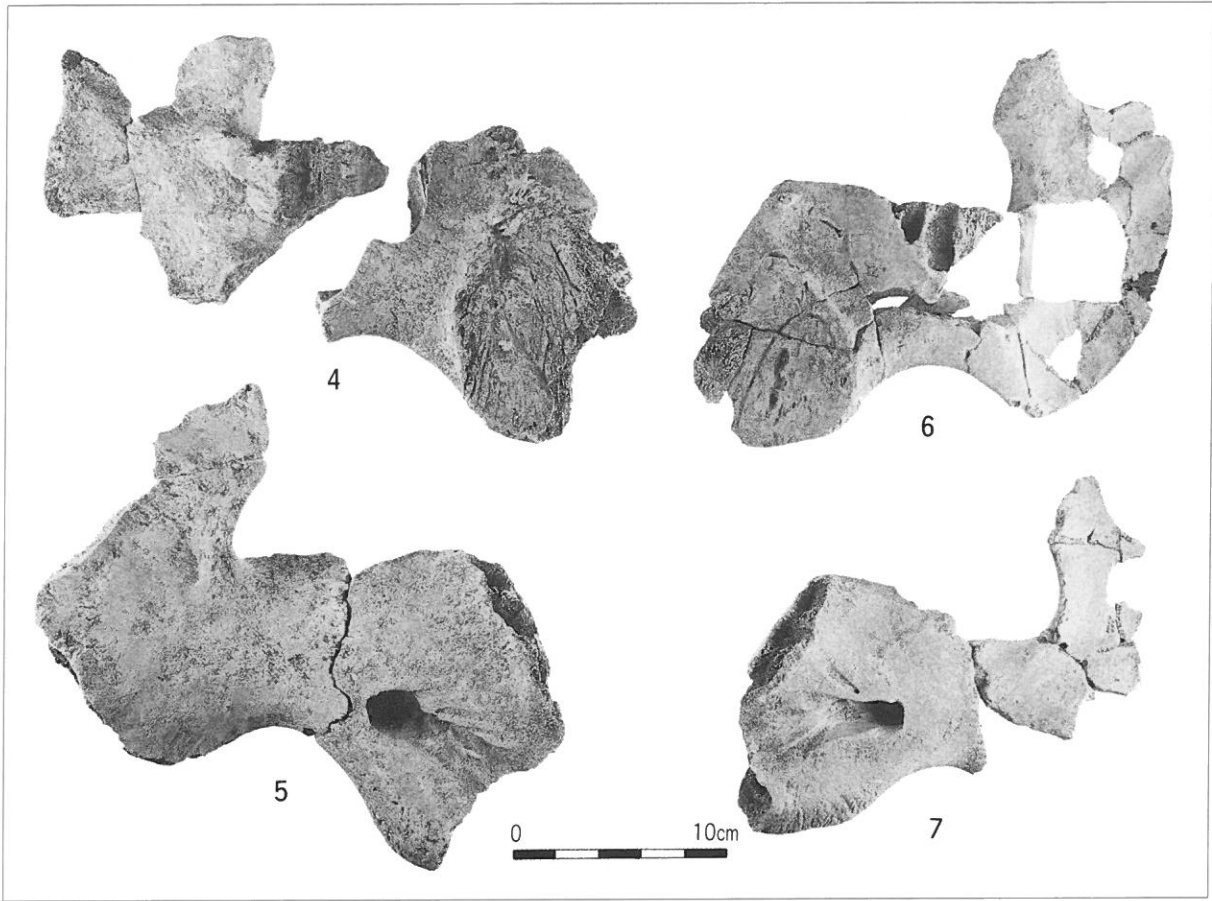
ジュゴン (2)

上

- 4. 左 下顎骨
 - 5. 右 下顎骨
 - 6. 右 下顎骨
 - 7. 左 下顎骨
- } 対
- } 対

下

- 8. 右 切歯
- 9. 歯
- 10. 左右 切歯骨
- 11. 前頭~頭頂骨
- 12. 右 頭頂骨 頬骨突起
- 13. 左 側頭骨 頬骨突起
- 14. 右 骨胞
- 15. 左右 後頭顆



図版78 ジュゴン (2)

図版79

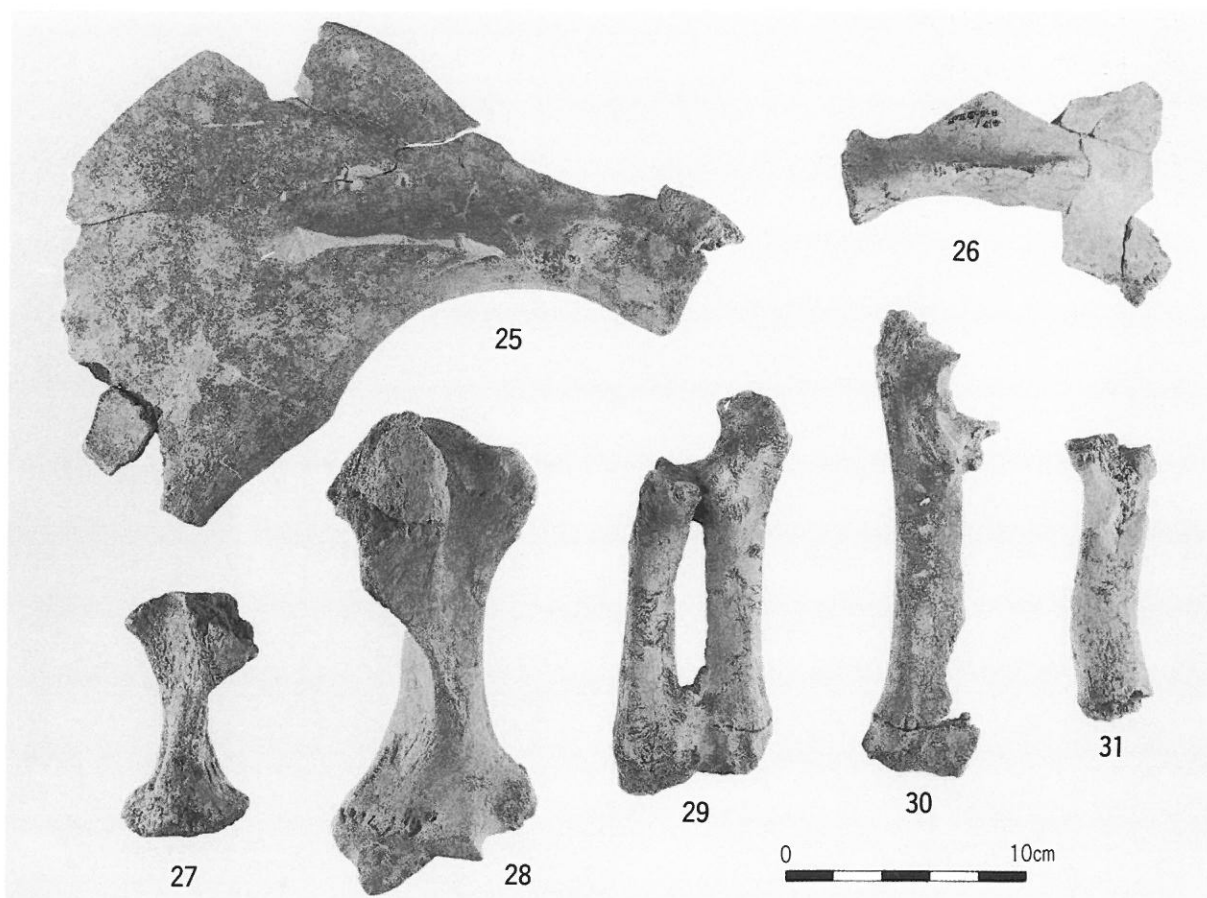
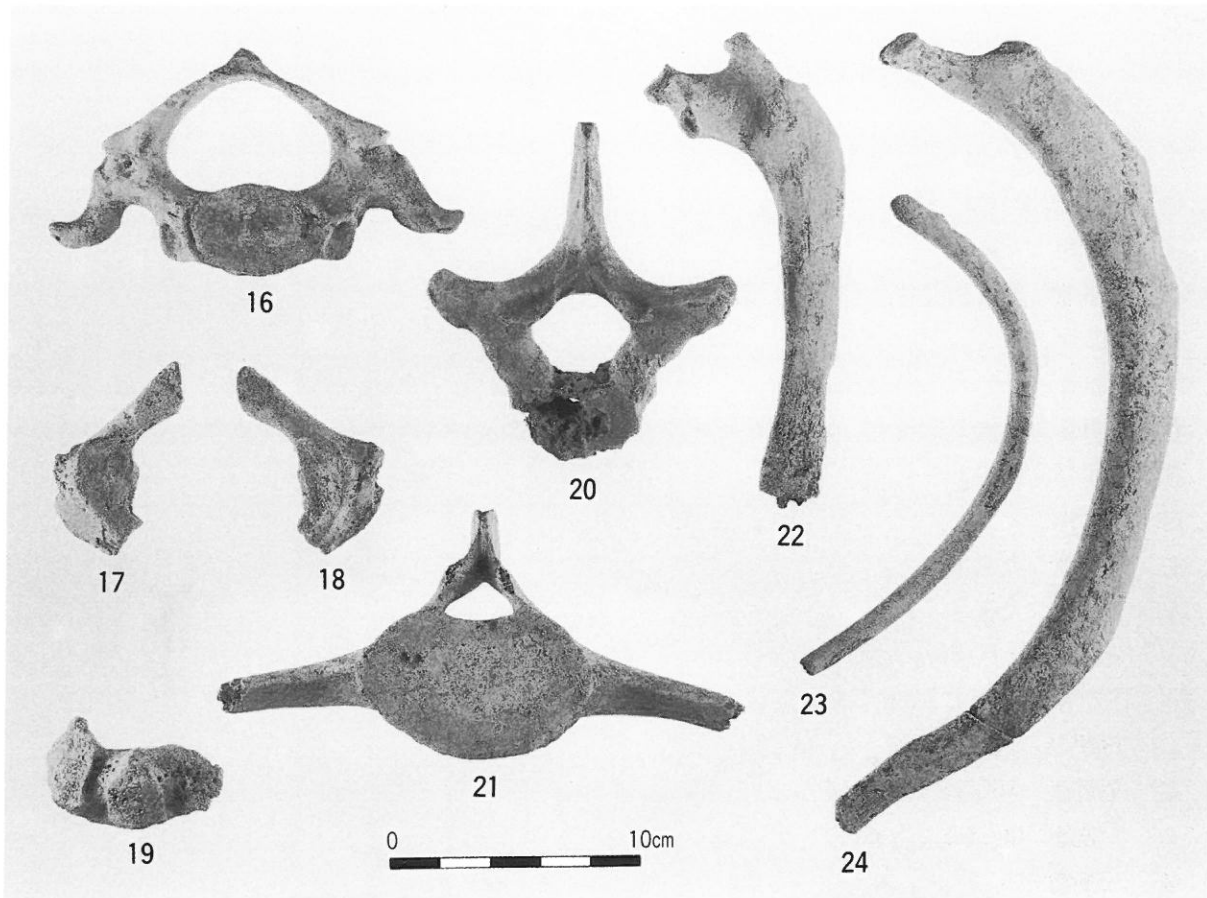
ジュゴン (3)

上

- 16. 脛 椎
- 17. 右 環 椎
- 18. 左 環 椎
- 19. 軸 椎
- 20. 胸 椎
- 21. 腰 椎
- 22. 左 肋 骨 (第1)
- 23. 右 肋 骨
- 24. 左 肋 骨

下

- 25. 右 肩甲骨 近位骨端はずれ～遠位端
- 26. 左 肩甲骨 両端はずれ (幼)
- 27. 左 上腕骨 両端はずれ (若)
- 28. 右 上腕骨 完存
- 29. 左 尺 骨 } 近位部～遠位端
- 左 橈 骨 } 完存
- 30. 右 尺 骨 完存
- 31. 右 橈 骨 近位端～遠位端はずれ

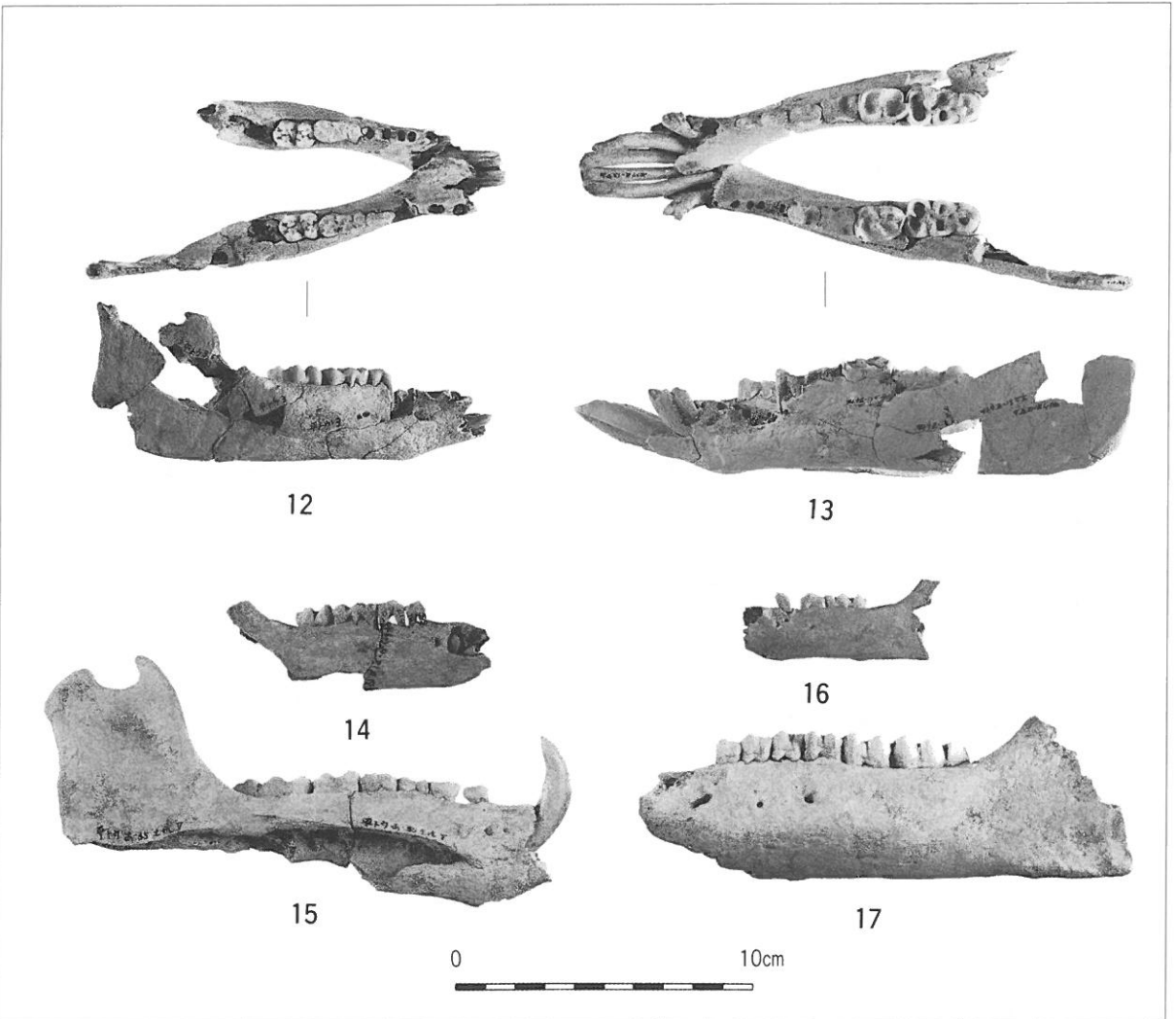
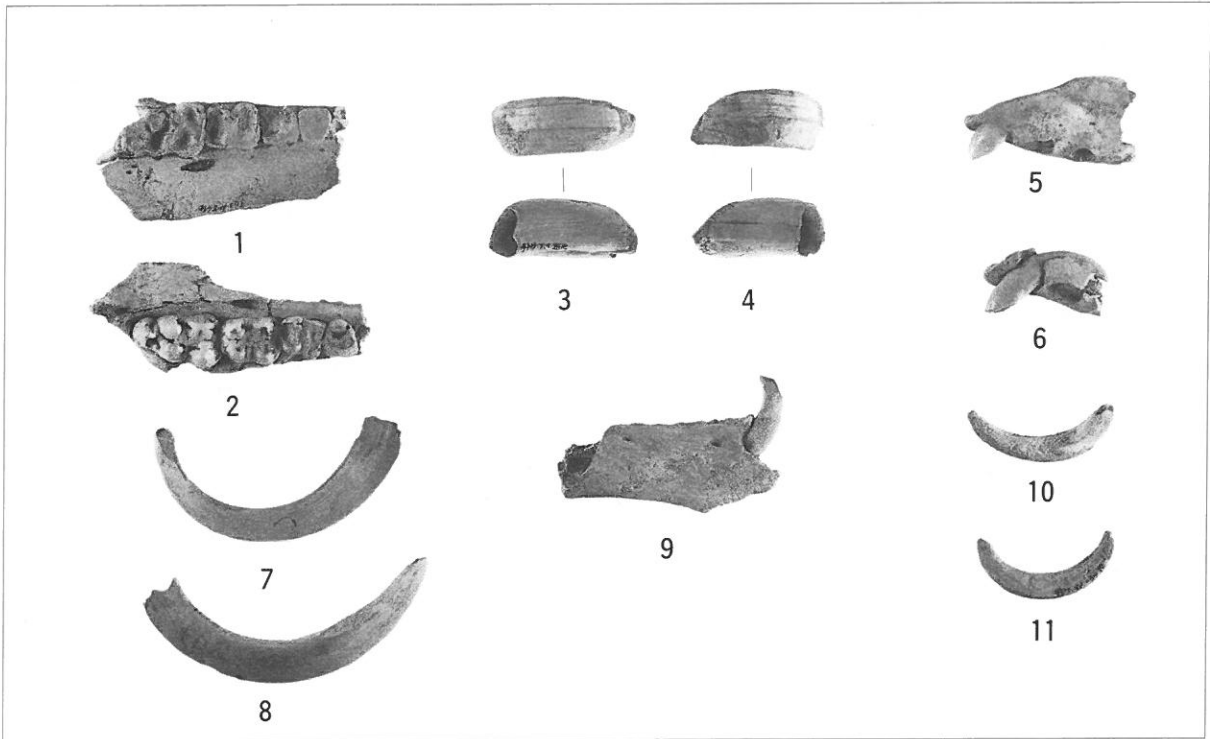


図版79 ジュゴン (3)

図版80

イノシシ (1)

1. 右 上顎骨 P⁴ M^{1.2.3}
2. 左 上顎骨 P⁴ M^{1.2.3}
3. 右 上顎骨 犬歯♂
4. 左 上顎骨 犬歯♂
5. 左 上顎骨 I¹
6. 左 上顎骨 I¹
7. 右 下顎骨 犬歯♂
8. 左 下顎骨 犬歯♂
9. 右 下顎骨 犬歯♀
10. 右 下顎骨 犬歯♀
11. 左 下顎骨 犬歯♀
12. 右 下顎骨 } I₁ dm_{3.4} M_{1.<2>}
- 左 下顎骨 } I₁ C dm₄ M_{1.<2>}
13. 右 下顎骨 } I_{1.2} C P_{2.3.4} M_{1.2.3}
- 左 下顎骨 } I_{1.2} C P₄ M_{1.2.3}
14. 右 下顎骨 C dm_{2.3.4} M₁
15. 右 下顎骨 C P_{2.3.4} M_{1.2.3} ♀
16. 左 下顎骨 dm_{2.3.4} M_{<1>}
17. 左 下顎骨 P_{2.3.4} M_{1.2.3} ♂



図版80 イノシシ(1)

図版81

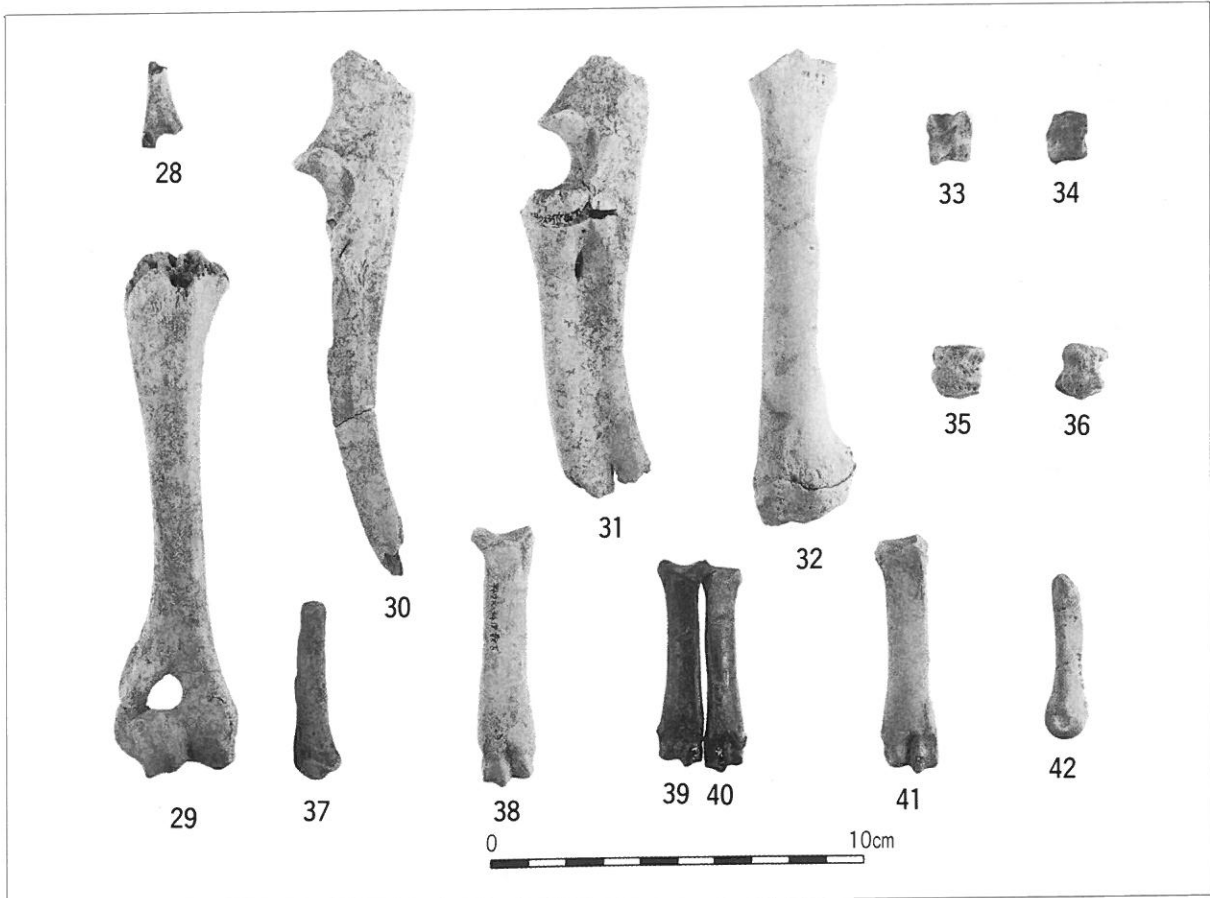
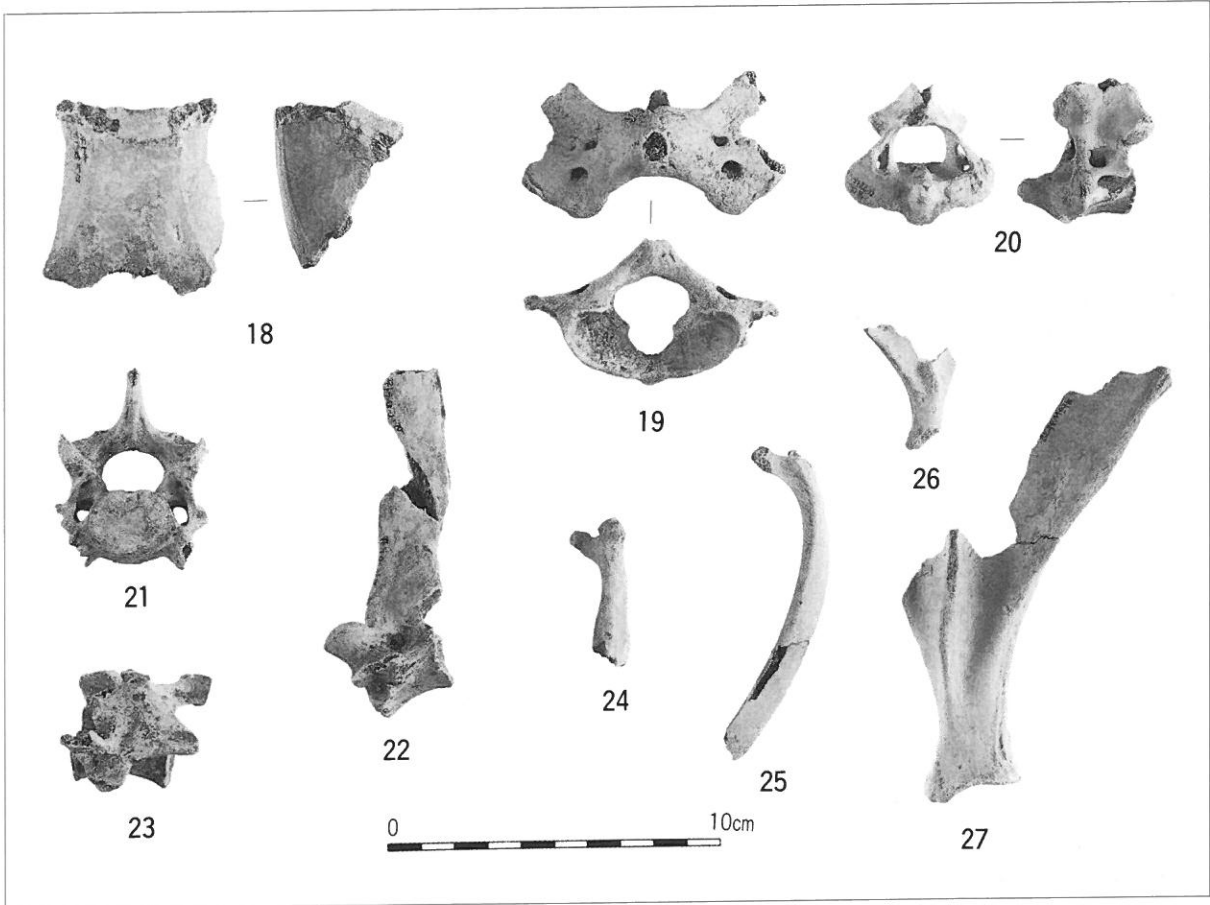
イノシシ (2)

上

18. 左右 頭頂～後頭 (若)
19. 環椎 完存
20. 軸椎 完存
21. 脛椎 完存
22. 胸椎 完存
23. 腰椎 完存
24. 左 肋骨 (第1)
25. 左 肋骨
26. 右 肩甲骨 遠位部 (幼)
27. 左 肩甲骨 近位部～遠位部

下

28. 左 上腕骨 遠位部 (幼)
29. 右 上腕骨 近位骨端はずれ～遠位端
30. 左 尺 骨 近位骨端はずれ～遠位部
31. 左 尺 骨 } 近位端～骨体
- 左 橈 骨 } 近位部～遠位部
32. 左 橈 骨 完存
33. 右 手根骨 (尺側)
34. 右 手根骨 (尺側)
35. 右 手根骨 (中間)
36. 左 手根骨 (中間)
37. 右 中手骨 II 完存
38. 右 中手骨 III 完存
39. 左 中手骨 III 完存
40. 左 中手骨 IV 完存
41. 右 中手骨 IV 完存
42. 右 中手骨 V 完存



図版81 イノシシ (2)

図版82

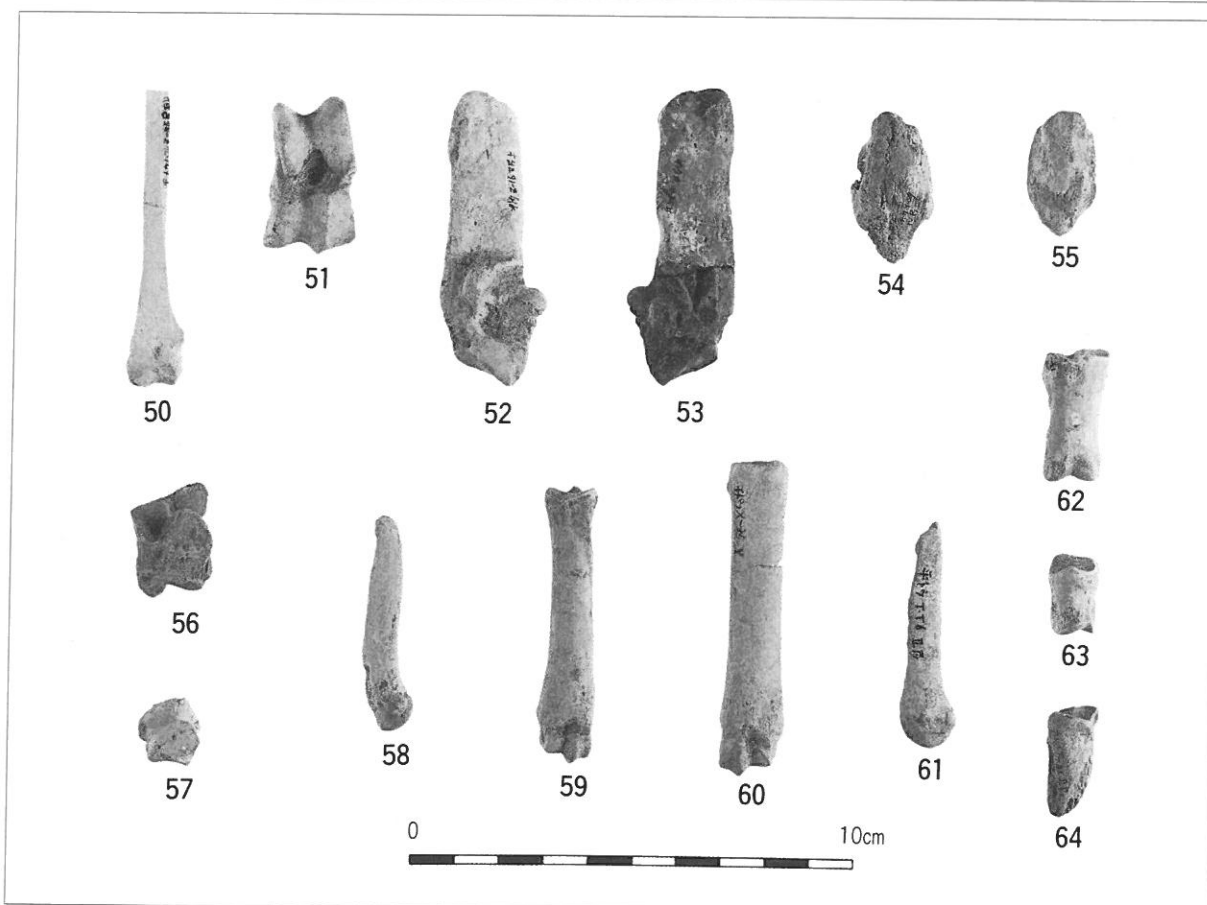
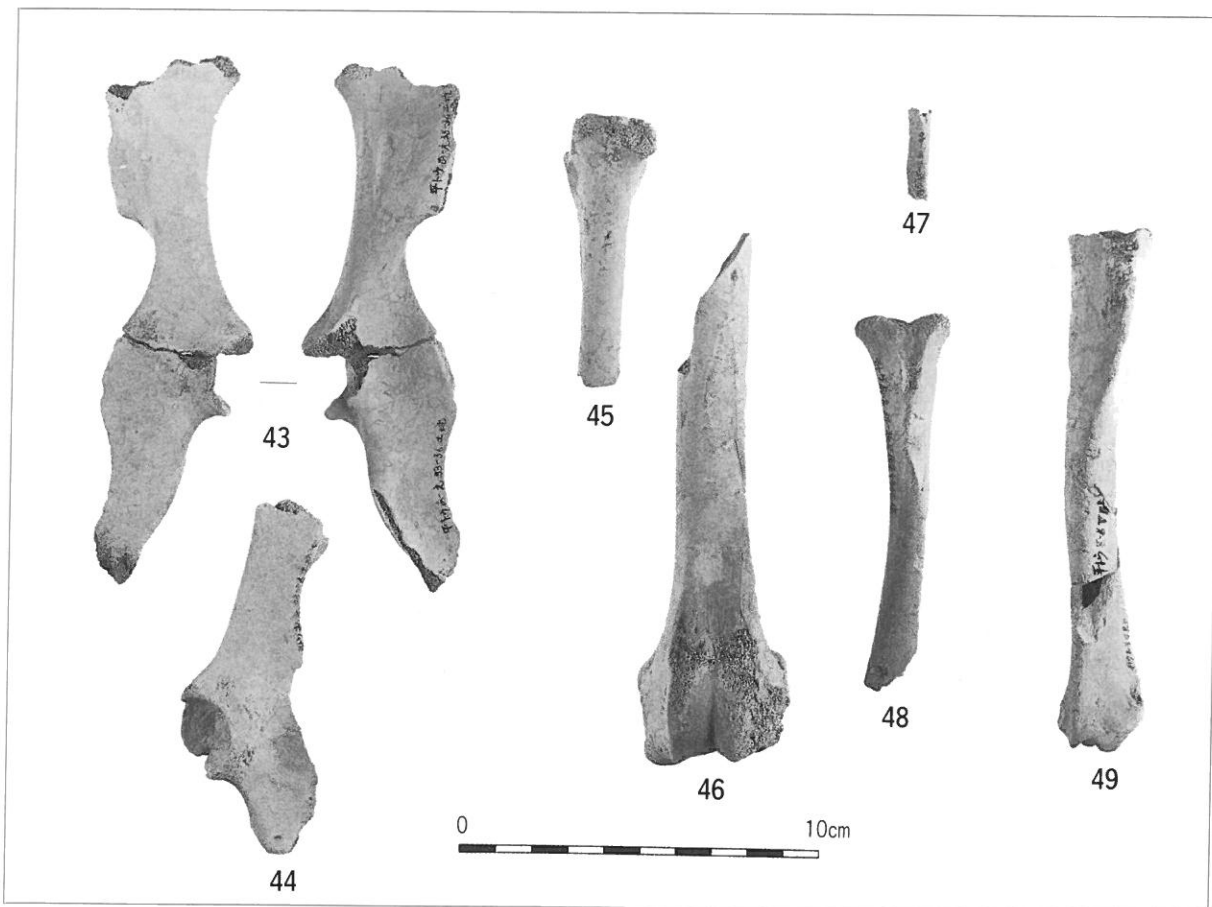
イノシシ (3)

上

- 43. 右 寛 骨 完存 (若)
- 44. 左 寛 骨 臼部
- 45. 右 大腿骨 近位骨端はずれ～骨体
- 46. 左 大腿骨 骨体～遠位端
- 47. 右 脛 骨 骨体 (幼)
- 48. 右 脛 骨 近位骨端はずれ～遠位部 (若)
- 49. 左 脛 骨 近位部～遠位端

下

- 50. 左 腓 骨 遠位端
- 51. 左 距 骨 完存
- 52. 左 踵 骨 完存
- 53. 右 踵 骨 完存
- 54. 左 膝蓋骨 完存
- 55. 右 膝蓋骨 完存
- 56. 右 足根骨 (第4)
- 57. 左 足根骨 (中心)
- 58. 右 中足骨 II 完存
- 59. 左 中足骨 III 完存
- 60. 左 中足骨 IV 完存
- 61. 左 中足骨 V 完存
- 62. 左 基節骨 完存
- 63. 左 中節骨 完存
- 64. 左 末節骨 完存



図版82 イノシシ (3)

図版83

上

イヌ

1. 右 上顎骨 犬歯
2. 右 上顎骨 P⁴
3. 左 下顎骨 M₁
4. 右 下顎骨
5. 右 下顎骨
6. 左 尺 骨
7. 左 寛 骨 腸骨部
8. 右 大腿骨
9. 右 脛 骨

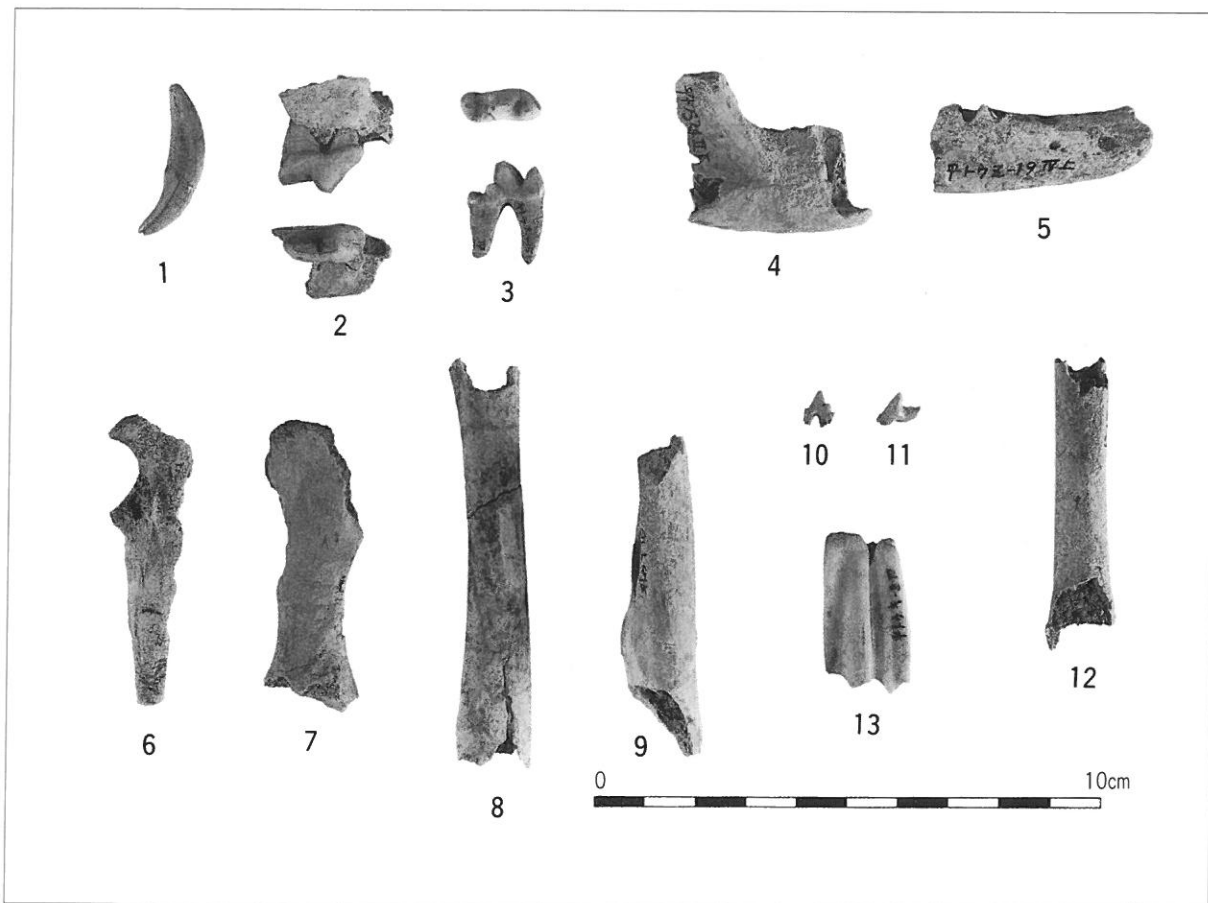
ネコ

10. 右 下顎骨 dm₃
 11. 右 下顎骨 dm₄
 12. 右 大腿骨 骨体
- ヤギ
13. 右 上顎骨 M³

下

ヒト

1. 左 下顎骨
2. 右 上腕骨 遠位部
3. 右 尺 骨 近位部～遠位部
4. 左 橈 骨 近位部～遠位部
5. 左 大腿骨 近位部～骨体



図版83 上：イヌ、ネコ、ヤギ、下：ヒト



発掘調査メンバー

348

©

沖縄県文化財調査報告書第125集

へ しき や
平敷屋トウバル遺跡

—ホワイトビーチ地区内倉庫建設工事に伴う緊急発掘調査報告書—

印刷 平成8年3月20日

発行 平成8年3月29日

編集 沖縄県教育委員会

発行 沖縄県教育庁文化課

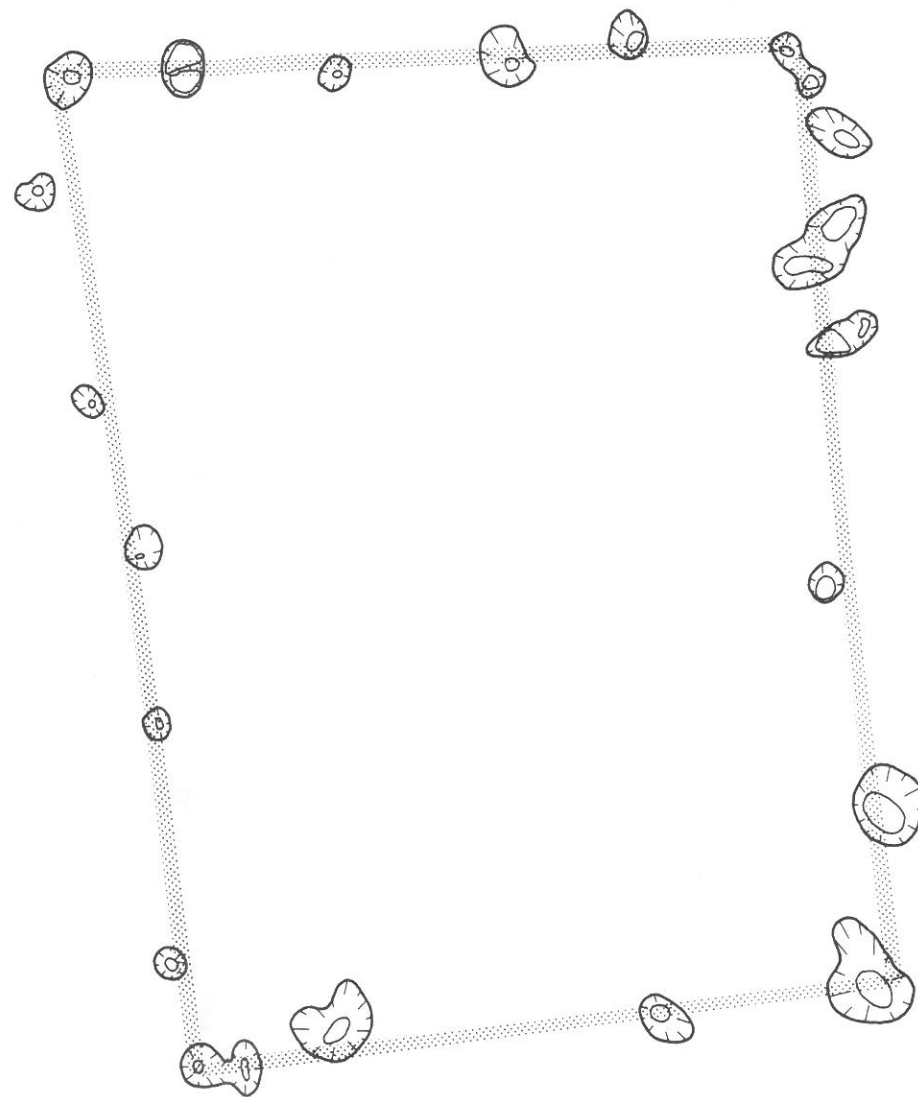
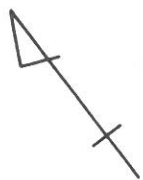
〒900 那覇市泉崎1丁目2-2

TEL 098(866)2731~2733

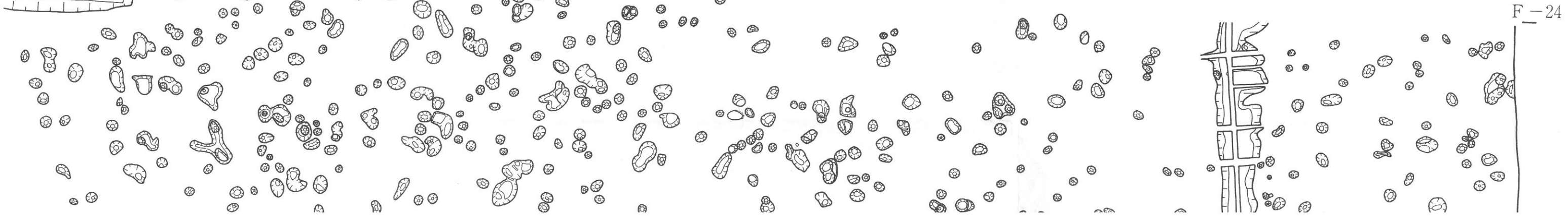
印刷 株式会社 近代美術

〒901-11 南風原町字兼城206-9

TEL 098(889)4113



第 6 図 B 平面プラン想定 (G-28グリット)





C-33

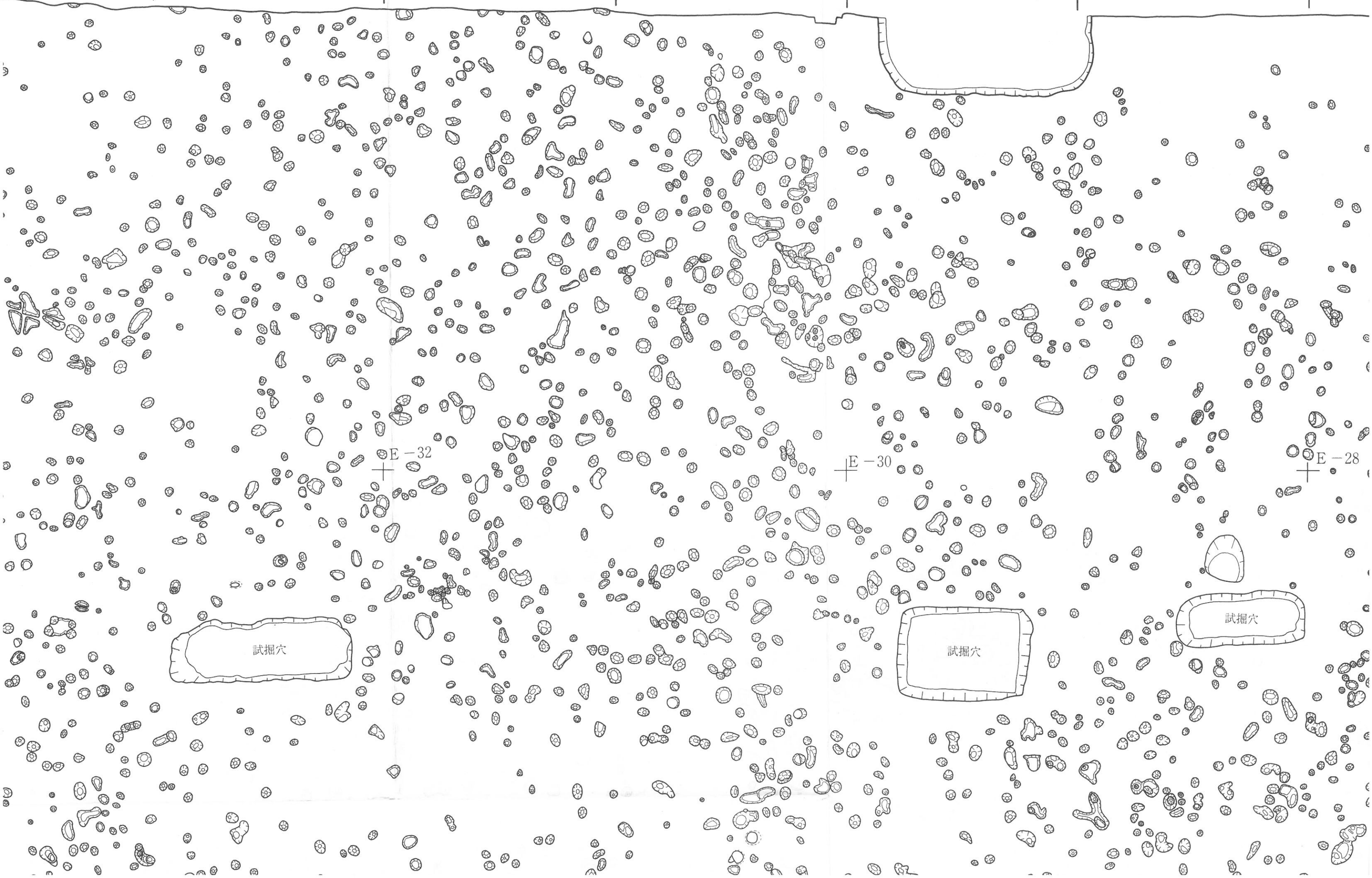
C-32

C-31

C-30

C-29

C-28



E-32

E-30

E-28

試掘穴

試掘穴

試掘穴

試掘穴

試掘穴

試掘穴

G-32

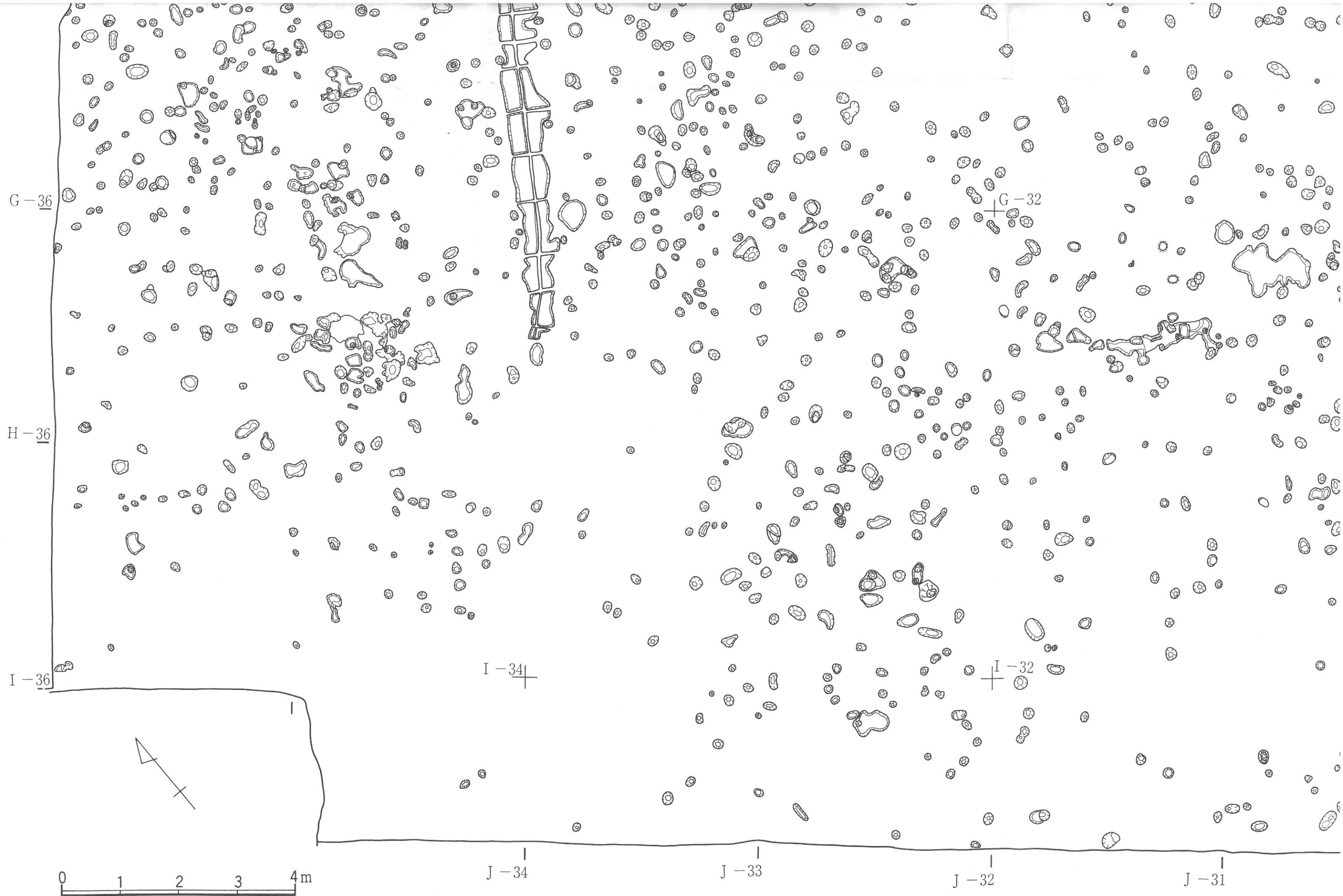
I-32

I-30

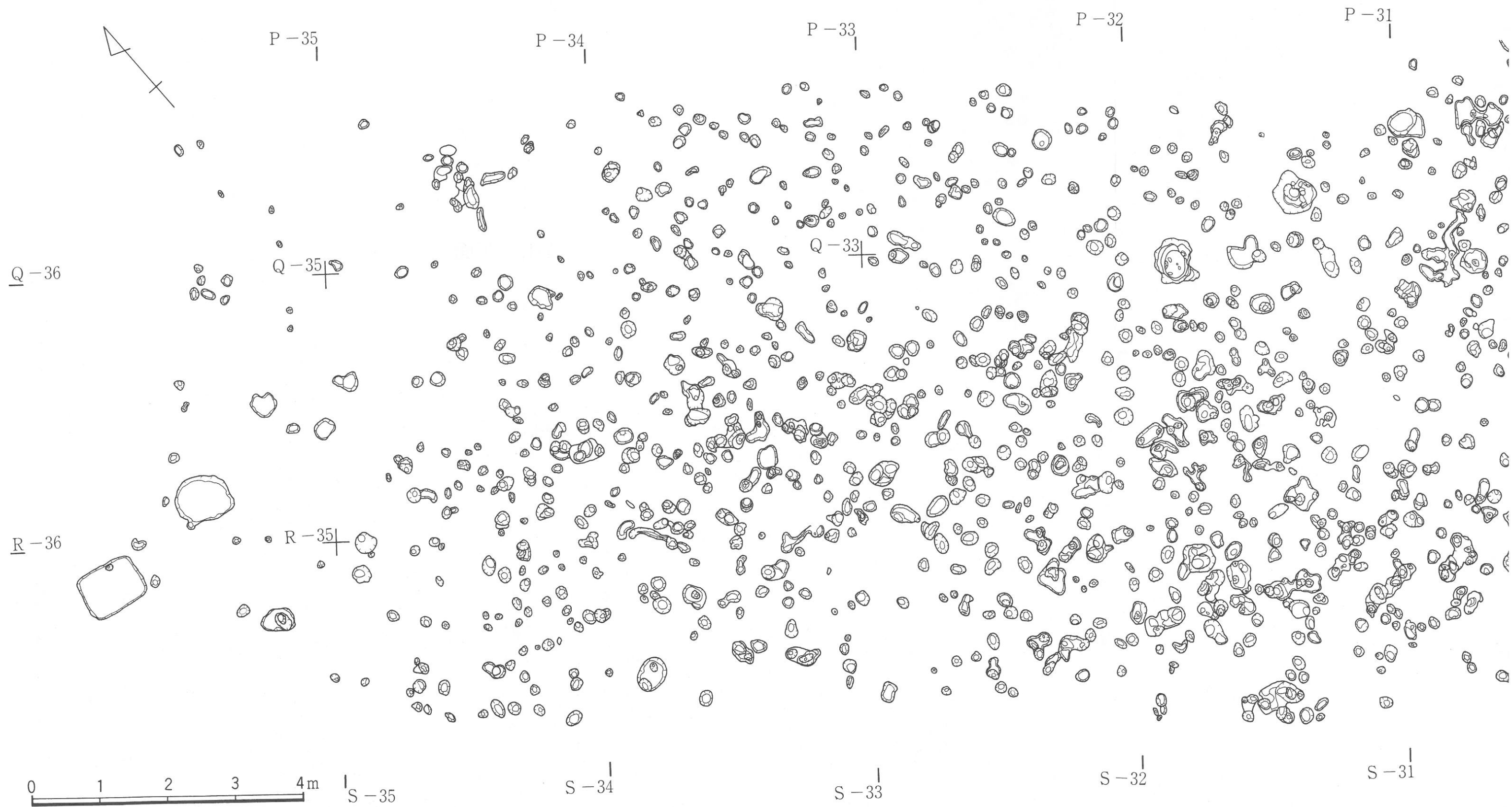
I-28







第6图A 2地区柱穴群 (II b 層面)



第7図 3地区柱穴群 (Ⅲ層面)

P-31

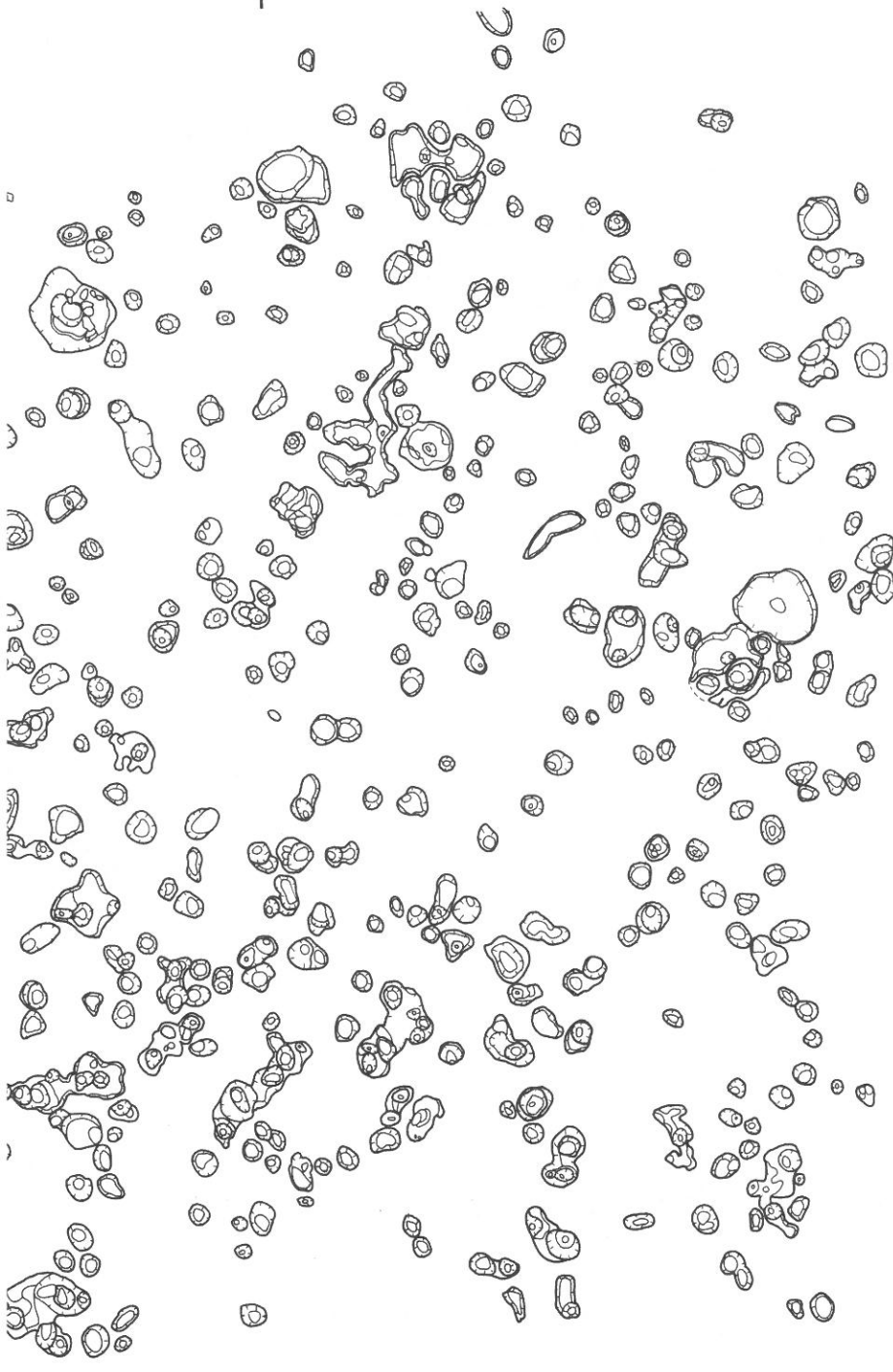
P-30

P-29

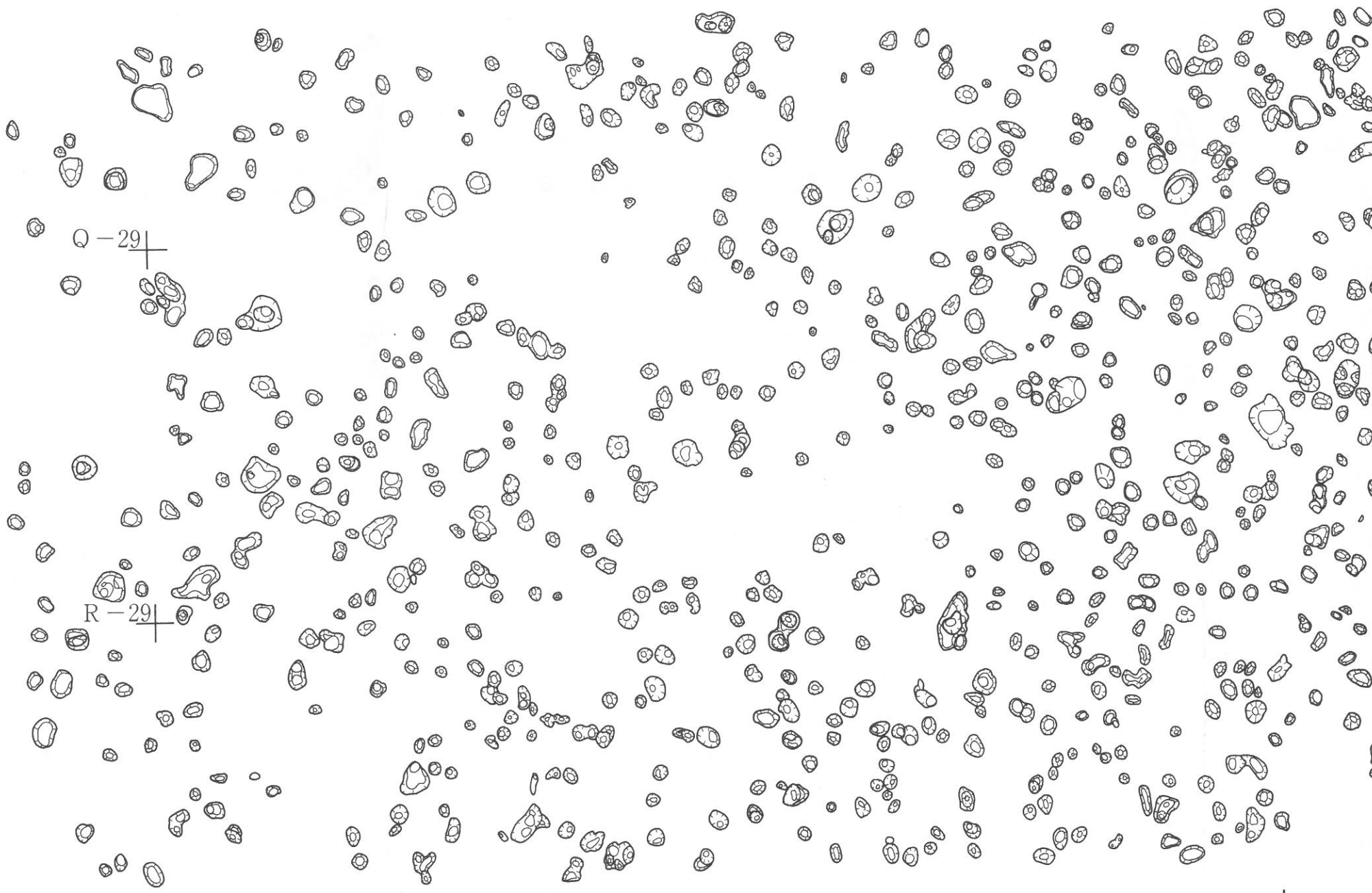
P-28

P-27

P-26



S-31



R-29

R-29

S-29

S-28

S-27

S-26

S-30

P-29

P-28

P-27

P-26

P-25

-29

R-29

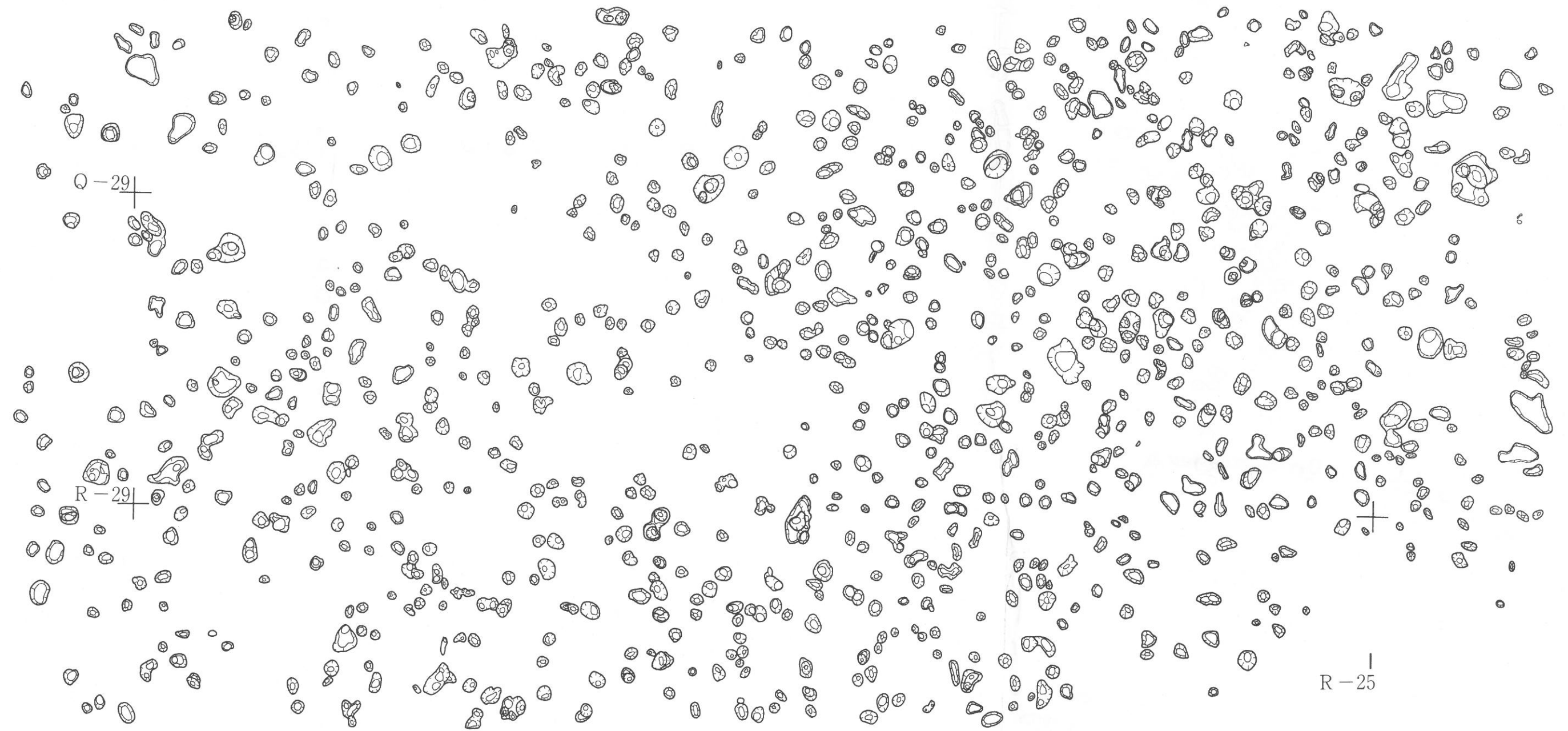
R-25

S-29

S-28

S-27

S-26



目	科	種	E																						
			R	L																					
ス	フクギ科	前鰓蓋骨(A)	R	L																					
			R	L																					
		ハマフエフキ	顎骨	完存	6	23	18	34					2	1											
				p	2	3	2	11					3												
				p~s	5	10	11	21					2	1											
				s	11		21	5	3						1										
				s~d	1	1	3	3							1										
				d	2	6	7	16					1	2											
				d	1	7	1	10																	
			副楔骨	1	5	8	11																		
			主上顎骨	1	1	3	5																		
			口蓋	19	9	39	9	1				1	1	2	2										
		方骨	5	2	15	5							1												
		舌骨																							
		前鰓蓋骨																							
		主鰓蓋骨																							
		角骨	1	1	4																				
		顎骨	R	L	6	8	9	5	1				2												
		種不明	R	L	2		2	3					1		3										
ズキ目	ベラ科	コギ	完存	2	17	9	20	1																	
			p	16	11	31	17			1		5	2												
			s	4	3	4	7																		
			d	3		6	1																		
		タハラ	咽頭	R	L	1	42	52	38	25	2	1	1		4	5									
			咽頭骨	R	L	<24>	118<8>	119<6>	<1>	7	3<1>	2<3>	2		3<1>	3	2	1							
			A	R	L	6	14	4	12					1											
			B	R	L	3	6	2	11																
			C	R	L	1	1	3	1																
			顎骨	R	L		3	3	5					1											
	ブダイ科	ハガ	R	L	<1>	5<1>	1<2>	5	3	1		1	1<2>	2											
		顎骨	R	L		10<10>	39<15>							1											
		破片	R	L		<1>	1<4>	<3>	1<3>					1<1>											
		咽頭骨	R	L		1<1>	3<1>	1<3>	2<1>					1		1									
		ハヨウ	R	L		7<1>	7	3	2	1<1>		1													
		顎骨	R	L		4<8>	4																		
	ハタ科	A	R	L		4<7>	10<7>	33<3>	24<10>	<1>		2	7	1<2>	2<1>		1								
		B	R	L		19	36					1	3	1		2<1>	1								
		顎骨	R	L		<11>	7<7>	4<16>	7<15>					1		1<1>	1<6>	<1>							
		A	R	L		26<13>	20<8>	32<16>	42<7>					1	8	2	1	<1>							
B		R	L		7<13>	12<15>	28<18>	24<14>	<1>		4<2>		2<1>	<1>		1		2<1>	5	7					
顎骨		R	L		3	1	2	3	1				1		<1>		<1>	4	1	1					
ニギ科	B	R	L		13	3<1>	1	8<2>					2		1		1	4	1	1					
	種不明	R	L		1	1	2	1					1		1										
	鋤骨	R	L																						
	方骨	R	L		1	1	2	1																	
種不明	前鰓蓋骨	R	L				1	1																	
	角骨	R	L				1	1																	
種不明	尾部鱗	R	L				2																		
	鱗	R	L												1										

A large grid of numbers, likely a calendar or data table. The grid consists of many small cells, some containing integers (1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 15, 16, 20, 22, 23, 25) and others containing symbols like <1>, <2>, <3>, <5>, <6>, <10>, <11>, <13>, <17>, <21>. The numbers are arranged in a regular pattern, with some cells being empty. The grid is divided into several vertical sections by dashed lines. The first section is the widest, followed by several narrower sections. The numbers and symbols are scattered across the grid, with some clusters and some isolated values. For example, the number '1' is the most frequent, appearing in almost every cell. Other numbers like '2', '3', and '4' are also common. Symbols like '<1>' are used in some cells, often in pairs or groups. The overall layout suggests a complex data structure or a calendar with specific markers.

目	科	種	顎骨		咽頭骨		上顎骨		下顎骨		上咽頭骨		下咽頭骨		その他		合計							
			R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	個	数	個	数						
目	ブダイ科	ガブダイ	顎骨	R	L													1						
			咽頭骨	R	L														1					
		イロブダイ	顎骨	R	L															1				
			咽頭骨	R	L															1				
	ハタ科	A	顎骨	R	L															1				
				R	L																1			
		B	顎骨	R	L																1			
				R	L																1			
		種不明	方骨	R	L																	1		
				R	L																	1		
ニギブダイ科	種不明	鱗																			1			
																						2		
目	フカハギ科	モリカハギ類	顎骨	R	L																			
			上顎	R	L																			
	フグ類	背	棘	R	L																			
			棘	R	L																			
ハリセンボン科	ハリセンボン	顎骨	上顎	R	L																			
			棘	R	L																			
カサゴ目	コチ科	コチ	顎骨	R	L																			
種不明	科不明	種不明	歯骨	A																				
			鋤骨(A)																					
			鋤骨(B)																					
			鋤骨(C)																					
			主上顎骨(B)	R	L																			
			主上顎骨(C)	R	L																			
			方骨(A)	R	L																			
			方骨(B)	R	L																			
			主鰓蓋骨(A)	R	L																			
			主鰓蓋骨(B)	R	L																			
			角骨(A)	R	L																			
			角骨(B)	R	L																			
			角骨(C)	R	L																			
			鰓棘																					
背鰓棘																								
臀鰓血管間棘																								
第二臀鰓棘																								
肋骨・間棘など																								
脊椎骨																								
尾鰭骨																								
尾椎																								
個体数																								

凡例：<>破片

上顎骨 歯骨 R 前上顎骨 L 歯骨 R 前上顎骨 L 歯骨 R 上咽頭骨 L 上咽頭骨 下咽頭骨

注1、ハマフェキは完形・破片(p·s·d)…それぞれで集計した。注2、個体数△は集計しない。

歯		0																1	0																1	3	2	0						3	0			0		
切歯		0																1	0																1	3	2	0						3	0			0		
齒骨 (破片)		0																1	0																1	3	2	0						3	0			0		
合計		0																1	0																1	3	2	0						3	0			0		
頭蓋骨	完存																																			3	3													
	前頭骨																																			3	3													
	前頭骨 頬骨突起																																											1						
	前頭骨～頭頂骨																																			1														
	前頭骨～頭頂骨 後頭底部																																																	
	前頭骨～頭頂骨 上顎骨・基底骨																																																	
	頭頂骨																																			2														
	頭頂骨 頬骨突起																																			1	3													
	側頭骨	1																																		3														
	側頭骨 頬骨突起																																			1	2							1				1		
後頭顆																																			3	1														
骨胞																																																		
上顎骨																																			1	2														
	破片																																		1												1	1		
下顎骨	下顎枝																																																	
	筋突起																																																	
	連合部																																															1		
	破片																																																	
椎体	頸椎																																															1		
	環椎																																															2		
	環椎 (腹弓)																																															1		
	軸椎																																																	
	胸椎																																															12	2	2
	胸椎 (棘突起)	1																																														1		
	胸骨																																															1		
	腰椎																																															3	4	
棘突起 (破片)																																															2			
	破片																																																	
肋骨		1	21④*	1	4③	4	1①	1①	1	6①	2	3	1	①	1	8⑤	2	22	1	3	1	1	1	44④	46①	[1]	41①	[1]	270	42	2	11③	7①	2	7①	[1]	16													
肩甲骨	完存																																																	
	両端はずれ																																											{1}						
	骨体																																															1		
	骨体～遠位骨端はずれ																																																	
	近位骨端はずれ～遠位部																																																	
	近位骨端はずれ～遠位端																																																	
	近位部～遠位端																																																	
	遠位部																																															1		
遠位端																																											1							
	遠位骨端はずれ																																														1			
上腕骨	完存																																																	
	骨頭のみ																																																	
	近位骨端はずれ																																											[1]				[1]		
	近位部～遠位端																																																	
	両端はずれ																																														[1]	[1]		
橈骨	完存																																																	
	両端はずれ																																																	
	近位部～遠位骨端はずれ																																																	
尺骨	完存																																																	
	近位部～遠位端																																																	
	骨体～遠位骨端はずれ																																																	
	骨体～遠位部																																																	
	骨体																																																	
小計		1	1	22	1	1	4	1	4	1	1	1	1	6	2	1	3	0	1	0	1	8	2	23	1	4	1	1	2	45	62	57	291	2	3	18	7	4	9											
幼																																																1		
若																																																		
焼骨																																																1		
肋骨・第一																																																1		
合計		1	1	26	1	2	7	1	4	2	2	1	7	2	1	3	1	1	1	1	13	2	23	1	4	1	1	2	49	66	61	333	2	3	21	8	4	11												

凡例 {} : 幼、[] : 若、○ : 焼骨、〔〕 : 肋骨・第一
 1地区 不明 : 肋骨 1個はⅢ層から出土
 1地区 Ⅱ層 不明 : 肋骨 *1個は1号溝から出土

7地区	IV層	2 0 1																								3	4
	V層	2 ♂① 1 1 2 3 3 6 1 2 ♂ 2 2 3 4 3																								32	6
	土壤 2	1 1 1 1 1 1 <1> 1 ♂ 1 1 1 2 2																								8	2
	攪/不	4 3<2> ♂ 1① 1 1 1 1 3 1 1 2 ♂ 1 2 2 2 3 2																								18	5
8地区	IV層																									3	2
	V層	♂ 1 ♂ 1 1♂ 1 ♂ 1 ♂ 1																								1	2
	不明	♂ 1 2 1 ♂ 1 1 2 1 2																								9	2
小計	19 4 0 0 0 0 0 6 11 11 33 35 34 33 1 1 0 0 0 0 0 5 13 23 28 38 37 0 0 0 0 0																								324	76	
未萌出	2																								5		
半欠	2																								28		
♂雄	13 1 1 1 12																								6		
♀雌	1 5																										
合計	19 10 1 14 0 3 6 1 6 11 14 34 37 34 33 4 1 17 1 7 11 0 5 13 23 28 40 37 0 0 0 0 0																								402		

下

骨

1地区	II層	1 1 ♂ 1 <1> 3 1 1 2 ♂ 2① 2 1 2 3 1 ① 21																								0	3
	II c層	1 1 1 2 ♂ 2① 2 1 2 3 1 ① 18																								1	3
	IV層																									2	1
	不明	♀ 1 1 1 <1> 1 1 1 1 1 1																								3	1
2地区	V層	1 1 1 2 1 2 3 1 2																								2	1
3地区	V層	1 1 1 2 2 1 2 3 1 2																								1	2
	不明	♀ 1 2 ♀ 1 ♀ 1 1 ♀ 1 ♀ <1> ♀ 1 ♀ <1>																								1	2
4地区	II層	1 1																								7	1
	II c層	1 3 ♀ 1 1 2 2 2 ♂ 1 1 2 1 1 ① 16																								2	3
	IV層	8 ♀ 1 5 ♂ 9② ♂ 1 ♂ 1 9 ♂ 1 5 ♂ 1 8 <3> ♂ 1 6 ♂ 1 5 ♀ 1 5 2 2 ♂ 7③ ♀ 3 1 3 2 2 10 ♀ 1 5 ♀ <2> 5 2 1 ④ 86																								40	15
	V層	1 1 1 2 4 5 ♂ 2 2 4 5 ♂ 1 ♂ 1 9 ♂ 1 5 ♂ 1 8 <3> ♂ 1 6 ♂ 1 5 ♀ 1 5 2 2 ♂ 7③ ♀ 3 1 3 2 2 10 ♀ 1 5 ♀ <2> 5 2 1 ④ 40																								1	2
	土壤 1	♂ 2 2 4 5 2 4 5 ♂ 1 ♂ 1 9 ♂ 1 5 ♂ 1 8 <3> ♂ 1 6 ♂ 1 5 ♀ 1 5 2 2 ♂ 7③ ♀ 3 1 3 2 2 10 ♀ 1 5 ♀ <2> 5 2 1 ④ 2																								6	2
	攪/不	♂ 1 1 1 ♀ 2 1 1 1 2 2 1 1 1 2 2 1 2 1 2																								10	3
5地区	II層	1 2 1																								3	2
	II c層	3 1 2 2 2 ♂ 1 1 2 1 1 ① 8																								0	3
	IV層	4 1 ♂ 18 ♀ 1 1 3 4 6 4 4 <2> 3 1 ♂ 2③ ♀ 1 1 2 6 3 2 2 47																								6	20
	V層	1 1 1 1 1 1 1 1 3 ♂ 1 ♀ 1 1 1 1 2 1 3 ♂ 1 ♀ 1 1 1 1 1 1 1 2 1																								1	3
6地区	II層																									1	1
	II c層	1 1 ♂ ①																								2	1
	IV層	7 6 1 ♂ 20 ♀ 5 <1> 7 8 ♂ 1 12 ♂ 1 15 ♂ 1 (1) 15 (1) <1> 10 4 2 ♂ 15① ♀ 6 4 <1> 5 (1) ♂ 1 10 ♂ 1 (1) 14 (1) 16 (1) 21 ② 157																								8	25
7地区	V層	2 1 1 ♂ 4 ♀ 3 1 2 2 1 4 3 1 <4> 2 4 ♂ 4 ♀ 1 ♀ 2 1 (1) ♀ 2 3 ♀ 2 6 ♀ 1 8 ♀ 2 4 ♂ 1 45																								4	10
	攪/不	♂ 1① 2 2 1 2 ♂ 2 1 3 ♂ 2 1 3 1 3 1 2 1 4 8 <1> (1) 5 ④ 56																								7	10
	I層	1 ♂ 1 <1> 1 1 1 2 2 1 ♂ 1 ② 7																								0	2
	II層	1 1 1 2 1 ♂ 1 ④ 6																								3	2
7地区	IV層	3 6 1 ♂ 7 ♀ 5 1 ♀ 1 1 ♀ 13 ♀ 14 ♀ 1 (1) 10 ♀ 1 <1> 9 <2> ♀ 1 8 6 ♂ 10② ♀ 3 2 3 ♀ 2 3 ♂ 1 ♀ 2 6 ♂ 1 ♀ 16 ♂ 1 ♀ 1 (1) 7 <1> ♂ 1 ♀ 1 73																								9	15
	V層	7 1 1 ♂ 5① ♀ 2 1 ♂ 13 ♂ 11 ♂ 1 5 ♂ 1 3 4 4 4 ♀ 1 1 ♂ 4① ♀ 1 <1> 1 2 1 4 8 <1> (1) 5 ④ 56																								7	10
土壤 2	1 1 ♂ 2 ♀ 1 ♀ 1 1 ♀ 1 ♀ 1 4 ♀ 1 3 ♀ 1 2 ♀ 1 2 2 1 ♂ 1 ♀ 1 ♂ 1 ♀ 1 ♂ 1 2 ♂ 1 2 ♂ 1 2 ♂ 2 3 ♂ 2 2 ④ 29																								2	5	

骨 下	1地区	II層	1	1		♂1				1	1	1	<1>	3	1	1				3	2	3	1	2	①	21	0	3									
		II c層		1						1					3	1	1	2	♂2①		2	1		2	3	1	①	18	1	3							
		IV層																						1	1			2	0	1							
		不明				♀1									1	1	1											3	1	1							
	2地区	V層																										2	0	1							
		V層																										3	1	2							
	3地区	不明	♀1		2						1♀1	♀<1>											♀1	♀<1>				2	1	2							
		II層		1											1	1	1											1	1	1							
	4地区	II c層	1	3		♀1									2	2	2	♂1				1				1	1	①	16	2	3						
		IV層	8♀1	5		♂9②					♂1	♂1	9♂1	5♂1	8<3>♂1	6♂1	5♀1	5	2	♂7③	♀3	1						④	86	40	15						
		V層	2	5			2	4	5																				1	1	2						
		土壤1																					♀1						2	6	2						
		攪/不				♂1																	♀2						10	2	3						
		II層																											3	0	2						
	5地区	II c層																										8	0	3							
		IV層		4		1♂18♀1					1	3	4	6	4	4<2>	3	1	♂2③	♀1									47	6	20						
		V層	1	1							1	2		1	1	3			♂1♀1									1	1	3							
		攪/不																										1	0	1							
	6地区	II c層																										2	0	1							
		IV層	7	6	1	♂20♀5					<1>	7	8♂1	12♂1	15♂1(1)	15(1)<1>	10	4	2♂15①	♀6								②	157	8	25						
		V層	2	1		1♂4♀3						2	2	1	4	3	1<4>	2	4	♂4♀1								45	4	10							
攪/不					♂1①																						5	0	2								
7地区	I層	1			♂1					<1>		1	1	1	2												7	0	2								
	II層		1																								6	3	2								
	IV層	3			1♂7♀5																						73	9	15								
	V層	7	1		1♂5①♀2																						56	7	10								
	土壤2	1	1		♂2♀1																						29	2	5								
	攪/不	3	2		♂1①♀3																						15	1	6								
8地区	IV層		1		♂5♀1																						17	1	6								
	V層	3♀1	2♀1		♀2																						12	1	4								
	不明				♀1																						1	1	1								
不明		2	1	♂1																						22	2	4									
小計	38	32	5	4	0	0	0	0	1	8	19	33	53	56	69	48	38	9	6	4	4	8	0	13	16	25	61	66	60	11	8	1	1	0	697	88	161
未萌出	5	15	0	0	4	9	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	9	
♂雄				78						2	2	3	3	2	2				59																166		
♀雌	3	1		26	1	1				4	6	6	8	4	5	3	2		29	1	1	2													133		
合計	46	48	5	108	4	10	20	1	16	27	42	65	70	87	54	49	9	94	6	11	28	0	18	26	36	71	81	68	11	8	1	1	0	1121			

凡例：<>未萌出、()半欠、○破片、♂雄、♀雌

平敷屋トウバル遺跡(1996, 3発行)の正誤表

頁	行	誤	正
4	13	資料整理作業員追加	知念純子、伊波小百合
31	39	30は	29は
32	3	23は	30は
34	14	27そこから	27は底から
	25	が点	が85点
39	15	判然としな。	判然としない。
58		図番号ヌケ	8
59		図番号ヌケ	6
62		図番号ヌケ	57
73	33	表に示した。	10表に示した。
75	33	1. A類(第38図1~6, 第33図1~2)	1. A類(第38図1~6, 第39図1~2)
93	4	貝殻の種類はフォウセハマグリ(24点)、シナヅミ(5点)、フォウセハマグリ(13点)、ヌカイ(1点)、モツキガイ(1点)、不明(6点)などの5種類からなる。	貝殻の種類はフォウセハマグリ(33点)、シナヅミ(9点)、モツキガイ(2点)の3種類からなる。
107		リュウキュウサルウ(7~10・12)	リュウキュウサルウ(4・7~10・12)
103	28	地区 層上部より出土。	地区V層上部より出土。
113	37	より出土。	出土地不明。
114	32	C-21, IV層より出土。	1 地区C-21, IV層より出土。
133	33	最大長1mm	最大長34.5cm
143		図のスケール5cm	3cm
144	36	第70図	第71図
	40	第70図	第71図
145	39	第71図	第72図
146	11	第71図	第72図
149	9	第73図	第74図
	23	第42表	第41表
	39	5点	6点
	39	胴部3点	胴部4点
150	2	第74図	第75図
151	32	第75図	第76図
159	11	微粒子	微粒子
163	2	32IV最下部	3 2 IV層最下部
	4	大きいもの見られる	大きいもの見られる。
	39	3.3cm~120cm	3.3cm~12.0cm
	40	131cm	13.1cm
164	35	若干	若干
	37	殻径4.6cm~6.5cmをとくになどである。	殻径4.6cm~6.5を測り、とくに目立つ。
	40	第 図	第87図
167	4	これは地区別は今後の課題である。	これは地区別の差か、時代差か今後の課題である。
	9	内湾的な貝	内湾に棲む貝
	14	現代のと貝が徐々に小さい。	現代の貝が徐々に小さくなる。
	21	近くにあることを裏づける資料ある。	近くにあることを裏づける資料である。
	24	泡瀬湾一帯	中城湾一帯
	25	貝製品の貝種別に第44表に示した。	貝製品の貝種別出土状況を第44表に示した。
	28	採集したのと考えられる。	採集したものと考えられる。
176	26	増加してして	増加して
218		第2種(2~7・9)、第3種(8・10~21)	第2種(2~5)、第3種(6~21)
220		第4種(52~73)、第5種(74~81)	第4種(52~74)、第5種(75~79)、不明(80・81)
232		貝刃(1~10)、貝包丁様製品(12~18)	貝刃(1~11)、貝包丁様製品(11~18)
239		リュウキュウサルウ(7~10・12)	リュウキュウサルウ(4・7~10・12)